付期間開始前ト雖モ電信官署ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付グルコトアルベシ

前項ニ依リ十二月三十一日迄ニ受付ケタル電報ハ翌年一月一日ノ電報取扱時間開始時刻ニ於テ受付ケタルモノト看做ス

第八條　慶弔電報ニ付テハ特殊取扱（同文、別使配達及時上局ニ於ケル保管期間指定ノ取扱ヲ除ク）及著信託送ノ取扱ヲ爲サズ

第八條ノ二　慶弔電報ハ一般私報ト同一順位ヲ以テ之ヲ送達ス

第八條ノ三　逓信大臣ニ於テ必要アリト認ムル場合ハ別ニ告示スルヨリ慶弔電報ノ取扱ニ關シ制限ヲ爲スコトヲ得

第九條　本令ニ規定ナキ事項ハ一般電報ニ關スル規定ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

年賀電報規則ハ之ヲ廢止ス

●慶弔電報規則ニ依ル文例

（昭和十一年十月十五日　逓信省告示第二千七百七號）

【沿革】昭和十二年九月告示第二六五五號、同十三年四月同第一一四號、同十五年六月同第一七一號改正

慶弔電報規則第一條第一號ニ依ル文例ヲ左ノ通定メ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

慶祝文例

略號	文例
イ	出産　御安産ヲ祝ス
ロ	入學　御入學ヲ祝ス
ハ	御入學御芽出度ウ
ニ	合格　合格ヲ祝ス
ホ	卒業　御卒業ヲ祝ス
ヘ	御卒業御芽出度ウ
チ	結婚ト　御結婚ヲ祝ス
リ	華燭ノ盛典ヲ祝シ御多幸ヲ祈ル
ヌ	謹ミテ御婚禮ヲ御祝ヒ申シマス
ル	榮轉　御榮轉ヲ祝ス
ヲ	榮進ル　御榮進ヲ祝ス

ワ	入選　御入選ヲ祝ス
カ	入賞　御入賞ヲ祝ス
ヨ	當選カ　御當選ヲ祝ス
タ	優勝ヨ　御優勝ヲ祝ス
レ	成功タ　御成功ヲ祝ス
ソ	安著レ　御安著ヲ祝ス
ツ	歸朝ソ　無事御歸朝ヲ祝ス
ネ	壽賀ツ　還曆ノ御祝典ヲ賀ス
ナ	會合ネ　御盛會ヲ祝ス
ラ	落成ナ　新築落成ヲ祝ス
ム	開業ラ　御開業ヲ祝ス
ウ	開店ム　御開店ヲ祝シ御繁榮ヲ祈ル
キ	入營ウ　御入營ヲ祝ス
ユ	凱旋キ　光輝アル凱旋ヲ祝ス
メ	共通ノ　御盛典ヲ祝ス
オ	御芽出度ウ
ク	謹ミテ御祝ヒ申シマス
テ	謹ミテ新年ノ御祝詞ヲ申上ゲマス
ア	明ケマシテ御芽出度ウ御座イマス
サ	新玉ノ年ノ始ノ御壽芽出度ク御祝ヒ申上ゲマス
キ	謹ミテ新年ヲ賀シ御尊家ノ萬福ヲ祈ル

出征ヲ御出征ヲ祝シ皇國ノタメ御奮闘ヲ祈ル

弔慰文例

番號	文例
一	謹ミテ御逝去ヲ悼ム
二	削除
三	謹ミテ哀悼ノ意ヲ表ス
四	御逝去ヲ悼ミ御冥福ヲ祈ル
五	御永眠謹ミテ御悔ミ申シマス
六	謹ミテ護國ノ英靈ニ對シ敬弔ノ意ヲ表ス
九	御尊父樣ノ御逝去ヲ悼ミ謹ミテ御悔ミ申シマス
一〇	御母堂樣ノ御逝去ヲ悼ミ謹ミテ御悔ミ申シマス

年賀文例

略號	文例
エ	謹ミテ新年ヲ賀ス
テ	謹ミテ新年ノ御祝詞ヲ申上ゲマス
ア	明ケマシテ御芽出度ウ御座イマス
サ	新玉ノ年ノ始ノ御壽芽出度ク御祝ヒ申上ゲマス
キ	謹ミテ新年ヲ賀シ御尊家ノ萬福ヲ祈ル

ユ　謹ミテ新年ヲ賀シ平素ノ御無音ヲ謝ス
メ　謹ミテ新年ヲ賀シ倍舊ノ御愛顧ヲ願フ
ミ　新年御芽出度ウ御座イマス相變ラズ御引立テヲ願ヒマス
シ　謹ミテ年頭ノ御挨拶ヲ申上ゲ益御繁榮ヲ祈ル
エ　謹ミテ新年ヲ賀ス早早賀詞ヲ賜ハリ難有存ジマス
ヒ　洋上ヨリ遙ニ故國ノ新年ヲ賀ス
モ　新年ヲ賀シ御安著ヲ待ツ
セ　謹ミテ新年ヲ賀シ一路御平安ヲ祈ル
ス　新年御芽出度ウ御座イマス當方皆無事御安心下サイ
ン　謹ミテ新年ヲ賀ス皇國ノタメ一層御奮闘ヲ祈ル

●慶弔電報ハ當分取扱ヲ爲サザル件

（昭和十六年三月十九日　逓信省令第三十號）

慶弔電報ハ當分ノ内之ガ取扱ヲ爲サズ但シ東亞電報及東亞無線電報ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●無線電信法（大正四年六月二十一日　法律第二十六號）

【沿革】大正十年四月法律第六二號、昭和四年四月同第四五號改正

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル無線電信法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

無線電信法

第一條　無線電信及無線電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　左ニ掲グル無線電信又ハ無線電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ私設スルコトヲ得

一　航行ノ安全ニ備フル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

二　同一人ノ特定事業ニ用ウル船舶相互間ニ於テ其ノ事業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

三　電報逓受ノ爲電信官署トノ間ニ施設者ノ專用ニ供スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

四　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナク前號ノ規定ニ依ルヲ不適當トスル陸地相互間又ハ陸地船舶間ニ於テ同一人ノ特定事業ニ用ウル目的ヲ以テ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

五　無線電信又ハ無線電話ニ關スル實驗ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

六　前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ施設ノ必要アリト認メタルモノ

第三條　私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置及運用ニ關スル制限竝私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ通信ニ從事スル者ノ資格及配置定員ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條　私設ノ無線電信及無線電話ハ其ノ施設ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶遭難通信、氣象通信、報時通信其ノ他主務大臣ニ於テ公益上必要ト認ムル通信ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ妨ケス

第五條　外國船舶ニ裝置シタル無線電信又ハ無線電話ハ第二條ノ規定ニ依リ施設シタルモノヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ船舶遭難通信及航行中電信官署又ハ電話官署トノ通信ニ使用スルコトヲ妨ケス

第六條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條　主務大臣ハ公衆通信上又ハ軍事上必要ト認ムルトキハ私設ノ無

線電信、無線電話ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得無線電信、無線電話ノ混信防遏ノ爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第八條　主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ私設ノ無線電信、無線電話又ハ外國船舶ニ裝置シタル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限、停止又ハ其ノ機器附屬具ノ除却ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ當該官吏ヲシテ機器附屬具ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第八條ノ二　無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止シ又ハ當該無線電信、無線電話ノ施設者若ハ當該通信ヲ發スル者ニ對シ其ノ通信ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第九條　私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ施設者本法、本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ其ノ無線電信、無線電話ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十條　私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ施設者其ノ無線電信又ハ無線電話ノ許可ヲ取消サレタルトキハ主務大臣ノ命スル所ニ依リ其ノ機器工作物ヲ撤去スルコトヲ要ス私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第十一條　私設ノ無線電信、無線電話又ハ外國船舶ニ施設シタル無線電信、無線電話ハ船舶遭難通信ノ取扱ノ依賴ヲ受ケタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　無線電信又ハ無線電話ハ船舶遭難通信アリタル場合ニ於テハ直ニ應答シ救助上最便宜ノ位置ニ在ル無線電信又ハ無線電話ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ特定ノ事項ノ通報ヲ求メラレタルトキハ前項ノ規定ニ依ラス直ニ其ノ通報ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條　主務大臣ハ不法ニ無線電信又ハ無線電話ヲ施設スル者アリト認メタルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入リ機器工作物ノ檢査、機器附屬具ノ除却其ノ他相當ノ措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條ノ二　主務大臣ハ私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置又ハ運用ニ關シ監督上必要ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入リ機器工作物及關係書類ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條ノ三　前二條ノ規定ニ依リ當該官吏無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ場所ニ立入ル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第十四條　政府ハ公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ爲船舶ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ特殊ノ供給又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相當ノ使用料及特殊ノ供給、設備ノ實費ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十五條　公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ無線電信、無線電話、電信、電話、郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ船舶遭難、航行ノ安全、報時、氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第十六條　許可ナクシテ無線電信、無線電話ヲ施設シ若ハ許可ナクシテ施設シタル無線電信、無線電話ヲ使用シタル者又ハ許可ヲ取消サレタル後私設ノ無線電信、無線電話ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第十七條　私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第十八條　第五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本法ニ依ル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限停止、設備變更若ハ除却撤去ノ命令ニ從ハサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者使用ノ制限又ハ停止ニ違反シテ使用シタルトキハ其ノ從事者ニ付亦同シ

第十九條　第六條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ無線電信、無線電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第十四條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ船舶ノ使用ヲ拒ミ若ハ特殊ノ供給設備ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ通信ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十條ノ二　無線電信又ハ無線電話ニ依リ知得タル前條ニ該當セサル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密ヲ漏泄シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十一條　不法ニ無線電信、無線電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虛僞ノ通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

公益ヲ害スル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虛僞ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶遭難ノ事實ナキニ拘ラス無線電信又ハ無線電話ニ依リ船舶遭難通信ヲ發シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者第一項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金、第二項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役、第三項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二十二條ノ二　無線電信又ハ無線電話ニ依リ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　無線電信ノ事務ニ從事スル者電信官署ノ取扱中ニ係ル無線電信ニ依ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタルトキ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第二十四條　無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依ル船舶遭難通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

船舶遭難通信ノ取扱ヲ妨害シタル者ハ前項ニ同シ

第二十五條　無線電信、無線電話ニ依ル公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ障碍シ又ハ之ヲ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第十六條乃至第二十五條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條　本法ニ其キテ爲ス當該吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ第十三條若ハ第十三條ノ二ノ規定ニ依ル檢査ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條　電信法第四條、第十一條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條及第四十五條ノ規定ハ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用ス

第二十八條ノ二　無線電信又ハ無線電話ニ非スト雖高周波電流ヲ使用シ通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用ス

第二十八條ノ三　主務大臣ハ無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ニ及ホス障碍ヲ防止スル爲必要ト認ムルトキハ高周波電流ヲ發生スル設備ニシテ無線電信、無線電話又ハ前條ノ通報信號施設ニ非サルモノニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ニ要シタル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條　本法ハ航空機ニ施設スル無線電信及無線電話ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第三十條　本法ノ適用ニ付テハ航空機ハ之ヲ船舶ト看做ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正四年十月勅令第一八五號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

附　則

（昭和四年四月法律第四五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年十二月勅令第三四五號ヲ以テ同五年一月一日ヨリ施行）

●高周波電流ヲ使用スル通報信號施設ニ無線電信法準用ノ件

（昭和十七年九月一日遞信省令第九十七號）

高周波電流ヲ使用スル通報信號施設ニ無線電信法準用ノ件左ノ通改正ス

高周波電流ヲ使用スル通報信號施設ニ無線電信法準用ノ件

無線電信法第二十八條ノ二ニ依リ無線電信法第三條、第七條乃至第九條、第十三條及第十三條ノ三ノ規定ハ電線路ニ一萬「サイクル」以上ノ高周波電流ヲ通ズル電信、電話其ノ他ノ通報信號施設ニ、第二條乃至第四條、第七條、第八條、第九條、第十條及第十三條乃至第十三條ノ三ノ規定ハ無線標識施設ニ之ヲ準用ス

前項前段ノ通報信號施設中放送有線電話及聽取有線電話ニ付テハ前項前段ノ規定ニ依ルノ外無線電信法第二條、第四條、第六條、第十條、第十三條ノ二、第十五條乃至第二十八條及第二十八條ノ三ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●無線電信法第八條ノ二ノ電信官署及電話官署ノ件

第二十類　通信、交通及電氣　第一編　通信

第二九九號

（昭和四年十二月五日遞信省告示第三千百八十號）

沿革　昭和八年一二月遞信省告示第二九七三號改正

無線電信法第八條ノ二ノ電信官署及電話官署ハ私設ノ無線電信、無線電話ノ通信ニ關シテハ之ヲ遞信局及私設無線電信無線電話規則第六十八條ニ依リ指定シタル無線通信監視局トシ其ノ他ノ無線電信、無線電話ノ通信ニ關シテハ之ヲ遞信局トス

●無線電報規則（大正十四年八月二十二日逓信省令第五十一號）

沿革　大正一五年六月逓信省令第一九號、昭和二年五月第一八號、一一月第五四號、三年一二月第六二號、六年七月第三五號、七年九月第三二號、八年一二月第五九號、一三年一月第八號、五月第四〇號、一二月第九一號、一四年一月第三號、一五年六月第三七號、一六年三月第二八號、四月第四七號、一七年三月第二七號改正

無線電報規則左ノ通改正ス

無線電報規則目次

第一章　總則
第二章　艦船又ハ航空機發著無線電報
第三章　陸地開無線電報
第四章　放送無線電報
第五章　料金
附　則

無線電報規則

第一章　總則

第一條　無線電報トハ無線電信又ハ無線電話ニ依リ送受スヘキ電報ヲ謂フ

第二條　本令ニ於テ海岸局トハ艦船トノ間ニ、航空局トハ航空機トノ間ニ無線電信又ハ無線電話ニ依リ通信ヲ爲ス陸上電信官署、船舶局トハ船舶内電信官署、航空機局トハ航空機内電信官署、固定局トハ陸地間ニ於テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ通信ヲ爲ス電信官署、託送發受所トハ電信官署トノ間ニ無線電報ヲ發受スル目的ヲ以テ施設シタル官廳

第三條　艦船又ハ航空機發著無線電報ハ電報取扱時間ニ拘ラス之ヲ取扱フ但シ電報取扱時間外ニ於テ全ク電報取扱ヲ爲ササル電信官署ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

艦船又ハ航空機發陸上電信官署著無線電報ニシテ午後十一時後翌朝電報取扱時間開始前ニ著信電信官署ニ到著シタルモノニ付テハ發信人ニ於テ直ニ配達方申出テタル場合ヲ除クノ外電報取扱時間ノ開始ヲ待チテ配達ス

第四條　船舶局ニ於テハ其ノ船舶休航中又ハ碇泊中、航空機局ニ於テハ其ノ航空機休航中又ハ著陸若ハ著水中無線電報ノ取扱ヲ爲ササルコトアルヘシ

第五條　船舶又ハ航空機ノ遭難ニ際シ其ノ船舶又ハ航空機ノ名稱（航空機ニ在リテハ登録記號トス登録記號ノ外ニ名稱ヲ附スルモノハ該名稱ヲ含ム以下同シ）、遭難ノ位置、狀況其ノ他救助ニ必要ナル事項ヲ通報スル無線電報ハ無線局ニ於テ他ノ通信ヲ中止シ最先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

第六條　前條ノ規定ニ依ル無線電報ハ之ヲ局報ト爲スコトヲ得但シ有線電信系上傳送ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條　船舶又ハ航空機ノ航行上ノ危險警戒其ノ他海上又ハ空中ニ於ケル

用若ハ私設ノ無線電信又ハ無線電話及軍用無線電報若ハ海軍官憲ノ承認ヲ經タル無線電報ヲ通信官署トノ間ニ送受スルコトヲ遞信大臣ニ於テ承認シタル軍用ノ無線電信又ハ無線電話ヲ謂フ

本令ニ於テ陸上局トハ海岸局及航空局、移動局トハ船舶局及航空機局、無線局トハ陸上局、移動局及固定局ヲ謂フ

無線局及託送發受所ノ名稱及呼出符號ハ之ヲ告示ス

第二章　艦船又ハ航空機發著無線電報

第十條　艦船又ハ航空機著無線電報ニシテ陸上局ヲ經由スヘキモノノ宛所中ニハ該局名ヲ記載シ括弧ヲ以テ之ヲ區劃スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ陸上局名ハ歐文電報ニ於テモ之ヲ語數ニ算入セス

前項ノ陸上局ニ於テ送信シ得サル場合他ノ陸上局ヲ經由シテ送信シ得ルトキハ該局ヲ經由セシメ無線電信又ハ無線電話ニ依ラサルモ陸上電信官署ヨリ配達シ得ルトキハ該官署ヨリ配達スルコトアルヘシ

前項ノ無線電報送達上必要アルトキハ別使配達又ハ艀船配達ヲ爲スコトアルヘシ

第十條ノ二　航空機著無線電報ノ宛所中ニハ該航空機ノ發著地名（場合ニ依リ發著日時ヲ附記スヘシ）所有者名及名稱等該電報送達上必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第十一條　船舶局ノ中繼ヲ要スル無線電報ニハ指定事項トシテ左ノ略號ヲ記入スヘシ

和文略號　ナ　歐文略號　RM

前項ノ中艦ハ一回ニ限ル

第一項ノ指定事項ハ同文無線電報ニ付テハ原信ニノミ之ヲ記入スヘシ

第十二條　艦船又ハ航空機著無線電報ハ發信ノ日ヨリ五日間陸上局ニ之ヲ保管ス但シ艦船又ハ航空機カ既ニ通信距離外ニ去リタル等ノ爲送信不能ナル場合陸上局ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ保管ヲ爲ササルコトアルヘシ

第十二條ノ二　艦船又ハ航空機著無線電報ノ發信人陸上局ニ於ケル該電報ノ保管期間ヲ前條ノ日數ヲ超エ指定セムトスルトキハ指定事項トシテ其ノ日數ヲ記入スヘシ但シ發信ノ日ヨリ十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條　陸上局ニ於ケル無線電報ノ保管期間發信ノ日ヨリ十日ニ充タサル場合ハ發信人該電報ノ保管期間ノ延長ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ保管期間滿了前發信電信官署ニ日數（發信ノ日ヨリ十日ヲ超ユルコトヲ得ス）ヲ示シ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ陸上局ニ對スル通知ニ要スル電報ノ料金（原信官署報ナルトキハ官報ノ料金ト、一般私報又ハ一般私報ノ料金ト同額ノ料金）ヲ納付スヘシ

第十三條ノ二　前三條ノ規定ニ依ル艦船又ハ航空機著無線電報ノ保管期間滿了後ト雖陸上局ニ於テ該無線電報ヲ近ク著信艦船又ハ航空機ニ送信シ得ヘシト認ムルトキハ仍之ヲ保管スルコトアルヘシ

第十四條　艦船又ハ航空機託送發受所著返信料前納無線電報ニ對シ陸上局又ハ移動局ニ於テ返信料前納證書ヲ發行シタルトキハ該無線電報送信ノ際證書發行月日、番號及前納料金額ヲ該託送發受所ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル託送發受所ハ電線電報發信ノ際證書發行局ニ證書番號ヲ通知シテ該證書ヲ使用スルコトヲ得但シ前項ノ通知ノ日ヨリ三日以内ニ其ノ使用ナキトキハ該證書ハ當該託送發受所ノ施設者ニ之ヲ送付ス

第十五條　艦船又ハ航空機發著無線電報ニ關スル尋問又ハ改正若ハ停止ニシテ返信ヲ要スルモノハ陸上電信官署問ニ限リ其ノ取扱ヲ爲ス

第十六條　艦船又ハ航空機發著無線電報ハ陸上電信官署問ニ限リ至急、再送及受信報知ノ取扱ヲ爲ス

受信報知ヲ要スル艦船又ハ航空機著無線電報ノ發信人ニハ陸上局ニ於テ該電報ヲ送信シタル日時ヲ通知ス

第十七條　艦船又ハ航空機發著無線電報ニ付テハ追尾及翌朝配達ノ取扱ヲ爲サス

第十八條　航行中ノ船舶内ニ公示ノ目的ヲ以テ發スル船舶局著無線電報ニシテ發信人ニ於テ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケ一定ノ電信官署ニ差出スモノハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外新聞電報トシテ之ヲ取扱フ但シ發信又ハ受信ノ際發信證票又ハ受信證票ノ提示ヲ要セス且該電報ノ豫約及料金後納ノ取扱ヲ爲サス

第十九條　前條ノ規定ニ依ル新聞無線電報ニシテ同一海岸局ヲ經由シ二箇以上ノ船舶局ニ著スルモノハ陸上電信官署間ニ限リ同文電報ト爲スコトヲ得但シ同文ノ略號ニ代フルニ左ノ略號ヲ以テスヘシ

和文略號	ラヨ
歐文略號	SM

前項ノ同文電報ニ付テハ第十條第二項及第三項ノ規定ヲ適用セス但シ該電報ノ全部カ同一海岸局ヲ經由シテ傳送シ得ル場合又ハ同一陸上電信官署ヨリ配達シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ二　航行中ノ船舶内ニ於ケル傷病者ノ醫療手當ニ關シ其ノ指示ヲ受クル爲當該船舶ノ船長ヨリ別ニ告示スル病院又ハ醫師ノ乘組メル船舶ニ宛テ發スル和文無線電報及之ニ對スル返信ハ醫療無線電報以下醫療電報ト稱ス

第二十條　遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二十七條第三號乃至第八號及第十號ノ事項ヲ變更シ又ハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十一條　艦船又ハ航空機發著無線電報ニシテ別ニ告示スル所ニ依リ無線電報ト指定シテ差出スヘキモノニハ指定事項トシテ左ノ略號ヲ記入スヘシ

和文略號	ナイ
歐文略號	RA

前項ノ指定事項ハ同文無線電報ニ付テハ原信ニノミ之ヲ記入スヘシ

第二十二條　固定局間傳送ヲ要スル無線電報ニシテ別ニ告示スル所ニ依リ無線電報ト指定シテ差出スヘキモノニハ指定事項トシテ左ノ略號ヲ記入スヘシ

和文略號	ナイ
歐文略號	RA

前項ノ指定事項ハ同文無線電報ニ付テハ原信ニノミ之ヲ記入スヘシ

第二十三條　固定局間傳送ヲ要スル無線電報ノ傳送ニ必要アルトキハ所定ノ固定局間傳送ニ代フルニ他ノ固定局間傳送ヲ以テシ又ハ有線電信系ニ依リ之ヲ傳送スルコトアルヘシ

第二十四條　固定局間傳送ヲ要スル無線電報ノ種類、取扱期間其ノ他ノ事項ニ付特ニ制限スル場合ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十五條　第二十一條ノ規定ハ陸上託送發受所發著無線電報ニ之ヲ準用ス

第四章　放送無線電報

第二十六條　航行中ノ船舶（外國船舶ヲ含ム）内ニ公示ノ目的又ハ別ニ告示スル地域

ニ在ル受信人ヲシテ其ノ所屬團體ニ公示セシメ若ハ新聞紙ニ掲載セシムル目的ヲ以テ一年ヲ通シ毎日發スル無線電報ハ之ヲ放送無線電報以下放送電報ト稱ス

第二十七條　放送電報ヲ發信セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄遞信局ヲ經テ遞信大臣ニ差出シ放送電報取扱ノ認可ヲ受クヘシ認可後第九號ヲ除ク左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更セムトスルトキ其ノ事項ニ付亦同シ

一　發信ノ目的及通報事項ノ種類
二　和文電報歐文電報ノ別（歐文電報ノ場合ハ使用語語ノ附記スヘシ）
三　一通放送字語數
四　發信電信官署
五　放送電信官署
六　電報差出時刻
七　放送時刻
八　放送周波數
九、受信人居所氏名（名宛船舶ノ名稱、航路及船主名、公示スヘキ所要個數名及其ノ所在地、掲載スヘキ新聞紙名及其ノ發行地ヲ附記スヘシ）
十　受信人名宛略號（各受信人ニ共通トス）

前項第九號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ發信電信官署ヲ經テ遞信大臣ニ届出ツヘシ

一日二通以上ノ放送電報取扱認可ヲ受ケムトスル者ハ各別ニ之ヲ申請スヘシ

第二十八條　（削除）

第二十八條ノ二　放送電報ノ受信人ハ國際放送電報規則ニ依ル對外放送電報ニシテ別ニ指定スルモノニ限リ第三十八條ノ例ニ依リ交付ヲ受ケ又ハ受信スルコトヲ得

第二十九條　遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二十七條第三號乃至第八號及第十號ノ事項ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第三十條　放送電報ヲ發信セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄遞信局ヲ經テ遞信大臣ニ差出シ放送電報取扱ノ認可ヲ受クヘシ認可後第九號ヲ除ク左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更セムトスルトキ其ノ事項ニ付亦同シ

一　發信ノ目的及通報事項ノ種類
二　和文電報歐文電報ノ別（歐文電報ノ場合ハ使用語語ノ附記スヘシ）
三　一通放送字語數
四　發信電信官署
五　放送電信官署
六　電報差出時刻
七　放送時刻
八　放送周波數
九、受信人居所氏名（名宛船舶ノ名稱、航路及船主名、公示スヘキ所要個數名及其ノ所在地、掲載スヘキ新聞紙名及其ノ發行地ヲ附記スヘシ）
十　受信人名宛略號（各受信人ニ共通トス）

前項第九號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ發信電信官署ヲ經テ遞信大臣ニ届出ツヘシ

一日二通以上ノ放送電報取扱認可ヲ受ケムトスル者ハ各別ニ之ヲ申請スヘシ

第二十八條　（削除）

第二十八條ノ二　放送電報ノ受信人ハ國際放送電報規則ニ依ル對外放送電報ニシテ別ニ指定スルモノニ限リ第三十八條ノ例ニ依リ交付ヲ受ケ又ハ受信スルコトヲ得

第二十九條　遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二十七條第三號乃至第八號及第十號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ發信電信官署ヲ經テ遞信大臣ニ届出ツヘシ

一日二通以上ノ放送電報取扱認可ヲ受ケムトスル者ハ各別ニ之ヲ申請スヘシ

第三十條　放送電報ノ受信人ハ國際放送電報規則ニ依ル對外放送電報ニシテ別ニ指定スルモノニ限リ第三十八條ノ例ニ依リ交付ヲ受ケ又ハ受信スルコトヲ得

第三十一條　放送電報ノ放送内容ハ受信人、名宛略號及本文トス

第三十二條　放送電報ハ和文又ハ歐文ノ普通辭ヲ以テ之ヲ記載スヘシ

第三十三條　電報差出時刻ヲ經過シタル後ニ差出シタル放送電報ハ之カ取扱ヲ爲ササルコトアルヘシ

第三十四條　廣告又ハ私信ト認ムル事項ヲ記載シタル電報ニ付テハ放送電報ノ取扱ヲ爲サス

第三十五條　放送電報ニ付テハ電報規則第七章ノ規定ニ依ル特殊取扱ヲ爲サス

第三十六條　放送電報ハ切手ヲ貼付スヘキ場所ニ「無線放送」ト朱書シタル電報頼信紙ヲ使用シテ一通ニ之ヲ記載シ受信人名宛ハ受信人名宛略號ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第三十七條　放送電報ノ實際字語數ハ認可字語數ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十八條　電信官署ノ設置アル船舶宛放送電報ハ該電信官署ニ於テ之ヲ受信人ニ交付ス

放送電報ノ受信人ニシテ第二十六條ニ規定スル地域ニ在ル者ハ別ニ告示スル電信官署ニ豫メ請求シテ該電信官署ニ於テ放送電報ノ交付ヲ受クヘシ

放送電報ノ受信人ニシテ其ノ施設シタル無線電信ヲ有スルモノハ前二項ノ規定ニ拘ラス放送電報ヲ受信スルコトヲ得

第三十九條　發信人第五十四條第二項ノ期日迄ニ料金ヲ納付セサルトキ

ハ其ノ滯納ノ期間放送電報ノ取扱ヲ停止ス

前項ノ取扱停止期間三十日以上ニ及ヒ又ハ其ノ停止度數一年三回以上ニ及ヒタルトキハ放送電報取扱ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第四十條　放送電報ノ發信ヲ罷メムトスルトキハ十五日前迄ニ其ノ旨ヲ所轄遞信局ヲ經テ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

第四十一條　遞信大臣ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ業務上支障アルトキハ放送電報取扱ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第四十一條ノ二　艦船又ハ航空機ニ對シ無線電信ニ依リ傳染病情報ヲ放送スル目的ヲ以テ官廳ヨリ毎月定期ニ發信スル電報ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス

第五章　料金

第四十二條　艦船又ハ航空機發著無線電報ノ料金ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ但シ和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人名及逐書シタル再送電報ノ第二以下ノ居所ニ對シテハ一名宛毎ニ二十錢ノ料金ヲ附課ス

		和文電報		歐文電報	
		十五字以内	十五字ヲ超ユルトキハ五字以内ヲ增ス毎ニ	五語以内	五語ヲ超ユルトキハ一語ヲ增ス毎ニ
一	艦船又ハ航空機託送發受所ニ發著スルモノ（官報 私報）	七十錢	十五錢	七十錢	十五錢
		但シ醫療電報ニ在リテハ 五十錢	但シ醫療電報ニ在リテハ 七錢		
二	其ノ他ノモノ（官報 私報）	一圓	二十錢	一圓	二十錢

但シ醫療電報ニ在リテハ 六十錢　但シ醫療電報ニ在リテハ 十錢

第四十三條　艦船又ハ航空機發著無線電報ノ特殊取扱料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

至急料　無線電報料ノ二分ノ一

照校料　無線電報料ノ二分ノ一

電報受信報知料　無線電報ノ種別ニ依リ（和文 十五字ニ相當スル一般内國電報ノ料金ニ同シ　歐文 五語ニ相當スル一般内國電報ノ料金ニ同シ）

同文料　原信本文（歐文電報ニ在リテハ本文及署名）ノ字數又ハ語數ニ相當スル無線電報料ノ二分ノ一

第四十四條　艦船又ハ航空機發著新聞電報ニハ前二條ノ規定ニ拘ラス左ノ料金ヲ課ス

新聞無線電報料　和文五十字 歐文十語 以内　九十錢

和文五十字 歐文十語 ヲ超ユルトキハ 和文五十字 歐文十語 以内ヲ增ス毎ニ　七十五錢

至急料　新聞無線電報料ノ二分ノ一

同文料　原信本文（歐文電報ニ在リテハ本文及署名）ノ字數又ハ語數ニ相當スル新聞無線電報料ノ二分ノ一

第四十五條　別ニ告示スル陸上局ト海軍託送發受所トノ間ニ送受スル海軍用無線電報ニ付テハ前三條ノ規定ニ拘ラス内地間ニ發著スル一般内國電報ノ料金ト同額ノ料金ヲ課ス

第四十六條　陸地間ニ發著スル無線電報ニ付テハ一般内國電報ノ料金ト

同額ノ料金ヲ課ス

第四十七條　託送發受所ヨリ發スル無線電報ノ料金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

一　海軍託送發受所ヨリ發スルモノ

イ　海軍用無線電報ノ料金ハ別ニ定ムル所ニ依リ海軍省ヨリ之ヲ徴收ス

ロ　海軍官憲ノ承認ヲ經タル無線電報ノ料金ハ追徴ノ例ニ依リ郵便切手ヲ以テ受信人ヨリ之ヲ徴收ス但シ他ノ海軍託送發受所ニ著スルモノニ付テハ發信人ヨリ徴收ス

二　其ノ他ノ託送發受所ヨリ發スルモノ主務官廳ニ於テ料金額ヲ調定シテ託送發受所ノ施設者ニ通知シ該施設者ヨリ一般歳入徴收ノ例ニ依リ通貨ヲ以テ徴收ス但シ料金徴收上必要アルトキハ郵便切手ヲ以テ納付セシメ又ハ主務官廳ノ指定スル場所ニ於テ料金納付代理人ヲ定メ屆出テシムルコトアルヘシ

託送發受所ノ施設者ニ於テ前項ノ料金ヲ納付スヘキ日ハ主務官廳ヨリ該施設者又ハ料金納付代理人ニ調定料金額ノ通知ヲ發シタル日トス

第四十八條　託送發受所著無線電報ニ付受信人ヨリ追徴ヲ要スル料金ハ前條ノ例ニ依リ託送發受所ノ施設者ヨリ之ヲ徴收ス但シ海軍託送發受所著海軍官憲ノ承認ヲ經タル無線電報ニ付受信人ヨリ追徴ヲ要スル料金ハ發信人ヨリ之ヲ追徴ス

第四十九條　第十條第三項ノ規定ニ依リ艦船又ハ航空機著無線電報ヲ別使又ハ艀船ヲ以テ配達シタルトキハ配達ノ際受信人ヨリ配達料ヲ追徴ス同文電報ナルトキハ之ヲ各通ニ平分ス

第五十條　（削除）

第五十一條　移動局ニ納付シタル無線電報ニ關スル料金還付ノ請求ハ何レノ電信官署ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第五十二條　第十二條乃至第十三條ノ二ノ規定ニ依ル保管期間竝第十四條ノ規定ニ依リ返信料前納證書ノ送付ニ要シタル日數ハ料金還付ノ請求期間ニ之ヲ算入セス

第五十三條　放送電報ノ料金左ノ如シ

和文		歐文	
一通放送字數	月額	一通放送語數	月額
百字以内	二十圓	二十語以内	二十圓
二百五十字以内	四十圓	五十語以内	四十圓
五百字以内	八十圓	百語以内	八十圓
一千字以内	百四十圓	二百語以内	百四十圓
一千五百字以内	二百圓	三百語以内	二百圓
二千字以内	二百六十圓	四百語以内	二百六十圓

第五十四條　放送電報料ハ一月分毎ニ之ヲ計算シ發信電信官署ヨリ翌月十日迄ニ之ヲ發信人ニ通知ス

發信人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ月二十五日迄ニ其ノ料金ヲ發信電信官署ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ

第五十五條　放送電報取扱ノ開始又ハ廢止カ月ノ中途ナルトキハ其ノ月分ノ放送電報料ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第五十六條　放送電報ノ實際字語數認可字語數ニ達セサル場合ニ於テモ之カ爲第五十三條ニ規定スル料金ハ之ヲ減額セス

第五十七條　電信官署業務上ノ支障ニ依リ放送電報ヲ交付スルコトヲ得サリシ場合ニ於テモ之カ爲第五十三條ノ料金ハ之ヲ減額又ハ還付セス

第五十八條　放送電報料ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限リ日割ヲ以テ之ヲ減額ス

一　月ノ中途ニ於テ第四十一條ノ規定ニ依リ認可ヲ取消シ又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ放送字語數ヲ減少セシメタル場合其ノ當日以後ノ日數ニ相當スル料金

二　設備ノ故障其ノ他業務上已ムヲ得サル事由ニ依リ放送電報ノ放送ヲ爲ササルコト引續キ三日以上ニ及ヒタル場合其ノ日數ニ相當スル料金

第五十九條　第三十九條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ取消シ又ハ第四十條ノ規定ニ依リ發信ヲ認メタル場合ニ於テ認可後一年ニ滿タサルトキハ其ノ一年ニ滿ツル迄ノ期間ノ放送字語數ニ對スル料金ヲ一時ニ徵收ス

附　則

本令ハ大正十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

放送無線電報規則及大正六年三月遞信省令第七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ差出シタル無線電報ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前放送無線電報發信ノ認可ヲ受ケ現ニ其ノ效力ヲ有スルモノハ本令ニ依リ之ヲ發信ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

●無線方位測定規則

（昭和八年十二月二十九日遞信省令第六十一號）

無線方位測定規則左ノ通定ム

無線方位測定規則

目次

第一章　總則
第二章　無線羅針業務
第三章　無線標識業務
附　則

第一章　總則

第一條　電波ノ發射ニ依リ行フ方位測定業務ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　方位測定業務ヲ分チテ左ノ二種トス

一　無線羅針業務　船舶無線電信ト無線方位測定機ノ裝設ヲ有スル陸上無線電信（以下無線電信ト稱ス）局トノ間ノ方位測定ニ關スル通信

二　無線標識業務　標識符號ヲ發射スル目的ヲ以テ施設シタル無線標識施設（以下無線標識ト稱ス）ノ業務及無線方位測定機ノ裝置ヲ有スル船舶無線電信ト無線電信ノ裝置ヲ有スル無線標識（以下無線標識局ト稱ス）又ハ船舶無線電信ト交信ノ目的ヲ以テ施設シタル陸上無線電信ニシテ無線羅針局若ハ無線標識局ニ非サルモノ（以下陸上無線電信ト稱ス）トノ間ノ方位測定ニ關スル通信

第三條　方位測定業務ニ使用スヘキ電波ノ型式及周波數ハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外原則トシテ左ノ區別ニ依ルヘシ

一　無線羅針業務

(イ)船舶無線電信ヨリ無線羅針局ニ對スル呼出及方位測定ノ請求　當該無線羅針局ノ聽守電波

(ロ)船舶無線電信ニ於テ方位測定ニ供スル符號ノ送信其ノ他　A二又ハB電波三七五KC乃至三七五KCノ周波數ヲ發射シ得サルモノハ五〇〇KCノ周波數ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(ハ)無線羅針局ニ於テ船舶無線電信ヨリノ呼出又ハ方位測定ノ請求ニ對スル應答其ノ他方位測定ノ結果ノ傳送　當該無線羅針局ニ割當テタル電波

二　無線標識業務

(イ)無線標識ヨリ標識符號ノ發射　A一又ハA二電波二八五KC乃至三一五KCノ周波數帶ニ於テ當該無線標識ニ割當テタル周波數

(ロ)船舶無線電信ヨリ無線標識局又ハ陸上無線電信ニ對スル呼出及標識符號送信ノ請求　當該無線標識局又ハ陸上無線電信ノ聽守電波

(ハ)無線標識局又ハ陸上無線電信ニ於テ船舶無線電信ヨリノ呼出又ハ標識符號送信ノ請求ニ對スル應答其ノ他標識符號ノ送信　無線標識局ニ在リテハA一又ハA二電波二八五KC乃至三一五KCノ周波數帶ニ於テ當該無線標識局ニ割當テタル周波數、陸上無線電信ニ在リテハ當該陸上無線電信ニ於テ通常通信ニ使用スル電波

第四條　無線羅針局ニ關スル左ノ事項ハ別ニ之ヲ告示ス

一　名稱

二　呼出符號

三　位置　受信空中線及發射空中線（場合ニ依リ第四號ノ主無線羅針局ノ發射空中線）ノ地理的位置ヲ經緯度ヲ以テ表ハス

四　船舶無線電信ト交信ヲ爲サザル無線羅針局（以下副無線羅針局ト稱ス）ナルトキハ那無線羅針局ニ於ケル方位測定ニ關シ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス無線羅針局（以下主無線羅針局ト稱ス）ノ名稱及呼出符號

五　聽守電波ノ型式及周波數

六　測定電波ノ型式及周波數　船舶無線電信ニ於テ方位測定ニ供スル

符號ノ送信ニ使用スベキ電波ノ型式及周波數以下同ジ

七　方位通知電波ノ型式及周波數　無線羅針局ニ於テ船舶無線電信ニ對シ方位測定ノ結果ノ傳送ニ使用スベキ電波ノ型式及周波數以下同ジ

八　通常方位測定區域　通常方位ノ測定ヲ爲シ得ベキ海上ニ於ケル區域ヲ方位及距離ヲ以テ表ハス以下同ジ

九　其ノ他必要ナル事項

第五條　無線標識、無線標識局及無線標識業務ヲ取扱フ陸上無線電信ニ關スル左ノ事項ハ別ニ之ヲ告示ス

一　名稱

二　呼出符號

三　位置　發射空中線ノ地理的位置ヲ經緯度ヲ以テ表ハス

四　發射電波ノ型式及周波數

五　聽守電波ノ型式及周波數

六　標識符號

七　無線標識ニ於ケル標識符號ノ發射ニ關シ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス連絡無線電信アルトキハ其ノ名稱及呼出符號

八　通常方位測定區域

九　其ノ他必要ナル事項

第六條　無線羅針局又ハ無線方位測定機ノ裝置ヲ有スル船舶無線電信ニ於テ私設無線電信無線電話規則第六十條ニ依ル發信ヲ認メタルトキハ直ニ方位測定ヲ爲シタル上其ノ結果ヲ船長及救助上最便宜ノ位置ニ在ル他ノ無線電信ニ通知（船舶無線電信ニ在リテハ自己ノ位置ヲ發送スベシ）スベシ

第七條　本令中船舶無線電信ニ關スル規定ハ航空機無線電信ニ付之ヲ準用ス但シ使用電波ノ型式及周波數ニ付テハ原則トシテ左ノ區別ニ依ルベシ

一　無線羅針業務

(イ)航空機無線電信ヨリ無線羅針局ニ對スル呼出及方位測定ノ請求　當該無線羅針局ノ聽守電波

(ロ)航空機無線電信ニ於テ方位測定ニ供スル符號ノ送信其ノ他　A一又ハA二電波三三三KC

(ハ)無線羅針局ニ於テ航空機無線電信ヨリノ呼出又ハ方位測定ノ請求ニ對スル應答其ノ他方位測定ノ結果ノ傳送　當該無線羅針局ニ割當テタル電波

二　無線標識業務

(イ)無線標識ヨリ標識符號ノ發射　A一又ハA二電波一九四KC乃至三六五KCノ周波數帶ニ於テ當該無線標識ニ割當テタル周波數

(ロ)航空機無線電信ヨリ無線標識局又ハ陸上無線電信ニ對スル呼出及標識符號送信ノ請求　當該無線標識局又ハ陸上無線電信ノ聽守電波

(ハ)無線標識局又ハ陸上無線電信ニ於テ航空機無線電信ヨリノ　無線標識局ニ在リテハA一又ハA二電波一九四KC乃至三六五KCノ

呼出又ハ方位測定ノ請求ニ對スル應答其ノ他標識符號ノ送信　周波數帶ニ於テ當該無線標識局ニ割當テタル周波數、陸上無線電信ニ在リテハ當該陸上無線電信ニ於テ通常通信ニ使用スル電波

第八條　本令ニ規定ナキ事項ハ一般ノ無線電信通信方法ニ關スル規定ニ依ルベシ

第二章　無線羅針業務

第九條　船舶無線電信ニ於テ無線羅針局ニ對シ方位測定ノ請求ヲ爲サントスルトキハ該無線羅針局ノ通常方位測定區域內ニ入リタルトキ之ヲ爲スベシ

第十條　船舶無線電信ニ於テ無線羅針局ニ對シ方位測定ノ請求ヲ爲サントスルトキハ該無線羅針局ヲ呼出シ其ノ呼出ニ引續キ左ノ區別ニ從ヒ之ニ該當スル事項ヲ略符號ヲ以テ送信スベシ此ノ場合船舶無線電信ニ於テ該無線羅針局ノ測定電波ニ非ザル電波ヲ以テ方位測定ニ供スル符號ヲ送信セントスルトキハ該略符號ノ次ニ使用電波ノ型式及周波數ヲ送信スベシ

區別	事項	略符號
一	當該無線羅針局ニ對シ直接方位測定ノ請求ヲ爲ストキ	當船ノ眞方位如何
二	主無線羅針局及副無線羅針局ニ依ル方位測定ノ請求ヲ爲ストキ	貴局ノ宰領スル無線羅針局ヨリノ當船ノ眞方位如何
三	主無線羅針局又ハ副無線羅針局ノミニ依ル方位測定ノ請求ヲ爲ストキ	ヽヽヽ（呼出符號）ヨリノ當船ノ眞方位如何
四	主無線羅針局及副無線羅針局ニ依ル位置ノ測定ノ請求ヲ爲ストキ	貴局ノ宰領スル無線羅針局ノ當船ノ位置ヲ示サレタシ

QTE？

QTF？

第十一條　船舶無線電信ニ於テ主無線羅針局又ハ副無線羅針局ノミニ對シ方位測定ノ請求ヲ爲サントスルトキハ其ノ主無線羅針局ヲ呼出シ之ニ前條ノ方法ニ依リ必要ノ事項ヲ送信スベシ此ノ場合ニ於テハ略符號「QTE？」ノ次ニ該無線羅針局ノ呼出符號ヲ添送スベシ

第十二條　船舶無線電信ニ於テ二以上ノ無線羅針局（主無線羅針局ヲ同ジクスル場合ヲ除ク）ニ對シ方位測定ノ請求ヲ爲サントスル場合各無線羅針局ノ聽守電波同一ナルトキハ事情ノ許ス限リ各局ヲ一括呼出シタル上同時ニ方位測定ヲ爲サシムベシ

第十三條　主無線羅針局ニ於テ船舶無線電信ヨリ方位測定ノ請求ヲ受ケタルトキハ自局限リ測定ヲ爲スベキ場合ヲ除クノ外副無線羅針局ニ對シ方位測定ノ準備ヲ爲スベキ旨ヲ通知スベシ

副無線羅針局ニ於テ主無線羅針局ヨリ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ方位測定ノ準備ヲ完了シ其ノ旨ヲ主無線羅針局ニ通知スベシ

第十四條　無線羅針局ニ於テ船舶無線電信ヨリ方位測定ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ測定ノ準備ヲ完了シタルトキハ該船舶無線電信ニ對スル應答ニ際シ方位測定ニ供スル符號ヲ送信スベキ旨（可送符號ハヲヲ送ス）ヲ通知スベシ

第十五條　船舶無線電信ニ於テ無線羅針局ニ對シ方位測定ニ供スル符號ノ送信ヲ爲サントスルトキハ所定ノ電波ニ依リ該無線羅針局ニ於ケル第十二條ニ依リ一括呼出ヲ受ケタル無線羅針局ハ其ノ呼出符號ノ「アルファベット」順ニ從ヒ前項ノ方法ニ依リ通知スベシ

方位測定上必要ナル最少限度ノ電力ヲ以テ自己ノ呼出符號ヲ其ノ長點ヲ稍長クシテ五十秒間反覆送信スベシ

第十六條　副無線羅針局ニ於テ方位測定ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ直ニ主無線羅針局ニ通知スベシ

第十七條　無線羅針局ニ於テ方位測定ノ結果ヲ船舶無線電信ニ通知セントスルトキハ當該無線羅針局（方位測定ヲ爲シタル無線羅針局）所在地ノ地方標準時ニ依リ「〇〇〇一（午前〇時一分）」ヨリ「二四〇〇（午後十二時）」ニ至ル四位ノ數字ヲ以テ表ハス方位測定時刻ヲ送信シ之ニ引續キ左ノ區別ニ從ヒ之ニ該當スル事項ノ略符號及「〇〇〇」ヨリ「三五九」ニ至ル三位ノ數字ヲ以テ表ハス當該無線羅針局（方位測定ヲ爲シタル無線羅針局）ヨリノ眞方位又ハ經緯度ヲ以テ表ハシタル地理的位置ヲ送信スベシ

區別	事項	略符號
一	無線羅針局ニ於テ其ノ方位測定ノ結果ヲ通知スルトキ	貴船ノ眞方位ハ當局ヨリ　度ナリ
二	主無線羅針局ニ於テ自局又ハ副無線羅針局ニ於ケル方位測定ノ結果ノミヲ通知スルトキ	、、、、（呼出符號）ヨリノ貴船ノ眞方位ハ、、、、、、、、度ナリ
三	主無線羅針局ニ於テ自局及副無線羅針局ニ於ケル方位測定ノ結果ヲ通知スルトキ	、、、、（呼出符號）ヨリ、、、、、、、、度、、、、、、、、（呼出符號）ヨリ、、、、、、、、度ナリ

第十八條　主無線羅針局ニ於テ自局若ハ副無線羅針局ニ於ケル方位測定ノ結果ノミヲ又ハ之ヲ取纏メ船舶無線電信ニ通知セントスルトキハ前條ノ方法ニ依ルノ外眞方位ヲ表ハス數字ノ前ニ之ヲ測定シタル無線羅針局ノ呼出符號ヲ送信スベシ

第十九條　船舶無線電信ニ於テ無線羅針局ヨリ方位測定ノ結果ノ通知ヲ受ケタルトキハ照校ノ爲該無線羅針局ニ對シ方位測定時刻及方位又ハ位置ヲ表ハス數字ヲ受信シタル順序ニ依リ送信スベシ

第二十條　無線羅針局ニ於テ前條ノ送信ニ誤リナキコトヲ認メタルトキハ解信符號ー――ヲ送信スベシ

第二十一條　主無線羅針局ト副無線羅針局トノ間ノ連絡ハ電信電話ノ連絡アル場合ハ之ニ依リ其ノ連絡ナキ場合ハ無線電信無線電話ニ依リ之ヲ爲スベシ

第三章　無線標識業務

第二十二條　無線方位測定機ノ裝置ヲ有スル船舶無線電信ニ於テ無線標識局ニ對シ標識符號ノ送信ヲ請求セントスルトキハ該無線標識局ノ通常方位測定區域ニ入リタルトキ之ヲ呼出シ其ノ呼出ニ引續キ左ノ事項ニ該當スル略符號ヲ送信スベシ

事項	略符號
方位測定上必要ナル最少限度ノ電力ヲ以テ自己ノ呼出符號ヲ其ノ長點ヲ稍長クシテ五十秒間反覆送信スベシ	QTF
無線羅針局ニ於テ自局及副無線羅針局ニ於ケル方位測定ノ結果ニ基ク當該船舶ノ位置ハ緯度、、、、、經度、、、、ナリ	

標識符號ノ送信ヲ乞フ　QTG？

第二十三條　無線標識局ニ於テ船舶無線電信ヨリノ請求ニ依リ標識符號ノ送信ヲ爲サントスルトキハ一分間標識符號ヲ成ルベク其ノ長點ヲ稍長クシテ送信スベシ

第二十四條　無線標識局又ハ無線標識ニ於テ濃霧等ニ際シ其ノ附近ニ在ル船舶無線電信ニ對シ繼續シテ標識符號ノ送信ヲ爲サントスルトキハ一分間ノ間隔ヲ以テ前條ノ送信ヲ反復スベシ

第二十五條　無線方位測定機ノ裝置ヲ有スル船舶無線電信ニ於テ陸上無線電信ニ對シ標識符號ノ送信ヲ請求セントスルトキハ第二十二條ノ方法ニ準ジ其ノ請求ヲ爲スベシ

第二十六條　前條ノ請求ヲ受ケタル陸上無線電信ニ於テ標識符號ノ送信ヲ爲サントスルトキハ第二十三條ノ方法ニ準ジ船舶無線電信ニ於ケル方位測定上必要ナル最少限度ノ電力ヲ以テ之ヲ送信スベシ

第二十七條　船舶無線電信ニ於テ濃霧等ニ際シ衝突ヲ豫防スル目的ヲ以テ其ノ附近ニ在ル船舶無線電信ニ對シ自己ノ所在ヲ知ラシメントスルトキハ附近船舶無線電信ニ於ケル方位測定上必要ナル最少限度ノ電力ヲ以テ自己ノ呼出符號、位置、針路、速力其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ前後ニ「QTM」ノ略符號ヲ附シ且各送信符號ノ長點ヲ稍長クシテ送信スルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年五月遞信省令第十四號無線方位測定通信規則ハ之ヲ廢止ス

●無線方位測定機及警急自働受信機型式試驗規則（昭和十年五月二十二日遞信省令第十五號）

無線方位測定機及警急自働受信機型式試驗規則左ノ通定ム

無線方位測定機及警急自働受信機型式試驗規則

第一條　私設無線電信無線電話規則ニ定ムル無線方位測定機及警急自働受信機ノ型式試驗ハ本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條　型式試驗ヲ受ケントスル者ハ申請書（第一號書式）ニ試驗品竝ニ其ノ說明書及圖面ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スベシ

第三條　不合格ト爲リタル試驗品ニ付テハ之ニ輕微ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ一部分ヲ改良シ不合格ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ再試驗ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ申請書（第二號書式）ニ試驗品竝ニ變更又ハ改良事項ヲ記載シタル書類及圖面ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スベシ

第四條　前二條ノ規定ニ依ル試驗ノ成績所定ノ規準ニ適合スルトキハ型式證明書（第三號書式）ヲ交付ス

第五條　證明ヲ經タル型式ヲ變更スル場合ト雖モ其ノ變更ガ型式ノ主要部分ニ非ザルトキニ限リ追加型式試驗ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ申請書（第四號書式）ニ試驗品竝ニ變更事項ヲ記載シタル書類及圖面ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スベシ

第六條　追加型式試驗ノ結果原型式ノ性能ニ影響ナシト認ムルトキハ追加型式證明書（第五號書式）ヲ交付ス

第七條　第二條、第三條及第五條ノ試驗品ハ電氣試驗所ニ於テ必要ア

ト認ムルトキハ之ヲ追加提出セシムルコトアルベシ

第八條　試驗申請者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スベシ

一	型式試驗ノ申請ヲ爲ストキ	一件ニ付　百五十圓
二	再試驗ノ申請ヲ爲ストキ	一件ニ付　五十圓
三	追加型式試驗ノ申請ヲ爲ストキ	一件ニ付　五十圓

第九條　第四條又ハ第六條ノ規定ニ依ル型式ノ證明ハ製品ノ實積ニ依リ之ヲ取消スコトアルベシ

第十條　第四條若ハ第六條ノ規定ニ依リ型式ノ證明ヲ爲シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

型式試驗申請書

一　試驗品名
二　型
三　製造者名

右無線方位測定機及警急自働受信機型式試驗規則第二條ニ依リ型式試驗申請候也

年　月　日

住所
申請者名

電氣試驗所長宛

第二號書式

型式再試驗申請書

一　試驗品名
二　型
三　製造者名
四　型式試驗申請年月日

右無線方位測定機及警急自働受信機型式試驗規則第三條ニ依リ型式再試驗申請候也

年　月　日

住所
申請者名印

電氣試驗所長宛

第三號書式

第　號

型式證明書

一	品名	
二	型	
三	製造者名	
四	說明	別紙ノ通

右昭和十年五月遞信省令第十五號無線方位測定機及警急自働受信機型式試驗規則第四條ニ依リ型式ノ證明ヲ爲ス

第二七四號

年　月　日

電氣試驗所長名圖

第四號書式

追加型式試驗申請書

一　試驗品名
二　型
三　製造者名
四　型式證明ノ年月日及番號

右無線方位測定機及警急自働受信機型式試驗規則第五條ニ依リ追加型式試驗申請候也

年　月　日

住所
申請者名印

電氣試驗所長宛

第五號書式

第　號ノ二

追加型式證明書

一	品名	
二	型	

住所
申請者名

三　製造者名
四　原型式證明番號
五　說明　別紙ノ通

右昭和十年五月遞信省令第十五號無線方位測定機及聲急自働受信機型式試驗規則第六條ニ依リ其ノ型式ヲ追加證明ス

年　月　日

電氣試驗所長名㊞

●無線電報規則ニ依ル固定局間傳送ヲ要スル無線電報ノ取扱制限

無線電報ノ區別　關係固定局名　取扱制限

南洋群島中サイパン、テニアン、トラック、ポナペ、ヤルート、パラオ、アンガウル、ロタ、ファイス及クサイ各島ト南洋群島以外ノ各地トノ間ニ發著スル無線電報　東京、ヤップ、サイパン、テニアン、トラック、ポナペ、ヤルート、パラオ、アンガウル、ロタ、ファイス、クサイ　新聞電報ノ豫約取扱及後納取扱ハ之ヲ爲サス

沖繩縣島尻郡大東島ノ內南大東島ト其ノ他ノ各地トノ間ニ發著スル無線電報　南大東島　那覇　ナシ

沖繩縣島尻郡大東村字沖大東島ト其ノ他ノ各地トノ間ニ發著スル無線電報　那覇、ラサ島　同

北海道千島國占守郡幌莚島ト其ノ他ノ各地トノ間、同占守島ト其ノ他ノ各地トノ間及同阿頼度島ト其ノ他ノ各地トノ間竝幌莚島內及占守島內ニ發著スル無線電報　落石、幌莚、片岡灣、柏原灣、加熊別灣、幌莚測候、村上崎、國端埼、阿頼度　上記關係固定局間局中ニ限リ取扱フ　同

【沿革】昭和九年一月告示第二一號、同年三月同第七九九號、同年七月同第一九二號、同十年五月同第一二〇一號、同年八月同第二〇八〇號、同年十月同第二七四三號、同十一年七月同第一八五一號、同十三年五月同第一三六六號、同十四年二月同第二八三號、同年三月同第八〇二號、同年十二月同第三六四八號、同十五年七月同第二〇〇八號、同年八月同第二一九九號改正

昭和七年九月二十六日ヨリ無線電報規則ニ依ル固定局間傳送ヲ要スル無線電報ノ取扱制限及無線電信上ノ特定料金左ノ如シ

大正十四年八月遞信省告示第千二百五十六號ハ之ヲ廢止ス

及無線電信上ノ特定料金

（昭和七年九月十四日遞信省告示第千七百一號）

【沿革】昭和九年一月告示第二一號、同年三月同第七九九號、同年七月同第一九二號、同十年五月同第一二〇一號、同年八月同第二〇八〇號、同年十月同第二七四三號、同十一年七月同第一八五一號、同十三年五月同第一三六六號、同十四年二月同第二八三號、同年三月同第八〇二號、同年十二月同第三六四八號、同十五年七月同第二〇〇八號、同年八月同第二一九九號改正

●無線電報料ヲ課セスシテ海軍用無線電報ヲ送受スル電信官署名

（大正十四年八月二十四日遞信省告示第千二百五十八號）

【沿革】大正十五年七月告示第一三五三號、昭和四年四月同第一一八九號、同第一二一六號、同六年五月同第九三九號、同七年十一月同第二〇六四號、同十年四月同第九九九號改正

大正十四年十一月一日ヨリ無線電報規則第四十五條ニ依リ無線電報料ヲ課セスシテ海軍用無線電報ヲ送受スル電信官署名左ノ如シ

銚子無線電信局	潮岬無線電信局
長崎無線電信局	落石無線電信局
幌莚無線電信局	那覇郵便局
函館無線電信局	若狹無線電信局
角島無線電信局	
下津井無線電信局	
鹿兒島郵便局	
大分無線電信局	

稚內ト樺太トノ間ニ發著スル無線電報　稚內、大泊　稚內郵便局、稚內電信取扱所、南稚內電信取扱所又ハ稚內無線電信取扱所ニ發著スル無線電報ノ指定アルモノニ限リ取扱フ　通常電報、時間外電報、至急電報等ノ區別ニ拘ラス上記關係固定局間傳送料トシテ無線電報料二箇分ヲ課ス但シ有線電報料ヲ包含ス

●無線電報規則等ニ依ル醫事通報ヲ發受スル病院及電報名宛

（昭和十三年五月六日　遞信省告示第千四百三十二號）

【沿革】昭和十三年十月告示第三三一八號、同十四年六月同第一六四九號、同年八月同第二五〇〇號改正

無線電報規則第十九條ノ二及日滿無線電報規則第三條ニ依ル醫療無線電報及外國無線電報規則第十四條ノ二ニ依ル醫事通報ヲ發受スル病院及其ノ電報名宛左ノ如シ

本告示ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

名稱	電報名宛	
	和文	歐文
日本海員掖濟會横濱病院（横濱市中區吉濱町一四）	ヨコハマエキサイ	NKEB Yokohama
同大阪病院（大阪市西區本田町通一ノ六四）	オウサカエキサイ	NKEB Osaka
同神戸病院（神戸市神戸區山手通六ノ九一）	コウベエキサイ	NKEB Kobe
同門司病院（門司市清瀧町一丁目七三〇ノ二）	モジエキサイ	NKEB Moji
同長崎病院（長崎市樺島町三九）	ナガサキエキサイ	NKEB Nagasaki
咸鏡北道立羅南醫院（羅南邑）	ラナンドウリツジンセンドウリツ	Dorits Ranan Dorits Zinsen
京畿道立仁川醫院（仁川府山手町）	ハコダテベウインオタルベウイン	HOSP Hakodate HOSP Otaru
函館市立病院（函館市富岡町）		
小樽市立病院（小樽市量德町）		
釧路市立病院（釧路市幣舞町）	クシロベウイン	HOSP Kushiro
樺太廳大泊醫院（大泊郡大泊町）	オウトマリイイン	HOSP Otomari
基隆醫院（基隆市壽町）	キイルンイイン	HOSP Keelung
高雄醫院（高雄市山下町）	タカオイイン	HOSP Takao
日本赤十字社大連病院（大連市山吹町）	ダイレンセキジウジ	

●官廳用ノ電信及電話ニ關スル件

（明治三十三年九月一日　勅令第三百五十六號）

【沿革】大正九年十一月勅令第五四八號、昭和九年十月同第三一一號改正

朕官廳用ノ電信及電話ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官廳カ事務執行ノ爲電信電話ヲ施設スルトキハ軍用電氣通信法ニ依ルモノヲ除クノ外總テ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依ルコトヲ要ス

前項ニ依リ施設シタル電信電話ニシテ鐵道所屬ノモノ及公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ナキ地ニ施設シタルモノ竝當該官廳ノ事務執行ニ差支ナキモノハ遞信大臣之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ官廳ニ於テ施設スル無線電信無線電話ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●官廳用電信電話規程

（明治三十三年九月一日　遞信省令第五十一號）

【沿革】明治三十四年十一月省令第四九號、同四十三年三月同第三六號、大正八年二月同第五號、同九年十一月同第一一四號、同十四年七月同第四五號、昭和三年九月同第五二號、同七年十一月同第五一號改正

官廳用電信電話規程左ノ通之ヲ定ム

官廳用電信電話規程

第一條　明治三十三年（九月）勅令第三百五十六號ニ依ル官廳用ノ電信又ハ電話ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　一構内ニ施設スルモノ

二　警察事務及刑事訴訟事務ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

三　鐵道、軌道竝私設電信規則第二條第二號乃至第四號ニ揭クル事業ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

四　電報送受ノ目的ヲ以テ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノ

五　一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ施設スルモノ

第二條　前條ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條乃至第十九條第二十一條第二十二條第二十四條及第二十七條ノ二ノ規定ヲ準用ス但シ私設電信規則第二十七條ノ二ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外前條第一號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條第十三條及第十八條ノ規定ヲ準用セス

前條第四號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第十一條第二十條、第二十條ノ二及明治三十三年（九月）遞信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

附　則

第三條　電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ私設電信規則第十三條乃至第十九條第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第四條乃至第七條第九條乃至第十二條、第二十條及第二十條ノ二竝明治三十三年（九月）遞信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

電線路ニ依リ火災其ノ他ノ通報ヲ爲ス公衆用信號ヲ施設セムトスルモノニ關シテハ第一項ノ外私設電信規則第八條第一項、第九條第二項及第三項竝第十條第二項及第十二條ノ規定ヲ準用ス

電線路ニ高周波電流ヲ通シテ爲ス通報信號ノ施設ニ關シテハ私設電信規則第二十八條ノ二ノ規定（第二十三條、第二十五條及ヲ準用ス第二十六條ノ規定ヲ除ク）ヲ準用ス

第三條ノ二　電報送受ノ目的ヲ以テ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設スル氣送管及之ニ附屬スル信號施設ニ關シテハ私設電信規則第二十八條ノ三ノ規定（第二十三條、第二十五條及ヲ準用ス第二十六條ノ規定ヲ除ク）ヲ準用ス

第四條　此ノ規程施行前電報送受ノ爲郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設シタル電信又ハ電話ニ關シ特ニ期限ヲ定メテ契約シタルモノハ其ノ期限内ニ限リ明治三十三年（九月）遞信省令第四十九號規定ノ維持料金額ニ拘ハラス其ノ契約ニ定メタル料金額ヲ納付スルモノトス

第五條　電信條例ニ依リ施設ノ許可ヲ得タル電信又ハ電話ニ關シテハ此ノ規程施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ私設電信規則第五條第一號乃至第三號及第七條各號ニ揭クル事項ヲ記載セル書類ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第六條　此ノ規程施行前ニ於テ既ニ施設シタル電信又ハ電信ノ工事中此ノ規程ニ適合セサルモノニ關シテハ私設電信規則第三十條第一項ノ規定ヲ準用ス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ付テモ亦同シ

第七條　此ノ規程ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

●官廳用無線電信無線電話規則

（大正九年十一月二十四日　遞信省令第百十七號）

【沿革】大正十三年三月省令第九號、同十四年二月同第二二號、同十五年五月同第一八號、昭和三年十一月同第五七號、同八年十二月同第六二號改正

官廳用無線電信無線電話規則左ノ通定ム

官廳用無線電信無線電話規則

第一條　明治三十三年勅令第三百五十六號ニ依ル官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ハ左ニ揭クルモノニ限リ陸上ニ施設スルモノニ在リテハ遞信大臣、船舶ニ施設スルモノニ在リテハ所轄遞信局長ノ承認ヲ受ケ之ヲ施設スルコトヲ得但シ第六號ノ二ニ依ルモノハ承認ヲ受ケスシテ之ヲ施設スルコトヲ得

一　航行ノ安全ニ備フル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

二　特定ノ事務ニ用ウル船舶相互間ニ於テ其ノ事務ノ用ニ供スル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

三　電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ專用ニ供スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

四　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナク前號ノ規定ニ依ルヲ不適當トスル陸地相互間又ハ陸地船舶間ニ於テ特定ノ事務ニ用ウル目的ヲ以テ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

五　無線電信又ハ無線電話ノ學術研究又ハ機器ニ關スル實驗ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

六　無線電信又ハ無線電話ニ依ル報時通信又ハ氣象通信ノ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

六ノ二　無線電話ニ依ル放送事項聽取ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

七　前各號ノ外遞信大臣ニ於テ特ニ施設ノ必要アリト認メタルモノ

第一條ノ二　前條但書ニ依リ無線電話ヲ施設シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ十日以內ニ所轄遞信局長ニ届出ツヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　施設者名

二　機器裝置場所

三　機器ノ種類（眞空管式ナルトキハ眞空管ノ箇數ヲ附記ノコト）

四　受信可能周波數

五　施設年月日

前項届書ニハ聽取セムトスル放送無線電話ノ施設者ニ對スル聽取契約書ヲ添付スヘシ

第二條　遞信大臣ハ公衆通信上必要ト認ムルトキハ官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ヲ廢止セシメ又ハ其ノ設備ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第三條　私設無線電信無線電話規則及放送用私設無線電話規則（第十條第十三條第十四條第一項但書及第一號設第十五條乃至第十七條ヲ除ク）ノ規定ハ官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用ス但シ私設無線電信無線電話規則第三十六條及第四十條ノ規定ハ第一條第五號又ハ第六號ニ依リ陸上ニ施設シタル官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ニ、私設無線電信無線電話規則第七十九條及第八十條ノ規定ハ第一條第五號ニ依リ陸上ニ施設シタル官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用セス

附　則

第四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條　本令施行前官廳ニ於テ施設シ現ニ其ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ハ本令ニ依リ之ヲ施設シ其ノ使用ヲ開始シタルモノト看做ス

第六條　前條ニ依ル官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ三十日內ニ私設無線電信規則第六條各號ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

附　則（大正十三年三月遞信省令第九號）

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前官廳用無線電信無線電話規則第一條第七號ニ依リ氣象通信ノ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設シタル官廳用ノ無線電信ハ本令施行ノ日ヨリ同條第六號ニ依リ之ヲ施設シタルモノト看做ス

附　則（大正十五年五月遞信省令第一八號）

本令ハ船舶無線電信施設法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年十一月一日ヨリ施行）

●關東州電氣通信令

（昭和八年七月二十二日勅令第百九十七號）

【沿革】昭和九年十二月勅令第三九四號、同十二年十二月同第六八四號改正

第一條　關東州ニ於ケル電信、電話、無線電信及無線電話ニ關シテハ條約ニ定ムルモノノ外本令ノ定ムル所ニ依ル但シ軍用ノ電信、電話、無線電信及無線電話ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條　公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信及無線電話ハ滿洲電信電話株式會社及滿洲國駐劄特命全權大使ノ特許ヲ受ケタル者ヲシテ之ヲ經營セシム

第三條　公衆通信ノ用ニ供セザル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ハ左ニ揭グルモノニ限リ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ私設スルコトヲ得但シ大使ノ指定シタルモノニ付テハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　一邸宅內又ハ一構內ニ於テ專用ニ供スル目的ヲ以テ施設スルモノ

二　鐵道業、航空業其ノ他電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ專用ヲ必要トスル事業ニ用フル目的ヲ以テ施設スルモノ

三　電報送受ノ爲施設者ノ專用ニ供スル目的ヲ以テ電信局トノ間ニ施設スルモノ但シ無線電信又ハ無線電話ニ付テハ公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ連絡ナキ陸地、船舶又ハ航空機ニ施設スルモノニ限ル

四　公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ連絡ナク且前號ノ規定ニ依ルヲ不適當トスル陸地ト陸地、船舶又ハ航空機トノ間ニ於テ同一人ノ特定事業ニ專用スル目的ヲ以テ陸地、船舶又ハ航空機ニ施設スルモノ

五　航行ノ安全ニ備フル目的ヲ以テ船舶又ハ航空機ニ施設スルモノ

六　同一人ノ特定事業ニ用フル船舶又ハ航空機相互間ニ於テ其ノ事業ノ專用ニ供スル目的ヲ以テ船舶又ハ航空機ニ施設スルモノ

七　氣象通信又ハ報時通信ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

八　無線電話ニ依ル放送事項聽取ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

九　無線電信又ハ無線電話ニ關スル實驗ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

第四條　大使ハ其ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ施設シタル電信、電話、無線電信又ハ無線電話（以下專用通信施設ト稱ス）ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

第五條　專用通信施設ハ其ノ施設ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ大使ノ定ムル所ニ依リ船舶遭難通信、航空機遭難通信、氣象通信、報時通信其ノ他公益上必要ナル通信ニ之ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

第六條　外國ノ船舶又ハ航空機ニ裝置シタル無線電信又ハ無線電話ハ第三條ノ規定ニ依リ施設シタルモノヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ船舶遭難通信、航空機遭難通信及航行中電信局又ハ電話局トノ通信ニ使用スルコトヲ妨ゲズ

第七條　大使ハ公衆通信上又ハ軍事上必要ト認ムルトキハ專用通信施設ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ使用ノ停止ヲ命ズルコトヲ得無線電信又ハ無線電話ノ混信防遏ノ爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第八條　大使ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ノ制限又ハ停止ヲ命ズルコトヲ得

第九條　大使ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ專用通信施設又ハ外國ノ船舶若ハ航空機ニ裝置シタル無線電信若ハ無線電話ノ使用ノ制限、停止又ハ其ノ機器及附屬具ノ除却ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ大使ハ當該官吏ヲシテ機器及附屬具ニ封印シ又ハ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第十條　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ大使ノ指定シタル官廳ハ當該電信、電話、無線電信若ハ無線電話ノ施設者又ハ當該通信ヲ發スル者ニ對シ其ノ通信ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第十一條　專用通信施設ノ施設者本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ大使ハ當該施設ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ施設ノ使用ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第十二條　專用通信施設ノ施設者當該施設ヲ廢止シタルトキハ大使ノ命ズル所ニ依リ其ノ機器及工作物ヲ撤去スルコトヲ要ス當該施設ノ許可ノ效力消滅シタルトキ亦同シ

第十三條　無線電信又ハ無線電話ハ船舶遭難通信又ハ航空機遭難通信ノ取扱ノ依頼ヲ受ケタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

無線電信又ハ無線電話ハ船舶遭難通信又ハ航空機遭難通信アリタル場合ニ於テハ直ニ應答シ救助上最便宜ノ位置ニ在ル無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ通報スベシ

前項ノ場合ニ於テ特定ノ事項ノ通報ヲ求メラレタルトキハ前項ノ規定ニ依ラズ直ニ其ノ通報ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條　大使ハ不法ニ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ヲ施設スル者アリト認メタルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入リ機器及工作物ノ檢查、機器及附屬具ノ除却其ノ他相當ノ措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條　大使ハ專用通信施設ノ機器、其ノ裝置又ハ運用ニ關シ監督上

必要ト認ムルトキハ當該官吏チシテ其ノ施設ノ場所ニ立入リ機器、工作物、運用狀況及關係書類ノ檢査チ爲サシムルコトチ得

第十六條　前二條ノ規定ニ依リ當該官吏電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ場所ニ立入ル場合ニ於テハ其ノ身分チ證明スベキ證票チ携帶スベシ

第十七條　第三條ノ規定ニ依リ施設スル無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置及運用ニ關スル制限竝ニ其ノ通信ニ從事スル者ノ資格及配置定員ハ大使ノ定ムル所ニ依ル

第十八條　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ取扱ニ關シテハ公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ經營者（以下事業者ト稱ス）ハ大使ノ定ムル所ニ依ルノ外損害賠償ノ責ニ任セズ

第十九條　公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ線路ノ建設、保守又ハ測量ノ爲必要アルトキハ事業者ハ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ニ測量標チ設置スルコトチ得但シ日沒ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ構内ニ立入ルコトチ得ズ

前項ノ規定ニ依リ邸宅又ハ構内ニ立入ル場合ニハ占有者ニ豫メ之チ通知スベシ

前二項ノ規定ニ依リ他人ノ土地、邸宅又ハ構内ニ立入ル者ハ其ノ身分チ證明スベキ證票チ携帶スベシ

第二十條　公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ線路ノ建設又ハ通信ニ障碍アル竹木其ノ他ノ植物ハ已ムチチ得ザルモノニ限リ大使ノ定ムル所ニ依リ事業者ノ請ニ依リ使用チ許可スルコトチ得

第二十四條　左ニ揭グルモノハ事業者之チ補償スベシ

一　第十九條ノ規定ニ依ル立入又ハ測量標設置ノ爲現ニ生ジタル損害

二　第二十條ノ規定ニ依リ伐除シタル植物ノ價額又ハ同條ノ規定ニ依

ル植物ノ移植ノ費用

三　第二十一條ノ規定ニ依ル工作物ノ移轉ノ費用

前項ノ補償金額ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ協議チ爲スコト能ハザルトキハ大使之チ裁定ス

第二十五條　公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ線路チ建設シタル土地又ハ其ノ隣接地ノ所有者又ハ占有者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ線路ノ位置ノ變更其ノ他土地ノ使用ニ對スル障碍ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法チ施スコトチ請求スルコトチ得

第二十六條　不法ニ電信若ハ電話チ施設シタル者、不法ニ施設シタル電信若ハ電話チ使用シタル者又ハ第三條ノ規定ニ依リ施設シタル電信若ハ電話ノ許可ノ效力消滅シタル後其ノ電信若ハ電話チ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

不法ニ無線電信若ハ無線電話チ施設シタル者、不法ニ施設シタル無線電信若ハ無線電話チ使用シタル者又ハ第三條ノ規定ニ依リ施設シタル無線電信若ハ無線電話ノ許可ノ效力消滅シタル後其ノ無線電信若ハ無線電話チ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第三條ノ規定ニ依リ施設シタル電信又ハ電話チ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ規定ニ依リ施設シタル無線電信又ハ無線電話チ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　前二條ノ場合ニ於テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話チ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品チ收得シタルトキハ之チ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部チ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額チ追徵ス

第二十九條　第四條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ專用通信施設ノ供用チ拒ミタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　本令ニ依ル電信又ハ電話ノ使用ノ制限若ハ停止又ハ設備ノ變更、除却若ハ撤去ノ命令ニ從ハザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者使用ノ制限又ハ停止ノ命令ニ違反シテ使用シタルトキハ其ノ從事者ニ付亦同シ

第六條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本令ニ依ル無線電信若ハ無線電話ノ使用ノ制限、停止若ハ設備ノ變更、除却、撤去ノ命令ニ從ハザル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者使用ノ制限又ハ停止ノ命令ニ違反シテ使用シタルトキハ其ノ從事者ニ付亦同シ

第三十一條　事業者ノ取扱中ニ係ル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密チ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ通信ノ祕密チ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴チ待テ之チ論ズ

第三十二條　無線電信又ハ無線電話ニ依リ知得タル前條ニ該當セザル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密チ漏泄シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴チ待テ之チ論ズ

第三十三條　自己若ハ他人ニ利益チ與ヘ又ハ他人ニ損害チ加フル目的チ

以テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依リ虚僞ノ通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　公益ヲ害スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依リ虚僞ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三十五條　船舶遭難又ハ航空機遭難ノ事實ナキニ拘ラズ無線電信又ハ無線電話ニ依リ遭難通信ヲ發シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三十六條　無線電信又ハ無線電話ニ依リ公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　公衆通信ノ用ニ供スル電信又ハ無線電信ノ事務ニ從事スル者事業者ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタルトキ又ハ受取人ニ非ザル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第三十八條　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲サザルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ第十三條ノ規定ニ依ル船舶遭難通信若ハ航空機遭難通信ノ取扱ヲ爲サザルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

船舶遭難通信又ハ航空機遭難通信ノ取扱ヲ妨害シタル者ハ罰前項ニ同ジ

第四十條　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ妨害シ又ハ之ヲ妨害スベキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ線路ノ測量、建設、保守又ハ巡視ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條　公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ線路ノ電氣導體又ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ、動物若ハ舟筏ヲ繫ギ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ線路ノ標識ヲ毀棄又ハ汚穢シタル者ハ罰前項ニ同ジ

第四十三條　大使ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ、漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線路若ハ水底電話線路ノ標識ニ舟筏ヲ繫ギ若ハ其ノ標識ヲ毀棄シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線路若ハ水底電話線路ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示ス浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ大使ノ指定シタル距離内ニ於テ前項ノ行爲ヲ爲シ又ハ航行シタル者ハ罰前項ニ同ジ

第四十四條　第二十六條、第二十七條、第三十條乃至第四十一條及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十五條　本令ニ基キテ爲ス當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ゲ若ハ忌避シ又ハ第十四條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル檢査ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十六條　官署事務ノ專用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ付テハ大使ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外本令中專用通信施設ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十七條　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ非ザル電氣通報信號施設ニ關シテハ大使ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ヲ準用スルコトヲ得

第四十八條　大使ハ無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ニ及ボス障碍ヲ防止スル爲必要ト認ムルトキハ高周波電流ヲ發生スル設備ニシテ電信、電話、無線電信、無線電話又ハ前條ノ電氣通報信號施設ニ非ザルモノニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テ整備ノ變更又ハ特殊ノ設備ニ要シタル費用ハ大使ノ定ムル所ニ依リ之ヲ補償ス

附　則

第二十類　通信、交通及電氣　第一編　通信

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム（昭和八年九月關東廳令第二七號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

明治三十九年勅令第二百二十九號中「關東都督府」ヲ「關東廳」ニ改メ「電信及電話」及「、電信法、無線電信法、電信線電話線建設條例」ヲ削ル

本令施行前明治三十九年勅令第二百二十九號ニ依リ私設シタル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ハ本令ニ依ル專用通信施設ト看做ス

附　則（昭和十二年十二月勅令第六八四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前南滿洲鐵道附屬地ニ於テ從前ノ規定ニ違反スル行爲ヲ爲シタル者ノ處罰ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●新聞電報認可規則

（大正十四年八月二十二日
遞信省令第四十八號）

【沿革】昭和二年七月省令第二八號、同七年九月同第三一號、同十六年一月同第五號改正

新聞電報認可規則左ノ通定ム

第一章　通則

第一條　電報規則第百十九條、同第百二十八條及同第百四十四條ニ規定スル新聞電報ノ取扱又ハ新聞電報ノ豫約若ハ後納取扱ヲ受ケムトスル者ハ本令ノ定ムル所ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　本令ニ依ル申請又ハ届出ハ新聞社又ハ通信社ノ持主ノ名ヲ以テスヘシ其ノ持主異動ノ場合ハ新舊持主ノ連署ヲ以テ直ニ其ノ旨所轄遞信局長ニ届出スヘシ

前項ノ手續ヲ怠リタルトキハ新聞電報ノ取扱又ハ新聞電報ノ豫約若ハ後納取扱ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第三條　本令ニ依ル新聞電報ノ取扱又ハ新聞電報ノ豫約若ハ後納取扱ノ繼續中新聞社又ハ通信社ノ持主ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ既ニ差出シタル申請又ハ届出ハ新持主ノ名ヲ以テシタルモノト看做ス

第四條　（削除）

第二章　新聞電報ノ取扱

第五條　新聞電報ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ電報ヲ掲載スヘキ新聞紙見本一部ヲ添ヘ之ヲ所轄遞信局長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

一　新聞紙題號
二　掲載事項ノ種類
三　發行ノ定日
四　發行所
五　受信人名（新聞社名又ハ通信社名）

六　電報ノ種別（和文、歐文ノ別）

新聞社又ハ通信社ニ非サレハ前項ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第六條　前條ノ規定ニ依ル申請ヲ認可スルトキハ其ノ旨及新聞電報ノ受信人名ニ對シ略名ヲ定メ之ヲ申請者ニ通知ス

同一市町村内ニ二以上ノ電信官署アル場合遞信局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ著信電信官署ヲ指定シ之ヲ申請者ニ通知ス

第七條　第五條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者ハ所轄遞信局ニ新聞電報發信證票及新聞電報受信證票ノ必要枚數ヲ申出テ之カ交付ヲ受クヘシ其ノ證票ニ記載シタル受信人名又ハ其ノ略名ニ變更アリタル場合亦同シ

第八條　第五條第一項及第六條ノ規定ハ第五條第一項第二號、第三號、第五號又ハ第六號ニ掲クル事項ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五條第一項第一號又ハ第四號ニ掲クル事項ヲ變更シタルトキ又ハ新聞電報ノ取扱ヲ受クルコトヲ辭メムトスルトキハ直ニ其ノ旨所轄遞信局長ニ届出ツヘシ

第九條　第五條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者前條ニ規定スル手續ヲ怠リタルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十條　新聞電報發信證票又ハ新聞電報受信證票不用トナリタルトキハ所轄遞信局ニ之ヲ返付スヘシ

第三章　豫約取扱

第十一條　新聞電報ノ豫約取扱ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ發信人及受信人連署シ料金納付責任者ヨリ之ヲ所轄遞信局長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

一　新聞紙題號
二　發行所
三　發信人住所氏名
四　受信人名（新聞社名又ハ通信社名）
四ノ二　電報ノ種別（和文、歐文ノ別）
五　希望發信電信官署
六　豫約字數又ハ豫約語數
七　希望發信時刻
八　料金納付責任者（發信人又ハ受信人ノ別）

前項ノ申請カ同文電報ノ豫約取扱ニ係リ且料金納付責任者カ受信人ナルトキハ内一人ヲ總代人ニ定メ其ノ氏名ヲ前項第八號ノ事項中ニ添記スヘシ

第十二條　前條ノ規定ニ依ル申請ヲ認可スルトキハ其ノ旨及發信電信官署並發信時刻ヲ指定シ之ヲ料金納付責任者ニ通知ス

第十三條　第十一條第一項及前條ノ規定ハ第十一條第四號ノ二、第六號又ハ第七號ニ掲クル事項ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス但シ豫約字數又ハ豫約語數ノ變更ハ電報規則第百三十四條ニ規定スル期ノ中途ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス其ノ申請書ハ前期ノ末日十五日前迄ニ之ヲ差出スヘシ

第十四條　豫約新聞電報ノ發信人其ノ住所ヲ移轉シタルトキハ發信電信官署ヲ經テ其ノ旨所轄遞信局長ニ届出ツヘシ

第十五條　第十一條第二項ノ規定ニ依ル豫約同文新聞電報ノ受信人總代人ヲ變更セムトスルトキハ受信人連署シ著信電信官署ヲ經テ其ノ旨所轄遞信局長ニ届出ツヘシ

第十六條　豫約取扱ノ認可ヲ受ケタル者之カ取扱ヲ辭メムトスルトキハ

第十一條第一項ニ掲クル事項ヲ記載シ其ノ旨所轄遞信局長ニ届出ツヘシ但シ電報規則第百三十四條ニ規定スル期ノ末日十五日前迄ニ之カ届出ヲ爲サヽルトキハ次期ノ豫約取扱ヲ繼續スルモノト看做ス

第十七條　電信回線其ノ他業務上已ムヲ得サル事由アルトキハ豫約取扱ノ認可ヲ取消シ、豫約字數若ハ豫約語數ヲ制限シ又ハ發信電信官署若ハ發信時刻ヲ變更スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ旨料金納付責任者ニ通知ス

第十八條　受信人其ノ住所ヲ移轉シタル爲著信電信官署ヲ異ニスルニ至リタルトキハ豫約取扱ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

豫約同文新聞電報ノ受信人中其ノ住所ヲ移轉シタル爲著信電信官署ヲ異ニスルニ至リタル者アルトキト雖爾餘ノ受信人ニ付テハ豫約取扱ヲ繼續スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ豫約取扱ヲ繼續スル場合ニ於テ總代人其ノ住所ヲ移轉シタル爲著信電信官署ヲ異ニスルニ至リタルトキハ新ニ總代人ヲ定メ第十五條ノ規定ニ準シ届出ツヘシ

第十九條　電報規則第百四十二條ノ規定ニ依ル取扱停止期間三十日以上ニ及ヒタルトキ又ハ其ノ停止度數一會計年度二回以上ニ及ヒタルトキハ豫約取扱ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十條　内地ヨリ臺灣、樺太、朝鮮又ハ南洋ヤツプ島ニ發スル豫約新聞電報ニ付テハ發信人ヲ料金納付責任者トスヘシ

第四章　後納取扱

第二十一條　新聞電報ノ後納取扱ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ著信電信官署ヲ經テ之ヲ所轄遞信局長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ第三號ノ二ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　新聞紙題號
二　發行所
三　受信人名（新聞社名又ハ通信社名）
三ノ二　電報ノ種別（和文、歐文ノ別）
四　著信電信官署名

前項ノ著信電信官署ハ郵便局（通信官署官制第十六條第一項但書ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ特ニ指定スル郵便局ヲ除ク）又ハ電信局（繰替拂出納官吏ヲ置カサル局ヲ除ク）ニ限ル

第二十二條　前條ノ規定ニ依ル申請ヲ認可スルトキハ著信電信官署ヲ經テ其ノ旨申請者ニ通知ス

第二十三條　第二十一條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ保證金ヲ著信電信官署ニ納付スヘシ保證金額改定ノ爲其ノ追納ヲ要スルトキ亦同シ

前項ノ保證金ハ國債ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

保證金額ハ最近三月間ニ受信人ノ受取リタル電報ノ料金ヲ標準トシ著信電信官署ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ保證金額ハ隨時之ヲ改定スルコトアルヘシ

第二十四條　第二十一條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者同條第一項第三號又ハ第四號ニ掲クル事項ヲ變更シタルトキハ後納取扱ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十五條　電報規則第百五十一條ノ規定ニ依ル取扱停止期間三十日以上ニ及ヒタルトキ又ハ其ノ停止度數一會計年度三回以上ニ及ヒタルトキハ後納取扱ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十六條　後納取扱ノ認可ヲ受ケタル者之カ取扱ヲ罷メムトスルトキハ著信電信官署ヲ經テ其ノ旨所轄遞信局長ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ後納發信券ノ殘餘アルトキハ届書ニ之ヲ添付スヘシ

第二十七條　第二十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ取消サレタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル後ト雖受信人ハ電報規則第百四十八條ニ規定スル料金納付ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十八條　第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ後納取扱ヲ爲サヽルニ至リタルトキト雖後納料金ヲ納付シタル後ニ非サレハ保證金ハ之ヲ還付セス

第二十九條　本章ノ規定ハ内地ト臺灣、樺太、朝鮮又ハ南洋ヤツプ島トノ間ニ發受スル新聞電報ニ之ヲ適用セス

附　則

第三十條　本令ハ大正十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條　新聞電報規則、新聞電報料金豫納及後納規則及豫約新聞電報規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條　本令施行前前條ニ掲クル規則ニ依リ認可又ハ許可ヲ受ケタル新聞電報ノ取扱又ハ新聞電報ノ料金後納若ハ豫約ノ取扱ハ本令ニ依リ新聞電報ノ取扱又ハ新聞電報ノ後納若ハ豫約取扱ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十三條　本令施行前第三十一條ニ掲クル規則ニ依リ爲シタル新聞電報ノ取扱又ハ新聞電報ノ料金後納若ハ豫約ノ取扱ニ關スル申請、交付、届出又ハ通知ニシテ本令ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第三十四條　新聞電報料金豫納及後納規則ニ依リ豫納シタル料金ハ本令施行ノ日ニ於テ之ヲ精算シ殘餘アルトキハ通貨ヲ以テ之ヲ還付ス

●同報電信規則（明治四十三年九月十七日遞信省令第八十二號）

【沿革】　明治四十五年三月省令第一一號、大正二年六月同第三一號、同九年五月同第四六號、昭和三年三月同第一九號改正

同報電信規則左ノ通相定ム

同報電信規則

第一條　同報電信トハ電信官署ニ於テ一定ノ事項ヲチツカー電信機ニ依リ同時ニ各加入者ニ通信スルモノヲ謂フ

同報電信ノ通信ヲ取扱フ電信官署及其ノ通信事項ノ範圍ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條　加入者ノ用ニ供スル受信機及其ノ附屬物品ハ當該電信官署ニ於テ之ヲ設備ス

第三條　同報電信ノ線路ハ地下線トス但シ遞信大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　同報電信ノ通信取扱方法ハ當該電信官署之ヲ指示ス

第五條　同報電信ニ加入セムトスル者ハ其ノ申請書ヲ所轄遞信局長ニ差出スヘシ受信機ノ移轉ヲ要スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ他人ノ所有スル家屋ニ受信機ノ設置ヲ要スルトキハ其ノ家屋所有者ノ承諾書ヲ申請書ニ添付スヘシ

第六條　同報電信加入ノ申請ヲ受理スルハ工事其ノ他ノ關係上支障ナキ場合ニシテ且申請者ニ於テ所轄遞信局長ノ指示スル所ニ從ヒ電信工事用物件ヲ政府ニ寄附スル場合ニ限ル

受信機移轉ノ申請ヲ受理スル場合亦前項ニ同シ但シ同一邸宅内ノ移轉ナルトキ及所轄遞信局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ物件ノ寄附ニ代ヘテ第十一條ニ定ムル移轉料ヲ納付スヘシ

第七條　同報電信ノ加入申請ヲ受理シ工事完了シタルトキハ當該電信官署通信開始ノ期日ヲ定メ之ヲ加入者ニ通知ス

第八條　加入者ノ相續人加入ヲ承繼セムトスルトキハ其ノ届書ニ相續人タルノ證明書ヲ添付シ所轄遞信局長ニ之ヲ差出スヘシ

第九條　加入者加入ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ新舊加入者連署ノ申請書ヲ所轄遞信局長ニ差出スヘシ

第十條　加入者加入ヨリ脱退セムトスルトキハ脱退期日十五日以前ニ其ノ届書ヲ所轄遞信局長ニ差出スヘシ

第十一條　同報電信ノ加入料ハ別ニ之ヲ告示ス

同報電信ニ關スル前項以外ノ料金左ノ如シ

一　附加加入料　受信機設置場所當該電信官署ヨリ直徑四百四十メートルヲ超エルトキハ線路　年額　五圓
百十メートル以内毎ニ
但シ遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ハ之ヲ低減スルコトアルヘシ

二　移轉料　同一邸宅内　五圓
同一邸宅外　實費

前項第一號ノ距離ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　加入料及附加加入料ハ年額ヲ四分シ左ノ期別ニ從ヒ毎一期分ヲ其ノ期ノ初月一日ヨリ十日迄ニ當該電信官署ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ

第一期　四月一日ヨリ六月三十日迄
第二期　七月一日ヨリ九月三十日迄
第三期　十月一日ヨリ十二月三十一日迄
第四期　一月一日ヨリ三月三十一日迄

第十三條　同報電信ノ通信開始カ前條各期ノ中途ナルトキハ其ノ期ニ屬スル加入料及附加加入料ハ年額ノ日割ヲ以テ計算シ開始ノ日ヨリ十五日以内ニ當該電信官署ニ之ヲ納付スヘシ

第十四條　第十二條各期ノ中途ニ於テ加入料又ハ附加加入料ニ異動ヲ生シタルトキハ不足額ハ之ヲ徴收シ過剩額ハ之ヲ免除セス
前項ノ不足額ハ年額ノ日割ヲ以テ計算シ異動ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ徴收ス

第十五條　第十二條各期ノ中途ニ於テ加入ヨリ脫退シ又ハ除名セラレタルトキト雖其ノ期ニ屬スル加入料及附加加入料ハ之ヲ免除セス
同報電信ノ通信ヲ停止シタルトキト雖其ノ停止期間ニ屬スル加入料及附加加入料ハ之ヲ免除セス

第十六條　加入者ノ故意又ハ過失ニ因ラスシテ同報電信ノ通信不通トナリ當該電信官署ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ十五日以上ニ亙リタルトキハ其ノ不通期間ニ屬スル加入料及附加加入料ハ年額ノ日割ヲ以テ之ヲ低減スルコトアルヘシ

二　移轉料　同一邸宅内　五圓
同一邸宅外　實費

前項第一號ノ距離ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　加入料及附加加入料ハ年額ヲ四分シ左ノ期別ニ從ヒ毎一期分ヲ其ノ期ノ初月一日ヨリ十日迄ニ當該電信官署ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ

第一期　四月一日ヨリ六月三十日迄
第二期　七月一日ヨリ九月三十日迄
第三期　十月一日ヨリ十二月三十一日迄
第四期　一月一日ヨリ三月三十一日迄

第十三條　同報電信ノ通信開始カ前條各期ノ中途ナルトキハ其ノ期ニ屬スル加入料及附加加入料ハ年額ノ日割ヲ以テ計算シ開始ノ日ヨリ十五日以内ニ當該電信官署ニ之ヲ納付スヘシ

第十四條　第十二條各期ノ中途ニ於テ加入料又ハ附加加入料ニ異動ヲ生シタルトキハ不足額ハ之ヲ徴收シ過剩額ハ之ヲ免除セス
前項ノ不足額ハ年額ノ日割ヲ以テ計算シ異動ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ徴收ス

第十五條　第十二條各期ノ中途ニ於テ加入ヨリ脫退シ又ハ除名セラレタルトキト雖其ノ期ニ屬スル加入料及附加加入料ハ之ヲ免除セス
同報電信ノ通信ヲ停止シタルトキト雖其ノ停止期間ニ屬スル加入料及附加加入料ハ之ヲ免除セス

第十六條　加入者ノ故意又ハ過失ニ因ラスシテ同報電信ノ通信不通トナリ當該電信官署ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ十五日以上ニ亙リタルトキハ其ノ不通期間ニ屬スル加入料及附加加入料ハ年額ノ日割ヲ以テ之ヲ低減スルコトアルヘシ

二　移轉料　同一邸宅内　五圓
同一邸宅外　實費

前項第一號ノ距離ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　加入料及附加加入料ハ年額ヲ四分シ左ノ期別ニ從ヒ毎一期分ヲ其ノ期ノ初月一日ヨリ十日迄ニ當該電信官署ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ

第一期　四月一日ヨリ六月三十日迄
第二期　七月一日ヨリ九月三十日迄
第三期　十月一日ヨリ十二月三十一日迄
第四期　一月一日ヨリ三月三十一日迄

第十三條　同報電信ノ通信開始カ前條各期ノ中途ナルトキハ其ノ期ニ屬スル加入料及附加加入料ハ年額ノ日割ヲ以テ計算シ開始ノ日ヨリ十五日以内ニ當該電信官署ニ之ヲ納付スヘシ

第十四條　第十二條各期ノ中途ニ於テ加入料又ハ附加加入料ニ異動ヲ生シタルトキハ不足額ハ之ヲ徴收シ過剩額ハ之ヲ免除セス
前項ノ不足額ハ年額ノ日割ヲ以テ計算シ異動ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ徴收ス

第十五條　第十二條各期ノ中途ニ於テ加入ヨリ脫退シ又ハ除名セラレタルトキト雖其ノ期ニ屬スル加入料及附加加入料ハ之ヲ免除セス
同報電信ノ通信ヲ停止シタルトキト雖其ノ停止期間ニ屬スル加入料及附加加入料ハ之ヲ免除セス

第十六條　加入者ノ故意又ハ過失ニ因ラスシテ同報電信ノ通信不通トナリ當該電信官署ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ十五日以上ニ亙リタルトキハ其ノ不通期間ニ屬スル加入料及附加加入料ハ年額ノ日割ヲ以テ之ヲ低減スルコトアルヘシ

ルトキハ其ノ不通期間ニ屬スル加入料及附加加入料ハ年額ノ日割ヲ以テ之ヲ免除ス若シ其ノ料金既納ニ係ルトキハ加入者ノ請求ニ依リ通貨ヲ以テ之ヲ還付ス但シ加入者復舊工事ノ延期ヲ請求シタルトキハ其ノ日數ニ對スル分ハ之ヲ除算ス

前項料金還付ノ請求期間ハ事故ノ止ミタル日ヨリ六十日トス

第十七條　移轉料ニシテ同一邸宅内ノ移轉ニ關スルモノハ其ノ申請ノ際之ヲ納付シ其ノ他ハ當該電信官署ノ指示スル所ニ從ヒ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第十八條　當該電信官署ハ時々吏員等ヲ派遣シ加入者ノ用ニ供スル受信機其ノ他ノ設備ヲ點檢セシム此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶セシム

第十九條　加入者故意又ハ過失ニ因リ其ノ用ニ供スル受信機其ノ他ノ設備ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ補修ニ要スル費用ヲ辨償スヘシ

第二十條　加入者ハ其ノ用ニ供スル受信機其ノ他ノ設備ヲ變更又ハ分解スヘカラス但シ水火其ノ他ノ事變ニ際シ保護ノ目的ニ出ツル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　加入者加入料若ハ附加加入料ヲ規定ノ期間内ニ納付セサルトキ又ハ第十九條ノ補修費ヲ辨償セサルトキハ其ノ滯納ノ期間通信ヲ停止ス

加入者第四條ノ通信取扱方法ニ從ハサルトキ第十八條ノ點檢ヲ故ナク拒ミタルトキ又ハ前條ニ違背シタルトキハ七日以内ノ期間通信ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十二條　前條ニ依ル通信ノ停止度數一箇年三回以上ニ及ヒタルトキ又ハ同條第一項ニ依ル通信ノ停止期間三十日以上ニ及ヒタルトキハ加入ヨリ除名スルコトアルヘシ

第二十三條　加入者ノ用ニ供スル受信機其ノ他ノ設備ヲ撤去シ又ハ移轉スル場合ニ於テ當該電信官署ハ其ノ裝置シアリタル工作物ヲ原形ニ修復スルノ責ニ任セス

第二十四條　本令ニ依リ所轄遞信局長ニ差出ス書類ハ總テ當該電信官署ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ明治四十三年九月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

●同報電信取扱官署及通信事項ノ範圍竝加入料（明治四十三年九月十七日遞信省告示第九百四十六號）

【沿革】　大正九年五月告示第七九〇號改正

本月二十一日ヨリ東京中央電信局ニ於テ同報電信ノ取扱ヲ開始ス其ノ通信事項ノ範圍及加入料左ノ如シ

一　通信事項ノ範圍　株式會社東京株式取引所ニ於テ同報電信ニ付スル該取引所ノ取引相場及遞信大臣ノ認可ヲ經テ同報電信ニ付スル他ノ株式取引所ノ取引相場

二　加入料年額　八十圓
但シ他ノ株式取引所ノ取引相場ヲ通信スルトキハ銘柄一種毎ニ一圓ヲ加フ

（明治四十四年九月三十日遞信省告示第千八十五號）

【沿革】　大正九年五月告示第七九一號改正

來十月一日ヨリ大阪中央電信局ニ於テ同報電信加入申請ヲ受理ス其ノ通信事項ノ範圍及加入料左ノ如シ但シ通信事務開始ノ日ハ追テ之ヲ告示ス

一　通信事項ノ範圍
株式會社大阪株式取引所ニ於テ同報電信ニ付スル該取引所ノ取引相場及

遞信大臣ノ認可ヲ經テ同報電信ニ付スル他ノ株式取引所ノ取引相場

二　加入料　年額八十圓
但シ他ノ株式取引所ノ取引相場ヲ通信スルトキハ銘柄一種毎ニ一圓ヲ加フ

●同報無線電報規則

（昭和十五年四月一日遞信省令第十四號）

同報無線電報規則左ノ通定ム

同報無線電報規則

第一條　同報無線電報トハ官廳又ハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケ設立シタル社團法人タル通信社ヨリ特定事項ヲ同時ニ通報スル爲ノ無線電報ヲ謂フ

第二條　同報無線電報ヲ取扱フ電信官署ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　同報無線電報ヲ發信セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シ遞信大臣ノ許可ヲ受クベシ各號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

一　發信ノ目的及通報事項ノ種類

二　送信時刻及豫定字數

三　受信人居所氏名

遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ送信時刻及豫定字數ヲ變更セシムルコトアルベシ

第四條　同報無線電報ハ特ニ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外和文ノ普通辭ヲ以テ之ヲ記載スベシ但シ官廳ヨリ發スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　同報無線電報ニハ左ノ送信料及受信料ヲ課ス

一　官廳ヨリ發スルモノ

	送信料	受信料
一通五十字迄毎ニ	一圓	一受信人毎ニ　十錢

二　通信社ヨリ發スルモノ

	送信料	受信料
一日總字數二萬字以内日額	六十圓	一受信人毎ニ　二圓
一日總字數二萬字ヲ超ユルトキハ五千字以内ヲ增ス毎ニ日額	十五圓	一受信人毎ニ　五十錢

受信料ハ遞信大臣ニ於テ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外發信人送信料ト共ニ之ヲ納付スベシ

第六條　遞信大臣ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ同報無線電報ノ送達ヲ停止スルコトアルベシ

第七條　無線電報規則第三十四條、第三十五條、第三十九條、第四十一條、第五十四條及第五十七條ハ同報無線電報ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十五年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●同報無線電報ヲ取扱フ電信官署

（昭和十五年四月二十七日遞信省告示第千百四十六號）

【沿革】　昭和十五年十一月告示第三〇八一號、同第三二三三號改正

昭和十五年五月一日ヨリ同報無線電報規則第二條ノ規定ニ依リ同報無線電報ヲ取扱フ電信官署左ノ如シ

一　送信電信官署　東京中央電信局

二　受信電信官署　新潟郵便局　名古屋電信局　金澤郵便局　富山郵便局　長野郵便局　大阪中央電信局　神戸中央電信局　京都郵便局　高知郵便局　廣島郵便局　岡山郵便局　松山郵便局　熊本郵便局　長崎電信局　福岡電信局　大分郵便局　鹿兒島郵便局　門司郵便局　仙臺郵便局　青森郵便局　秋田郵便局　札幌電信局　小樽郵便局　函館郵便局　旭川郵便局

●電信線電話線建設條例

（明治二十三年八月七日法律第五十八號）

朕電信線電話線建設條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

電信線電話線建設條例

第一條　遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ヲ建設スル爲民有ノ土地又ハ營造物ノ使用ヲ要スルトキハ所有者及其他ノ權利者之ヲ拒ムコトヲ得ス

官有ノ土地又ハ營造物ハ其所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條　公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設ニ從事スル者其建築修理及線路測量ノ爲必要ナルトキハ他人ノ所有地ニ入ルコトヲ得

其邸宅構内ニ入ルヲ要スルトキハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ主務者タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第三條　遞信省ハ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設又ハ通信ニ障碍アル瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ移轉セシムルコトヲ得

其建設通信ニ障碍アル竹木其他ノ植物ハ已ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ伐除シ若クハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ之ヲ伐除又ハ移植セシムルコトヲ得

第四條　遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ノ測量ヲ爲シタルトキハ電柱ノ建設ヲ要スル場所ニ測標ヲ設置スルコトヲ得

第五條　公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ヲ移轉スル必要アル者ノ請求ニ由リ遞信省ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ其移轉費用ハ請求者之ヲ負擔スルモノトス

第六條　遞信省ニ於テ民有地ニ電信線電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ス但所有者又ハ其他ノ權利者ニ於テ手當金ヲ望マサルトキハ此限ニアラス

第七條　左ニ掲クルモノハ其要求ニ對シ遞信省之ヲ補償スヘシ

一　建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害

二　瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ移轉シタル費用

三　伐除シタル竹木其他植物ノ代價又ハ移植ノ費用

第八條　第七條ノ補償金額ハ雙方協議之ヲ定メ若シ其議相協ハサルトキハ市町村長（未タ市制町村制ヲ實施セサル地方ハ區戸長）ヲシテ之ヲ評定セシム

市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

●電信法第五條ノ電信及電話官署指定

（明治三十三年九月十一日遞信省告示第三百四十一號）

【沿革】　明治四十三年三月告示第四四八號、大正二年六月同第四九六號、昭和五年八月同第一九二〇號改正

電信法第五條ノ電信官署及電話官署ハ遞信局トス但シ寫眞電信ニ依ル通信ニ關シテハ寫眞電報取扱局トス

●電信局所ノ電報取扱時間

（昭和十六年七月二十六日　遞信省告示第千六百七十一號）

電信局所ノ電報取扱時間ハ特ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

郵便局（通信官署官制第十六條第一項但書ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ特ニ指定スル郵便局ニシテ郵便集配事務及電報配達事務ヲ取扱ハザル郵便局ヲ除ク）　三月一日ヨリ十月三十一日迄午前七時ヨリ午後六時迄　十一月一日ヨリ二月末日迄午前八時ヨリ午後六時迄

電信局及電報配達事務ヲ取扱フ電信電話取扱所　午前八時ヨリ午後六時迄（十二月二日ヨリ同三十一日迄ヲ除クノ外休日及休暇日ニ限リ正午迄但シ遞信局長ノ指定スル局所ニ於テハ休日及休暇日等ニ於ケル取扱ヲ爲サズ）

前項以外ノ郵便局及電信電話取扱所　午前八時ヨリ午後六時迄

電信取扱所

電報取扱時間ヲ特定スルトキ又ハ休日及休暇日等ニ於ケル取扱ヲ爲サザルトキハ別ニ之ヲ公示ス

本告示ハ昭和十六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年二月遞信省告示第三百三十一號ハ之ヲ廢止ス

●當分ノ內電報（外國電報ヲ除ク）取扱ノ制限ニ關スル件

（昭和十六年七月二十一日　遞信省令第七十四號）

當分ノ內電報（外國電報ヲ除ク）ノ取扱ニ左ノ制限ヲ加フ

一　左ノ各號ノ一ニ該當スル電報ハ之ガ取扱ヲ爲サズ

イ　本文ノ全部又ハ一部ガ慶祝、弔慰又ハ見舞ノ內容ヲ有スルモノ

ロ　其ノ他電信官署ニ於テ內容急ヲ要セザルモノト認ムルモノ

二　私報（新聞電報ヲ除ク）ハ地域ヲ指定シ至急ノ取扱ヲ請求シタルモノヲ除クノ外之ガ取扱ヲ爲サザルコトアルベシ寫眞電報ニ付亦同ジ

前項ノ地域ノ指定ハ電信官署ニ之ヲ揭示ス

三　新聞電報ニシテ其ノ本文ノ字數又ハ語數和文ニ在リテハ五百字漢文及歐文ニ在リテハ百語ヲ超ユルモノハ之ガ取扱ヲ爲サズ

四　加入電話ニ依ル私報ノ類信ハ電信官署ヲ指定シ之ガ取扱ヲ爲サザルコトアルベシ此ノ場合ハ其ノ旨當該電信官署ニ揭示ス

五　返信料前納、受信報知、追尾、再送、同文（一括通數五通以內ノモノヲ除ク）及夜間配達ノ各特殊取扱並ニ寫眞電報ノ特使配達ノ取扱ハ之ヲ爲サズ

六　配達先特定、改正、停止、閱覽及正寫ノ各取扱ハ之ヲ爲サズ

附　則

本令ハ昭和十六年七月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ差出シタル電報ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●電信及電話ノ取扱ニ關スル制限

【沿革】昭和十六年九月省令第八一號改正

（昭和十六年七月二十二日　遞信省令第七十五號）

電信及電話ノ取扱ニ關シ左ノ制限ヲ加フ

電信

一　內國電報及內國無線電報

(一)和文電報ノ私報ハ普通辭ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス但シ特ニ電信官署ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(二)歐文電報ノ私報ハ日本語、獨逸語、佛蘭西語又ハ英吉利語ノ普通辭ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス但シ別ニ告示スル電信官署ニ差出ス電報ニ限リ左ニ揭グル隱語書ニ依ル隱語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前記ノ普通辭ヲ以テ記載シタル譯文ヲ添附シ且關係隱語書ヲ電信官署ニ呈示スベシ

オリエンタル、インプルーヴド、コード
オリエンタル、スリーレター、コード
スコフィールド、スリーレター、コード
ベントリーズ、セカンド、フレーズ、コード
ベントリーズ、コンプリート、フレーズ、コード
アクメ、コモディティ、エンド、フレーズ、コード
ベーターソンズ、インターナショナル、コード、第三版
ルドルフ、モッセ、コード
中國電報新編ニ依リ記載シタル電報ハ滿洲語又ハ中國語ノ普通辭ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

(三)電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ電報ノ本文末尾ニ其ノ居所氏名ヲ記載セシメ又ハ電報ノ名宛ニシテ略號ヲ以テ記載シタルモノヲ普通辭ニ改書セシムルコトアルベシ

(四)船舶發著內國無線電報ハ船長ト船主間ノ重要通信ヲ除キ私報ハ之ガ取扱ヲ停止スルコトアルベシ

二　東亞電報、東亞無線電報、外國電報及外國無線電報

(一)電報ハ發信人ノ危險ニ於テノミ之ヲ取扱フ

(二)電報ハ檢查ニ付ス其ノ停止滯留等ニ關シテハ發信人ニ通知セズ

(三)東亞和文電報

(イ)私報ハ普通辭ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス但シ特ニ電信官署ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(ロ)電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ電報ノ本文末尾ニ其ノ居所氏名ヲ記載セシメ又ハ電報ノ名宛ニシテ略號ヲ以テ記載シタルモノヲ普通辭ニ改書セシムルコトアルベシ

(四)東亞漢文電報

(イ)私報ハ滿洲語又ハ中國語ノ普通辭ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

(ロ)電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ電報ノ本文末尾ニ發信人ノ住所氏名ヲ記載セシムルコトアルベシ

(五)東亞及外國歐文電報

(イ)私報ハ日本語、獨逸語、佛蘭西語（滿洲國ニ發著スル電報ヲ除ク）又ハ英吉利語ノ普通語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス但シ別ニ告示スル電信官署ニ發著スルモノニ限リ左ニ揭グル隱語書ニ依ル隱語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發信人ハ前記ノ普通語ヲ以テ記載シタル譯文ヲ添附シ且電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ關係隱語書ヲ電信官署ニ呈示スベシ

オリエンタル、インプルーヴド、コード
オリエンタル、スリーレター、コード
スコフィールド、スリーレター、コード
ベントリーズ、セカンド、フレーズ、コード
ベントリーズ、コンプリート、フレーズ、コード
アクメ、コモディティ、エンド、フレーズ、コード
ベーターソンズ、インターナショナル、コード、第三版
ルドルフ、モッセ、コード

(ロ)電報ニハ發信人ノ署名ヲ附スルコトヲ要ス

(ハ)電報ノ名宛及署名ハ暗號又ハ略號ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得ズ

(ニ)返信料前納電報ハ之ヲ取扱ハズ

(ホ)船舶發著東亞無線電報ハ船長ト船主間ノ重要通信ヲ除キ私報ハ之ガ取扱ヲ停止スルコトアルベシ

(ヘ)外國無線電報ハ遭難通信及日本船舶ノ航行上必要トスル通信ノ外之ガ取扱ヲ停止ス

電話

一　左ニ揭ゲル地方ニ發著スル電話通話ハ夫々下記ノ國語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ特ニ電話官署ノ承認シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(一)內　地（市內通話ヲ除ク）　日本語
(二)外　地　日本語
(三)滿　洲　日本語又ハ滿洲語

(四)中　華　民　國　日本語又ハ中國語
(五)「タ　イ」　國　日本語又ハ英吉利語
(六)歐　羅　巴　地　方　日本語又ハ英吉利語
(七)北「アメリカ」地方　日本語又ハ英吉利語
(八)南「アメリカ」地方　日本語、西班牙語（アルゼンティン國ニ限ル）又ハポルトガル語（ブラジル國ニ限ル）
(九)ハ　ワ　イ　日本語又ハ英吉利語
(十)フィリッピン群島　日本語又ハ英吉利語
(十一)佛　領　印　度　日本語又ハ英吉利語
(十二)佛　領　印　度　支　那　日本語又ハ佛蘭西語

二　船舶發著無線電話通話ハ之ガ取扱ヲ停止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●私設電信規則

（明治三十三年九月一日逓信省令第四十八號）

沿革　明治三四年一一月逓信省令第四八號、三五年九月第四〇號、四三年三月第三七號、四四年九月第三三號、四五年四月第二四號、大正二年六月第三三號、九月第七九號、四年二月第一七號、六年一〇月第三四號、八年二月第四四號、五月第三二號、八月第七二號、九年一一月第一一三號、一〇年五月第二七號、一四年七月第四四號、昭和三年三月第二〇號、九月第五〇號、四年一二月第五四號、七年一一月第四九號、八年一二月第六四號、一七年九月第九八號改正

私設電信規則左ノ通之ヲ定ム

私設電信規則

第一條　此ノ規則中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ揭グル電信又ハ電話ヲ謂フ

第二條　電信法第二條第二號ニ依ル私設電信ハ左ニ列記スル事業ノ專用ニ供スルモノニ限ル

一　地方鐵道法ニ依ル鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道及一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道又ハ軌道ノ事業

二　運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業

三　高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業
四　前各號ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業

第三條　電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲ニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル

第四條　私設電信ヲ施設セムトスル者ハ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ地方鐵道法ニ依ル鐵道事業ノ專用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノ及電氣工作物規程本則第九十一條ニ依リ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一　施設ヲ必要トスル事由
二　電信又ハ電話ノ別及其ノ回線
三　機械設置ノ場所（道府縣郡市區町村字番地）及線路經過地名
四　落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

鄰接市區町村間又ハ電信法第二條第四號ニ依ル不適當トスル市區町村間ニ私設電信ヲ施設セムトスルトキハ第一項書類ノ外之ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第六條　第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第七條　第四條又ハ第六條ニ依リ許可ヲ得タル私設電信ノ工事落成シタルトキハ七日以內ニ左ノ事項ヲ遞信大臣ニ屆出ヘシ

一　工事落成月日
二　工事設計（機械ノ種類及箇數、線路ノ亙長、架空線、地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、線條ノ種類、太サ及延長竝保安裝置ノ方法）

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ屆出ヘシ

第八條　第四條但書ノ私設電信ヲ施設シタル者ハ工事落成後七日以內ニ第五條第一項第二號第三號及第七條第一項各號ノ事項ヲ遞信大臣ニ屆出ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ公衆通信ノ用ニ供スルモノハ第五條第一項第二號ニ限リ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ電氣工作物規程本則第九十一條ニ依リ施設スルモノニハ之ヲ適用セス

第九條　私設電信ヲ讓渡サムトスルトキハ第四條但書ノモノヲ鐵道相互間又ハ電氣事業者相互間ニ讓渡ス場合ヲ除クノ外當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル私設電信ノ引渡ヲ爲シタルトキ又ハ第四條但書ノ私設電信ヲ鐵道相互間又ハ電氣事業者相互間ニ讓渡シタルトキハ七日以內ニ當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ屆出ヘシ

第一項ノ外相續又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ私設電信ヲ繼承シタルトキハ七日以內ニ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ屆出ヘシ

第十條　公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非

サレハ之ヲ廢止シ又ハ中止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設電信ヲ廢止シタルトキハ七日以內ニ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ屆出ヘシ

第十一條　電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日前ニ連接郵便局又ハ電信局ニ屆出ヘシ

第十二條　私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以內ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

私設電信ノ使用ヲ中止シ一箇年以上ニ及ヒタルトキハ廢止シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第十三條　市街地ニ限リ道路ニ架設スル私設電信ノ線路ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ所轄遞信局長ノ認可ヲ經テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　道路ノ兩側ニ跨カラスシテ其ノ一側ニノミ架設スヘシ
二　道路ノ一側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設スヘシ若其ノ一側ニ架空強電流電線ノ架設シタルトキハ他ノ一側ニ架設スヘシ

第十三條ノ二　私設電信ノ電線ハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除クノ外架空強電流電線路ノ支持物ニ添架スルコトヲ得ス但シ電氣工作物規程本則第九十一條ニ依ルモノニシテ市街地以外ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ三　第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル私設電信ヲ施設セムトスル者ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ架空強電流電線ヲ其ノ私設電信ノ電線ニ共用スルコトヲ得

第十四條　私設電信ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通報信號ニ障害ヲ與ヘサル樣離隔スヘシ其ノ離隔六十センチメートルニ滿タサルトキハ其電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十五條　私設電信ノ電線ヲ架空強電流電線ト交叉又ハ接近シテ架設スルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　架空強電流電線ト交叉スルトキハ其ノ電線ノ下部ニ架設スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ト交叉スル場合ニ限リ其ノ上部ニ架設スルコトヲ得
二　低壓又ハ高壓電線ト交叉若ハ接近スルトキハ其ノ相互ノ間隔一メートル以上ヲ離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ距離ヲ六十センチメートル迄ニ短縮スルコトヲ得
三　特別高壓電線ト交叉スルトキハ特別高壓電線ノ最大電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ特別高壓電線ト私設電信ノ電線トヲ離隔スヘシ但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得且特別高壓電線ト私設電信ノ電線トノ間ニ施設スル保護金屬線ヨリ六十センチメートル以上ヲ離隔スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

（イ）特別高壓電線ノ最大電壓六萬「ヴオルト」以下ノ場合ハ其ノ間隔二メートル以上

（ロ）特別高壓電線ノ最大電壓六萬「ヴオルト」ヲ超過スル場合ハ一萬「ヴオルト」又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ二十センチメートル以上

ヲ加フ

四　特別高壓電線ト接近スルトキハ其ノ相互間ノ水平距離ハ特別高壓電線路ノ支持物地表上ノ高サノ一倍以上タルヘシ但シ特別高壓電線ノ管理者ノ承諾ヲ得テ此ノ距離ヲ三メートル迄ニ短縮スルコトヲ得

第十六條　私設電信ノ電線ヲ架空强電流電線ト交叉又ハ接近シテ架設シタルトキハ電信又ハ電話線ノ機械ニ接續スル各端ニ於テ五百「ミリアムペア」以下ニテ働作スル熱線輪、交流三百「ヴオルト」ニテ放電スル避雷器及七「アムペア」以下ニテ熔解スル可熔遮斷器ヲ設備スルコトヲ要ス其ノ既ニ架設シタル後ニ於テ交叉若ハ接近ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

第十七條　屋内ニ布設スル私設電信ノ電線ハ强電流電線ト充分離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十八條　私設電信線路ノ支持物ニハ施設者名及支持物ノ番號ヲ表記スヘシ

第十九條　私設電信ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ二メートル以内（他ノ電線カ强電流電線ナルトキハ二・五メートル以内）ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事著手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第二十條　電信法第二條第四號ニ依リ連接郵便局又ハ電信局ニ施設スル私設電信ノ引込及裝置工事竝其ノ維持ハ遞信省之ヲ執行ス

前項ノ私設電信施設者ハ遞信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工事費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金ヲ納付スヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條ノ二　遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ政府ノ施設ニ係ル架空又ハ地下「ケーブル」ノ心線ヲ電信法第二條第四號ニ依リ施設スル私設電信ノ電線トシテ使用セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ該私設電信ノ施設者ハ別ニ定ムル電線使用料ヲ納付スヘシ

第二十一條　遞信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條　遞信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第二十三條　私設電信施設者ハノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ遞信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十四條　此ノ規則ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄遞信局ヲ經由スヘシ

第二十五條　第六條第八條但書第九條第一項若ハ第十條第一項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第七條第八條第九條第二項及第三項若ハ第十條第二項ノ屆出ヲ爲ササル者又ハ第十九條ノ通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條　電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十三條第十八條第二十條及第二十四條ノ規定ヲ適用セス

第二十七條ノ二　電線路ニ高周波電流ヲ通スル私設電信ニ關シテハ第四條但書ノ規定ヲ適用セス

前項ノ私設電信ニシテ一萬「サイクル」以上ノ高周波電流ヲ通スルモノナルトキハ私設無線電信無線電話規則第五條、第七條、第十一條、第十二條、第五十四條、第五十五條、第六十八條、第七十條、第七十條乃至第七十三條、第七十五條及第七十七條ノ規定ヲ準用ス但シ私設無線電信無線電話規則第七條ニ規定スル呼出符號ニ付テハ遞信大臣ニ於テ其ノ必要アリト認ムル場合ニ限リ之ヲ指定ス

前項ノ私設電信ニ關シテハ第七條第二項及前條ノ規定ヲ適用セス

遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二項ノ私設電信ニ使用スル電力及高周波電流發生裝置ヲ制限ス

附　則

第二十八條　電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ第十三條乃至第十九條第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設セムトスルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條第九條乃至第十二條、第二十條及第二十條ノ二ノ規定ヲ準用ス

電線路ニ依リ火災其ノ他ノ通報ヲ爲ス公衆用信號ヲ施設セムトスルモノニ關シテハ第一項ノ外第八條第一項、第九條第二項及第三項、第十條第二項、第十二條竝第二十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十八條ノ二　電線路ニ高周波電流ヲ通シテ爲ス通報信號ノ施設ニ關シテハ第四條（但書ノ規定ヲ除ク）、第五條第一項及第二項、第六條、第七條、第九條、第十條第二項、第十二條乃至第十九條竝第二十一條乃至第二十六條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ通報信號施設ニシテ一萬「サイクル」以上ノ高周波電流ヲ通スル

モノナルトキハ前項ノ規定（第七條第二項ノ規定ヲ除ク）ニ依ルノ外第二十七條ノ二第四項及私設無線電信無線電話規則第五條、第七條、第十一條、第十二條、第六十八條、第七十三條、第七十五條及第七十七條ノ規定ヲ準用ス但シ私設無線電信無線電話規則第七條ニ規定スル呼出符號ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

放送有線電話及聽取有線電話ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第二十八條ノ三　電報送受ノ目的ヲ以テ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設スル氣送管ニ關シテハ第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條、第九條、第十條第二項、第十一條、第十二條、第二十條竝第二十一條乃至第二十六條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ氣送管ニ附屬スル信號施設ニ關シテハ前項ノ外第十三條乃至第十九條及第二十條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　電信法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話施設ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號ニ該當スルモノヲ除クノ外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ屆出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ屆出ヘシ

第一項ノ期間内ニ於テ出願ヲ爲ササルモノ若ハ其ノ出願ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第一項及第二項ノ屆出ヲ爲ササルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

第三十條　前條ニ依リ許可ヲ得又ハ屆出ヲ爲シタル私設電信ニシテ其ノ

既設工事カ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖第二十一條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十二年（三月）遞信省令第四號電信電話線私設條規其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則　（昭和七年十一月遞信省令第四九號）

本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ施設シ又ハ施設中ノ設備ニシテ本令ノ規定ニ牴觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ改修スルコトヲ要ス但シ其ノ期間内ト雖改築ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ノ規定ニ依リ施設スルコトヲ要ス

●私設無線電信無線電話規則（昭和八年十二月二十九日遞信省令第六十號）

沿革　昭和九年一二月遞信省令第七四號、一一年六月第二一號、一三年一月第六號、五月第三九號、第四一號、第四五號、一二月第九二號、一六年四月第四八號、九月第八二號、一七年一月第一號、四月第六七號、五月第七四號、七月第七九號改正

私設無線電信無線電話規則左ノ通定ム

私設無線電信無線電話規則

目次

第一章　總則
第二章　機器及裝置
第三章　無線通信士
第四章　通信執務時間及聽守時間
第五章　運用
第六章　檢査
第七章　雜則
附則

私設無線電信無線電話規則

第一章　總則

第一條　私設無線電信無線電話ノ施設ニ關シテハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　無線電信法第二條第三號又ハ第四號ニ於テ公衆通信ノ連絡ナシトハ私設無線電信無線電話ノ機器ヲ裝置スベキ場所ガ電報直配達區域外、電話加入區域外又ハ電信電話官署ヲ設置セザル船舶若ハ航空機ナル場合ヲ謂フ

第三條　無線電信法第二條第五號ニ依リ施設スル私設無線電信無線電話（以下實驗用私設無線電信無線電話ト稱ス）ハ無線電信無線電話ノ學術研究又ハ機器ニ關スル實驗ニ供スルモノニ限ル

第四條　無線電信法第二條第三號ニ依リ當該電信官署ニ施設ヲ要スル私設無線電信無線電話ノ設備及維持ハ所轄遞信局之ヲ行フ

前項私設無線電信無線電話ノ施設者ハ所轄遞信局長ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ、費用ヲ負擔シ且別ニ指定スル維持料ヲ納付スベシ

第五條　私設無線電信無線電話ヲ施設セントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル願書及圖面（附錄第一號樣式ニ準據スヘシ）ヲ陸上ニ施設スルモノニ在リテハ遞信大臣、船舶又ハ航空機ニ施設スルモノニ在リテハ所轄遞信局長ヘ差出シ其ノ許可ヲ受クベシ第一號乃至第四號ノ事項ヲ變更セントスル

トキ亦同ジ

一　施設ノ目的（施設ヲ必要トスル事由ヲ附記スベシ）
二　機器裝置場所（船舶又ハ航空機ニ施設スルモノナルトキハ船舶ノ名稱又ハ航空機ノ登録記號（名稱アルモノハ其ノ名稱共））
三　工事設計
四　通信執務時間（實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗時間）
五　船舶又ハ航空機ニ施設スルモノナルトキハ當該船舶又ハ航空機ノ所屬、形態及航行ニ關スル事項ノ概要竝定繫港又ハ定置場（內地ニ於ケル主ナル碇泊港又ハ離着陸場ヲ定繫港又ハ定置場トスベシ）
六　實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗ノ種類及方法（實驗者ノ履歷書及身分證明書ヲ添付スベシ）
七　落成期限

遞信大臣又ハ所轄遞信局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項以外ノ書類又ハ圖面ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第六條　前條第一項第五號、第六號（實驗ノ種類及方法ニ限ル）及第七號ノ事項ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ所轄遞信局長ヘ届出ヅベシ定繫港又ハ定置場ノ變更ニ限リ同時ニ舊所轄遞信局長ヘモ届出ヅベシ

第七條　私設無線電信無線電話ノ電波ノ型式、使用周波數、呼出符號、呼出名稱及運用ニ關スル制限ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ指定ス

第八條　私設無線電信無線電話ノ施設者ノ名義ヲ變更セントスルトキハ別ニ告示スル場合ヲ除クノ外當事者連署ノ願書ヲ陸上ニ施設シタルモノニ在リテハ遞信大臣、船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ所轄遞信局長ヘ差出シ其ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ相續其ノ他ニ因リ當事者連署シ得ザルモノナルトキハ相當證明書ヲ添付スベシ

第九條　私設無線電信無線電話ヲ許可シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ告示ス其ノ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

一　施設者名
二　施設ノ目的
三　機器裝置場所（船舶ナルトキハ船舶ノ名稱及定繫港、航空機ナルトキハ航空機ノ登録記號及定置場）
四　呼出符號
五　空中線電力
六　使用電波ノ型式及周波數
七　通信執務時間（實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗時間）

遞信大臣ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ前項各號ノ全部又ハ一部ノ告示ヲ省略スルコトアルベシ

第十條　私設無線電信無線電話ノ裝置工事落成シタルトキハ速ニ之ヲ所轄遞信局長ヘ届出ヅベシ

第十一條　私設無線電信無線電話ハ第七十三條ニ依ル檢定證書又ハ假檢定證書ノ交付ヲ受ケタル後ニ非ザレバ其ノ使用ヲ開始スルコトヲ得ズ

第十二條　私設無線電信無線電話ノ使用ヲ開始シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ所轄遞信局長ヘ届出ヅベシ但シ無線電信法第二條第三號ニ依リ施設シタルモノナルトキハ使用開始前七日迄ニ届出ヲ要ス

第十三條ニ依リ使用中止届出後又ハ第七十五條第一項ニ依リ使用停止後更ニ之ガ使用ヲ開始スルトキ亦前項ニ同ジ

第十三條　私設無線電信無線電話ヲ廢止セントスルトキハ七日以前ニ其ノ旨ヲ所轄遞信局長ヘ届出ヅベシ私設無線電信無線電話ノ使用ヲ中止セントスルトキ亦同ジ

第十四條　私設無線電信無線電話ヲ廢止シタルトキハ直ニ空中線ヲ取外シ特ニ指示シタル場合ヲ除クノ外十日以内ニ送信裝置、受信裝置及之ニ專用ノ附屬設備ヲ撤去スベシ私設無線電信無線電話ノ許可ノ效力ヲ失ヒタルトキ亦同ジ

第十五條　第五十二條乃至第五十四條、第五十八條乃至第六十二條、第六十五條、第六十八條乃至第七十二條及第七十四條ノ規定ハ内地ニ定繫港又ハ定置場ヲ有セザル船舶又ハ航空機ニ裝置シタル無線電信無線電話ニ、第二章乃至第六章ノ規定ハ船舶安全法第十四條ニ該當スル船舶ニ裝置シタル無線電信ニ（無線電信無線電話ニ關スル條約並同條約附屬規則等ニ別段ノ規定アル事項ニ付テハ該規定ニ依ル）、第五條乃至第十四條、第二章及第五章乃至第七章ノ規定ハ無線標識施設ニ之ヲ準用ス

第二章　機器及裝置

第十六條　私設無線電信無線電話ニ使用シ得ル電波ノ型式ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ七種トス

一　A〇電波　逐次ノ振動ガ永續ノ狀態ニ於テ同一ナル電波　本型式ノ電波ハ標準周波數ノ發射ノ如キ特殊ノ場合ニノミ之ヲ使用スルモノトス

二　A一電波　純粹持續電波ニ依ル電信　電信符號ニ依リ操作セラルル持續電波

三　A二電波　變調電信　一箇又ハ數箇ノ可聽周波數ニ依リ變調セラレタル搬送波　一箇若ハ數箇ノ可聽周波數又ハ此等ト搬送波トノ結合ハ電信符號ニ依リ之ヲ操作スルモノトス

四　A三電波　電話　音聲、音樂又ハ其ノ他ノ音響ニ相當スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

五　A四電波　電寫　永續的ニ複寫スル爲靜止影像ヲ走査スルトキ發生スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

六　A五電波　電視　靜止又ハ移動スル事物ヲ走査スルトキ發生スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

七　B　電波　振幅ガ最大ニ達シタル後漸次低減スル振動ノ逐次ノ列ヨリ成ル電波　電波ノ列ハ電信符號ニ依リ之ヲ操作スルモノトス

前項第三號及第七號ノ電波ノ可聽周波數ハ毎秒五百「サイクル」以上ナルコトヲ要ス

第十七條　私設無線電信無線電話ノ發射電波ハ出來得ル限リ必要ナラザル電波ヲ伴ハザルモノナルコトヲ要ス

第十八條　私設無線電信無線電話ニ使用スル電波ノ周波數（單位ハ一秒時ニ於ケル「キロサイクル」トス以下ヲ以テ示ス）KCハ成ルベク之ヲ正確且安定ニ維持スルコトヲ要ス

第十九條　私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置ハ電信、電話其ノ他ノ電線路ニ障碍ヲ及ボスベキ誘導ヲ生ゼズ且人畜又ハ物件ニ危害ヲ及ボス虞ナキモノナルコトヲ要ス

第二十條　私設無線電信無線電話ノ送信及受信裝置ハ周波數ノ變更及送信ヨリ受信ヘ又ハ受信ヨリ送信ヘノ切替ヲ敏速ニ行ヒ得ルモノナルコトヲ要ス

私設無線電話ニシテ公衆通信ノ用ニ供スルモノニ在リテハ同時送受話方式ナルコトヲ要ス

第二十一條　私設無線電信無線電話ノ空中線電力ハ所要通達距離ニ照シ最小ナルコトヲ要ス

第二十二條　私設無線電信無線電話ノ受信裝置ハ同調鋭敏ナルモノニシテ其ノ空中線ニ誘發スル高周波電流ガ他ノ無線電信無線電話ヲ妨害セザルモノナルコトヲ要ス

第二十三條　（削除）

第二十四條　私設無線電信ノ送信裝置ハB電波ヲ發射セザルモノナルコトヲ要ス但シ實驗用私設無線電信又ハ船舶ニ施設スル交流發電機ノ端子ニ於ケル電力三百「ワット」未滿ノ私設無線電信ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

船舶ニ施設スル私設無線電信ニシテ前項但書ニ依ルモノハ三七五kc、四二五kc及五〇〇kcノ周波數ニ限リ發射スルコトヲ得

第二十五條　私設無線電信無線電話ノ送受信裝置ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外別表第一號ノ區別ニ依ル電波ノ型式及周波數ヲ送受シ得ルモノナルコトヲ要ス

船舶又ハ航空機ニ施設スル私設無線電信無線電話ノ送受信裝置ニ付テハ所轄遞信局長ノ許可ヲ受ケ之ヲ前項ノ外通信上必要ナル電波ノ型式及周波數ヲ送受シ得ルモノト爲スコトヲ得

第二十六條　私設無線電信無線電話ノ裝置ニハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外避雷其ノ他ノ保安上必要ナル設備ヲ施シ且機器及其ノ裝置ノ保守上必要ナル計器及豫備品竝送受信裝置及電源設備接續圖面ヲ備付クベシ

第二十七條　船舶安全法第四條第一項第一號及第二號ニ該當スル船舶同條第二項ニ依リ無線電信ノ施設ヲ免除サレタルモノヲ除ク以下無線電信強制船舶ト稱スニ施設スル私設無線電信ハ通信室内ニ非常燈ヲ備付クベシ

船舶ニ私設無線電信ヲ施設スル場合ハ通信室ト航海船橋トノ間ニ送話管又ハ電話等ノ通信設備ヲ施スベシ航空機ニ私設無線電信無線電話ヲ施設スル場合無線通信士席ガ操縱士席ヨリ離隔スルトキ其ノ兩席間ニ付亦同ジ

第二十八條　船舶ニ施設スル私設無線電信無線電話ニシテ一五〇KC以下ノ周波數又ハ四〇〇〇KC以上ノ周波數ヲ發射シ得ル裝置ヲ有スルモノニ在リテハ少クトモ千分ノ五ノ確度ヲ有スル周波數計又ハ之ニ相當スルモノヲ備付クルコトヲ要ス但シ送信裝置ニシテ千分ノ五以上ノ確度ヲ有スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　私設無線電信無線電話ノ施設者ハ通信室内ニ正確ナル時計（無線電信強制船舶ニ在リテハ秒針ヲ有スルモノナルコトヲ要ス）ヲ備付クベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者ハ無線通信士ヲシテ前項ノ時計ヲ毎日一回以上「グリニッヂ」標準時ニ照合セシムベシ

第三十條　無線電信強制船舶ニ施設スル私設無線電信ノ主送信裝置ハA二若ハB電波五〇〇KCノ周波數ニ於テ空中線電力七十五「ワット」以上ナルカ又ハ晝間百九十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第三十一條　船舶ニ施設スル私設無線電信ニハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ條件ニ適合スル補助設備ヲ裝置スベシ

一　獨立ノ電源ヲ有スルコト

二　獨立ノ高電壓發生裝置ヲ有スルコト

三　連續シテ六時間以上使用シ得ルコト

四　送信裝置ハA二若ハB電波五〇〇KCノ周波數ニ於テ空中線電力五十「ワット」以上ナルカ又ハ晝間百五十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルコト但シ無休ノ聽守ヲ要セザルモノニ付テハ空中線電力二十五「ワット」以上ナルカ又ハ晝間九十五キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナルコトヲ得

五　受信裝置ハA二又ハB電波五〇〇KCノ周波數ヲ受信シ得且鑛石檢波ノ方式ニ依リテモ受信シ得ルコト

六　直ニ全能力ヲ以テ使用シ得ルコト

前項ノ補助設備ハ最高滿載吃水線上成ルベク高ク船舶ノ上部安全ナル位置ニ裝置スルコトヲ要ス

主裝置前二項ノ條件ヲ具備スルトキハ補助設備ヲ裝置セザルコトヲ得

第三十二條　無線電信强制船舶ニ非ザル船舶ニ施設スル私設無線電信ニ付テハ所轄遞信局長ニ於テ船體ノ構造上補助設備ヲ裝置スルコトヲ不適當ト認メタル場合ニ限リ前條ノ規定ニ拘ラズ補助設備ヲ裝置セザルコトヲ得

第三十三條　船舶設備規程ニ依リ總噸數五千噸以上ノ旅客船ニ裝置スル無線方位測定機ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　遞信省電氣試驗所ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルコト

二　二八五KC乃至五一五KCノ周波數帶ニ於テ成ルベク正確ニ眞方位ヲ測定シ得ルコト

三　良好ナル感度ヲ有スルコト

前項ノ無線方位測定機ヲ航海船橋又ハ通信室以外ノ場所ニ裝置シタル場合ハ其ノ裝置場所ト航海船橋トノ間ニ送話管又ハ電話等ノ通信設備ヲ施スベシ

無線方位測定機ノ較正曲線ハ裝置後速ニ之ヲ作製シ所轄遞信局長ヘ提出スベシ

第三十四條　船舶ニ施設シタル私設無線電信ニ裝置スル警急自働受信機ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　遞信省電氣試驗所ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルコト

二　警急符號ニ依リ起動シタルトキハ航海船橋、通信室及主任無線通信士室ニ備付ノ可聽警報裝置ヲ連續的ニ働作セシメ之ガ停止ハ通信室ニ備付ノ開閉器ニ依リテノミ爲シ得ルコト

第三十五條　船舶設備規程ニ依リ船舶ニ備フル救命艇ニ裝置スル無線電信設備ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　A二又ハB電波五〇〇KCノ周波數ニ依リ送受シ得ルコト

二　連續シテ三時間以上使用シ得ルコト

三　送信裝置ハ空中線電力十「ワット」以上ナルカ又ハ晝間五十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルコト

四　受信裝置ハ眞空管式ニシテ且鑛石檢波器ニ切替使用シ得ルコト

五　機器ハ機械的振動ニ堪フルコト

六　操艇ノ爲送受信ニ妨害ヲ受ケザルコト

七　有效ナル蔽圍設備ヲ有スルコト

第三十五條ノ二　本章ニ規定スル私設無線電信無線電話ノ機器及裝置竝附屬具ノ具備スベキ條件ノ細目ニ關シテハ別ニ之ヲ告示ス

第三章　無線通信士

第三十六條　私設無線電信無線電話ノ通信ニ從事スル者ハ之ヲ無線通信士ト稱シ無線通信士資格檢定規則ニ依リ相當資格ヲ有スル者ナルコトヲ要ス但シ實驗用私設無線電信無線電話又ハ無線電信法第二條第六號ニ依リ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設シタル私設無線電信無線電話ノ通信ニ從事スル者又ハ之ニ準ズベキ者ニシテ特ニ所轄遞信局長ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

外國各港間ノミヲ航行スル船舶其ノ他外國ニ在ル船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ前項ノ規定ニ依ルコトヲ得ザル特殊ノ事由アルモノハ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ內地ノ目的港ニ到著スル迄國際電氣通信條約附屬無線通信規則第十條ニ依リ外國主管廳ニ於テ交付シタル第一級、第二級又ハ特別證明書ヲ所持スル者ヲシテ無線通信士資格檢定規則ニ規定スル第一級、第二級又ハ第三級ノ資格ヲ有スル者ノ爲シ得ル通信ニ從事セシムルコトヲ得外國ニ在ル航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ付亦同ジ

第三十七條　船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第一種ニ屬スルモノノ主任無線通信士ハ一年以上、通信執務時間第二種ニ屬スルモノノ主任無線通信士ハ六月以上船舶無線電信又ハ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス陸上無線電信ニ於テ通信ノ實務ニ從事シタル者ナルコトヲ要ス

第三十八條　航空機ニ施設シタル私設無線電信ノ主任無線通信士ハ航空機無線電信ニ於テ通信ノ實務ニ從事シタル者又ハ航空機ニ乘務シタル經歷アル者ナルコトヲ要ス

第三十九條　私設無線電信無線電話（船舶ニ施設シタル私設無線電信ヲ除ク）ニ配置スベキ無線通信士ノ資格及員數ニ付テハ之ヲ指定スルコトアルベシ

船舶ニ施設シタル私設無線電信ニハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外別表第二號ニ依リ無線通信士ヲ配置スベシ

第四十條　私設無線電信無線電話ノ施設者其ノ無線通信士ヲ選任又ハ解任シタルトキハ其ノ都度附錄第二號樣式ニ依リ之ヲ所轄遞信局長ヘ届出ヅベシ但シ選任ノ場合ハ身分證明書（實驗用私設無線電信無線電話ニ限ル）、履歷書、體格檢查證書及無線通信士資格檢定合格證書寫ヲ添付スベシ

第四十一條　遞信大臣ハ私設無線電信無線電話ノ無線通信士ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ之ガ解任ヲ命ズルコトアルベシ

第四十二條　無線通信士ハ第六章ノ檢查吏員ヨリ其ノ資格檢定合格證書ノ呈示ヲ求メラレタルトキハ遲滯ナク之ヲ呈示スベシ

第四章　通信執務時間及聽守時間

第四十三條　私設無線電信無線電話ノ通信執務時間ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ區別ニ依ルベシ

一　船舶ニ施設スル私設無線電信

第一種　遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニシテ旅客定員二百人以上ノモノニ施設シ公衆通信ヲ取扱フモノ　無休

第二種甲　遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニシテ旅客定員百人以上二百人未満ノ航行區域ヲ有スル總噸數五千噸以上ノ船舶ニシテ旅客定員百人以上ノ公衆通信ヲ取扱フモノ　一日十六時間　通信執務時間割ハ國際電氣通信條約附屬無線通信規則附錄第六號表ニ規定スル區別ニ依ルベシ

第二種乙　公衆通信ヲ取扱ヒ第一種、第二種甲及第三種ニ該當セザルモノ又ハ無線電信強制船舶ニシテ第一種及第二種甲ニ該當セザルモノ　一日八時間　通信執務時間割ハ國際電氣通信條約附屬無線通信規則附錄第六號表ニ規定スル區別ニ依ルベシ

第三種　總噸數三百噸未満ノ漁船ニ施設シ公衆通信ヲ取扱フモノ又ハ公衆通信ヲ取扱ハザルモノニシテ第二種乙ニ該當セザルモノ　不定

二　其ノ他ノ私設無線電信無線電話

特ニ指定スル時間

私設無線電信無線電話ニ於テ必要アルトキハ通信執務時間外ニ於テモ臨時通信ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第二種ニ屬スルモノニ在リテハ通信執務時間割ニ拘ラズ成ルベク當該船舶ノ入港前六時間以上連續執務スベシ

船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第三種ニ屬スルモノニ在リテハ當該船舶ノ航行中毎日午前九時及午後五時ヨリ各三十分間五〇〇KCノ周波數ニ依リ成ルベク聽守スベシ

船舶ニ施設シタル私設無線電話（當該船舶ニ無線電信ノ施設ヲ有スルモノヲ除ク）ハ當該船舶航行中毎日午前九時及午後五時ヨリ各十五分間一六五〇kcノ周波數ニ依リ成ルベク聽守スベシ

第四十四條ノ二　航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ハ當該航空機航行中毎時十五分及四十五分ヨリ各三分間三三三kc又ハ六二一〇kcノ周波數ニ依リ成ルベク聽守スベシ

第四十五條　無線電信強制船舶ニシテ總噸數三千噸以上ノ旅客船又ハ總噸數五千五百噸ヲ超ユル旅客船ニ非ザル船舶ニ施設シタル私設無線電信（通信執務時間第一種ニ屬スルモノヲ除ク）ハ當該船舶航行中通信執務時間ニ該ラザル時間（以下聽守時間ト稱ス）ニ於テ無線通信士又ハ警急自働受信機ニ依リ五〇〇KCノ周波數ヲ以テ聽守ヲ爲スベシ但シ通信中又ハ他ノ周波數ニ依ル聽守中ニシテ設備ノ關係上其ノ聽守ヲ爲シ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五章　運用

第四十六條　私設無線電信無線電話ノ使用ハ左ノ各號ニ從フコトヲ要ス但シ船舶又ハ航空機ノ遭難通信、海上又ハ空中ニ於ケル生命財産ノ保全上緊急ノ性質ヲ有スル通信（以下緊急通信ト稱ス）及航行上ノ危險警戒ニ必要ナル通信（以下安全通信ト稱ス）ニ關スル場合竝船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電

信無線電話ニ於テ報時、氣象報、水路告示、傳染病情報其ノ他海上又ハ空中ニ於ケル生命財産ノ保全ニ必要ナル事項ニ關スル一般鑑船又ハ航空機宛公報ノ放送ヲ受信スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　無線電信無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍事通信ニ支障ナキトキニ限ルコト

二　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノノ使用ハ航行中ニ限ルコト

三　實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ他ノ無線電信無線電話ノ通信ニ支障ナキトキニ限ルコト

第四十七條　實驗用私設無線電信無線電話ニ依ル機器ノ實驗ニハ擬似空中線回路ヲ使用スベシ但シ特ニ電波（B電波ヲ除ク）ノ發射ヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條　實驗用私設無線電信無線電話ハ特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外他ノ無線電信無線電話ニ依ル發信ヲ再送信スルコトヲ得ズ

第四十九條　實驗用私設無線電信無線電話ハ特ニ規定スル場合又ハ遭信大臣ニ於テ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外他ノ無線電信無線電話トノ通信ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ他ノ實驗用無線電信無線電話トノ間ニ自己又ハ對手ノ施設者名、機器裝置場所、裝置方式、空中線電力、使用周波數、感度又ハ實驗時刻ヲ照復スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ニ依ル通信ニハ祕密ノ意義ヲ有スル語辭ヲ使用スルコトヲ得ズ

第五十條　船舶ニ施設シタル私設無線電信ノ補助設備及警急自働受信機ノ運用ニ關シテハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

一　補助設備ニ付テハ當該船舶ノ航行中毎日一回直ニ其ノ全能力ヲ以テ使用シ得ル狀態ニ在ルコトヲ確ムルコト

二　警急自働受信機ニ依リ聽守ヲ行フモノニ在リテハ當該船舶航行中

信ヲ必要トスルトキ

二　氣象若ハ時刻ノ承合、方位測定又ハ機器調整ノ爲他ノ無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

三　無線電信機又ハ無線電話機ヲ裝置スル電信官署又ハ電話官署ノ指示ニ從ヒ之ト交信ヲ必要トスルトキ

四　軍事通信ノ必要ニ依リ軍用無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

五　船舶ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ於テ海務局港務部用無線電信無線電話ヨリ開港港則、開港港則ノ施行ニ直接必要ナル港內ノ行政警察及海港檢疫ノ事務ノ必要ニ依リ交信ヲ求メラレタルトキ又ハ地方長官若ハ地方自治體施設ノ海港檢疫若ハ港內取締事務用無線電信無線電話ヨリ當該事務ノ必要ニ依リ交信ヲ求メラレタルトキ

六　漁船ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ於テ漁業監督官廳用船舶無線電信無線電話ヨリ漁業監督事務上必要ナル交信ヲ求メラレタルトキ

七　漁獲通信ニ關シ道府縣所屬水產事業指導用無線電信無線電話ト漁船ニ施設シタル私設無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

前項第四號ニ依ル海軍無線電信トノ間ノ交信ハ別ニ告示スル海軍無線通信規約ニ準據スベシ

第五十一條　船舶ニ施設シタル私設無線電信ノ補助設備及警急自働受信機ノ運用ニ關シテハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

一　補助設備ニ付テハ當該船舶ノ航行中毎日一回直ニ其ノ全能力ヲ以テ使用シ得ル狀態ニ在ルコトヲ確ムルコト

二　警急自働受信機ニ依リ聽守ヲ行フモノニ在リテハ當該船舶航行中

毎日一回其ノ機能ヲ試驗スルコト

三　警急自働受信機ニ依リ聽守ヲ爲サントスルトキハ之ヲ空中線ニ接續シテ其ノ機能ヲ試驗シ可働狀態ニ在ルコトヲ確ムルコト

四　前各號ノ事項ニ付テハ其ノ都度之ヲ船長又ハ船橋ニ於ケル當直職員ニ通知スルコト

第五十二條　私設無線電信無線電話ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外「グリニッヂ」標準時ニ依ル毎時ノ十五分及四十五分ヨリ三分間（以下沈默時間ト稱ス）B電波ニ依ル一切ノ發信及其ノ他ノ電波ニ依ル四八〇kc乃至五二〇kcノ周波數ノ發信ヲ爲スベカラズ

船舶ニ施設シタル私設無線電信ハ當該船舶ノ航行中其ノ通信執務時間及聽守時間ヲ通ジ沈默時間中五〇〇KCノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ

船舶無線電信ト交信ノ目的ヲ以テ陸上ニ施設シタル私設無線電信ハ沈默時間中五〇〇KCノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ但シ當該時間ガ通信執務時間外ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條　船舶ニ施設シタル私設無線電信ハ當該船舶ノ航行中前條第二項ノ規定ニ依ルノ外通信執務時間中五〇〇KCノ周波數ニ依リ聽守スベシ但シ通信中又ハ他ノ周波數ニ依ル聽守中ニシテ設備ノ關係上其ノ聽守ヲ爲シ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條ノ二　五〇〇kcノ周波數ヨリ五kcヲ超エザル間隔ヲ有スル周波數ヲ使用スル陸上無線電信ノ通達距離内ニ在ル私設無線電信ハ第四十四條及前二條ノ規定ニ依ル五〇〇kcノ周波數ノ聽守上注意スルコトヲ要ス

第五十四條　電信官署ヨリ無線電信ニ依リ私設停信符號 ―・・・・ ―ヲ發信シタルトキハ更ニ私設復信符號 ・―・―・・―・― ・ヲ發信スル迄又電話官署ヨリ無線電話ニ依リ「私設停止」ヲ發信シタルトキハ更ニ「私設解除」ヲ發信スル迄其ノ通達距離内ニ於ケル總テノ私設無線電信無線電話ニ依ル通信ヲ停止スベシ

第五十五條　前條ノ規定ハ緊急ノ際ニ於テ軍用無線電信無線電話ヨリ同樣ノ發信ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ使用周波數ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外通信ノ區別ニ從ヒ別表第三號ニ依ルベシ

第五十七條　私設無線電信ノ通信ハ「モールス」符號ニ依リ其ノ方法ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ遵フベシ

一　呼出ヲ爲サントスルトキハ之ニ先チ受信機ヲ最良ノ感度ニ調整シ他ノ通信中ナリヤ否ヲ確ムベシ若シ通信中ナルトキハ其ノ終了後ニ非ザレバ呼出ヲ爲スベカラズ

二　呼出ハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

イ　對手（被呼者）呼出符號　三回以下

ロ　前置符號 ―・・・・　一回

ハ　自己呼出符號　三回以下

三　應答ハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ但シ直ニ通信事項ヲ受信シ得ザル特殊ノ事由アルトキハ可送符號ニ代フルニ可待符號 ・―・・・・ 及概定可待時間ヲ送信スベシ

イ　對手（呼出者）呼出符號　三回以下

ロ　前置符號 ―・・・・　一回

ハ　自己呼出符號　一回

ニ　可送符號 ―・・―　一回

四　第二號ノ呼出ヲ爲スモ被呼者ノ應答ナキトキハ二分間以上ノ間隔ヲ以テ更ニ二回呼出ヲ爲シ尙應答ナキトキハ十五分間（航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ在リテハ五分間）以上ヲ經タル後ニ非ザレバ再ビ其ノ呼出ヲ爲スベカラズ

五　自己ノ通達距離内ニ在ル無線電信ヲ探呼セントスルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

イ　探呼符號 ―・・―・―・―・―　三回以下

ロ　前置符號 ―・・・・　一回

ハ　自己呼出符號　三回以下

ニ　可送符號 ―・・―　一回

六　被呼者ノ應答アリタルトキハ直ニ所要ノ通信ヲ開始シ其ノ終ニ左ノ符號ヲ送信スベシ

イ　終信符號（和文）・・・―・・　一回

（歐文）・―・・―・・　一回

ロ　自己呼出符號　一回

ニ　可送符號 ―・・―　一回

七　被呼者通信ヲ了解シタルトキハ直ニ解信符號 ・―・・ ヲ送信スベシ

八　相互ノ通信完了シタルトキハ互ニ結了符號 ・・・―・・―・― 及呼出符號ヲ交換スベシ

九　實驗用私設無線電信ノ通信ニシテ對手者ノ呼出ヲ必要トセザルモノニ在リテハ先ヅ自己ノ發射セントスル周波數及他ノ必要ト認ムル周波數ニ依リ一應聽取シ他ノ通信ヲ妨ゲザルコトヲ確メタル後左ノ符號ヲ順次送信シタル上更ニ一分間聽守ヲ行ヒ他ノ無線電信無線電話ヨリ停止ノ要求ナキ場合ニ限リ調整符號 ・・・―・― ノ發信ヲ開始シ其ノ終ニ自己呼出符號ヲ送ルベシ此ノ場合ニ於テ調整符號 ・・・―・― ノ發信ハ十秒間ヲ超ユベカラズ私設無線電信ノ裝置工事又ハ周波數測定若ハ機器調整ノ爲發信ヲ必要トスル場合亦同ジ

イ　實驗符號 ・―・・・―　三回

ロ　前置符號 ―・・・・　一回

ニ　自己呼出符號　三回

第五十七條ノ二　航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ呼出符號ハ通信連絡成リタル後左ノ略符號ヲ以テ自己呼出符號ニ代フルコトヲ得

一　無線電信ニ依ルトキハ呼出符號ノ最後ノ二文字

二　無線電話ニ依ルトキハ呼出符號ノ最後ノ二文字又ハ呼出名稱

第五十七條ノ三　私設無線電信無線電話ニ依リ遭難通信、安全通信及第六十二條ノ二ノ規定ニ依ル通信ヲ爲ストキハ左ノ區別ニ依ル電波ヲ使用スルコトヲ要ス

一　船舶ニ施設シタルモノ又ハ船舶無線電信無線電話ト交信スル目的ヲ以テ陸上ニ施設シタルモノ

無線電信　A二又ハB電波五〇〇kc

無線電話　A三電波一六五〇kc

二　航空機ニ施設シタルモノ又ハ航空機無線電信無線電話ト交信スル目的ヲ以テ陸上ニ施設シタルモノ

無線電信　A二電波三三三kc又ハ六二一〇kc
無線電話　A三電波三三三kc又ハ六二一〇kc

第五十八條　私設無線電信ニ依リ遭難通信ヲ發信スルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シ引續キ遭難ノ船舶又ハ航空機ノ名稱、位置、狀況其ノ他救助ニ必要ナル事項ヲ傳送スベシ

イ　遭難符號 ▪▪▪—▪▪▪—▪▪▪　三回
ロ　前置符號 —▪▪▪　一回
ハ　自己呼出符號　三回

前項ノ遭難通信ニハ特ニ必要ナシト認メタル場合ヲ除クノ外警急符號（十二長點ヨリ成リ各長點ノ長サハ四秒時、兩長點ノ間隔ハ一秒時トス）ヲ前置スベシ此ノ場合ニ於テハ事情ノ許ス限リ該符號ト遭難符號トノ間ニ二分間ノ間隔ヲ置クコトヲ要ス

第五十九條　私設無線電信ニ於テ遭難通信ノ發信ヲ認メタルトキハ直ニ他ノ一切ノ通信ヲ中止シテ該遭難通信ヲ受信シ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外應答、傍受其ノ他遭難通信ノ爲最善ノ措置ヲ爲スベシ

前項ニ依リ應答スルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

イ　對手呼出符號　三回
ロ　前置符號 —▪▪▪　一回
ハ　自己呼出符號　三回
ニ　解信符號 —▪—　三回
ホ　遭難符號 ▪▪▪—▪▪▪—▪▪▪　一回

第六十條　船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ當該船舶又ハ航空機ノ遭難ニ際シ其ノ位置判明セザルトキハ無線方位測定機ヲ有スル他ノ無線電信ヲシテ位置ヲ測定スルヲ得シムル爲事情ノ許ス限リ

自己ノ呼出符號ヲ連續送信スベシ

第六十一條　船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ緊急通信ヲ爲ス爲他ノ無線電信ヲ呼出サントスルトキハ其ノ呼出ノ前ニ緊急符號 ▪▪▪—▪▪▪—▪▪▪—▪▪▪ ヲ三回送信スベシ

私設無線電信ニ於テ前項ノ發信ヲ認メタルトキハ直ニ一切ノ通信ヲ中止シ少クトモ三分間繼續聽守スベシ此ノ場合ニ於テハ緊急通信行ハレザルカ又ハ該通信ガ終了シタルコトヲ確認シタル後ニ非ザレバ再ビ通信ヲ開始スルコトヲ得ズ

第六十二條　私設無線電信ニ依リ安全通信ヲ發信セントスルトキハ該通報ヲ入手シタル即刻（沈默時間中ナルトキハ其ノ終末ニ）左ノ符號ヲ順次送信シタル上通報ノ種類（例、次ノ、灣業、暴風雨等）ヲ冠シ該通報ヲ二回送信シ次ノ沈默時間ノ終末ニ於テ更ニ之ヲ二回送信スベシ

一　安全符號 —▪—▪　三回
二　前置符號 —▪▪▪　一回
三　自己呼出符號　三回

私設無線電信ニ於テ前項ノ發信ヲ認メタルトキハ其ノ發信中總テノ通信ヲ中止スベシ

第六十二條ノ二　船舶ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ醫師ノ乘組メル船舶ニ設置シタル電信官署ヲ探呼セムトスルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スヘシ

一　醫療符號 —▪—▪▪—▪▪▪　三回
二　前置符號 —▪▪▪　一回
三　自己呼出符號　三回

四　可送符號 ▪▪▪—　一回

第六十三條　第五十七條及前六條ノ規定ハ私設無線電話ニ依ル通信ニ準用ス但シ左ノ符號ハ各下記ノ語辭ニ代フベシ

一　遭難符號「メーデー」又ハ「遭難」
二　緊急符號「パン」又ハ「緊急」
三　安全符號「セキュリテ」又ハ「警報」
四　醫療符號「醫療」
五　前置符號「コチラハ」

第六十四條　私設無線電信無線電話ハ遭難、緊急又ハ安全通信ヲ爲ス場合ニ限リ特ニ必要トスル電力又ハ電波ノ型式若ハ周波數ノ使用ヲ妨ゲズ

第六十五條　私設無線電信ニ依リ遭難、緊急又ハ安全通信ヲ爲ス場合送信速度ハ原則トシテ一分時ニ和文七十字歐文十六語ヲ超エザルコトヲ要ス

第六十五條ノ二　第三十一條ニ依ル補助設備ニシテB電波ヲ發射スルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

一　遭難通信ヲ行フトキ
二　主送信裝置故障ノ爲使用シ得ザルトキ
三　第五十七條第九號ニ依ル發信ニシテ特ニ電波ノ發射ヲ必要トスルトキ

第六十六條　船舶ニ施設シタル私設無線電信電信官署ノ通達距離内ニ入リタルトキハ當該電信官署ヨリノ自己ノ概略方位、距離及進行方位ヲ通知スベシ其ノ通達距離ヲ去ラントスルトキ亦同ジ

第二十類　通信、交通及電氣　第一編　通信

第六十七條　私設無線電信無線電話ハ船舶又ハ航空機ニ施設シタル無線電信無線電話ヨリ機器調整上必要ナル交信ヲ求メラレタルトキハ支障ナキ限リ他ノ通信ニ妨害ヲ與ヘザルコトヲ確メタル上之ニ應ズベシ

第六十八條　遞信大臣ハ特ニ指定シタル無線通信監視局ヲシテ私設無線電信無線電話ノ使用ノ適否及通信ノ秩序ニ關シ之ヲ監視セシム

第六十九條　遞信大臣ハ無線通信監視局ヲシテ公衆通信上、軍事上又ハ無線電信無線電話混信防遏上ノ必要ニ應ジ私設無線電信無線電話ニ對シ其ノ使用電力、電波ノ型式、周波數又ハ交信ノ順位、速度ヲ指示セシメ其ノ他臨機ノ措置ヲ命セシムルコトアルベシ

第七十條　無線通信監視局ニ於テ私設無線電信無線電話ノ通信公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ直接當該無線通信士ニ對シ其ノ通信ヲ停止セシム

第七十一條　無線通信監視局ニ於テ私設無線電信無線電話ノ通信ニ關シ前二條ノ規定ニ依リ必要ナル通信ヲ發スルトキハ自局呼出符號ニ無線通信監視符號 ▪▪▪—▪▪▪—▪▪▪（無線電信ニ依ル場合）又ハ「監視」（無線電話ニ依ル場合）ヲ冠シ一般通信ト之ヲ區別ス

第七十二條　私設無線電信無線電話ノ使用ノ制限、停止又ハ機器、附屬具ノ除却ニ關シ直接當該從事者ニ命令ヲ發シタル場合ニ於テハ別ニ其ノ旨ヲ當該施設者ヘモ通知ス

第六章　檢査

第七十三條　所轄遞信局長第十條若ハ第四十條ノ屆出ヲ受ケタルトキ又ハ檢査吏員所屬官廳ニ於テ第七十五條第二項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ檢査吏員ヲ派遣シ機器及其ノ裝置竝無線通信士ノ資格及員數ヲ檢査セ

シメタル上檢定證書ヲ交付ス但シ特ニ必要ナシト認ムルトキハ檢査ヲ省略スルコトアルベシ

前項ノ檢査吏員ニ於テ當該私設無線電信無線電話ノ使用開始上特ニ必要アリト認ムルトキハ直ニ假檢定證書ヲ交付ス

第七十四條　遞信大臣又ハ遞信局長ハ隨時檢査吏員ヲ派遣シ私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置、無線通信士ノ資格及其ノ員數、運用狀況竝關係書類等ヲ檢査セシム

第七十五條　檢査吏員私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置ガ規定ノ條件及許可ヲ得タル工事設計ニ適合セザルコトヲ認メ又ハ其ノ無線通信士ガ規定ノ資格及員數ニ適合セザルコトヲ認メタルトキハ檢査吏員ノ所屬官廳ハ當該無線電信無線電話ノ施設者（船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ在リテハ其ノ施設者又ハ當該船舶ノ船長若ハ當該航空機ノ機長）ニ其ノ旨ヲ通知シタル上第七十三條ノ檢定證書若ハ假檢定證書ヲ返還セシメ又ハ檢査不合格通知書ヲ交付ス此ノ場合ニ於テハ當該私設無線電信無線電話ハ其ノ使用ヲ停止スベキモノトス

前項ノ場合ニ於テ私設無線電信無線電話ノ施設者機器及其ノ裝置ヲ改修シ又ハ無線通信士ヲ適當ニ配置シタルトキハ檢査吏員ノ所屬官廳ヘ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第七十六條　檢査吏員ノ所屬官廳ニ於テ檢査ノ結果ニ付當該私設無線電信無線電話ノ施設者ニ對シ指示又ハ通知ヲ爲ス必要アリト認メタルトキハ檢査吏員ヲシテ第七十八條ノ無線電信無線電話檢査簿ニ其ノ要旨ヲ記入セシメ指示又ハ通知ニ代フルコトアルベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者檢査吏員ノ所屬官廳ヨリ指示ヲ受ケタルトキハ直ニ相當措置スベシ

第七章　雜則

第七十七條　私設無線電信無線電話ノ施設者ハ檢定證書、無線通信士氏名及資格、無線電信法罰則竝施設目的ノ要綱ヲ通信室内見易キ場所ニ掲ゲ置クベシ

第七十八條　私設無線電信無線電話ノ施設者ハ附錄第三號樣式ノ無線電信無線電話檢査簿（以下無線檢査簿ト稱ス）ヲ設備シ檢査ノ都度之ヲ檢査吏員ニ呈示スベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者第七十六條第二項ニ依リ措置シタルトキハ其ノ措置顚末ヲ無線檢査簿ニ記錄（無線通信士ヲシテ記錄セシムルコトヲ妨ゲズ）スベシ

無線檢査簿ハ其ノ使用終了後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第七十九條　私設無線電信無線電話（氣象及報時受信專用ノモノヲ除ク）ノ施設者ハ無線通信日誌（以下日誌ト稱ス）ヲ設備シ無線通信士ヲシテ左ノ事項ヲ記錄セシメ日誌使用終了後二年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

一　無線通信士ノ氏名、資格等級及服務方法

二　他ノ無線電信無線電話ト通信ノ都度左ノ事項

イ　通信開始及終了ノ月日時刻（無線電信強制船舶ニ在リテハ「グリニッヂ」標準時ニ依リ記入スベシ）

ロ　對手無線電信無線電話ノ名稱（場合ニ依リ國籍、呼出符號、呼出名稱又ハ機器裝置場所等ヲ附記スベシ）

ハ　自己及對手無線電信無線電話ノ使用周波數

ニ　通信ノ種別（專用通信、電報託送、氣象又ハ遭難通信等ノ種別ヲ記載スベシ）

ホ　對手無線電信無線電話トノ間ノ概定距離

ヘ　通信狀況（空電及混信ノ有無等ヲ附記スベシ）

ト　對手無線電信無線電話ヨリ通知ヲ受ケタル事項ノ大要（船舶又ハ航空機ノ位置、針路、電報料金、取扱電報ノ種類等後日參考トナルベキ事項ヲ記載スベシ）

三　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶又ハ航空機ノ航程（發、著、寄港又ハ立寄地名及其ノ月日時刻ヲ記載スベシ）

四　船舶ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶ノ航行中毎日正午及午後八時ニ於ケル位置

五　補助設備及警急自働受信機ノ故障ノ有無其ノ他機器ノ保守狀況（機器ニ故障アリタルトキハ其ノ狀況及原因竝措置顚末ヲ記載スベシ）

六　補助設備電源用二次電池ヲ充電シタルトキハ其ノ充電時間、充電電流及充電前後ノ電壓

七　發射周波數ノ偏差ヲ測定シタルトキハ其ノ結果（偏差甚ダシキトキハ其ノ措置顚末ヲ附記スベシ）

八　遭難、緊急又ハ安全通信ヲ爲シタル事實及之ニ關スル措置顚末

九　無線電信法及之ニ關スル規定ニ違反シタル私設無線電信無線電話又ハ外國無線電信無線電話ヲ認メタル事實

十　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ外國ニ於テ無線電信無線電話ノ裝置若ハ使用ニ關シ臨檢若ハ制限セラレタル事實竝之ニ關スル措置顚末

十一　實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ實驗ノ方法、經過及結果

十二　前各號ノ外參考トナルベキ事項

第八十條　私設無線電信無線電話（氣象及報時受信專用ノモノヲ除ク）ノ施設者ハ日誌及無線檢査簿ニ依リ左ノ事項ヲ簡明ニ抄錄シ附錄第四號樣式ノ表紙ヲ附シ一月毎ニ（船舶ニ施設シタルモノニシテ當該船舶ノ航行一月以上ニ及ブモノハ定繫港ニ入港毎ニ）陸上ニ施設シタルモノニ在リテハ遞信大臣ニ、船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ所轄遞信局長ニ提出スベシ

一　無線通信士ノ氏名、資格等級及服務方法

二　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶又ハ航空機ノ航程ノ概要

三　陸上ニ施設シタルモノニ在リテハ一日平均ノ交信度數、交信延時分及交信セル對手無線電信無線電話數

四　通信概況（對手無線電信無線電話トノ通信成績等ヲ記載スベシ）

五　無線電信無線電話檢査吏員所屬官廳ヨリ檢査ノ結果ニ付指示ヲ受ケタル事項及之ニ對スル措置顚末

六　補助設備及警急自働受信機ノ故障ノ有無其ノ他機器ノ保守狀況

七　實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ實驗ノ方法、經過及結果

八　前各號ノ外參考トナルベキ事項

第八十一條　遞信大臣又ハ所轄遞信局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ日誌、無線檢査簿又ハ其ノ寫ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第八十二條　私設無線電信無線電話ノ施設者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ都度狀況ヲ具シ其ノ旨ヲ遞信大臣ヘ屆出ヅベシ

一　外國ニ於テ特ニ無線電信無線電話ノ裝置及使用ヲ制限セラレタルトキ但シ其ノ制限ガ告示セラレタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　遭難、緊急又ハ安全通信ヲ爲シタルトキ

三　無線電信法及之ニ關スル規定ニ違反シタル私設無線電信無線電話又ハ外國無線電信無線電話アリト認メタルトキ

第八十三條　第六條、第十條、第十二條、第十三條又ハ第七十五條ニ依リ差出ス書類ハ電報ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八十四條　本令ニ依リ遞信大臣ヘ差出ス書類ハ總テ其ノ施設地又ハ施

設船舶ノ定繫港若ハ施設航空機ノ定置場ノ所轄遞信局長ヲ經由スベシ

附　則

第八十五條　本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十七條第一項、第二十九條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ船舶安全法第三十條ノ一般規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年十月遞信省令第四十六號私設無線電信規則ハ之ヲ廢止ス

第八十六條　日本船舶ニ非ザル船舶ニ裝置シタル無線電信無線電話ニ付テハ第十五條ノ規定ニ拘ラズ船舶安全法第三十條ノ一般規定施行ノ日迄仍從前ノ例ニ依ル

第八十七條　本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル私設無線電信ハ其ノ發射スル電波ノ型式ニ關シテハ陸上ニ施設シタルモノハ昭和九年十二月三十一日迄、船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノハ昭和十四年十二月三十一日迄第二十四條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第八十八條　本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル船舶ニ施設シタル私設無線電信無線電話ハ其ノ送信周波數、無線通信士ノ資格員數、通信執務時間又ハ聽守時間ニ關シテハ昭和九年六月三十日迄第二十五條、第三十九條第二項、第四十三條又ハ第四十五條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ無線電信無線電話ニシテ特殊ノ事由アルモノニ付テハ所轄遞信局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ期間ヲ延伸スルコトヲ得

附　則（昭和十三年十二月遞信省令第九十二號）

第八十九條　本令ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十條　本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル私設無線電信ニシテB電波一三六四kcノ周波數ヲ發射スルモノハ昭和十八年十二月三十一日迄第二十四條ノ規定ニ拘ラズ同周波數ヲ使用スルコトヲ得

第九十一條　本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ使用周波數ハ昭和十四年八月三十一日迄第五十六條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第一號（第二十五條參照）

施設ノ區別	發射電波ノ型式及周波數	受信電波ノ型式及周波數
陸上ニ施設スル私設無線電信無線電話	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數

施設ノ區別	發射電波ノ型式及周波數		受信電波ノ型式及周波數	
船舶ニ施設スル私設無線電信	三六五kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二又ハB同同	三七五(1)kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A一及A二B又ハ一〇〇kc乃至二〇〇〇kc(2)
	三六五kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶及一五〇〇kc以下ノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二又ハB同同A一同同	三七五(1)kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶及一五〇〇kc以下ノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A一及A二B又ハ一〇〇kc乃至二〇〇〇kc(2)
船舶ニ施設スル私設無線電話	一五〇〇kc乃至一七一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三	一五〇〇kc乃至一七一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三及A二B又ハ一〇〇kc乃至二〇〇〇kc
航空機ニ施設スル私設無線電信	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二(4)A二	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A一及A二B又ハ一九〇kc乃至五五〇kc
	四〇〇〇kc乃至三〇〇〇〇kcノ周波數帶ニ於テ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二(4)	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三及A二B又ハ一九〇kc乃至五五〇kc
航空機ニ施設ス				

		特ニ指定スル電波ノ型式及周波數
ル私設無線電話	四〇〇〇kc乃至三〇〇〇〇kcノ周波數帶內ニ於テ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三 六二一〇

註

(1) 無線電信强制船舶ニ非ザル船舶ニ施設スルモノニ在リテハA二電波一三六四kcヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(2) 時刻、氣象、航行上ノ危險警戒ニ關スル放送等ノ受信上必要アルモノニ付テハ最小周波數ヲ一五kcト爲スコトヲ得

(3) 公衆通信用周波數トス但シB電波ニ限リ他ノ通信ニモ使用スルコトヲ得

(4) 外國（滿洲國及中華民國ヲ除ク）ニ航行スル航空機ニ在リテハA一及A二電波ヲ發射スルモノナルコトヲ要ス

(5) 海洋ノ上空ヲ航行スル航空機ニ施設スルモノニ限ル

第二號（第三十九條參照）

無線電信ノ種別		無線通信士最少限資格及員數 第一級	第二級	第三級	聽守員級
通信執務時間無休ノモノ		一人	一人	一人	人
通信執務時間一日十六時間ノモノ	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間ヲ超ユルモノニシテ無休ノ聽守ヲ要スルモノ	一	一		一
	其ノ他ノモノ	一	一		
通信執務時間一日八時間ノモノ	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間ヲ超ユルモノニシテ無休ノ聽守ヲ要スルモノ	一			二
	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間八時間ヲ超ユルモ四十八時間以內ノモノニシテ無休ノ聽守ヲ要スルモノ	一			一
	其ノ他ノモノ		一		
通信執務時間不定ノモノ	總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ施設シタルモノ[illegible]			一	
	其ノ他ノモノ		一		

備考　聽守員級ノ配置ヲ要スルモノニシテ警急自働受信機ヲ裝置スル場合ハ之ガ配置ヲ要セズ

第三號（第五十六條參照）

(一) 船舶ニ施設シタルモノ

通信ノ區別	呼出及應答 A一	呼出及應答 A二	呼出及應答 A三	呼出及應答 B	其ノ他 A一	其ノ他 A二	其ノ他 A三	其ノ他 B
	kc	kc	kc	kc	kc	kc	kc	kc
施設者所屬無線電信無線電話相互間ニ特定事業用通信ヲ行フトキ	一四三 三七五(1) 四一〇 五〇〇 一三六四 一六〇〇 四一四〇	三七五(1) 四一〇 五〇〇 一四六四 一六〇〇 四一四〇	一六五〇 四四四〇	四二五 五〇〇 一三六四(2)	一二五 三七五(1) 四一〇 一三六四 一六〇〇 一八九〇 四一四〇	三七五(1) 四一〇 一三六四 一六〇〇 一八九〇 四一四〇	一六五〇 一七〇〇 四四四〇	四二五 一三六四(2)

電信官署又ハ電話官署トノ間ノ通信上必要アルトキ																	
六二一〇				一四三						五〇〇							四一四〇
六二一〇										五〇〇							四一四〇
六六五〇													一六五〇				
										五〇〇							
六二一〇	一二五(3)	一三〇	一三六(3)	一四三(4)	三七五(1)	四一〇	四二五	四五四	四八〇	五〇〇(5)	一三六四	一六〇〇			一八九〇	四一三〇	四一四〇
六二一〇					三七五(1)	四一〇(3)	四二五(3)	四五四	四八〇	五〇〇(5)	一三六四	一六〇〇			一八九〇	四一三〇	四一四〇
六六五〇													一六五〇	一七〇〇			
						四二五(3)				五〇〇(5)	一三六四(2)						

方位測定通信ヲ行フトキ																	
三七五 五〇〇(6)		五五二〇		六二一〇				八二八〇				一二四二〇					
三七五 五〇〇(6)		五五二〇		六二一〇				八二八〇				一二四二〇					
	四四四〇					六六五〇			八八八〇					一三三〇〇			一七七〇〇
三七五 五〇〇(6)																	
三七五 五〇〇(7)		五五二〇	五五四〇	六二一〇	六二三〇		八二六〇	八二八〇		一一〇四〇	一一〇八〇	一二四二〇	一二四六〇		一六五二〇	一六五六〇	
三七五 五〇〇(7)		五五二〇	五五四〇	六二一〇	六二三〇		八二六〇	八二八〇		一一〇四〇	一一〇八〇	一二四二〇	一二四六〇		一六五二〇	一六五六〇	
	四四四〇					六六五〇			八八八〇					一三三〇〇			一七七〇〇
三七五 五〇〇(7)																	

第二九九號

通信ノ區別	呼出及應答 A二	呼出及應答 A三	其ノ他 A一	其ノ他 A二	其ノ他 A三
海務局港務部用無線電信又ハ地方長官若ハ地方自治體施設ノ海港檢疫若ハ港內取締事務用無線電信トノ間ニ通信ヲ行フトキ	四一〇 五〇〇(8)	四一〇 五〇〇(8)	五〇〇(8)	四一〇 一三六四	四一〇 一三六四
漁船ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ於テ漁業監督官廳用船舶無線電信無線電話又ハ道府縣所屬水產事業指導用無線電信無線電話トノ間ニ通信ヲ行フトキ	五〇〇 一三六四	五〇〇 一三六四	一六五〇 四四四〇	五〇〇 一三六四(2) 一三六四 一六〇〇(3) 一八九〇	一三六四 一六〇〇(3) 一八九〇
施設者ヲ異ニスル漁船無線電信無線電信相互間ニ漁獵ニ關スル通信ヲ行フトキ	一三六四	一三六四	一六五〇	一三六四(2) 一三六四 一六〇〇(3) 一八九〇	一三六四 一六〇〇(3) 一八九〇
航空機ニ施設シタルモノ	三三三 kc	三三三 kc	三二〇 kc	三二〇 kc	三二〇 kc
施設者所屬無線電信無線電話相互間ニ特定事業用通信ヲ行フトキ又ハ電信官署若ハ電話官署トノ間ノ通信上必要アルトキ	五〇〇(10)	三三三(9) 三四〇 五〇〇(10)	五六六〇 六二一〇(9) 六五九〇 一一一一〇 一六七五〇	五六六〇 六二一〇(9) 六五九〇 一一一一〇 一六七五〇	三三三(9) 五六六〇 六二一〇(9) 六五九〇 一一一一〇 一六七五〇
方位測定通信ヲ行フトキ	三三三 五〇〇	三三三 五〇〇(5)	三三三 五〇〇(5)	三三三 五〇〇(5)	

註

(1) 無線羅針業務ヲ妨害セザルコトヲ要ス

(2) 外國ノ無線電信無線電話特ニ放送無線電話ニ混信ヲ與ヘザルコトヲ要ス

(3) 通常通信周波數トス但シ原則トシテA電波ヲ發射スルモノニ在リテハ一三六kcヲ及四二五kcハ船舶內電信官署若ハ電話官署、幌莚、

第二四九號

函館、銚子、下津井、角島、鹿兒島、南大東島、木浦、鎭南浦、淸津、基隆、臺東、大泊又ハパラオノ各電信官署トノ間ノ通信ニ、一二五kc及四一〇kcハ前記以外ノ陸上電信官署若ハ電話官署トノ間ノ通信ニ使用スルモノトス

(4) 呼出及應答ニ伴フ通信ノ準備ニ使用スルモノトス

(5) 特ニ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ通信ニ混信ヲ生セズ且當該通信（第六十六條ノ規定ニ依ル通信其ノ他極メテ簡單ナル通信ニ限ル）ガ數分以內ニ完了スルコトヲ確認スル場合ニ限リ使用スルコトヲ得

(6) 三七五kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限ル但シ方位測定業務ヲ行フ陸上無線電信ニシテ電信官署タルモノトノ間ノ呼出應答ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

(7) 三七五kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限リ呼出應答ヲ妨害セザル條件ノ下ニ使用スルコトヲ得

(8) 四一〇kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限ル

(9) 五分間以內ノ通信ヲ行フ場合ニ限ル

(10) 船舶無線電信又ハ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス陸上無線電信トノ間ニ通信ヲ行フ場合ニ限ル

附錄

第一號樣式（第五條參照、用紙美濃紙）

甲　船舶無線ノ例（航空機ニ施設スルモノニ在リテハ之ニ準ズルモノトス）

私設無線電信（無線電話）施設願

年　月　日

何市何區何町何番地

何汽船株式會社

社長　何　某㊞

何遞信局長　殿

當社所屬汽船何丸ニ私設無線電信（無線電話）施設致度私設無線電信無線電話規則第五條ニ依リ別紙書類相添出願候也

施設事項書

一　施設ノ目的

（航行ノ安全ニ備ヘ施設者所屬海運事業用船舶相互間ニ於テ其ノ事業ノ用ニ供シ尙電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ施設者ノ專用ニ供スルヲ以テ目的トス）

二　施設ヲ必要トスル事由

（海難ニ際シ人命救助ニ資シ併テ海運事業經營上ノ敏活ヲ計リ尙船舶安全法ニモ從ハンガ爲本施設ヲ必要トス）

三　機器裝置船舶

船名　丸（船名ニハ傍訓ヲ附シ尙歐文ニ依ル船名ヲモ附記スルコト）

四　工事設計（主設備、補助設備毎ニ記入スルコト）

(一) 通信方式

單信
ブレイクイン
二重通信
同時送受話
祕密通信
式等

(二) 晝間所要通達距離（主設備ニ付テハ之ヲ要セズ）

(三) 電源設備（左表ニ依リ定格ヲ記入スルコト）

區別	種類	容量	個數	電壓	電流	回轉數	製造者	備考
「何」用原動機								
「何」用「何」流發電機								無線施設以外ニモ共用スル場合ハ其ノ使用スル最大電力ヲ記入スルコト
「何」用蓄電池	（チュードル型等）	（六時間放電率ニ於ケル）						

(四) 送信（話）裝置

(イ) 空中線電力　「キロワット」（又ハ「ワット」）

(ロ) 電波ノ型式及周波數（希望電波ノ型式及送信周波數ヲ記入スルコト）

(ハ) 方式（「クエンチトスパーク」式、自勵發振眞空管式、主發振眞空管式、水晶制御眞空管式等）

(ニ) 送信（話）可能周波數　自「キロサイクル」至「キロサイクル」

(ホ) 周波數變更裝置（手働又ハ自働式等ノ區別）

(ヘ) 製造者

(ト) 各機器ノ種類（左表ニ依リ定格ヲ記入スルコト）

（火花式ノ場合）

區別	別種類個數	容量	電壓	電流	相及周波數	回轉數	製造者	備考
「何」流電動機								
高周波發電機								
變壓器			一次 二次					
火花間隙					火花周波數ヲ記入スルコト			

（眞空管式ノ場合）

區別	別種類個數	容量	電壓	電流	相及周波數	回轉數	製造者	用途
「何」用「何」流電動機								
「何」用「何」流發電機								
「何」用變壓器								
「何」用整流眞空管	（名稱ヲ記入スルコト）	（一個ノ入力）	プレートフヰラメント					
「何」用發振眞空管	（同）	（同）	プレートフヰラメント					
「何」用變調眞空管	（同）	（同）	プレートフヰラメント					
「何」用增幅眞空管	（同）	（同）	プレートフヰラメント					
水晶發振子					（發振周波數ヲ記入スルコト）			
送話器								

(ヘ) 受信（話）裝置

(ト) 方式（オートダイン式、スーパーヘトロダイン式等）

(チ) 使用眞空管數　箇

(リ) 增幅器（高周波　段（眞空管名）／中間周波　段（同）／低周波　段（同））

(ヌ) 受信可能周波數　自「キロサイクル」至「キロサイクル」

(ル) 製造者

(ヲ) 空中線及饋電線（各空中線毎ニ記入スルコト）

形狀（T型、L型等）

大サ（引込線長サ　メートル／水平部長サ　メートル／水平部條數　條）

高サ　メートル（最高滿載吃水線上ヨリ水平部迄ノ高サ）

(ワ) 無線方位測定設備

(カ) 方　式（型式證明番號）

(ヨ) 空中線設備

(タ) 航海船橋トノ連絡裝置

(レ) 受信裝置、增幅裝置（ヲ）ニ準ジ記入スルコト）

(ソ) 救命艇內無線電信設備（イ）乃至（ヌ）ニ準ジ記入スルコト）

(ツ) 警急自働受信設備

(ネ) 型式證明番號

(ナ) 受信裝置、增幅裝置（ヲ）ニ準ジ記入スルコト）

(ラ) 可聽警報設備

五　通信執務時間

六　通信室ニ於ケル特殊ノ設備

(イ) 航海船橋トノ連絡裝置

(ロ) 時計

(ハ) 非常燈

七　工事地及工事者

八　落成期限

九　船舶關係事項

(イ) 船舶番號（建造中ノモノニシテ登錄未濟ノトキハ其ノ旨記入スルコト）

(ロ) 汽船帆船ノ別

(ハ) 旅客船貨物船又ハ漁船等ノ別

(ニ) 信號符字

(ホ) 旅客定員數

(ヘ) 航行區域

(ト) 總噸數

(チ) 船體ノ大サ（長サ及幅）

(リ) 就航方面

(ヌ) 船籍港

(ル) 定繫港（內地ニ於ケル主ナル碇泊港ヲ定繫港トスルコト）

(ヲ) 所有者

十　添付圖面

(イ) 空中線、通信室、機械室、二次電池ノ位置ヲ示セル船體ノ平面圖及斷面圖

(ロ) 電源設備接續圖

(ハ) 送信（話）裝置接續圖

(四) 受信(話)裝置接續圖
(五) 送受信相互連絡關係圖
(六) 空中線ノ形狀及大サヲ示セル圖面
(七) 電線配置圖(電線ノ種類及大サヲ記入スルコト)
(八) 無線方位測定設備ノ接續圖
(九) 警急自働受信設備ノ接續圖
(十) 救命艇內無線電信設備ノ接續圖

乙　陸上無線ノ例

私設無線電信(無線電話)施設願

年　月　日

何市何區何町何番地

何　某㊞

遞信大臣　殿

何々ニ私設無線電信(無線電話)施設致度私設無線電信無線電話規則第五條ニ依リ別紙書類相添出願候也

施設事項書

一　施設ノ目的

(何電信局トノ間ニ電報送受ノ爲施設者ノ專用ニ供ス
何々間ニ於テ當社經營ノ何事業ノ用ニ供ス
無線電信(無線電話)ノ學術研究及機器ニ關スル實驗ニ專用ス
何無線電信局ノ發スル報時通信ノ受信ニ專用ス
ルヲ以テ目的トス)

二　施設ヲ必要トスル事由

(必要トスル事由ヲ詳記スルコト)

三　機器裝置場所

(イ) (何市何區何町何番地何構內)
(ロ) 發射空中線ノ正確ナル地理的位置(實驗用私設無線電信無線電話ヲ除ク)
(ハ) 受信空中線ノ正確ナル地理的位置(無線羅針施設ニ限ル)

四　工事設計(主設備、補助設備每ニ記入スルコト)

(裝置場所二箇所以上ノ場合ニハ各別ニ記入スルコト
特ニ例示セザルモノハ船舶無線ノ例ニ依リ記入スルコト)

(一) 通信方式

(無線標識施設ニ在リテハ發射方式(無指向式、指向式、回轉式、可變指向式等)、無線標識及無線羅針施設ニ在リテハセクター(豫定セラレタルモノ)ヲ記入スルコト)

(二) 晝間所要通達距離
(三) 電源設備
(四) 送信(話)裝置
(五) 受信(話)裝置
(六) 空中線及接地
(イ) 電柱
種類及形式
高サ
柱數
(ロ) 空中線

(送信用及受信用ニ分チ種別(無指向性、枠型、短波指向性、空中線其ノ他)、數量ヲ記入シ其ノ詳細ハ添付圖面(六)ニ於テ線種、形狀、寸法等ヲ記入スルコト)

(ハ) 空中線饋電線(ロ)ニ準ズルコト)
(ニ) 接地(ロ)ニ準ズルコト)
(七) 空中線擬似回路(之ヲ設備スルモノニ在リテハ其ノ種類及容量ヲ記入スルコト)
(八) 發射電波ノ測定方法(受信裝置ノミノ場合ハ之ヲ要セズ)

五　通信執務時間

(實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ機器實驗ヲ必要トスル時間ヲ記入スルコト
豫メ使用期間確定スルモノニ在リテハ使用期間自何年何月何日至何年何月何日ト附記スルコト)

第二號樣式(第四十條參照、用紙美濃紙)

選任又ハ解任ノ別	同上月日	資格等級	氏名	執務スベキ無線電信又ハ無線電話ノ位置又ハ名稱	通信執務時間	聽守時間	公衆通信取扱所設置ノ有無	電信官署トノ間ニ歐文電報ヲ送受スル業務ノ有無及其送受電報ノ種別	船舶ニ施設シタル無線電信ノ場合 船舶ノ出入スル各港名	船舶ノ旅客定員	船舶ノ總噸數

右及屆出候也

年　月　日

第二十類　通信、交通及電氣　第一編　通信

六　實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗ノ種類、方法及實驗者ノ略歷
七　工事者
八　落成期限
九　添付圖面
(一) 機器裝置場所及其ノ附近ノ圖面
(二) 電源設備接續圖
(三) 送信(話)裝置接續圖
(四) 受信(話)裝置接續圖
(五) 送受信相互連絡關係圖
(六) 空中線及空中線饋電線ノ形狀及大サヲ示セル圖面
(七) 電線配置圖(電線ノ種類及太サヲ記入スルコト)

所轄遞信局長宛

第三號樣式（第七十八條參照、紙面ノ大サ横約十九糎縦約二十七糎）

檢査年月日	年　月　日	檢査吏員所屬官廳	
檢査地		檢査吏員官氏名	
指示又ハ通知事項			
指示ヲ受ケタル事項ニ對スル措置顚末			

備考

一　紙質ハ模造紙（四六判六十斤以上）ヲ使用スベシ

二　百枚ヲ以テ一級トシ表紙ヲ附スベシ

第四號樣式（第八十條參照、紙面ノ大サ横約十九糎縦約二十七糎）

無線電信無線電話檢査簿

住所

氏名印

年　月　分（又ハ自　年　月　日至　年　月　日分）

無線電信（無線電話）通信日誌抄錄

（施設者）

（機器裝置場所）

●私設無線電信無線電話規則第六十八條ニ依ル無線通信監視局指定（大正六年八月二日遞信省告示第六百二十七號）

【沿革】大正十三年五月告示第七三三號、昭和四年四月同第一一九一號、同第一二一八號、同六年五月同第九四一號、同七年一月同第二〇六五號、同八年十二月同第二九七二號、同十年四月同第九九九號、同第一〇〇〇號、同十二年六月同第一四五五號、同十六年五月同第一一八四號、同年六月同第一四五四號改正

私設無線電信無線電話規則第六十八條ニ依ル無線通信監視局ヲ左ノ通指定ス

銚子無線電信局	潮岬無線電信局	角島無線電信局	
長崎無線電信局	落石無線電信局	下津井無線電信局	
幌莚無線電信局	那覇郵便局	函館無線電信局	

若狹無線電信局　大分無線電信局　鹿兒島郵便局

八丈島無線電信局　新潟郵便局　札幌無線電信局

船舶内ニ設置シタル無線電信局

●私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則（大正四年十月二十六日遞信省令第五十三號）

【沿革】大正六年九月省令第二八號、同八年五月同第三四號、同年十月同第八六號、同九年五月同第四四號、同年十一月同第一一八號、同十四年五月同第三〇號、同年九月同第六九號、昭和二年十一月同第五五號、同三年九月同第四五號、同年十二月同第六三號、同五年五月同第二一號、同六年七月同第三四號、同十一年八月同第二七號、同十三年五月同第四二號、同年七月同第六〇號、同年十二月同第九三號、同十五年一月同第一號改正

私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則左ノ通定ム

私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則

第一條　電信法第二條又ハ無線電信法第二條ニ依リ施設シタル私設電信又ハ私設無線電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ電信取扱所ノ名稱及位置ヲ告示ス

第二條　公衆通信ノ取扱ヲ爲ス私設電信又ハ私設無線電信ニ於テハ其ノ專用ノ通信ハ公衆電報ノ私報又ハ至急私報ト同一順位ヲ以テ傳送スヘシ但シ鐵道業ノ專用通信又ハ船舶航行ノ安全ニ必要ナル通信ニ限リ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ通信ニ先チ傳送スルコトヲ妨ケス

第三條　電信法第二條第四號又ハ無線電信法第二條第三號ニ依リ施設シタル私設電信又ハ私設無線電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ期間電報ノ託送取扱ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　私設電信又ハ私設無線電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ左ノ區別ニ從ヒ其ノ取扱費ヲ當該施設者ニ支給ス但シ同文電報ニ對シ支給スヘキ第一號及第二號ノ取扱費額ハ各其ノ半額トス

一　公衆電報

官報、私報及新聞電報ニ限ル以下ノ（電信ニ依ルモノ）
- 發信　一通毎ニ　金六錢
- 著信　一通毎ニ　金五錢
- 中繼信　一通毎ニ　金六錢

之ニ同シ
- 無線電信ニ依ルモノ
  - 發信、著信、中繼信　一通毎ニ　金十五錢
  - 但シ無線電報料ヲ課セサルモノニ付テハ前掲電信ニ依ルモノニ同シ

二　公衆電報ノ交換通信　一通毎ニ　金一錢

三　直配達區域内ヘノ配達又ハ汽車中ニ在ル受信人ヘノ交付　一通毎ニ　金八錢

四　公衆電報受取證書交付　一通毎ニ　金五錢

五　公衆電報正寫交付　電報規則又ハ萬國電信條約書附屬國際業務規則ニ定ムル料金ノ全額

六　別使又ハ艀船配達　土地ノ狀況等ニ依リ別ニ指定スル一キロメートル當賃又ハ一回賃ニ依ル

前項ノ取扱費ノ支給額ハ遞信省電務局ニ於テ一月分毎ニ調定シ當該施設者ヘ通知ス但シ調定未濟ノモノハ次月以降ノ分ニ算入ス

第四條ノ二　無線電報規則第四章ノ規定ニ依ル電報及醫療無線電報ニ對シテハ前條ニ規定スル取扱費ヲ支給セス

第五條　私設電信又ハ私設無線電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ之ニ使用スル事業用物品ハ別表ニ記載スルモノ其ノ他特ニ必要ナリト認ムルモノニ限リ所轄遞信局ヨリ當該施設者ヘ交付ス

第六條　前條ニ依リ交付ヲ受ケタル事業用物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ事實ヲ詳具シ所轄遞信局ヘ報告スヘシ

前項ノ亡失又ハ毀損カ故意又ハ過失ニ因ルトキハ相當價格ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第七條　公衆通信ノ取扱ヲ爲ス私設電信又ハ私設無線電信ノ施設者ハ當

該電信取扱所前見易キ場所ニ公衆電信取扱所又ハ公衆無線電信取扱所ト記シタル標札ヲ掲出スヘシ

第八條　公衆通信ノ取扱ヲ爲ス私設電信又ハ私設無線電信ノ施設者ハ原書保管函ヲ調製シ通信從事者ヲシテ公衆通信ニ關スル電報原書ヲ之ニ嚴重保管セシムヘシ

第九條　私設電信又ハ私設無線電信ニ依ル公衆通信ノ取扱ヲ廢止シタルトキハ第五條ニ依リ交付ヲ受ケタル事業用物品ヲ所轄遞信局ヘ返納スヘシ但シ式紙類ハ未使用ノモノニ限ル

第十條　私設電信又ハ私設無線電信ニ依ル公衆通信ノ取扱ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外總テ一般ノ規定ニ依ル

附則

第十一條　本令ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話又ハ私設ノ電話若ハ無線電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス但シ官廳用ノモノニ對スル第四條ノ取扱費ハ鐵道所屬ノモノヲ除クノ外當該官廳ノ請求ナキトキハ之ヲ支給セス

第十一條ノ二　私設無線電話又ハ官廳用無線電話ヲ以テ公衆通話ノ取扱ヲ爲サシムルトキ當該施設者ニ支給スル取扱費額ハ有料取扱件數ニ應シ左ノ區別ニ依ル

一　公衆通話（發信、著信共同額トス）
- 普通通話料（最初ノ三分時迄以下同シ）
- 三圓ノ帶域（以下第一帶域ト稱ス）ニ於ケル通話
- 普通通話料十二圓ノ　一件毎ニ　六十錢

イ　陸地船舶間通話
- 遠洋船舶通話
  - 帶域（以下第二帶域ト稱ス）ニ於ケル通話　一件毎ニ　三圓
  - 普通通話料二十一圓ノ帶域（以下第三帶域ト稱ス）ニ於ケル通話　一件毎ニ　六圓
- 近海船舶通話　一件毎ニ　三十五錢
- 沿岸船舶通話　遠洋又ハ近海船舶通話ニシテ沿岸船舶通話ノ料金ヲ適用シタルモノヲ含ム以下同シ　一件毎ニ　十五錢

ロ　船舶相互間通話
- 遠洋船舶相互間通話　一件毎ニ　九十錢
- 近海船舶相互間又ハ近海船舶ト遠洋船舶相互間通話　一件毎ニ　四十五錢
- 沿岸船舶相互間又ハ沿岸船舶ト其ノ他ノ船舶相互間通話　一件毎ニ　十五錢

二　關係電話官署ニ對スル呼出通知若ハ其ノ取消通知又ハ對話者ニ對スル通話通知　一件毎ニ　五錢

三　關係電話官署ニ對スル通話取消通知又ハ對話者ニ對スル通話取消

イ　陸地船舶間通話
- 遠洋船舶通話
  - 第一帶域ニ於ケル通話　一件毎ニ　六錢
  - 第二帶域ニ於ケル通話　一件毎ニ　三十錢
  - 第三帶域ニ於ケル通話　一件毎ニ　六十錢
- 近海船舶通話　一件毎ニ　四錢
- 沿岸船舶通話　一件毎ニ　三錢

ロ　船舶相互間通話　遠洋船舶相互間通話　一件毎ニ　九　錢
　　近海船舶相互間又ハ近海船舶ト遠洋船舶相互間通話　一件毎ニ　五　錢
　　沿岸船舶相互間又ハ沿岸船舶ト其ノ他ノ船舶相互間通話　一件毎ニ　三　錢

四　受取證交付　一件毎ニ　三　錢

前項ノ取扱費ノ支給額ハ所轄遞信局ニ於テ一月分毎ニ調定シ當該施設者ヘ通知ス但シ調定未濟ノモノハ次月以降ノ分ニ算入ス

第十一條ノ三　私設無線電話又ハ官廳用無線電話ヲ以テ公衆通話ノ取扱ヲ爲サシムルトキ當該施設者ヘ交付スヘキ事業用物品ハ別表ノ二記載ノモノ及所轄遞信局長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルモノニ限ル

第十二條　本令ハ大正四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和十三年七月遞信省令第六〇號）

本令ハ昭和十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年七月遞信省令第五十九號船舶無線電話通話規則附則ニ依リ取扱フ公衆通話ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

別表※印ハ無線電信ニ限リ交付スルモノトス

備　品

通信日附印軸甲
歐文通信日附印軸甲
電報配達用胴亂
消耗品
日附印局名活字
同　年　活字
同　月　活字
同　日　活字
日附印「電信取扱所」活字
電信取扱所印
※賴信紙(和文)
※中繼紙(和文)
※著送紙(和文)
返信料前納證書(和文)
※賴信紙(歐文)
※中繼紙(歐文)
※著送紙(歐文)
返信料前納證書(歐文)
封印紙
內國、日滿及日華電報總計表
外國電報總計表
電報通數料金報告表
電報配達狀況表
※黑色炭酸紙
※藍色炭酸紙

氣象通知電報符號一覽表
氣象通知電報課文紙
外國電報返信料前納證券
電報料金受領證書(和文)
電報受取紙(和文)
電報料金受領證書(歐文)
電報受取紙(歐文)
件名表
發著信番號表
配達番號表
配達成績表
遞信法規類纂(電信編上卷)及同訂正書
同　(電信編下卷)及同訂正書
萬國電信線路圖
電信回線圖
局報略號表
中國電報新編
郵便電信電話官署名錄及同訂正書
イロハ別電信局所名錄
通信區畫便覽及同訂正書
同　附錄及同訂正書
大都市電信區畫便覽及同訂正書
集配手服務規則
郵便電信電話爲替貯金案內
歐文外國郵便電信料金表

萬國電信局名錄及同附錄
海岸局及船舶局名錄
※呼出符號表及同附錄

別表ノ二

備　品

通信日附印軸甲
消耗品
日附印「所名」活字
同　年　活字
同　月　活字
同　日　活字
同　「電話取扱所」活字
電話取扱所印
遞信法規類纂(電話編)
電話番號簿
通話券
呼出券
著信交換證
電話料金受取證用紙
電話發信通話簿用紙
電話發呼出簿用紙
炭酸紙
電話書類送付書用紙
通話券前納通話券表紙
呼出券表紙

●船舶内設置ノ無線電信局ニ於テ無線電報ノ取扱ヲ爲サササルコトアルヘキ件

（明治四十四年十月二十日遞信省告示第千二百一號）

船舶内ニ設置シタル無線電信局ニ於テハ其ノ船舶休航又ハ碇泊中無線電報ノ取扱ヲ爲サササルコトアルヘシ

●電報配達町程調表調製方

（明治二十四年九月十七日遞信省訓令第十號）

新ニ電信局所ヲ開始スルトキ若クハ既設電信局所電報配達町程表ノ改正ヲ要スルトキハ電報配達町程調査ノ爲メ町村名及里程ノ取調方ヲ監督一等郵便電信局又ハ當該電信局所ヨリ照會スヘキニ依リ其廳ハ左ノ書式竝備考ニ照準調表ヲ製シ照會ヲナシタル局所ニ之ヲ送付スヘシ

但町程表中不完全ノ箇所取調方照會ヲ受ケタルトキハ本書式ニ準據スルヲ要セス

北海道廳　府　縣

書式

電報配達町程調表

何府縣又ハ廳

何國

何々郵便電信局又ハ電信局又ハ電信取扱所

イノ部	何市何區何町	何町以内	同上何々町	何町以内	何郡何村大字何々	何里以内
	何郡何町大字何	何里何町以内	同郡何村大字何々	何里何町以内	何國何郡何島	海何里陸何里何町
ロノ部	何郡何村	何里以内	何郡何村大字何々字何々	何里何町以内		
ハノ部	何國何郡何村	何里以内	何郡何村大字何	何里以内	同上何々字何々	何里以内
	以下此例ニ準ス					

備考

一　地名イロハ分ハ大字名（大字名ナキトキハ本町村名）ノ頭字音ニ依ルヘシ

一　郡市區名又ハ本町村名ハ大字名ノ肩書トシ（大字名ナキトキハ郡市區名ヲ本町村名ノ肩書トス）且字名アルモノハ之ヲ大字名ノ下ニ記スヘシ

但甲國ニアル局所ノ町程表ニ乙國ノ町村名ヲ記スルトキハ郡名ノ上ニ猶其國名ヲ冠スヘシ

一　郡市區町村大字又ハ字名ニシテ其讀方二樣アルカ又ハ普通ノ讀方ニ據ラサルカ若クハ方言アルモノノ類ハ凡テ傍訓ヲ附スルモノトス

一　里程ハ其局ヨリ起算シ町村ノ中央迄ヲ以テ定メ九町ヲ單位トシテ計算スヘシ例ヘハ滿九町迄ヲ九町以内トシ之ニ超ユルトキハ滿十八町迄ヲ十八町以内ト記載シ二十七町ヲ超ヘテ三十六町迄ハ一里トシ其以上ハ何里何町ト記スヘシ

但島嶼アルトキハ海何里何町陸何里何町ト記スヘシ

一　本表ニハ郡區町村大字等ノ位置ヲ示シタル略圖ヲ添付スルモノトス

●電信電話線敷地手當金ノ交付ヲ望マサルモノアルトキ取扱方

（明治二十四年八月四日遞信省訓令第六號）

【沿革】　明治三十二年五月訓令第一號改正

北海道廳　府　縣

電信線電話線ノ柱木敷地手當金ノ交付ヲ望マサルモノアルトキハ其廳限リ之ヲ交付セス其都度人名及柱木ノ員數ヲ電信電話ニ區分シ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ但客年法律第五十八號實施ノ日ヨリ本年九月三十日迄ニ係ルモノハ本年十月三十一日ヲ限リ取纏メ之ヲ報告スヘシ

●無線電信法第十三條ノ三ノ當該官吏等ノ携帶スル證票

（昭和四年十二月五日遞信省告示第三千百八十一號）

【沿革】　昭和八年十二月告示第二九七一號改正

無線電信法第十三條ノ三ノ當該官吏竝私設電信規則第二十二條及私設無線電信無線電話規則第六章ノ檢査吏員ニ携帶セシムル證票左ノ通定ム

大正六年八月遞信省告示第六百二十八號ハ之ヲ廢止ス

第・號　年月日

私設電信、電話
無線電信、無線電話檢査吏員之證

遞信省印

官氏名

備考

一　證票ノ大サ縱九糎横六糎トス

二　裏面ニ次ノ如キ外國語ノ譯文ヲ附ス

CERTIFICATE

for

Mr.....

Government Wireless Inspector

DEPARTMENT OF COMMUNICATIONS
OF THE EMPIRE OF JAPAN

●電信電話建築官證票雛形

（明治二十三年第二十一號　三十五日）

【沿革】明治三十年八月告示第三七號、明和三年三月同第一三七號、同七年九月同第一五七號、同十二年十月同第一七〇號、同十六年三月同第一三〇號、同二十年十月同第一五七號、同二十三年三月同第一三七號、同二十六年三月同第一三〇號、同二十九年三月同第一三七號、同三十年三月同第一三〇號、同四十年三月同第一三七號、同四十二年三月同第一三〇號、同四十五年三月同第一三七號、同五十一年十月同第一三〇號、同四十六年三月同第一三七號、同四十九年三月同第一三〇號、同五十一年十月同第一三七號、同五十二年三月同第一三〇號、同五十三年三月同第一三七號、同五十四年三月同第一三〇號、同五十五年三月同第一三七號、同五十六年三月同第一三〇號、同五十七年三月同第一三七號、同五十八年三月同第一三〇號、同五十九年三月同第一三七號、同六十年三月同第一三〇號、同六十一年三月同第一三七號、同六十二年三月同第一三〇號、同六十三年三月同第一三七號、同六十四年三月同第一三〇號、同六十五年三月同第一三七號、同六十六年三月同第一三〇號、同六十七年三月同第一三七號、同六十八年三月同第一三〇號、同六十九年三月同第一三七號、同七十年三月同第一三〇號、同七十一年三月同第一三七號、同七十二年三月同第一三〇號、同七十三年三月同第一三七號、同七十四年三月同第一三〇號、同七十五年三月同第一三七號、同七十六年三月同第一三〇號、同七十七年三月同第一三七號、同七十八年三月同第一三〇號、同七十九年三月同第一三七號、同八十年三月同第一三〇號、同八十一年三月同第一三七號、同八十二年三月同第一三〇號、同八十三年三月同第一三七號、同八十四年三月同第一三〇號、同八十五年三月同第一三七號、同八十六年三月同第一三〇號、同八十七年三月同第一三七號、同八十八年三月同第一三〇號、同八十九年三月同第一三七號、同九十年三月同第一三〇號、同九十一年三月同第一三七號、同九十二年三月同第一三〇號、同九十三年三月同第一三七號、同九十四年三月同第一三〇號、同九十五年三月同第一三七號、同九十六年三月同第一三〇號、同九十七年三月同第一三七號、同九十八年三月同第一三〇號、同九十九年三月同第一三七號、同一〇〇年三月同第一三〇號、同一〇一年三月同第一三七號、同一〇二年三月同第一三〇號、同一〇三年三月同第一三七號、同一〇四年三月同第一三〇號、同一〇五年三月同第一三七號、同一〇六年三月同第一三〇號、同一〇七年三月同第一三七號、同一〇八年三月同第一三〇號、同一〇九年三月同第一三七號、同一一〇年三月同第一三〇號、同一一一年三月同第一三七號、同一一二年三月同第一三〇號、同一一三年三月同第一三七號、同一一四年三月同第一三〇號、同一一五年三月同第一三七號、同一一六年三月同第一三〇號、同一一七年三月同第一三七號、同一一八年三月同第一三〇號、同一一九年三月同第一三七號、同一二〇年三月同第一三〇號、同一二一年三月同第一三七號、同一二二年三月同第一三〇號、同一二三年三月同第一三七號、同一二四年三月同第一三〇號、同一二五年三月同第一三七號、同一二六年三月同第一三〇號、同一二七年三月同第一三七號、同一二八年三月同第一三〇號、同一二九年三月同第一三七號、同一三〇年三月同第一三〇號、同一三一年三月同第一三七號、同一三二年三月同第一三〇號、同一三三年三月同第一三七號、同一三四年三月同第一三〇號、同一三五年三月同第一三七號、同一三六年三月同第一三〇號、同一三七年三月同第一三七號、同一三八年三月同第一三〇號、同一三九年三月同第一三七號、同一四〇年三月同第一三〇號、同一四一年三月同第一三七號、同一四二年三月同第一三〇號、同一四三年三月同第一三七號、同一四四年三月同第一三〇號、同一四五年三月同第一三七號、同一四六年三月同第一三〇號、同一四七年三月同第一三七號、同一四八年三月同第一三〇號、同一四九年三月同第一三七號、同一五〇年三月同第一三〇號、同一五一年三月同第一三七號、同一五二年三月同第一三〇號、同一五三年三月同第一三七號、同一五四年三月同第一三〇號、同一五五年三月同第一三七號、同一五六年三月同第一三〇號、同一五七年三月同第一三七號、同一五八年三月同第一三〇號、同一五九年三月同第一三七號、同一六〇年三月同第一三〇號、同一六一年三月同第一三七號、同一六二年三月同第一三〇號、同一六三年三月同第一三七號、同一六四年三月同第一三〇號、同一六五年三月同第一三七號、同一六六年三月同第一三〇號、同一六七年三月同第一三七號、同一六八年三月同第一三〇號、同一六九年三月同第一三七號、同一七〇年三月同第一三〇號、同一七一年三月同第一三七號、同一七二年三月同第一三〇號、同一七三年三月同第一三七號、同一七四年三月同第一三〇號、同一七五年三月同第一三七號、同一七六年三月同第一三〇號、同一七七年三月同第一三七號、同一七八年三月同第一三〇號、同一七九年三月同第一三七號、同一八〇年三月同第一三〇號、同一八一年三月同第一三七號、同一八二年三月同第一三〇號、同一八三年三月同第一三七號、同一八四年三月同第一三〇號、同一八五年三月同第一三七號、同一八六年三月同第一三〇號、同一八七年三月同第一三七號、同一八八年三月同第一三〇號、同一八九年三月同第一三七號、同一九〇年三月同第一三〇號、同一九一年三月同第一三七號、同一九二年三月同第一三〇號、同一九三年三月同第一三七號、同一九四年三月同第一三〇號、同一九五年三月同第一三七號、同一九六年三月同第一三〇號、同一九七年三月同第一三七號、同一九八年三月同第一三〇號、同一九九年三月同第一三七號、同二〇〇年三月同第一三〇號、同二〇一年三月同第一三七號、同二〇二年三月同第一三〇號、同二〇三年三月同第一三七號、同二〇四年三月同第一三〇號、同二〇五年三月同第一三七號、同二〇六年三月同第一三〇號、同二〇七年三月同第一三七號、同二〇八年三月同第一三〇號、同二〇九年三月同第一三七號、同二一〇年三月同第一三〇號、同二一一年三月同第一三七號、同二一二年三月同第一三〇號、同二一三年三月同第一三七號、同二一四年三月同第一三〇號、同二一五年三月同第一三七號、同二一六年三月同第一三〇號、同二一七年三月同第一三七號、同二一八年三月同第一三〇號、同二一九年三月同第一三七號、同二二〇年三月同第一三〇號、同二二一年三月同第一三七號、同二二二年三月同第一三〇號、同二二三年三月同第一三七號、同二二四年三月同第一三〇號、同二二五年三月同第一三七號、同二二六年三月同第一三〇號、同二二七年三月同第一三七號、同二二八年三月同第一三〇號、同二二九年三月同第一三七號、同二三〇年三月同第一三〇號、同二三一年三月同第一三七號、同二三二年三月同第一三〇號、同二三三年三月同第一三七號、同二三四年三月同第一三〇號、同二三五年三月同第一三七號、同二三六年三月同第一三〇號、同二三七年三月同第一三七號、同二三八年三月同第一三〇號、同二三九年三月同第一三七號、同二四〇年三月同第一三〇號、同二四一年三月同第一三七號、同二四二年三月同第一三〇號、同二四三年三月同第一三七號、同二四四年三月同第一三〇號、同二四五年三月同第一三七號、同二四六年三月同第一三〇號、同二四七年三月同第一三七號、同二四八年三月同第一三〇號、同二四九年三月同第一三七號、同二五〇年三月同第一三〇號、同二五一年三月同第一三七號、同二五二年三月同第一三〇號、同二五三年三月同第一三七號、同二五四年三月同第一三〇號、同二五五年三月同第一三七號、同二五六年三月同第一三〇號、同二五七年三月同第一三七號、同二五八年三月同第一三〇號、同二五九年三月同第一三七號、同二六〇年三月同第一三〇號、同二六一年三月同第一三七號、同二六二年三月同第一三〇號、同二六三年三月同第一三七號、同二六四年三月同第一三〇號、同二六五年三月同第一三七號、同二六六年三月同第一三〇號、同二六七年三月同第一三七號、同二六八年三月同第一三〇號、同二六九年三月同第一三七號、同二七〇年三月同第一三〇號、同二七一年三月同第一三七號、同二七二年三月同第一三〇號、同二七三年三月同第一三七號、同二七四年三月同第一三〇號、同二七五年三月同第一三七號、同二七六年三月同第一三〇號、同二七七年三月同第一三七號、同二七八年三月同第一三〇號、同二七九年三月同第一三七號、同二八〇年三月同第一三〇號、同二八一年三月同第一三七號、同二八二年三月同第一三〇號、同二八三年三月同第一三七號、同二八四年三月同第一三〇號、同二八五年三月同第一三七號、同二八六年三月同第一三〇號、同二八七年三月同第一三七號、同二八八年三月同第一三〇號、同二八九年三月同第一三七號、同二九〇年三月同第一三〇號、同二九一年三月同第一三七號、同二九二年三月同第一三〇號、同二九三年三月同第一三七號、同二九四年三月同第一三〇號、同二九五年三月同第一三七號、同二九六年三月同第一三〇號、同二九七年三月同第一三七號、同二九八年三月同第一三〇號、同二九九年三月同第一三七號、同三〇〇年三月同第一三〇號、同三〇一年三月同第一三七號、同三〇二年三月同第一三〇號、同三〇三年三月同第一三七號、同三〇四年三月同第一三〇號、同三〇五年三月同第一三七號、同三〇六年三月同第一三〇號、同三〇七年三月同第一三七號、同三〇八年三月同第一三〇號、同三〇九年三月同第一三七號、同三一〇年三月同第一三〇號、同三一一年三月同第一三七號、同三一二年三月同第一三〇號、同三一三年三月同第一三七號、同三一四年三月同第一三〇號、同三一五年三月同第一三七號、同三一六年三月同第一三〇號、同三一七年三月同第一三七號、同三一八年三月同第一三〇號、同三一九年三月同第一三七號、同三二〇年三月同第一三〇號、同三二一年三月同第一三七號、同三二二年三月同第一三〇號、同三二三年三月同第一三七號、同三二四年三月同第一三〇號、同三二五年三月同第一三七號、同三二六年三月同第一三〇號、同三二七年三月同第一三七號、同三二八年三月同第一三〇號、同三二九年三月同第一三七號、同三三〇年三月同第一三〇號、同三三一年三月同第一三七號、同三三二年三月同第一三〇號、同三三三年三月同第一三七號、同三三四年三月同第一三〇號、同三三五年三月同第一三七號、同三三六年三月同第一三〇號、同三三七年三月同第一三七號、同三三八年三月同第一三〇號、同三三九年三月同第一三七號、同三四〇年三月同第一三〇號、同三四一年三月同第一三七號、同三四二年三月同第一三〇號、同三四三年三月同第一三七號、同三四四年三月同第一三〇號、同三四五年三月同第一三七號、同三四六年三月同第一三〇號、同三四七年三月同第一三七號、同三四八年三月同第一三〇號、同三四九年三月同第一三七號、同三五〇年三月同第一三〇號、同三五一年三月同第一三七號、同三五二年三月同第一三〇號、同三五三年三月同第一三七號、同三五四年三月同第一三〇號、同三五五年三月同第一三七號、同三五六年三月同第一三〇號、同三五七年三月同第一三七號、同三五八年三月同第一三〇號、同三五九年三月同第一三七號、同三六〇年三月同第一三〇號、同三六一年三月同第一三七號、同三六二年三月同第一三〇號、同三六三年三月同第一三七號、同三六四年三月同第一三〇號、同三六五年三月同第一三七號、同三六六年三月同第一三〇號、同三六七年三月同第一三七號、同三六八年三月同第一三〇號、同三六九年三月同第一三七號、同三七〇年三月同第一三〇號、同三七一年三月同第一三七號、同三七二年三月同第一三〇號、同三七三年三月同第一三七號、同三七四年三月同第一三〇號、同三七五年三月同第一三七號、同三七六年三月同第一三〇號、同三七七年三月同第一三七號、同三七八年三月同第一三〇號、同三七九年三月同第一三七號、同三八〇年三月同第一三〇號、同三八一年三月同第一三七號、同三八二年三月同第一三〇號、同三八三年三月同第一三七號、同三八四年三月同第一三〇號、同三八五年三月同第一三七號、同三八六年三月同第一三〇號、同三八七年三月同第一三七號、同三八八年三月同第一三〇號、同三八九年三月同第一三七號、同三九〇年三月同第一三〇號、同三九一年三月同第一三七號、同三九二年三月同第一三〇號、同三九三年三月同第一三七號、同三九四年三月同第一三〇號、同三九五年三月同第一三七號、同三九六年三月同第一三〇號、同三九七年三月同第一三七號、同三九八年三月同第一三〇號、同三九九年三月同第一三七號、同四〇〇年三月同第一三〇號、同四〇一年三月同第一三七號、同四〇二年三月同第一三〇號、同四〇三年三月同第一三七號、同四〇四年三月同第一三〇號、同四〇五年三月同第一三七號、同四〇六年三月同第一三〇號、同四〇七年三月同第一三七號、同四〇八年三月同第一三〇號、同四〇九年三月同第一三七號、同四一〇年三月同第一三〇號、同四一一年三月同第一三七號、同四一二年三月同第一三〇號、同四一三年三月同第一三七號、同四一四年三月同第一三〇號、同四一五年三月同第一三七號、同四一六年三月同第一三〇號、同四一七年三月同第一三七號、同四一八年三月同第一三〇號、同四一九年三月同第一三七號、同四二〇年三月同第一三〇號、同四二一年三月同第一三七號、同四二二年三月同第一三〇號、同四二三年三月同第一三七號、同四二四年三月同第一三〇號、同四二五年三月同第一三七號、同四二六年三月同第一三〇號、同四二七年三月同第一三七號、同四二八年三月同第一三〇號、同四二九年三月同第一三七號、同四三〇年三月同第一三〇號、同四三一年三月同第一三七號、同四三二年三月同第一三〇號、同四三三年三月同第一三七號、同四三四年三月同第一三〇號、同四三五年三月同第一三七號、同四三六年三月同第一三〇號、同四三七年三月同第一三七號、同四三八年三月同第一三〇號、同四三九年三月同第一三七號、同四四〇年三月同第一三〇號、同四四一年三月同第一三七號、同四四二年三月同第一三〇號、同四四三年三月同第一三七號、同四四四年三月同第一三〇號、同四四五年三月同第一三七號、同四四六年三月同第一三〇號、同四四七年三月同第一三七號、同四四八年三月同第一三〇號、同四四九年三月同第一三七號、同四五〇年三月同第一三〇號、同四五一年三月同第一三七號、同四五二年三月同第一三〇號、同四五三年三月同第一三七號、同四五四年三月同第一三〇號、同四五五年三月同第一三七號、同四五六年三月同第一三〇號、同四五七年三月同第一三七號、同四五八年三月同第一三〇號、同四五九年三月同第一三七號、同四六〇年三月同第一三〇號、同四六一年三月同第一三七號、同四六二年三月同第一三〇號、同四六三年三月同第一三七號、同四六四年三月同第一三〇號、同四六五年三月同第一三七號、同四六六年三月同第一三〇號、同四六七年三月同第一三七號、同四六八年三月同第一三〇號、同四六九年三月同第一三七號、同四七〇年三月同第一三〇號、同四七一年三月同第一三七號、同四七二年三月同第一三〇號、同四七三年三月同第一三七號、同四七四年三月同第一三〇號、同四七五年三月同第一三七號、同四七六年三月同第一三〇號、同四七七年三月同第一三七號、同四七八年三月同第一三〇號、同四七九年三月同第一三七號、同四八〇年三月同第一三〇號、同四八一年三月同第一三七號、同四八二年三月同第一三〇號、同四八三年三月同第一三七號、同四八四年三月同第一三〇號、同四八五年三月同第一三七號、同四八六年三月同第一三〇號、同四八七年三月同第一三七號、同四八八年三月同第一三〇號、同四八九年三月同第一三七號、同四九〇年三月同第一三〇號、同四九一年三月同第一三七號、同四九二年三月同第一三〇號、同四九三年三月同第一三七號、同四九四年三月同第一三〇號、同四九五年三月同第一三七號、同四九六年三月同第一三〇號、同四九七年三月同第一三七號、同四九八年三月同第一三〇號、同四九九年三月同第一三七號、同五〇〇年三月同第一三〇號、同五〇一年三月同第一三七號、同五〇二年三月同第一三〇號、同五〇三年三月同第一三七號、同五〇四年三月同第一三〇號、同五〇五年三月同第一三七號、同五〇六年三月同第一三〇號、同五〇七年三月同第一三七號、同五〇八年三月同第一三〇號、同五〇九年三月同第一三七號、同五一〇年三月同第一三〇號、同五一一年三月同第一三七號、同五一二年三月同第一三〇號、同五一三年三月同第一三七號、同五一四年三月同第一三〇號、同五一五年三月同第一三七號、同五一六年三月同第一三〇號、同五一七年三月同第一三七號、同五一八年三月同第一三〇號、同五一九年三月同第一三七號、同五二〇年三月同第一三〇號、同五二一年三月同第一三七號、同五二二年三月同第一三〇號、同五二三年三月同第一三七號、同五二四年三月同第一三〇號、同五二五年三月同第一三七號、同五二六年三月同第一三〇號、同五二七年三月同第一三七號、同五二八年三月同第一三〇號、同五二九年三月同第一三七號、同五三〇年三月同第一三〇號、同五三一年三月同第一三七號、同五三二年三月同第一三〇號、同五三三年三月同第一三七號、同五三四年三月同第一三〇號、同五三五年三月同第一三七號、同五三六年三月同第一三〇號、同五三七年三月同第一三七號、同五三八年三月同第一三〇號、同五三九年三月同第一三七號、同五四〇年三月同第一三〇號、同五四一年三月同第一三七號、同五四二年三月同第一三〇號、同五四三年三月同第一三七號、同五四四年三月同第一三〇號、同五四五年三月同第一三七號、同五四六年三月同第一三〇號、同五四七年三月同第一三七號、同五四八年三月同第一三〇號、同五四九年三月同第一三七號、同五五〇年三月同第一三〇號、同五五一年三月同第一三七號、同五五二年三月同第一三〇號、同五五三年三月同第一三七號、同五五四年三月同第一三〇號、同五五五年三月同第一三七號、同五五六年三月同第一三〇號、同五五七年三月同第一三七號、同五五八年三月同第一三〇號、同五五九年三月同第一三七號、同五六〇年三月同第一三〇號、同五六一年三月同第一三七號、同五六二年三月同第一三〇號、同五六三年三月同第一三七號、同五六四年三月同第一三〇號、同五六五年三月同第一三七號、同五六六年三月同第一三〇號、同五六七年三月同第一三七號、同五六八年三月同第一三〇號、同五六九年三月同第一三七號、同五七〇年三月同第一三〇號、同五七一年三月同第一三七號、同五七二年三月同第一三〇號、同五七三年三月同第一三七號、同五七四年三月同第一三〇號、同五七五年三月同第一三七號、同五七六年三月同第一三〇號、同五七七年三月同第一三七號、同五七八年三月同第一三〇號、同五七九年三月同第一三七號、同五八〇年三月同第一三〇號、同五八一年三月同第一三七號、同五八二年三月同第一三〇號、同五八三年三月同第一三七號、同五八四年三月同第一三〇號、同五八五年三月同第一三七號、同五八六年三月同第一三〇號、同五八七年三月同第一三七號、同五八八年三月同第一三〇號、同五八九年三月同第一三七號、同五九〇年三月同第一三〇號、同五九一年三月同第一三七號、同五九二年三月同第一三〇號、同五九三年三月同第一三七號、同五九四年三月同第一三〇號、同五九五年三月同第一三七號、同五九六年三月同第一三〇號、同五九七年三月同第一三七號、同五九八年三月同第一三〇號、同五九九年三月同第一三七號、同六〇〇年三月同第一三〇號、同六〇一年三月同第一三七號、同六〇二年三月同第一三〇號、同六〇三年三月同第一三七號、同六〇四年三月同第一三〇號、同六〇五年三月同第一三七號、同六〇六年三月同第一三〇號、同六〇七年三月同第一三七號、同六〇八年三月同第一三〇號、同六〇九年三月同第一三七號、同六一〇年三月同第一三〇號、同六一一年三月同第一三七號、同六一二年三月同第一三〇號、同六一三年三月同第一三七號、同六一四年三月同第一三〇號、同六一五年三月同第一三七號、同六一六年三月同第一三〇號、同六一七年三月同第一三七號、同六一八年三月同第一三〇號、同六一九年三月同第一三七號、同六二〇年三月同第一三〇號、同六二一年三月同第一三七號、同六二二年三月同第一三〇號、同六二三年三月同第一三七號、同六二四年三月同第一三〇號、同六二五年三月同第一三七號、同六二六年三月同第一三〇號、同六二七年三月同第一三七號、同六二八年三月同第一三〇號、同六二九年三月同第一三七號、同六三〇年三月同第一三〇號、同六三一年三月同第一三七號、同六三二年三月同第一三〇號、同六三三年三月同第一三七號、同六三四年三月同第一三〇號、同六三五年三月同第一三七號、同六三六年三月同第一三〇號、同六三七年三月同第一三七號、同六三八年三月同第一三〇號、同六三九年三月同第一三七號、同六四〇年三月同第一三〇號、同六四一年三月同第一三七號、同六四二年三月同第一三〇號、同六四三年三月同第一三七號、同六四四年三月同第一三〇號、同六四五年三月同第一三七號、同六四六年三月同第一三〇號、同六四七年三月同第一三七號、同六四八年三月同第一三〇號、同六四九年三月同第一三七號、同六五〇年三月同第一三〇號、同六五一年三月同第一三七號、同六五二年三月同第一三〇號、同六五三年三月同第一三七號、同六五四年三月同第一三〇號、同六五五年三月同第一三七號、同六五六年三月同第一三〇號、同六五七年三月同第一三七號、同六五八年三月同第一三〇號、同六五九年三月同第一三七號、同六六〇年三月同第一三〇號、同六六一年三月同第一三七號、同六六二年三月同第一三〇號、同六六三年三月同第一三七號、同六六四年三月同第一三〇號、同六六五年三月同第一三七號、同六六六年三月同第一三〇號、同六六七年三月同第一三七號、同六六八年三月同第一三〇號、同六六九年三月同第一三七號、同六七〇年三月同第一三〇號、同六七一年三月同第一三七號、同六七二年三月同第一三〇號、同六七三年三月同第一三七號、同六七四年三月同第一三〇號、同六七五年三月同第一三七號、同六七六年三月同第一三〇號、同六七七年三月同第一三七號、同六七八年三月同第一三〇號、同六七九年三月同第一三七號、同六八〇年三月同第一三〇號、同六八一年三月同第一三七號、同六八二年三月同第一三〇號、同六八三年三月同第一三七號、同六八四年三月同第一三〇號、同六八五年三月同第一三七號、同六八六年三月同第一三〇號、同六八七年三月同第一三七號、同六八八年三月同第一三〇號、同六八九年三月同第一三七號、同六九〇年三月同第一三〇號、同六九一年三月同第一三七號、同六九二年三月同第一三〇號、同六九三年三月同第一三七號、同六九四年三月同第一三〇號、同六九五年三月同第一三七號、同六九六年三月同第一三〇號、同六九七年三月同第一三七號、同六九八年三月同第一三〇號、同六九九年三月同第一三七號、同七〇〇年三月同第一三〇號、同七〇一年三月同第一三七號、同七〇二年三月同第一三〇號、同七〇三年三月同第一三七號、同七〇四年三月同第一三〇號、同七〇五年三月同第一三七號、同七〇六年三月同第一三〇號、同七〇七年三月同第一三七號、同七〇八年三月同第一三〇號、同七〇九年三月同第一三七號、同七一〇年三月同第一三〇號、同七一一年三月同第一三七號、同七一二年三月同第一三〇號、同七一三年三月同第一三七號、同七一四年三月同第一三〇號、同七一五年三月同第一三七號、同七一六年三月同第一三〇號、同七一七年三月同第一三七號、同七一八年三月同第一三〇號、同七一九年三月同第一三七號、同七二〇年三月同第一三〇號、同七二一年三月同第一三七號、同七二二年三月同第一三〇號、同七二三年三月同第一三七號、同七二四年三月同第一三〇號、同七二五年三月同第一三七號、同七二六年三月同第一三〇號、同七二七年三月同第一三七號、同七二八年三月同第一三〇號、同七二九年三月同第一三七號、同七三〇年三月同第一三〇號、同七三一年三月同第一三七號、同七三二年三月同第一三〇號、同七三三年三月同第一三七號、同七三四年三月同第一三〇號、同七三五年三月同第一三七號、同七三六年三月同第一三〇號、同七三七年三月同第一三七號、同七三八年三月同第一三〇號、同七三九年三月同第一三七號、同七四〇年三月同第一三〇號、同七四一年三月同第一三七號、同七四二年三月同第一三〇號、同七四三年三月同第一三七號、同七四四年三月同第一三〇號、同七四五年三月同第一三七號、同七四六年三月同第一三〇號、同七四七年三月同第一三七號、同七四八年三月同第一三〇號、同七四九年三月同第一三七號、同七五〇年三月同第一三〇號、同七五一年三月同第一三七號、同七五二年三月同第一三〇號、同七五三年三月同第一三七號、同七五四年三月同第一三〇號、同七五五年三月同第一三七號、同七五六年三月同第一三〇號、同七五七年三月同第一三七號、同七五八年三月同第一三〇號、同七五九年三月同第一三七號、同七六〇年三月同第一三〇號、同七六一年三月同第一三七號、同七六二年三月同第一三〇號、同七六三年三月同第一三七號、同七六四年三月同第一三〇號、同七六五年三月同第一三七號、同七六六年三月同第一三〇號、同七六七年三月同第一三七號、同七六八年三月同第一三〇號、同七六九年三月同第一三七號、同七七〇年三月同第一三〇號、同七七一年三月同第一三七號、同七七二年三月同第一三〇號、同七七三年三月同第一三七號、同七七四年三月同第一三〇號、同七七五年三月同第一三七號、同七七六年三月同第一三〇號、同七七七年三月同第一三七號、同七七八年三月同第一三〇號、同七七九年三月同第一三七號、同七八〇年三月同第一三〇號、同七八一年三月同第一三七號、同七八二年三月同第一三〇號、同七八三年三月同第一三七號、同七八四年三月同第一三〇號、同七八五年三月同第一三七號、同七八六年三月同第一三〇號、同七八七年三月同第一三七號、同七八八年三月同第一三〇號、同七八九年三月同第一三七號、同七九〇年三月同第一三〇號、同七九一年三月同第一三七號、同七九二年三月同第一三〇號、同七九三年三月同第一三七號、同七九四年三月同第一三〇號、同七九五年三月同第一三七號、同七九六年三月同第一三〇號、同七九七年三月同第一三七號、同七九八年三月同第一三〇號、同七九九年三月同第一三七號、同八〇〇年三月同第一三〇號、同八〇一年三月同第一三七號、同八〇二年三月同第一三〇號、同八〇三年三月同第一三七號、同八〇四年三月同第一三〇號、同八〇五年三月同第一三七號、同八〇六年三月同第一三〇號、同八〇七年三月同第一三七號、同八〇八年三月同第一三〇號、同八〇九年三月同第一三七號、同八一〇年三月同第一三〇號、同八一一年三月同第一三七號、同八一二年三月同第一三〇號、同八一三年三月同第一三七號、同八一四年三月同第一三〇號、同八一五年三月同第一三七號、同八一六年三月同第一三〇號、同八一七年三月同第一三七號、同八一八年三月同第一三〇號、同八一九年三月同第一三七號、同八二〇年三月同第一三〇號、同八二一年三月同第一三七號、同八二二年三月同第一三〇號、同八二三年三月同第一三七號、同八二四年三月同第一三〇號、同八二五年三月同第一三七號、同八二六年三月同第一三〇號、同八二七年三月同第一三七號、同八二八年三月同第一三〇號、同八二九年三月同第一三七號、同八三〇年三月同第一三〇號、同八三一年三月同第一三七號、同八三二年三月同第一三〇號、同八三三年三月同第一三七號、同八三四年三月同第一三〇號、同八三五年三月同第一三七號、同八三六年三月同第一三〇號、同八三七年三月同第一三七號、同八三八年三月同第一三〇號、同八三九年三月同第一三七號、同八四〇年三月同第一三〇號、同八四一年三月同第一三七號、同八四二年三月同第一三〇號、同八四三年三月同第一三七號、同八四四年三月同第一三〇號、同八四五年三月同第一三七號、同八四六年三月同第一三〇號、同八四七年三月同第一三七號、同八四八年三月同第一三〇號、同八四九年三月同第一三七號、同八五〇年三月同第一三〇號、同八五一年三月同第一三七號、同八五二年三月同第一三〇號、同八五三年三月同第一三七號、同八五四年三月同第一三〇號、同八五五年三月同第一三七號、同八五六年三月同第一三〇號、同八五七年三月同第一三七號、同八五八年三月同第一三〇號、同八五九年三月同第一三七號、同八六〇年三月同第一三〇號、同八六一年三月同第一三七號、同八六二年三月同第一三〇號、同八六三年三月同第一三七號、同八六四年三月同第一三〇號、同八六五年三月同第一三七號、同八六六年三月同第一三〇號、同八六七年三月同第一三七號、同八六八年三月同第一三〇號、同八六九年三月同第一三七號、同八七〇年三月同第一三〇號、同八七一年三月同第一三七號、同八七二年三月同第一三〇號、同八七三年三月同第一三七號、同八七四年三月同第一三〇號、同八七五年三月同第一三七號、同八七六年三月同第一三〇號、同八七七年三月同第一三七號、同八七八年三月同第一三〇號、同八七九年三月同第一三七號、同八八〇年三月同第一三〇號、同八八一年三月同第一三七號、同八八二年三月同第一三〇號、同八八三年三月同第一三七號、同八八四年三月同第一三〇號、同八八五年三月同第一三七號、同八八六年三月同第一三〇號、同八八七年三月同第一三七號、同八八八年三月同第一三〇號、同八八九年三月同第一三七號、同八九〇年三月同第一三〇號、同八九一年三月同第一三七號、同八九二年三月同第一三〇號、同八九三年三月同第一三七號、同八九四年三月同第一三〇號、同八九五年三月同第一三七號、同八九六年三月同第一三〇號、同八九七年三月同第一三七號、同八九八年三月同第一三〇號、同八九九年三月同第一三七號、同九〇〇年三月同第一三〇號、同九〇一年三月同第一三七號、同九〇二年三月同第一三〇號、同九〇三年三月同第一三七號、同九〇四年三月同第一三〇號、同九〇五年三月同第一三七號、同九〇六年三月同第一三〇號、同九〇七年三月同第一三七號、同九〇八年三月同第一三〇號、同九〇九年三月同第一三七號、同九一〇年三月同第一三〇號、同九一一年三月同第一三七號、同九一二年三月同第一三〇號、同九一三年三月同第一三七號、同九一四年三月同第一三〇號、同九一五年三月同第一三七號、同九一六年三月同第一三〇號、同九一七年三月同第一三七號、同九一八年三月同第一三〇號、同九一九年三月同第一三七號、同九二〇年三月同第一三〇號、同九二一年三月同第一三七號、同九二二年三月同第一三〇號、同九二三年三月同第一三七號、同九二四年三月同第一三〇號、同九二五年三月同第一三七號、同九二六年三月同第一三〇號、同九二七年三月同第一三七號、同九二八年三月同第一三〇號、同九二九年三月同第一三七號、同九三〇年三月同第一三〇號、同九三一年三月同第一三七號、同九三二年三月同第一三〇號、同九三三年三月同第一三七號、同九三四年三月同第一三〇號、同九三五年三月同第一三七號、同九三六年三月同第一三〇號、同九三七年三月同第一三七號、同九三八年三月同第一三〇號、同九三九年三月同第一三七號、同九四〇年三月同第一三〇號、同九四一年三月同第一三七號、同九四二年三月同第一三〇號、同九四三年三月同第一三七號、同九四四年三月同第一三〇號、同九四五年三月同第一三七號、同九四六年三月同第一三〇號、同九四七年三月同第一三七號、同九四八年三月同第一三〇號、同九四九年三月同第一三七號、同九五〇年三月同第一三〇號、同九五一年三月同第一三七號、同九五二年三月同第一三〇號、同九五三年三月同第一三七號、同九五四年三月同第一三〇號、同九五五年三月同第一三七號、同九五六年三月同第一三〇號、同九五七年三月同第一三七號、同九五八年三月同第一三〇號、同九五九年三月同第一三七號、同九六〇年三月同第一三〇號、同九六一年三月同第一三七號、同九六二年三月同第一三〇號、同九六三年三月同第一三七號、同九六四年三月同第一三〇號、同九六五年三月同第一三七號、同九六六年三月同第一三〇號、同九六七年三月同第一三七號、同九六八年三月同第一三〇號、同九六九年三月同第一三七號、同九七〇年三月同第一三〇號、同九七一年三月同第一三七號、同九七二年三月同第一三〇號、同九七三年三月同第一三七號、同九七四年三月同第一三〇號、同九七五年三月同第一三七號、同九七六年三月同第一三〇號、同九七七年三月同第一三七號、同九七八年三月同第一三〇號、同九七九年三月同第一三七號、同九八〇年三月同第一三〇號、同九八一年三月同第一三七號、同九八二年三月同第一三〇號、同九八三年三月同第一三七號、同九八四年三月同第一三〇號、同九八五年三月同第一三七號、同九八六年三月同第一三〇號、同九八七年三月同第一三七號、同九八八年三月同第一三〇號、同九八九年三月同第一三七號、同九九〇年三月同第一三〇號、同九九一年三月同第一三七號、同九九二年三月同第一三〇號、同九九三年三月同第一三七號、同九九四年三月同第一三〇號、同九九五年三月同第一三七號、同九九六年三月同第一三〇號、同九九七年三月同第一三七號、同九九八年三月同第一三〇號、同九九九年三月同第一三七號、同一〇〇〇年三月同第一三〇號、同一〇〇一年三月同第一三七號、同一〇〇二年三月同第一三〇號、同一〇〇三年三月同第一三七號、同一〇〇四年三月同第一三〇號、同一〇〇五年三月同第一三七號、同一〇〇六年三月同第一三〇號、同一〇〇七年三月同第一三七號、同一〇〇八年三月同第一三〇號、同一〇〇九年三月同第一三七號、同一〇一〇年三月同第一三〇號、同一〇一一年三月同第一三七號、同一〇一二年三月同第一三〇號、同一〇一三年三月同第一三七號、同一〇一四年三月同第一三〇號、同一〇一五年三月同第一三七號、同一〇一六年三月同第一三〇號、同一〇一七年三月同第一三七號、同一〇一八年三月同第一三〇號、同一〇一九年三月同第一三七號、同一〇二〇年三月同第一三〇號、同一〇二一年三月同第一三七號、同一〇二二年三月同第一三〇號、同一〇二三年三月同第一三七號、同一〇二四年三月同第一三〇號、同一〇二五年三月同第一三七號、同一〇二六年三月同第一三〇號、同一〇二七年三月同第一三七號、同一〇二八年三月同第一三〇號、同一〇二九年三月同第一三七號、同一〇三〇年三月同第一三〇號、同一〇三一年三月同第一三七號、同一〇三二年三月同第一三〇號、同一〇三三年三月同第一三七號、同一〇三四年三月同第一三〇號、同一〇三五年三月同第一三七號、同一〇三六年三月同第一三〇號、同一〇三七年三月同第一三七號、同一〇三八年三月同第一三〇號、同一〇三九年三月同第一三七號、同一〇四〇年三月同第一三〇號、同一〇四一年三月同第一三七號、同一〇四二年三月同第一三〇號、同一〇四三年三月同第一三七號、同一〇四四年三月同第一三〇號、同一〇四五年三月同第一三七號、同一〇四六年三月同第一三〇號、同一〇四七年三月同第一三七號、同一〇四八年三月同第一三〇號、同一〇四九年三月同第一三七號、同一〇五〇年三月同第一三〇號、同一〇五一年三月同第一三七號、同一〇五二年三月同第一三〇號、同一〇五三年三月同第一三七號、同一〇五四年三月同第一三〇號、同一〇五五年三月同第一三七號、同一〇五六年三月同第一三〇號、同一〇五七年三月同第一三七號、同一〇五八年三月同第一三〇號、同一〇五九年三月同第一三七號、同一〇六〇年三月同第一三〇號、同一〇六一年三月同第一三七號、同一〇六二年三月同第一三〇號、同一〇六三年三月同第一三七號、同一〇六四年三月同第一三〇號、同一〇六五年三月同第一三七號、同一〇六六年三月同第一三〇號、同一〇六七年三月同第一三七號、同一〇六八年三月同第一三〇號、同一〇六九年三月同第一三七號、同一〇七〇年三月同第一三〇號、同一〇七一年三月同第一三七號、同一〇七二年三月同第一三〇號、同一〇七三年三月同第一三七號、同一〇七四年三月同第一三〇號、同一〇七五年三月同第一三七號、同一〇七六年三月同第一三〇號、同一〇七七年三月同第一三七號、同一〇七八年三月同第一三〇號、同一〇七九年三月同第一三七號、同一〇八〇年三月同第一三〇號、同一〇八一年三月同第一三七號、同一〇八二年三月同第一三〇號、同一〇八三年三月同第一三七號、同一〇八四年三月同第一三〇號、同一〇八五年三月同第一三七號、同一〇八六年三月同第一三〇號、同一〇八七年三月同第一三七號、同一〇八八年三月同第一三〇號、同一〇八九年三月同第一三七號、同一〇九〇年三月同第一三〇號、同一〇九一年三月同第一三七號、同一〇九二年三月同第一三〇號、同一〇九三年三月同第一三七號、同一〇九四年三月同第一三〇號、同一〇九五年三月同第一三七號、同一〇九六年三月同第一三〇號、同一〇九七年三月同第一三七號、同一〇九八年三月同第一三〇號、同一〇九九年三月同第一三七號、同一一〇〇

五　電話機ニ依リ託送電報ヲ送受スルトキハ努メテ音聲ヲ明瞭ニシ適宜ノ箇所ニ僅少ノ間隔ヲ置キ種類、字(語)數、名宛、指定事項及本文ヲ通話スルトキハ各其ノ前ニ其ノ名稱ヲ前置スヘシ

六　電話託送發受者ニ於テ託送電報ヲ頼信セムトスルトキハ電信官署ヲ呼出シ其ノ電話番號、氏名及電報頼信ノ旨ヲ告ケタル後左ノ順序ニ依リ電報ヲ通話シ其ノ領諾ノ返答ヲ受クヘシ電信官署ニ於テ必要アルトキハ通話終了後電話託送發受者ヲ呼出シ電報頼信ノ有無ヲ確ムルコトアルヘシ

和文電報

(一)　電報ノ種類官報又ハ私報ノ別(慶弔電報ニ付テハ慶祝弔慰又ハ年賀ノ別及例文電報又ハ任意文電報ノ別)

(二)　電報ノ字數慶弔電報中例文電報ニ付テハ之ヲ省略スヘシ

(三)　電報ノ名宛

(四)　指定事項指定略號ヲ用ヰス必ス至急、返信料前納、照校、同文又ハ別使配達等ト通話スヘシ

(五)　電報ノ本文慶弔電報中例文電報ニ付テハ初メニ慶祝文、弔慰文又ハ年賀文ノ略號又ハ番號ヲ、次ニ受信人ニ知ラシメントスル發信人名ヲ通話スヘシ

(六)　發信人ノ居所氏名

(七)　電報ニ付注意ヲ要スルトキハ其ノ事項

歐文電報

(一)　電報ノ種類官報、私報ノ別

(二)　電報ノ語數有料語數ト實際ノ語數ト差異アルトキハ有料語數ノ次ニ實際ノ語數ヲ通話スヘシ例ヘハ十五字以上ヲ聯記シタル語辭ハ一語ト雖二語ニ計算セラルルヲ以テ此ノ場合ニハ有料語數二語、實語數一語トスルカ如シ

(三)　指定指定略號ヲ用ヰス必ス至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話スヘシ

(四)　名宛

(五)　電報ノ本文

(六)　署名

(七)　電報ニ付注意ヲ要スルトキハ其ノ事項

七　電話託送發受者ニ宛タル電報ヲ電信官署ニ於テ通話スルトキハ電話託送發受者ヲ呼出シ其ノ電話番號及氏名ヲ確メタル後左ノ順序ニ依リ電報ヲ通話スルヲ以テ電話託送發受者ニ於テ之ヲ書取リタルトキハ領諾ノ返答ヲ爲スヘシ若電報ノ字(語)數相違スルトキ又ハ不明瞭ノ廉アルトキハ質問ヲ爲スヘシ

和文電報

(一)　電報ノ種類官報、私報ノ別

(二)　電報ノ字數

(三)　發信局所名

(四)　發信番號

(五)　受付日當日ノモノハ省略ス及時刻

(六)　名宛

(七)　指定事項至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ次ニ其ノ指定略號ヲ通話ス

(八)　電報ノ本文

(九)　電報ニ付注意ヲ要スルトキハ其ノ事項

歐文電報

(一)　電報ノ種類官報、私報ノ別

(二)　發信局所名

(三)　發信番號

(四)　電報ノ語數有料語數ト實際ノ語數ト差異アルトキハ有料語數ノ次ニ實語數

(五)　受付月日當日ノモノハ省略ス及時分

(六)　指定事項至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ其ノ次ニ指定略號ヲ通話ス

(七)　名宛

(八)　電報ノ本文

(八)ノ二　署名

(九)　電報ニ付注意ヲ要スルトキハ其ノ事項

八　電報送受ノ爲施設シタル電信、電話、無線電信、無線電話又ハ氣送管ニ依ル託送電報ノ送受ニ關シテハ別ニ定ムル規定ニ依ルヘシ

九　電報取扱時間外ニ於テハ電報取扱時間ニ拘ラス取扱フヘキ電報ニ非サレハ託送電報ヲ頼信シ得サルモノトス

十　託送電報發受者ニ宛テタル電報ニシテ返信料ノ前納シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ノ番號、前納料金額及證書發行ノ月日ヲ電報送達ノ際通知シ該證書ハ發行ノ日ヨリ三日間電信官署ニ之ヲ保管ス但シ著信電報ノミノ託送電報發受者ニ宛テタル電報ノ返信料前納證書ハ一般電報配達ノ例ニ依リ之ヲ送達ス

前項ニ依リ電信官署ニ保管シタル返信料前納證書ヲ保管開始ノ日ヨリ三日以内ニ使用セサルトキハ電信官署ニ於テ之ヲ該託送電報發受者ニ送付ス

十一　託送電報發受者ニ於テ電報ヲ頼信スル場合電信官署ニ保管中ノ自己ニ宛テタル返信料前納證書ヲ使用セムトスルトキハ其ノ旨及返信料前納證書ノ番號ヲ告クヘシ

十一ノ二　電話託送發受者ニ宛テタル電報ノ送達紙ハ當該電話託送發受者ヨリ請求アルトキハ電報送達後之ヲ交付ス

十二　託送電報發受者ニ於テ其ノ發受シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ノ請求ヲ爲シタル場合ハ之ニ要シタル電報ノ料金ハ其ノ都度電信官署ニ於テ當該託送電報發受者ニ之ヲ通知ス

十三　託送電報發受者ニ宛テタル電報ニ關シ料金ノ追納ヲ要スルモノアルトキハ其ノ金額及事由ヲ電報送達ノ際通知ス

託送電報發受者ノ納付スヘキ電報ニ關スル料金ニ付テハ電信官署ノ通知スル所ニ依リ毎月分ヲ取纏メ翌月二十日迄ニ之ヲ納付スヘシ

本告示ハ大正十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年九月遞信省告示第三百四十號ハ本告示施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●私設電信電話線其他電機ニ係ル工事ヲ遞信省ヘ委托手續

(明治二十三年五月七日遞信省告示第八十七號)

【沿革】　大正二年九月告示第六五三號改正

私設電信電話線其他電機ニ係ル工事ノ執行ヲ遞信省ニ委托セントスルトキハ左ノ手續ニ據ルヘシ

一　私設電信電話線ノ架設及臨時ノ修理其他總テ電機建設ニ係ル工事ノ執行方ヲ遞信省ニ請求シ其許可ヲ得タルトキハ其工事ニ要スル物品ハ電信電話技術官ノ承認ヲ經テ工事委托者ヨリ之ヲ電信電話技術官ニ交付スヘシ

二　工事ニ關スル官吏ノ旅費、工夫及雇人ノ賃金、電柱代價又ハ工事現場ニ於テ臨時ニ購入スヘキ物品代價ハ委托者ヨリ直ニ電信電話技術官ノ指定スル請求人ニ交付スヘシ但諸費支拂場所及支拂人名ハ豫メ電信電話技術官ニ通知シ置クヘシ

三　電信電話技術官工事現場ニ於テ諸費ノ支拂ヲ必要ト認メ之ヲ委托者ニ通知スルトキハ支障ナキ樣取計フヘシ

四　私設電信電話線ヲ遞信省所屬電線路ニ添架シタル後其線路維持ニ係ル費用ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル手續ニ依リ之ヲ納付スヘシ

●私設電信規則ニ依ル料金額及其ノ納付手續（明治三十三年九月一日遞信省令第四十九號）

【沿革】明治四十三年三月省令第三八號、昭和三年九月同第五一號、同七年十一月同第五〇號、同十三年十月同第七六號、同十六年一月同第六號改正

私設電信規則ニ依ル料金額及其ノ納付手續左ノ通之ヲ定ム

第一條　私設電信規則第二十條第二項ニ依ル維持料ノ金額左ノ如シ

電信機	一箇ニ付　年額	百六十圓
但シ印刷電信機ニ付テハ實費ニ依ル		
電話機	一箇ニ付　年額	八十圓

第一條ノ二　私設電信規則第二十條ノ二ニ依ル電線使用料ノ金額左ノ如シ

架空又ハ地下「ケーブル」心線一條百メートル迄毎ニ　年額一圓四十錢

第一條ノ三　私設電信規則第二十八條ノ三ニ依リ郵便局又ハ電信局ニ施設スル氣送管及信號設備ノ維持料ハ實費ニ依ル

第二條　維持料（電線使用料ヲ含ム以下之ニ同シ）ハ私設電信ヲ連接スル郵便局又ハ電信局ニ納付スヘシ

第三條　維持料ハ年額金ヲ四分シ左ニ掲グル四期ノ別ニ從ヒ每期ノ初月十日マテニ納付スヘシ

第一期	四月一日ヨリ	六月三十日マテ
第二期	七月一日ヨリ	九月三十日マテ
第三期	十月一日ヨリ	十二月三十一日マテ
第四期	一月一日ヨリ	三月三十一日マテ

第四條　一期ノ中途ニ於テ通報ヲ開始スヘキトキハ其ノ期ノ維持料ハ開始ノ月ヨリ其ノ期ノ末月マテノ月數ヲ年額ニ乘シ之ヲ十二分シテ算出シ通報開始ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スヘシ

第五條　一期ノ中途ニ於テ通報ヲ廢止、中止又ハ停止シタルトキト雖其ノ期ノ維持料全額ヲ納付スルモノトス

一期ノ初日ヨリ通報ヲ廢止シ又ハ中止スル場合ニ於テ私設電信規則第十一條ニ依ル屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ期ノ維持料全額ヲ納付スルモノトス

第六條　一期ノ中途ニ於テ機械ノ種類ヲ變更シタルトキト雖其ノ一期分ハ變更前ノ割合ヲ以テ維持料ヲ納付スルモノトス但シ低額ノ維持料ヲ納ムヘキモノヨリ更ニ高額ノ維持料ヲ納ムヘキモノニ變更シタルトキハ第四條ノ規定ニ準シテ其ノ差額ヲ算出シ變更ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スヘシ

第七條　郵便局又ハ電信局ニ連接スル電鈴線ノ正午通報料ハ前各條ノ規定ニ依リ一回線ニ付年額十二圓ヲ納付スヘシ

前項ノ通報料ヲ通信官署官制第十六條第一項但書ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ特ニ指定スル郵便局又ハ縣替拂出納官吏ヲ置カサル電信局ニ納付スルモノハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

●電氣通信施設ノ專用ニ關スル件（昭和十六年七月十七日遞信省令第七十一號）

電氣通信施設ノ專用ニ關スル件左ノ通定ム

電氣通信施設ノ專用ニ關スル件

第一條　遞信大臣ニ於テ軍事上其ノ他特ニ必要アリト認ムルトキハ別ニ定ムル規定ニ依ル場合ヲ除クノ外電氣通信施設ノ專用ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條　前條ノ電氣通信施設トハ電信回線（內地ト滿洲國及中華民國以外ノ外國トノ間ノモノヲ除ク）、電話回線（內地ト滿洲國以外ノ外國トノ間ノモノヲ除ク）、通信線路、無線電信無線電話設備、有線放送設備其ノ他遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムルモノヲ謂フ

第三條　電氣通信施設ノ專用ノ許可ヲ受ケントスルモノハ專用ヲ必要トスル理由、專用スヘキ電氣通信施設ノ區別、專用ノ區間又ハ場所、專用ノ期間其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル願書ヲ所轄遞信局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ差出スヘシ

第四條　遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ出願者ニ對シ專用セシムヘキ電氣通信施設ノ設備費ヲ納付シ若ハ其ノ設備ニ要スル物件ヲ無償ニテ寄附シ又ハ其ノ設備及維持ノ一部ヲ爲スコトヲ命ズルコトアルヘシ

第五條　電氣通信施設ノ專用ニ關スル料金及條件等ハ別ニ之ヲ指定ス

第六條　遞信大臣ニ於テ軍事上若ハ公益上特ニ必要アリト認ムルトキ又ハ專用者前條ニ依リ指定スル事項ヲ遵守セサルトキハ電氣通信施設ノ專用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

附則

第七條　本令ハ昭和十六年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　左ノ各號ノ遞信省令ハ之ヲ廢止ス

一　昭和三年七月遞信省令第三十四號專用寫眞電信ニ關スル件
二　昭和十二年十月遞信省令第七十四號市外電話回線專用ニ關スル件
三　昭和十四年六月遞信省令第三十號日華專用寫眞電信ニ關スル件
四　昭和十四年八月遞信省令第三十七號日滿專用寫眞電信ニ關スル件
五　昭和十四年九月遞信省令第四十號日滿電話回線專用ニ關スル件

第九條　本令施行前前條各號ニ掲グル規定ニ依リ專用ヲ許可シタルモノハ本令ニ依リ許可シタルモノト看做ス

●郵便、電信及電話ニ關スル損害賠償、報酬及費用等ノ請求ニ關スル件

（昭和十三年四月三十日遞信省令第三十八號）

郵便、電信及電話ニ關スル損害賠償、報酬及費用等ノ請求ニ關スル件左ノ通定ム

郵便、電信及電話ニ關スル損害賠償、報酬及費用等ノ請求ニ關スル件

第一條　郵便法、電信法及無線電信法ニ依ル損害ノ賠償、報酬、使用料、費用及實費ノ請求ニ關シテハ郵便法第三十三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　郵便法第四條ノ規定ニ依リ損害ノ賠償ヲ請求セントスル者ハ請求ノ事由及金額ヲ記載シタル請求書ヲ損害ヲ生セシメタル郵便遞送人又ハ郵便集配人ノ屬スル郵便局ヲ管轄スル遞信局ニ提出スベシ

電信法第六條ノ規定ニ依リ損害ノ賠償ヲ請求セントスル者ハ請求ノ事由及金額ヲ記載シタル請求書ヲ損害ヲ生セシメタル電信若ハ電話ノ工夫ノ屬スル遞信局又ハ電信若ハ電話ノ配達人ノ屬スル電信若ハ電信局所ヲ管轄スル遞信局ニ提出スベシ

第三條　前條ノ規定ハ郵便法第五條又ハ電信法第七條ノ規定ニ依リ報酬ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　電信法第九條第二項又ハ無線電信法第十四條第二項ノ規定ニ依リ使用料、費用又ハ實費ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由及金額ヲ記載シタル請求書ヲ所轄遞信局ヲ經由シ遞信大臣ニ提出スベシ

第五條　無線電信法第二十八條ノ三第一項ノ規定ニ依ル政府ノ補償スル費用ハ施設者ノ請求ヲ俟チテ之ヲ支給ス

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ工事竣功ノ日ヨリ三月內ニ其ノ事由及金額ヲ記載シタル請求書ヲ所轄遞信局ヲ經由シ遞信大臣ニ提出スベシ

第六條　無線電信法第二十八條ノ三第一項ニ依ル設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合之ニ要シタル費用ハ前條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ請求スルコトヲ得ズ

一　命令スル所ニ反シ通信障碍ヲ除去スルコト能ハザルトキ

二　無線電信若ハ無線電話ニ依ル公衆電信若ハ軍事通信開始ノ後又ハ當該無線電信若ハ無線電話ノ機器裝置變更ノ後新ニ設備シ若ハ變更シタルニ因リ通信障碍ヲ生ジ之ニ對シ命セラレタルモノナルトキ

三　修繕其ノ他當該設備保守上必要ナル處置ニ屬スルトキ

第七條　損害ノ賠償、報酬、使用料、費用又ハ實費ノ請求アリタルトキハ遞信大臣又ハ遞信局長ハ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求人ニ通知ス

附　則

本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ遞信省令ハ之ヲ廢止ス

明治三十三年九月遞信省令第五十八號

昭和四年十二月遞信省令第五十七號無線電信法第二十八條ノ三ニ依ル費用補償ニ關スル件

●電信及電話線路移轉願書差出方

（明治三十六年四月七日遞信省告示第二百三十八號）

【沿革】明治四十三年三月告示第四五一號、大正二年六月同第四九九號、同年九月同第六六四號、同八年五月同第六四六號改正

電信線路電話線路ノ移轉ヲ請求セントスルモノハ自今所轄遞信局ヘ願書差出スヘシ

●電柱敷地手當金請求方

（明治二十三年四月四日遞信省告示第六十八號）

【沿革】明治二十八年三月告示第四八號、同三十二年五月同第一五一號改正

民有地ニ建設セル電柱敷地手當金請求方ハ自今前年四月ヨリ次年三月マテノ分ハ其年七月三十一日マテニ交付候條該敷地手當金ヲ受領スヘキ者ハ左ノ書式ニ據リ其年四月五日迄ニ管轄地方廳ヘ交付方申出ツヘシ但受領者ハ最寄協議ノ上便宜代理人ヲ定メ交付方申出ツルモ妨ケナシ

（書式）

請求書（債主自ラ請求スルトキノ例）

一金　何程

明治何年度分電柱敷地手當

內譯

金　何程　　電信柱本支柱何本分

金　何程　　電話柱本支柱何本分

右交付相成度候也

年　月　日

住所

姓　名印

北海道廳長官
府縣知事宛

請求書（債主二人以上ノ分ヲ代理請求スルトキノ例）

一金　何程

明治何年度分電柱敷地手當

內譯

金　何程　　電信柱本支柱何本分

金　何程　　電話柱本支柱何本分

債主	住所	本支柱本數	金額
			圓

債主	住所	本支柱本數	金額
			圓

右交付相成度候也

年　月　日

何某外何人代人

北海道廳長官
府縣知事宛

住所
姓　　名印

●無線通信士資格檢定規則

（昭和六年四月一日逓信省令第八號）

【沿革】昭和七年七月省令第二四號、同九年二月同第三一號、同十三年五月同第四四號、同年十月同第七七號、同十三年十二月同第九四號改正

無線通信士資格檢定規則左ノ通定ム

第一條　無線通信士ノ資格ハ左ノ區別ニ從ヒ試驗又ハ銓衡ニ依リ逓信大臣ノ命ジタル無線通信士資格檢定委員之ヲ檢定ス

第一級　私設無線電信ノ通信及無線電話放送用私設無線電話規則ニ依ルモノヲ除ク以下同ジ通信ニ從事シ得ル者

第二級　無線電信法第二條第一號第二號第四號乃至第六號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信、同條第三號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ歐文通信ノ補助及和文通信竝私設無線電話ノ通信ニ從事シ得ル者

第三級　無線電信法第二條第一號第二號第四號及第六號ニ依リ總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ施設シタル私設無線電信ノ通信、同條第三號ニ依リ同漁船ニ施設シタル私設無線電信ノ和文通信、同條第五號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信、同條第六號ニ依リ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設シタル私設無線電信ノ通信及同條各號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信ノ補助竝空中線電力百「ワット」以下ノ私設無線電話

航空級　旅客運送ノ用ニ供セラレザル航空機ニ施設シタル私設無線電信ノ通信及同航空機ニ施設シタル私設無線電話ノ通信ニ從事シ得ル者

電話級　空中線電力百「ワット」以下ノ私設無線電話ノ通信ニ從事シ得ル者

聽守員級　無線電信法第二條第六號ニ依リ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設シタル私設無線電信ノ通信及船舶ニ施設シタル私設無線電信ニ於ケル聽守ニ從事シ得ル者

前項ノ檢定ハ第一級及第二級ハ十七歲以上其ノ他ハ十四歲以上ノ者ニ就キ之ヲ行フ

第二條　試驗檢定ノ試驗科目左ノ如シ

第一級

一　無線電信無線電話學　電氣ノ一般原理及無線電信無線電話ノ學理

二　無線電信無線電話實驗　無線電信無線電話用機器ノ調整、修理及運用ノ實踐

三　電氣通信術　電信（一分時和文八十五字、歐文隱語二十語及歐文普通語二十五語ノ速度ニ依ル送信及音響受信）　電話（電話ニ依ル送話及受話）

四　無線電信無線電話法規　無線電信無線電話ニ關スル法令及條約竝其ノ他無線電報ノ取扱ニ關スル規定ノ大要

五　交通地理　內國及外國ノ一般交通地理殊ニ無線電信、無線電話、電信及電話ノ通信連絡竝航路又ハ航空路ニ關スル地理

六　英語　中學校卒業程度

第二級

一　無線電信無線電話學　電氣ノ一般原理及無線電信無線電話ノ學理ノ初步

二　無線電信無線電話實驗　無線電信無線電話用機器ノ調整、修理及運用ノ簡易ナル實踐

三　電氣通信術　電話ニ依ル送話及受話

聽守員級

一　無線電信實驗　無線電信受信機ノ調整及運用ノ簡易ナル實踐

二　電氣通信術　電話（一分時和文七十字及歐文隱語十六語ノ速度ニ依ル送信及音響受信）

三　無線電信法規　無線電信ニ關スル法令及條約中遭難通信、航行上ノ危險警戒其ノ他海上又ハ空中ニ於ケル生命財產保全ノ爲必要ナル通信ニ關スル規定

第三條　銓衡檢定ハ無線電信、無線電話又ハ電信ニ依ル通信ノ實務經驗ヲ有スル者ニ付左ノ區別ニ從ヒ申請ニ依リ之ヲ行フ

一　第二級ノ檢定ニ合格シタル後二年以上無線電信法第二條第三號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信ニ從事シタル者又ハ二年以上無線電信ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者ニ就テハ第一級

二　第三級ノ檢定ニ合格シタル後二年以上無線電信法第二條第三號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信ニ從事シタル者又ハ二年以上無線電信ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者ニ就テハ第二級

三　一年以上無線電信ニ依ル公衆通信ノ事務ニ從事シタル者ニ就テハ第三級又ハ航空級

四　航空級ノ試驗檢定ニ合格シタル後六月以上無線電信ニ依ル通信ニ從事シタル者ニ就テハ第三級

五　第三級ノ試驗檢定ニ合格シタル後六月以上無線電信ニ依ル通信ニ從事シタル者ニ就テハ航空級

六　一年以上無線電話ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者ニ就テハ電話級又ハ聽守員級

七　二年以上電信ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者ニ就テハ聽守員級

八　軍用通信ニ從事シタル者ニ就テハ第二級以下無線通信士資格檢定委員ニ於テ前項ノ銓衡上必要アリト認ムルトキハ

前條ノ科目ニ就キ試問ヲ行フコトアルベシ

第四條　遞信省ニ於テ又ハ遞信大臣ノ認定ヲ受ケタル講習所ニ於テ所定ノ無線電信無線電話ノ通信ニ關スル學術ヲ修メ其ノ課程ヲ卒ヘタル者ハ第一級以下ノ資格ニ付銓衡檢定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ認定ヲ受ケントスル講習所ノ管理者ハ遞信大臣ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ申請ヲ爲スベシ

第五條　遞信大臣ハ檢定ニ合格シタル者ニ合格證書（第一號樣式）ヲ附與ス

第六條　檢定合格者ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條　試驗檢定ハ毎年一回之ヲ行ヒ其ノ期日、場所等ハ豫メ之ヲ官報ニ公告ス但シ遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時ニ之ヲ行フコトアルベシ

銓衡檢定ハ隨時之ヲ行フ

第八條　檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書（第二號樣式）ニ履歷書（第三號樣式）、戸籍謄本及寫眞（申請前六月内ニ撮影シタル正面、脫帽、半身像ノ手札形ニシテ臺紙ニ貼附セズ裏面ニ氏名ヲ自記シタルモノ以下同ジ）二葉ヲ添ヘ指定期日迄（銓衡檢定ノモノハ隨時）ニ遞信大臣ヘ提出スベシ

第九條　檢定ヲ申請スル者ハ檢定手數料トシテ第一級ハ四圓、第二級ハ三圓、第三級及航空級ハ二圓、電話級及聽守員級ハ一圓ニ相當スル郵便切手ヲ檢定申請書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

既納ノ檢定手數料ハ檢定ヲ受ケザル場合又ハ第十條ニ依リ檢定ヲ行ハザル場合ト雖之ヲ還付セズ

第十條　無線通信士資格檢定委員ニ於テ檢定申請者ガ履歷ヲ僞リ又ハ試驗ニ際シ不正ノ行爲アリト認メタルトキハ之ニ對スル檢定ヲ行ハズ

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格證書ハ無效トス

第十一條　合格證書ヲ有スル者其ノ氏名ヲ改メ又ハ合格證書ヲ亡失若ハ毀損シタル爲其ノ書換又ハ再渡ヲ申請セントスルトキハ書換又ハ再渡ノ申請書（第四號樣式）ニ寫眞二葉及戸籍抄本（書換ノ場合ニ限ル）ヲ添ヘ之ヲ遞信大臣ヘ提出スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ書換又ハ再渡ノ手數料トシテ五十錢ニ相當スル郵便切手ヲ當該申請書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

附　則

第十二條　本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年十月遞信省令第四十八號私設無線電信通信從事者資格檢定規則ハ之ヲ廢止ス

第十三條　私設無線電信通信從事者資格檢定規則ニ依ル合格證書ヲ有スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ限リ左ノ區別ニ從ヒ本令ニ依ル合格證書ヲ受クルコトヲ得

一　第一級合格證書ヲ有スル者　第一級
二　第二級合格證書ヲ有スル者　第二級
三　漁船級合格證書ヲ有スル者　第三級
四　第三級合格證書ヲ有スル者　聽守員級

前項ニ依リ合格證書ヲ受ケントスル者ハ當該申請書ニ履歷書、戸籍謄本、寫眞二葉及合格證書寫ヲ添ヘ遞信大臣ヘ提出スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ手數料トシテ五十錢ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ之ヲ納付スベシ

第十四條　私設無線電信通信從事者資格檢定規則ニ依リ交付シタル合格證書ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ限リ前條第一項ノ區別ニ從ヒ本令ニ依リ交付シタル當該等級ノ合格證書ト看做ス

（第一號樣式）

約十五糎

第　號

無線通信士資格檢定合格證書

寫眞貼附欄

割印

道府縣族籍

氏　名

生年月日

等級　第一（二）級

右者無線通信士資格檢定規則ニ依リ前記等級ノ資格アルコトヲ證ス

（本合格證書ハ國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則ニ規定スル第一級（第二級）證明書ニ該當スルコトヲ證明ス）

年　月　日

遞信省（印）

約十糎　折目　約十糎

備考

一　本證書ハ手帖型トス
二　本證書ニハ外國語ノ譯文ヲ附ス
三　本樣式ハ第一級又ハ第二級合格證書ノ例ヲ示ス、第三級、航空級、電話級又ハ聽守員級合格證書ニ對シテハ等級ヲ各相當等級ト爲スノ外括弧内ヲ第三級ニ付テハ左記甲號、航空級ニ付テハ左記乙號、電話級ニ付テハ左記丙號、聽守員級ニ付テハ左記丁號ノ通トス

甲　號

本合格證書ハ國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則ニ規定スル特別證明書及無線電話通信士一般證明書竝海上ニ於ケル人命ノ安全ニ關スル國際條約ニ規定スル聽守員證明書ニ該當スルコトヲ證明ス

乙　號

本合格證書ハ國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則ニ規定スル航空業務ニ對スル制限證明書ニ該當スルコトヲ證明ス

丙　號

本合格證書ハ國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則ニ規定スル無線電話通信士一般證明書ニ該當スルコトヲ證明ス

丁　號

本合格證書ハ海上ニ於ケル人命ノ安全ニ關スル國際條約ニ規定スル聽守員證明書ニ該當スルコトヲ證明ス

（第二號樣式）　用紙美濃紙

無線通信士資格檢定申請書

道府縣族籍

郵便切手貼附

申請人　氏　名

生年月日

等級（何）（第（何）級、航空級、電話級又ハ聽守員級ト記載スベシ）

第二六九號

私儀無線通信士資格檢定規則ニ依リ前記等級ノ試驗（銓衡）檢定相受度
同規則第八條ニ依ル書類ヲ添ヘ申請ス

年　月　日

現住所
右
氏　名（印）

遞信大臣宛

備考
申請人氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

（第三號樣式）　用紙美濃紙

履歷書

道府縣族籍
氏　名
生年月日

學業

一　何年何月何日　何學校何科ニ入學
一　何年何月何日　何學校何科修業又ハ卒業若ハ退校（卒業證書ノ謄本又ハ修業證明書別紙添屬）
一　……
……

職務

一　何年何月何日　何官廳（官職名記載）何會社ニ於テ何々ノ職務ニ從事（其ノ官廳（會社）ノ證明書別紙添屬）
一　……
……

賞罰

一　何年何月何日　何々
右ノ通相違無之候也

年　月　日

現住所
右
氏　名（印）

備考
無線電信、無線電話又ハ電信ニ關スル事項ハ詳細ニ之ガ記入ヲ要ス

（第四號樣式）　用紙美濃紙

無線通信士資格檢定合格證書書換（再渡）申請書

道府縣族籍
申請人　氏　名
生年月日

郵便切手貼附

等級（何）（當（何ノ級、航空級、電話級又ハ聽守員級ト記載スベシ）
合格證書番號　第　號

右合格證書左記事由ニ依リ書換（再渡）相受度無線通信士資格檢定規則第十一條ニ依ル書類ヲ添ヘ申請ス

申請ノ事由（書換又ハ再渡ヲ要スル事由ヲ詳細記入スベシ）

年　月　日

現住所
右

遞信大臣宛

氏　名（印）

備考
申請人氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

●無線通信士資格檢定規則ニ依リ認定シタル講習所名及銓衡檢定等級

（昭和六年九月四日遞信省告示第千七百八十七號）

【沿革】昭和七年九月告示第一六七六號、同十二年一月同第二三〇號改正

無線通信士資格檢定規則第四條ニ依リ認定シタル講習所名及銓衡檢定等級左ノ如シ

講習所名	銓衡檢定等級
社團法人電信協會管理無線電信講習所	昭和六年七月一日以降本科ヲ卒業シタル者　第一級又ハ第二級
東京高等商船學校	昭和六年七月一日以降航海科ニ於テ無線電信ニ關スル學術ノ卒業試驗ニ合格シタル者　聽守員級
神戸高等商船學校	右同　右同
社團法人電信協會管理無線電信講習所	昭和七年九月一日以降特科ヲ卒業シタル者　第三級
社團法人電信協會管理無線電信講習所	昭和十二年一月二十九日以降選科ヲ卒業シタル者　第二級

●外國航行船舶ニ施設シタル無線電信ニ配置スヘキ通信從事者ノ資格及員數ノ標準

（大正十五年五月二十五日遞信省告示第千九十七號）

船舶無線電信施設法施行ノ日ヨリ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ施設シタル無線電信ニ配置スヘキ通信從事者ノ資格及員數ハ私設無線電信規則第十五條ノ二ノ規定ニ依ルノ外當該國規定ノ關係アルヲ以テ別表ノ標準ニ依ルコトヲ要ス

一　英吉利國、印度又ハ濠洲聯邦ヘ航行スル總噸數一千六百噸以上ノ船舶又ハ十三名以上ノ旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ
甲　船員旅客ヲ併セ二百人以上ノ人員ヲ搭載スルモノ
乙　船員旅客ヲ併セ五十人以上二百人未滿ノ人員ヲ搭載スルモノ

二　佛蘭西國ヘ航行スル總噸數二千噸以上ノ船舶又ハ船員旅客ヲ併セ五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶ニシテ二十五人以上ノ旅客ヲ搭載シ平均航海速力十五節以上ノモノ又ハ船員旅客ヲ併セ二百人以上ノ人員ヲ搭載シ平均航海速力十三節ヲ超ユルモノ

三　亞米利加合衆國ヘ航行シ船員旅客ヲ併セ五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶

四　「カナダ」國ヘ航行スル船員旅客ヲ併セ五十人ヲ超過スル人員ヲ搭載スル船舶ニシテ
甲　平均航海速力十五節以上ノモノ又ハ船員旅客ヲ併セ二百人以上

ノ人員ヲ搭載シ平均航海速力十三節以上ノモノ

乙　甲ニ屬セサルモノ

別表

無線電信ノ種別			通信從事者最小限資格及員數 第一級	第二級 漁船級又ハ第三級 聽守員
本告示第一號甲ニ該當スルモノ			一人	一人
英吉利國、印度、濠洲聯邦ヘ航行スル船舶ニ施設シタルモノ	本告示第一號乙ニ該當スルモノ	公衆通信ヲ取扱ヒ又ハ電信官署トノ間ニ和文及歐文電報ヲ送受スルモノ	通信執務時間無休ノモノ	一人	一人
			其ノ他ノモノ	一人	二人
		電信官署トノ間ニ和文電報ノミヲ送受スル又ハ施設者專用電信ノミヲ取扱フモノ		一人	二人
佛蘭西國ヘ航行スル船舶ニ施設シタルモノ	公衆通信ヲ取扱ヒ又ハ電信官署トノ間ニ和文及歐文電報ヲ送受スルモノ		通信執務時間無休ノモノ	一人	一人
			其ノ他ノモノ	一人	二人
	電信官署トノ間ニ和文電報ノミヲ送受スルモノ又ハ施設者專用電信ノミヲ取扱フモノ				
亞米利加合衆國ヘ航行スル船舶ニ施設シタルモノ	通信執務時間無休ノモノ			一人	二人
	其ノ他ノモノ			一人※一人	△一人
「カナダ」國ヘ航行スル船舶ニ施設シタルモノ	本告示第四號甲ニ該當スルモノ			二人	一人
	其ノ他ノモノ			二人	△一人
「アルセンティン」國ヘ航行スル船舶ニ施設シタルモノ	本告示第四號乙ニ該當スルモノ		通信執務時間無休ノモノ	一人	一人
	其ノ他ノモノ			一人	△一人

備考

※　旅客ヲ搭載スル設備ヲ有セサル船舶ニ施設シタル無線電信ニ限リ漁船級又ハ第三級資格者ニシテ當該國官憲ノ課スル試驗ニ合格シタル證書ヲ有スル者ヲ以テ第二級資格者ニ代フルコトヲ得

△　通信執務時間不定ノ無線電信ニ限リ聽守員ヲ配置セサルコトヲ得

五　「アルセンティン」國ヘ航行シ二十五人以上ノ旅客ヲ搭載シ且船員ノ外旅客ヲ併セ五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶

●電氣通信技術者資格檢定規則

（昭和十五年三月三十日　遞信省令第十三號）

電氣通信技術者資格檢定規則左ノ通定ム

電氣通信技術者資格檢定規則

第一條　電氣通信ノ技術者ノ資格ハ第一級、第二級及第三級（第三級ニ限リ有線及無線ノ二種ニ分ツ）ニ區別シテ之ヲ檢定ス

第二條　檢定ハ試驗又ハ銓衡ニ依リ遞信大臣ノ命ジタル檢定委員之ヲ行フ

第三條　前條ノ試驗ヲ分チテ第一次試驗及第二次試驗トス

第一次試驗ニ合格シタル者ニ非ザレバ第二次試驗ヲ受クルコトヲ得ズ

第四條　第一次試驗ハ左ノ科目ニ付筆記ヲ以テ之ヲ行フ但シ第三級ノ有線ノ試驗ニハ第二號乃至第四號及第六號ノ科目ヲ無線ノ試驗ニハ第二號乃至第五號ノ科目ヲ除ク

一　電氣理論及電氣磁氣測定

二　回路網理論

三　有線無線電波傳播理論

四　電子工學

五　有線通信機器及線路

六　無線通信機器

七　電氣機械大意

八　電氣通信概論

第一次試驗ニ合格シタル者ニ付テハ受驗者ノ願ニ依リ翌年及翌々年ニ限リ第一次試驗ヲ免ズ

第五條　第二次試驗ハ第一次試驗ノ受驗科目ニ關スル口頭試問及其ノ受驗科目中左ニ該當スル科目ニ關スル實驗トス

一　電氣磁氣測定

二　有線通信機器及線路

三　無線通信機器

第六條　第三級ノ有線又ハ無線ノ資格ヲ有スル者ニシテ同級ノ他ノ種別ノ試驗檢定ヲ受ケントスル者ニ付テハ受驗者ノ願ニ依リ第四條第一項

第一號、第七號及第八號ニ掲ゲル科目ニ關スル試驗ハ之ヲ免ズ

第七條　大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ電氣通信工學ヲ專修シ之ヲ修得シタル者ハ第一級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ專門學校令ニ依ル實業專門學校ト同等以上ノ程度ニ於テ電氣通信工學ヲ修得シタル者ハ第二級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

專門學校令ニ依ル實業專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ實業學校令ニ依ル實業學校ト同等以上ノ程度ニ於テ電氣通信工學ヲ修得シタル者ハ第三級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

外國ノ學校ニ於テ大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ專門學校令ニ依ル實業專門學校ト同等以上ノ程度ニ於テ電氣通信工學ヲ專修シ之ヲ修得シタル者ハ第一級又ハ第二級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

第八條　第二級ノ資格ヲ得タル後五年以上電氣通信ノ技術ニ從事シ責任アル地位ニ在リタル者ハ第一級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

第三級ノ資格ヲ得タル後五年以上電氣通信ノ技術ニ從事シタル者ハ第二級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

第九條　銓衡檢定ニ際シ檢定委員ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第四條第一項ニ掲ゲル科目ノ全部又ハ一部ニ付試問ヲ行フコトアルベシ但シ第七條第一項ノ場合ニ在リテハ受驗者ノ修得セザル科目ニ限ル

第十條　試驗檢定ハ每年一回之ヲ行ヒ其ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ官報ニ公告ス但シ遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時ニ之ヲ行フコトアルベシ

銓衡檢定ハ隨時之ヲ行フ

第十一條　試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ指定ノ期日迄ニ檢定申請書（第一號樣式）ニ履歷書（第二號樣式）、戶籍ノ抄本及寫眞ヲ添ヘ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

銓衡檢定ヲ受ケントスル者ハ隨時檢定申請書（第一號樣式）ニ履歷書（第二號樣式）、戶籍ノ抄本及第七條又ハ第八條ニ該當スル者ナルコトヲ證スル書類ヲ添ヘ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第十二條　檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ檢定手數料ヲ納ムベシ但シ第七條ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ノ檢定手數料ハ當該大學又ハ學校ノ課程修了後二年以內ニ檢定ヲ申請スル場合ニ限リ二圓トス

第一級	十圓
第二級	六圓
第三級	三圓

前項ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル郵便切手ヲ檢定申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムベシ

既納ノ手數料ハ檢定ヲ受ケザル場合ト雖モ之ヲ還付セズ

第十三條　檢定委員ニ於テ檢定申請者ガ其ノ資格若ハ履歷ヲ僞リ又ハ試驗ニ際シテ不正ノ行爲アリト認メタルトキハ之ニ對スル檢定ヲ行ハズ

檢定合格決定ノ後前項ノ事實アリタルコト判明シタルトキハ其ノ檢定ハ無效トス

第十四條　檢定合格者ニハ合格證書（第三號樣式）ヲ付與ス

第十五條　檢定合格者ハ之ヲ官報ニ公告ス

第十六條　專門學校令ニ依ル實業專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニシテ遞信大臣ノ認定ヲ受ケタルモノニ於テ電氣通信工學ヲ專修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者ハ第二級ノ資格ヲ有スルモノトス

實業學校令ニ依ル實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニシテ遞信大臣ノ認定ヲ受ケタルモノニ於テ電氣通信工學ヲ專修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者ハ第三級ノ資格ヲ有スルモノトス

第十七條　無線通信士資格檢定規則ニ依ル第一級ノ資格ヲ有スル者ハ第三級ノ無線ノ資格ヲ有スルモノトス

第十八條　遞信大臣第十六條ノ認定ヲ爲スニ當リテハ學科目及其ノ程度、設備其ノ他必要ナル事項ニ關シ檢定委員ノ審查ヲ經ルモノトス

認定ヲ受ケタル學校ニ付認定ヲ不適當トスル事實アリト認メタルトキハ遞信大臣ハ檢定委員ノ審查ヲ經テ將來ニ向ツテ其ノ認定ヲ取消スコトアルベシ

前二項ノ規定ニ依リ學校ヲ認定シ又ハ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十九條　第十六條ノ認定ヲ受ケントスルモノハ申請書（第四號樣式）及認定ニ必要ナル書類ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

認定ヲ受ケタル後前項ノ規定ニ依リ提出シタル書類ノ記載事項ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ニ屆出ヅベシ

第二十條　遞信大臣ノ指定スル養成所ニ於テ電氣通信工學ヲ專修シ之ヲ修得シタル者ハ其ノ指定ニ從ヒ第二級若ハ第三級ノ資格ヲ有スルモノトシ又ハ第一級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

遞信大臣ノ指定スル養成所ニ於テ電氣通信工學ヲ修得シタル者ハ其ノ指定ニ從ヒ第二級又ハ第三級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

前二項ノ檢定ニハ第九條、第十一條第二項及第十二條乃至第十五條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ左ノ第一號及第二號ニ該當スル者ハ第一級、第三號及第四號ニ該當スル者ハ第二級、第五號ニ該當スル者ハ第三級ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

一　大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ電氣工學ヲ專修シ之ヲ修得シ電氣通信ノ技術ニ從事シタル者

二　十年以上電氣通信ノ技術ニ從事シ責任アル地位ニ在リタル者

三　專門學校令ニ依ル實業專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ電氣工學ヲ專修シ其ノ學校ヲ卒業シ電氣通信ノ技術ニ從事シタル者

四　五年以上電氣通信ノ技術ニ從事シタル者

五　中學校若ハ實業學校令ニ依ル實業學校ヲ卒業シタル者、之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者又ハ五年以上電氣通信ノ技術ニ關スル作業ニ從事シタル者ニシテ電氣通信ノ技術ニ從事シタル者

前項ノ檢定ニハ本令第九條、第十一條第二項及第十二條乃至第十五條ノ規定ヲ準用ス但シ本令施行後一年以內ニ檢定ヲ申請スル場合ニ限リ檢定手數料ニ圓トス

第一號樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A3（297mm×420mm）トス）

郵便切手

電氣通信技術者資格檢定申請書

本籍
申請者　氏　（振假名ヲ附スルコト）　名
年　月　日生

檢定ノ區別　（第何級（第三級ニ限リ有線又ハ無線ノ別）／受驗地（何　々））　括弧内ハ朱書ノコト

私儀電氣通信技術者資格檢定規則（ニ依リ前記區別ノ試驗）（何條ニ依リ前記區別ノ銓衡）檢定相受度同規則第十一條ニ依ル書類相添ヘ申請候也

（仍電氣通信技術者資格檢定規則（第四條第二項）（第六條）ニ依ル試驗免除相願候也（第一次試驗合格年月日）（第三級ノ有線又ハ無線ノ資格ヲ得タル年月日））

年　月　日

現住所
氏　名㊞

遞信大臣　殿

第二號樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A3―297mm×420mm―トス）

履歷書

本籍
現住所　氏　名

學業

一、何年何月何日　何學校（何養成所）何科ニ入學
一、何年何月何日　何學校（何養成所）何科修業、卒業又ハ退學（銓衡檢定ノ場合ニ限リ卒業又ハ修業證書ノ寫ノ外第七條ニ依ルモノハ其ノ修得セル學科目ニ關スル證明書及必要アルトキハ其ノ說明書ヲ添附ノコト）
一、何年何月何日　電氣通信技術者資格檢定規則第何級ノ（試驗）（銓衡）檢定ニ合格

職業

一、何年何月何日　何官廳（官職名記載）、何會社又ハ何商店ニ於テ何々ノ職務ニ從事
一、何々（銓衡檢定ノ場合ニ限リ必要アルトキハ所定ノ年限電氣通信ノ技術ニ從事シ又ハ責任ノ地位ニ在リタルコトヲ證スル書類ヲ添附ノコト）

賞罰

一、何年何月何日　何々

右ノ通相違無之候也

年　月　日

氏　名㊞

第三號樣式

第

本籍
氏　名
年　月　日生

資格ノ區別

右ノ者電氣通信技術者資格檢定規則ニ依リ（成規ノ試驗）（檢定委員ノ銓衡）ヲ經テ前記ノ資格檢定ニ合格シタリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

電氣通信技術者資格檢定委員長　氏　名㊞

電氣通信技術者資格檢定委員長ノ證明ヲ認了シ玆ニ合格證書ヲ付與ス

年　月　日

遞信大臣　氏　名㊞

第四號樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A3―297mm×420mm―トス）

電氣通信技術者資格ニ關スル認定申請書

何・學　校

資格ノ區別　第　何　級

電氣通信技術者資格檢定規則第十六條ニ依ル認定相受度別紙必要書類相添ヘ申請候也

年　月　日

申請者　氏　名㊞

遞信大臣　殿

●支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタル者ノ電氣通信技術者資格ノ試驗檢定ノ受驗特例ニ關スル件

（昭和十六年三月二十五日　遞信省令第三十四號）

支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタル者ノ電氣通信技術者資格ノ試驗檢定ノ受驗特例ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　電氣通信技術者資格檢定規則第三條ノ第一次試驗ニ合格シタル者ニシテ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ第一次試驗合格ノ年ニ於テ行フ第二次試驗ヲ受クルコト能ハザリシモノハ之ニ代ルベキモノトシテ召集若ハ徵用ノ解除ノ年又ハ其ノ翌年ノ何レカニ於テ第二次試驗ヲ受クルコトヲ得

前項ノ第二次試驗ニ合格セザリシ者ニ付テハ電氣通信技術者資格檢定規則第四條第二項ノ規定ニ拘ラズ受驗者ノ願ニ依リ其ノ翌年及翌々年ニ限リ第一次試驗ヲ免ズ

第二條　電氣通信技術者資格檢定規則第四條第二項又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ第一次試驗ヲ免セラルル年ニ於テ行ハルル第二次試驗ヲ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ受クルコト能ハザリシ者ニ付テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ受驗シタル第二次試驗ニ合格セザリシ者ニ付テハ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ受クルコト能ハザリシ第二次試驗ガ第一次試驗ニ合格シタル年ノ翌年又ハ前條第一項ノ第二次試驗ニ合格セザリシ年ノ翌年ニ行ハレタルモノナルトキハ電氣通信技術者資格檢定規則第四條第二項ノ規定ニ拘ラズ受驗者ノ願ニ依リ其ノ翌

年ニ限リ第一次試驗ヲ免ズ

第三條　前條第二項ノ規定ニ依リ第一次試驗ヲ免セラルル年ニ於テ行ハルル第二次試驗ヲ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ受クルコト能ハザリシ者ニ付テハ第一條第一項ノ規定ヲ準用ス

第四條　第一條第一項、第二條第一項又ハ前條ノ規定ニ依リ第二次試驗ヲ受クルコトヲ得ル年ニ於テ行ハルル第二次試驗ヲ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ受クルコト能ハザリシ者ニ付テハ召集又ハ徵用ノ解除ニ因リ第二次試驗ヲ受クルコトヲ得ルニ至ル時迄其ノ以前ニ於ケル召集又ハ徵用ノ解除ハナカリシモノト看做ス

第五條　電氣通信技術者資格檢定規則第十二條本文ノ檢定手數料ヲ納メタル後支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ試驗檢定ヲ受クルコト能ハザリシ者召集若ハ徵用ノ解除ノ年又ハ其ノ翌年ノ何レカニ於テ該試驗檢定ヲ受ケントスルトキハ檢定手數料ヲ免ズ

第六條　第一條第一項、第二條第一項又ハ第三條ノ規定ニ依リ試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ指定ノ期日迄ニ檢定特例申請書（別記樣式）ニ履歷書（電氣通信技術者資格檢定規則第二號樣式）、戶籍ノ抄本及寫眞竝ニ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルコト及其ノ解除アリタルコトヲ證スル書類（召集又ハ徵用ノ年月日及解除ノ年月日ヲ記載シタル市町村長、聯隊區司令官、聯隊長等ノ證明書以下同ジ）ヲ添ヘ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第七條　第一條第二項又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ第一次試驗ノ免除ヲ受ケントスル者ハ電氣通信技術者資格檢定規則第十一條ノ檢定申請書ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

第八條　電氣通信技術者資格檢定規則第十一條ノ規定ニ依リ檢定申請書ヲ提出スル者ニシテ第五條ノ規定ニ依リ檢定手數料ヲ免セラルル者ハ檢定申請書ニ召集又ハ徵用セラレタルコト及其ノ解除アリタルコトヲ證スル書類ヲ添附スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A3トス）

電氣通信技術者資格檢定特例申請書

郵便切手

（第五條ノ規定ニ依リ檢定手數料ヲ免セラルル者ニ在リテハ郵便切手ノ貼附ヲ要セズ）

本籍
申請者　氏名（擬名ヲ附スルコト）
年月日生

檢定ノ區別　第何級（第三級ニ限リ有效又ハ無效ノ別）

第一次試驗合格年月　何年何月

受驗地　何々

括弧內ハ朱書ノコト

私儀昭和十六年遞信省令第三十四號ニ依リ前記區別ノ試驗檢定相受度同令第六條ニ依ル書類相添ヘ申請候也

追而支那事變ノ爲召集（徵用）セラレタルニ因リ受クルコト能ハザリシ試驗檢定ニ付提出セル申請書ノ概要竝ニ召集（徵用）及其ノ解除ノ年月日左ノ通ニ有之候

檢定ノ區別　第何級（召集又ハ徵用セラレタルニ因リ受クルコト能ハザリシ試驗檢定ニ付申請書ヲ提出セザリシ者ハ其ノ旨ヲ記載スルコト）

受驗地何々

召集（徵用）ノ年月日　何年何月何日
召集（徵用）解除ノ年月日　何年何月何日

年　月　日

現住所
氏　名㊞

遞信大臣　殿

●寫眞電報規則（昭和五年八月八日遞信省令第三十四號）

【沿革】昭和六年三月省令第六號、同八年六月同第三一號、同九年一月同第三號、同年四月同第四四號、同十年三月同第四號、同年十月同第三五號、同十一年九月同第三三號、同十二年四月同第二五號、同年八月同第五八號、同年十一月同第一〇九號、同十四年三月同第一四號、同年九月同第三九號改正

寫眞電報規則左ノ通定ム

寫眞電報規則

第一條　寫眞電報ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　寫眞電報トシテ取扱フモノハ寫眞、繪畫、文字、記號、符號其ノ他ノ形象ニシテ寫眞電信機ニ依リ寫眞トシテ再現セシメ得ルモノニ限ル

第三條　寫眞電報ヲ差出サントスル者ハ寫眞電報ヲ取扱フ電信官署ノ交付スル寫眞電報類信紙（附錄樣式甲號（十八糎ト二十六糎ノ長方形）乙號（十三糎ト十八糎ノ長方形）丙號（八糎ト十八糎ノ長方形）丁號（六、五糎ト十八糎ノ長方形）ヲ使用スベシ但シ左ノ各號ノ要件ヲ備ヘタル用紙ハ寫眞電報印畫紙ヲ含ム

報額信紙ニ代ヘテ之ヲ使用スルコトヲ得

一　大サ十八糎ト二十六糎ノ長方形ヲ超エザルモノナルコト

二　厚サ及質ハ寫眞電報額信紙ト同等又ハ之ニ近似セルモノ（凡ソ封筒葉書ヨリ薄カラズ又印畫紙ヨリ厚カラザル紙面滑ラカナルモノニシテ圓筒ニ卷キ得ルモノ）ナルコト

三　白色ニシテ成ルベク光澤ナキモノナルコト

前項但書ノ用紙ヲ使用シタル場合電信官署ニ於テ取扱上必要アリト認ムルトキハ寫眞電報額信紙ニ之ヲ貼附セシムルコトアルベシ

第四條　形象ノ大サハ十七糎ト二十三糎（受信人及發信人ノ居所氏名ヲ寫眞電報額信紙ノ相當欄ニ記載セザルモノニ付テハ十七糎ト二十五糎ノ長方形ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス

形象左ノ各號ノ要件ヲ備ヘザルトキ又ハ寫眞電報額信紙ニ折目、凹凸其ノ他毀損若ハ著シク光澤アルトキハ不鮮明ナル寫眞トナルコトアルベシ

一　鮮明ナルコト

二　著シク緻密ニ非ザルコト

三　黑色ヲ用キタルモノナルコト

四　汚損シタルモノニ非ザルコト

第五條　寫眞電報ニ關スル料金ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

一　寫眞電報料（東京大阪間）

寫眞電報額信紙　（甲號ノモノ　八圓／乙號ノモノ　五圓／丙號ノモノ　三圓／丁號ノモノ　一圓）

二　同報寫眞料

寫眞電報額信紙　（甲號ノモノ　二圓／乙號ノモノ　一圓五十錢／丙號ノモノ　一圓）

三　至急料　寫眞電報料ト同額

四　複寫料

複寫紙　（甲號ノモノ　一圓／乙號ノモノ　六十錢／丙號ノモノ　四十錢）

五　特使配達料　三十錢

第六條　第三條第一項但書ノ用紙ヲ使用シタル場合ニ於テ其ノ大サガ寫眞電報額信紙丁號以內ノモノナルトキハ丁號ノ料金ヲ、丁號ヲ超エ丙號以內ノモノナルトキハ丙號ノ料金ヲ、丙號ヲ超エ乙號以內ノモノナルトキハ乙號ノ料金ヲ、又乙號ヲ超エ甲號以內ノモノナルトキハ甲號ノ料金ヲ課ス但シ寫眞電報額信紙ニ貼附シタルモノニ付テハ當該寫眞電報額信紙ノ大サニ從ヒ前條ノ料金ヲ課ス

第七條　寫眞電報ニ關スル料金ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外發信ノ際郵便切手ヲ以テ納付スベシ但シ第十一條ノ二ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外通貨ヲ以テ納付スルコトヲ妨ゲズ

第八條　新聞電報認可規則ニ依リ新聞電報料金ノ後納ヲ認可セラレタル者ニ宛ツル寫眞電報（第十五條ノ規定ニ依ルモノヲ除ク）ノ料金ハ之ヲ後納トス

第九條　電信事務ニ關シ電信官署相互間ニ發受スル寫眞電報ハ之ヲ無料トス

第十條　寫眞電報ハ受付又ハ受信ノ時刻ノ順序ニ依リ送達ス但シ至急ノ取扱ヲ爲ス寫眞電報ハ優先シテ送達ス

第十一條　寫眞電報ハ寫眞電報ヲ取扱フ電信官署ニ之ヲ差出スベシ

寫眞電報ヲ取扱フ電信官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ一時ニ差出ス寫眞電報ノ通數ヲ制限シ又ハ其ノ差出方法ニ關シ指示スルコトアルベシ

第十一條ノ二　寫眞電報ハ郵便ニ依リ之ヲ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ寫眞電報ニ折目其ノ他毀損ヲ生ゼザル樣厚紙其ノ他ノ物ヲ以テ適當ニ之ヲ包裝シタル上封筒ノ表面ニ「寫眞電報在中」ト記載スベシ

前項ノ場合ニ於テ普通郵便ニ依ルトキハ封筒ノ表面ノ上部左隅ニ「通信事務」ト記載シ之ヲ無料郵便ト爲スコトヲ得

第十二條　寫眞電報ヲ取扱フ電信官署、取扱時間、直配達區域及特使配達區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第十三條　寫眞電報ノ受信人ノ居所氏名ハ寫眞電報額信紙ノ相當欄ニ記載スベシ但シ形象ノ餘白ニ記載スルコトヲ妨ゲズ

寫眞電報ノ發信人ノ居所氏名ハ寫眞電報額信紙ノ裏面左端ニ記載スベシ但シ其ノ居所氏名ヲ受信人ニ知ラシメントスルトキハ前項ノ例ニ依リ記載スベシ

前二項ノ居所氏名ハ成ルベク漢字ヲ以テ記載スベシ

第十四條　至急ノ取扱ヲ要スル寫眞電報ヲ差出サントスル者ハ寫眞電報額信紙名宛欄ニ特ニ「（至急）」ト記載シ至急料ヲ納付スベシ

前項ノ寫眞電報ハ取扱時間ニ拘ラズ之ヲ取扱フ

第十五條　二人以上ノ受信人ニ宛テ形象同一ナル寫眞電報ヲ差出サントスル者ハ寫眞電報額信紙名宛欄ニ特ニ配達スベキ通數（括弧ヲ以テヲ記載シ次ニ各受信人ノ居所氏名ヲ列記シタル一通ヲ差出スベシ此ノ場合ニ於テハ配達スベキ通數ニ應ジ其ノ一通分ニ付テハ寫眞電報料ヲ、他ノ各通分ニ付テハ同報寫眞料ヲ納付スベシ

前項ノ受信人ノ居所氏名ハ豫メ著信電信官署ニ屆出デタル略名ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得

第十六條　寫眞電報ヲ取扱フ電信官署ノ直配達區域外ニ特使ヲ以テ配達ヲ要スル寫眞電報ニ折目其ノ他毀損ヲ生ゼザル樣厚紙其ノ他ノ物ヲ以テ適當ニ之ヲ包裝シタル上封筒ノ表面ニ「寫眞電報在中」ト記載スベシ

前項ノ場合ニ於テ普通郵便ニ依ルトキハ封筒ノ表面ノ上部左隅ニ「通信事務」ト記載シ之ヲ無料郵便ト爲スコトヲ得

第十二條　寫眞電報ヲ取扱フ電信官署、取扱時間、直配達區域及特使配達區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第十三條　寫眞電報ノ受信人ノ居所氏名ハ寫眞電報額信紙ノ相當欄ニ記載スベシ但シ形象ノ餘白ニ記載スルコトヲ妨ゲズ

寫眞電報ノ發信人ノ居所氏名ハ寫眞電報額信紙ノ裏面左端ニ記載スベシ但シ其ノ居所氏名ヲ受信人ニ知ラシメントスルトキハ前項ノ例ニ依リ記載スベシ

前二項ノ居所氏名ハ成ルベク漢字ヲ以テ記載スベシ

第十四條　至急ノ取扱ヲ要スル寫眞電報ヲ差出サントスル者ハ寫眞電報額信紙名宛欄ニ特ニ「（至急）」ト記載シ至急料ヲ納付スベシ

前項ノ寫眞電報ハ取扱時間ニ拘ラズ之ヲ取扱フ

第十五條　二人以上ノ受信人ニ宛テ形象同一ナル寫眞電報ヲ差出サントスル者ハ寫眞電報額信紙名宛欄ニ特ニ配達スベキ通數（括弧ヲ以テヲ記載シ次ニ各受信人ノ居所氏名ヲ列記シタル一通ヲ差出スベシ此ノ場合ニ於テハ配達スベキ通數ニ應ジ其ノ一通分ニ付テハ寫眞電報料ヲ、他ノ各通分ニ付テハ同報寫眞料ヲ納付スベシ

前項ノ受信人ノ居所氏名ハ豫メ著信電信官署ニ屆出デタル略名ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得

第十六條　寫眞電報ヲ取扱フ電信官署ノ直配達區域外ニ特使ヲ以テ配達ヲ要スル寫眞電報額信紙名宛欄ニ特ニ「（特使配達）」ト記載シ特使配達料ヲ納付スベシ

第十六條ノ二　削除

第十六條ノ三　削除

第十六條ノ四　著信電信官署ヨリ航空郵便ヲ以テ配達ヲ要スル寫眞電報ヲ差出サントスル者ハ寫眞電報額信紙名宛欄ニ特ニ「（航空）」ト記載シ左ノ各號ノ區別ニ從ヒ航空取扱料金ヲ納付スベシ

一　朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ宛ツルモノ　甲號ノモノ　三十四錢／甲號以外ノモノ　六十八錢

二　樺太ニ宛ツルモノ　甲號ノモノ　十二錢／甲號以外ノモノ　十六錢

第十七條　寫眞電報ヲ取扱フ電信官署ノ直配達區域外ニ配達スル寫眞電報ニシテ特使配達ノ取扱ヲ爲サザルモノハ無料速達郵便ニ依リ配達ス但シ郵便區市外又ハ郵便物ノ速達取扱ヲ爲サザル地域ニ宛テタル寫眞電報ハ無料普通郵便ニ依リ配達ス

第十八條　寫眞電報額信紙ハ送信後其ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ依リ寫眞電報額信紙ノ返還ヲ受ケントスル者ハ寫眞電報差出ノ際其ノ旨ヲ告ゲ且其ノ返還ヲ受クルトキハ受取證ヲ差出スベシ

第十九條　發信人又ハ受信人ハ寫眞電報ノ複寫ヲ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ差出又ハ受取ノ日ヨリ三月トス

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ複寫料ヲ納付スベシ

第十九條ノ二　逓信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ新聞紙ニ掲載スル目的ヲ以テ、新聞電報認可規則ニ依リ新聞電報取扱ノ認可ヲ受

ケタル者ニ宛テ發スル寫眞電報ニシテ其ノ發信人、受信人及發信時刻ノ一定シタルモノニ對シ發信人及受信人ノ申請ニ依リ短期豫約ノ取扱ヲ爲スコトアルベシ

前項ノ短期豫約ノ取扱ヲ爲スベキ期間、料金其ノ他ノ條件等ハ其ノ都度別ニ之ヲ告示ス

第十九條ノ三　丁號寫眞電報ニ付テハ第十五條及第十九條ノ規定ヲ適用セズ

第二十條　寫眞電信設備ノ故障其ノ他ニ因リ寫眞電報ノ形象不鮮明トナリ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ返還スル寫眞電報類信紙汚損若ハ毀損スルコトアルモ電信官署ハ其ノ責ニ任セズ

第二十一條　電報規則第七條、第十條、第二十四條、第四十一條、第四十五條乃至第四十九條、第五十六條乃至第六十條、第六十四條、第六十五條、第六十七條乃至第六十九條、第百二條、第百八條、第百九條、第百四十五條乃至第百五十一條及第百五十八條ノ二ノ規定ハ寫眞電報ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和五年八月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄樣式

寫眞電報類信紙　甲號

備考

用紙（紙質　水仙紙四六判百二十听又ハ之ニ類似セル西洋紙
寸法　縦十八糎、横二十六糎）

印刷（寸法　輪廓ハ縦十七糎、横二十五糎ノ餘白ヲ置ク、發信局、番號、受付日時欄ハ縦三糎、横二糎、名宛欄ハ縦八糎、横二糎、發信人欄ハ縦六糎、横二糎
色　淡青色）

寫眞電報類信紙　乙號

備考

用紙（紙質　水仙紙四六判百二十听又ハ之ニ類似セル西洋紙
寸法　縦十八糎、横十三糎）

印刷（寸法　輪廓ハ縦十七糎、横十二糎トシ用紙ノ周圍ニ〇・五糎ノ餘白ヲ置ク、發信局、番號、受付日時欄ハ縦三糎、横二糎、名宛欄ハ縦八糎、横二糎、發信人欄ハ縦六糎、横二糎
色　淡青色）

寫眞電報類信紙　丙號

備考

用紙（紙質　水仙紙四六判百二十听又ハ之ニ類似セル西洋紙
寸法　縦十八糎、横八糎）

印刷（寸法　輪廓ハ縦十七糎、横七糎トシ用紙ノ周圍ニ〇・五糎ノ餘白ヲ置ク、發信局、番號、受付日時欄ハ縦三糎、横二糎、名宛欄ハ縦八糎、横二糎、發信人欄ハ縦六糎、横二糎
色　淡青色）

附錄樣式

寫眞電報額信紙　丁號

寫眞電報額信紙	
	名宛
	發信人
受信人に知らすべき内容は上の欄に鮮明にお書き下さい　通信者	

備考

用紙　紙質　水仙紙四六版百二十听又ハ之ニ類似セル西洋紙

寸法　縦十八糎、横六、五糎

用紙ノ右側及下部ニ幅〇、五糎ノ餘白ヲ置ク、記載欄ノ大サハ縦一三、五糎、横六糎トシ名宛欄ハ縦八糎、横二糎、發信人欄ハ縦三、五糎、横二糎トス

印刷　色　淡青色

●寫眞電報ノ取扱電信官署、取扱時間、直配達區域及特使配達區域（昭和五年八月八日遞信省告示第千九百十九號）

【沿革】昭和六年三月告示第五六七號、同九年九月同第二三七五號、同十年三月同第五九七號改正

寫眞電報規則第十二條ニ依ル寫眞電報ノ取扱電信官署、取扱時間、直配達區域及特使配達區域ハ左ノ如シ

一　取扱電信官署

東京中央電信局

大阪中央電信局

前記以外ノ東京及大阪市内ノ電報受付事務ヲ取扱フ一、二等郵便、電信局但シ受付事務ノミヲ取扱フ

二　取扱時間

電報取扱時間ニ同シ

三　削除

四　直配達區域

東京市　日本橋區、本郷區、本所區、神田區、牛込區、深川區、麹町區、赤坂區、淺草區、京橋區、芝區、下谷區

大阪市　西區、此花區（上福島南及大阪中央卸賣市場内ニ限ル）、北區、東區

五　特使配達區域

東京中央電信局特使配達區域　東京市内

大阪中央電信局特使配達區域　大阪市内

●無線通信機器取締規則（昭和十四年十一月一日遞信省令第五十一號）

無線通信機器取締規則左ノ通定ム

無線通信機器取締規則

第一條　本令ニ於テ無線通信機器トハ無線電信又ハ無線電話ノ送信機及受信機ヲ謂フ

第二條　無線通信機器ノ販賣業ヲ營ム者（販賣ヲ爲ス製造業者ヲ含ム以下業者ト稱ス）ハ營業開始後十日以内ニ左ニ揭グル事項ヲ所轄遞信局長ニ届出ヅベシ其ノ届出事項ニ變更ヲ生ジ又ハ營業ヲ廢止シタルトキ亦同ジ

一　營業ノ種目

二　商號

三　營業所ノ所在地

第三條　業者ハ無線電信又ハ無線電話ノ施設許可證明書ト引換フルニ非ザレバ無線通信機器ヲ引渡スコトヲ得ズ但シ左ニ揭グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　左ノ一ニ該當スルモノヲ引渡ストキ

（イ）聽取無線電話ノ受信機ニシテ周波數五百五十「キロサイクル」乃至一千五百「キロサイクル」ノ範圍内ニ限リ受信シ得ルモノ（以下中波放送受信機ト稱ス）

（ロ）官廳ノ用ニ供スルモノ

（ハ）軍事上ノ用ニ供スルモノ

二　輸出又ハ移出スルトキ

三　他ノ業者ニ引渡ストキ

四　遞信大臣又ハ遞信局長ニ於テ特ニ指定シタルトキ

前項ノ證明書ハ當該施設者ノ請求ニ依リ所轄遞信局長之ヲ交付ス

第四條　業者ハ無線通信機器ヲ引渡シタルトキハ左ノ區別ニ依リ所轄遞信局長ニ届出ヅベシ但シ前條第一項第一號（ハ）及第三號ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　中波放送受信機ニ付テハ附錄第一號樣式ニ依リ毎月分ヲ取纏メ翌月十日以内

二　前號以外ノモノニ付テハ附錄第二號樣式ニ依リ其ノ都度十日以内

第五條　無線通信機器ハ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ズ但シ中波放送受信機及特ニ指定シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ輸入港又ハ移入港ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ヲ經テ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一　機器ノ種別、名稱及箇數

二　機器ノ性能（送信機ニ在リテハ空中線電力及送信可能周波數、受信機ニ在リテハ感度及受信可能周波數）

三　輸入又ハ移入ノ目的

四　輸入港又ハ移入港

五　輸入又ハ移入ノ時期

六　機器ノ搬入先

七　申請者ノ職業

遞信大臣又ハ所轄遞信局長ハ取締上必要アリト認ムルトキハ輸入又ハ移入無線通信機器ニ付改修其ノ他ノ措置ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ使用ヲ制限スベキ必要ナル措置ヲ爲サシムルコトアルベシ

第六條　遞信大臣又ハ所轄遞信局長ハ取締上必要アリト認ムルトキハ業者ニ對シ無線通信機器ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ檢査ヲ爲サシムルコトアルベシ

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　本令ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者

二　第三條第一項若ハ第五條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第五條第三項ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者

三　第六條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ若ハ虚僞ノ報告ヲ爲シ、當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者

第八條　業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第九條　本令ノ罰則ハ處罰セラルベキ者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ、法人ナルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條及第五條ノ規定ハ船舶又ハ航空機ノ用ニ供スル無線通信機器ニ付テハ當分ノ内之ヲ適用セズ

本令施行ノ際現ニ無線通信機器ノ販賣業ヲ營ム者（販賣ヲ僞スル關係者ヲ含ム）ハ本令施行ノ日ヨリ一月以内ニ第二條各號ニ掲ゲル事項ヲ所轄遞信局長ニ届出ヅベシ

附錄第一號樣式

中波放送受信機引渡届

右別紙ノ通届出候也

年　月　日

營業所ノ所在地
商　號
氏名又ハ名稱

遞信局長宛

（別紙）

引渡月日	受信機ノ名稱及使用眞空管箇數	箇數	引取人ノ住所氏名

附錄第二號樣式

無線通信機器引渡届

引渡月日

機器ノ種別、名稱及箇數

機器ノ性能

送信機ニ在リテハ空中線電力及送信可能周波數
受信機ニ在リテハ眞空管箇數及受信可能周波數

引取人ノ住所氏名

施設許可證明書ノ日附及記番號

右届出候也

年　月　日

營業所ノ所在地
商　號
氏名又ハ名稱

遞信局長宛

航空無線電報規則

（昭和十五年八月一日遞信省令第四十四號）

航空無線電報規則左ノ通定ム

航空無線電報規則

第一條　航空局（無線電報規則第二條ニ定ムル所ニ依ル以下同ジ）相互間、航空局ト航空機間又ハ航空機相互間ニ於テ無線電信ニ依リ送受スル電報ハ本令ノ定ムル所ニ依リ航空無線電報トシテ之ヲ取扱フ

第二條　航空無線電報ハ左ノ三種トス

一　航空安全報

二　航空業務報

三　航空公衆報

第三條　航空安全報トハ左ニ掲グル電報ヲ謂フ

一　航空非常報

イ　遭難報　航空機ノ遭難ニ際シ其ノ航空機ノ名稱（登録記號ヲ含ム）、遭難ノ位置、狀況其ノ他救助ニ必要ナル事項ヲ通報スルモノ

ロ　緊急報　空中ニ於ケル生命財産ノ保全上緊急ヲ要スル事項ヲ通報スルモノ

二　航空指揮連絡報

イ　指揮報　航空ノ安全ニ關スル指揮又ハ命令ニシテ航空官廳ヨリ航空機ニ宛テ發スルモノ

ロ　連絡報　航空ノ安全上必要ナル連絡ニシテ航空官廳若ハ電信官署ト航空機間又ハ航空機相互間ニ發受スルモノ

三　航空氣象報（航空ノ安全上必要ナル氣象ノ通報ニシテ遞信大臣ニ於テ發記シタルモノ）

四　航空通報（航空官廳間ニ發受スル通報ニシテ遞信大臣ニ於テ別ニ指定スル官廳ニ發著スルモノ）

イ　發報　航空機ノ出發ヲ通報スルモノ

ロ　通過報　航空機ノ通過ヲ通報スルモノ

ハ　情況報　航空機ノ出發延期、缺航、著陸（著水ヲ含ム以下同ジ）、地變更又ハ引返シヲ通報スルモノ

ニ　著報　航空機ノ著陸ヲ通報スルモノ

航空安全報ハ之ヲ局報ト爲スコトヲ得

第四條　航空業務報トハ航空業務ニ關シ航空官廳間、航空事業者間又ハ

其ノ相互間ニ發受スル電報ヲ謂フ

第五條　航空公衆報トハ航空機發著無線電報（有線電信系上傳送ヲ要スルモノヲ含ム）ニシテ航空安全報及航空業務報ニ該當セザルモノヲ謂フ

第六條　航空無線電報ハ左ニ掲グル順位ニ依リ送達ス

一　航空安全報

イ　航空非常報

遭難報

緊急報

ロ　航空指揮連絡報

指揮報

連絡報

ハ　航空氣象報

ニ　航空通報

發報

通過報

情況報

著報

二　航空業務報、航空公衆報

イ　官報

ロ　私報

第七條　航空安全報又ハ航空業務報ヲ發セントスル者ハ別ニ指示スル所ニ從ヒ其ノ種別ヲ表示スベシ

第八條　航空非常報及航空指揮連絡報ハ適宜ノ形式ニ依ルコトヲ得

航空氣象報ハ氣象機關ノ定ムル形式ニ依リ（外國航空機ニ對スル航空氣象報ハ英語普通文ニ依ルコトヲ得）航空通報ハ別ニ告示スル形式ニ依ルコトヲ要ス但シ遞信大臣ニ於テ特ニ承認又ハ指示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ反シテ記載シタル電報ハ電信官署ニ於テ相當訂正セシムルコトアルベシ

第九條　航空業務報及航空公衆報ノ料金左ノ如シ

一　航空業務報
- 和文　十五字以内　十五錢
- 十五字ヲ超ユルトキハ十字以内ヲ增ス毎ニ　五錢
- 歐文　五語以内　十五錢
- 五語ヲ超ユルトキハ二語以内ヲ增ス毎ニ　五錢

二　航空公衆報　無線電報規則ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ料金ハ遞信大臣ノ承認ヲ受ケ之ヲ後納スルコトヲ得

第十條　航空業務報ニ付テハ特殊取扱ヲ爲サズ

第十一條　航空無線通信ニ使用スル電波ノ型式及周波數、通信ノ方法其ノ他航空無線通信上必要ナル事項ニ關シテハ別ニ之ヲ告示ス

第十二條　本令ニ規定ナキ事項ハ無線電報ニ關スル一般ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ昭和十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　軍用電氣通信

●軍用電氣通信法（昭和九年三月二十九日法律第三十九號）

【沿革】昭和十五年三月法律第一號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍用電氣通信法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

軍用電氣通信法

第一條　本法ニ於テ軍用電氣通信トハ軍用ノ電信、電話、無線電信及無線電話竝ニ高周波電流ヲ使用シ通報信號ヲ爲スモノヲ謂フ

第二條　軍用電氣通信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ管理ス

第三條　軍用電氣通信ハ要塞、軍港其ノ他軍事上特ニ必要ナル場所ニ之ヲ施設ス

第四條　軍用電氣通信ハ私設ノ電氣通信ニ之ヲ連接スルコトヲ得

軍用電氣通信ノ線路ノ電氣導體ハ私設ノ電氣通信又ハ電氣事業ノ線路ノ電氣導體ノ支持物ニ之ヲ添架スルコトヲ得

第五條　軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守又ハ測量ノ爲必要アルトキハ軍事官憲ハ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ニ測量標ヲ設置スルコトヲ得但シ日沒ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ構内ニ立入ルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ邸宅又ハ構内ニ立入ル場合ニハ占有者ニ豫メ之ヲ通知スベシ

第六條　軍用電氣通信ノ線路ハ必要アルトキハ他人ノ土地又ハ建造物ニ之ヲ建設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建造物ノ所有者其ノ他ノ權利者ニ豫メ之ヲ通知スベシ

前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地又ハ建造物ニ軍用電氣通信ノ線路ノ電氣導體ノ支持物ヲ建設シタルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ土地又ハ建造物ノ使用料ヲ支拂フ

第七條　軍用電氣通信ノ線路ノ建設又ハ通信ニ障碍アル竹木其ノ他ノ植物ハ已ムヲ得ザルモノニ限リ軍事官憲ハ其ノ伐除若ハ移植ヲ所有者其ノ他ノ權利者ニ對シ請求シ又ハ自ラ之ヲ伐除スルコトヲ得

第七條ノ二　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ及ボス障碍ヲ防止スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用電氣通信ノ施設場所ノ周圍二千メートルノ距離以内ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

第七條ノ三　特別地域内ニ於テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定スル高周波電流ヲ發生スル設備ヲ施設セントスル者ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ軍事上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條ノ四　前條ノ規定ニ依ル制限ノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上特ニ必要アルトキハ命令ヲ以テ特別地域内ニ於テ高周波電流ヲ發生スル機器ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第七條ノ五　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第七條ノ三第一項ノ規定又ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反スル設備ニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ除却其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得同項ノ許可ノ效力消滅シタル設備ニ關シ亦同ジ

第七條ノ六　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第七條ノ三第一項ノ規定若ハ同項

ノ許可ニ附シタル條件ニ違反スル設備又ハ第七條ノ四ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ使用スル機器ニ關シ軍事官憲ヲシテ障碍防止ノ爲必要ナル措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條ノ七　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ特別地域ノ指定若ハ第七條ノ三第一項ノ指定ノ場合ニ於テ從來存シタル設備ニシテ其ノ後新ニ施設セラレタリトセバ同項ノ規定ニ依ル其ノ施設ノ許可ヲ受クベカリシモノ又ハ特別地域外ニ在ル同項ノ指定ニ該ル設備ニ關シ其ノ施設者ニ對シ當該設備ノ使用ノ制限又ハ當該設備ノ除却若ハ變更、障碍防止ノ施設其ノ他障碍防止ノ爲必要ナル措置ヲ命ジ又緊急ノ必要アルトキハ軍事官憲ヲシテ障碍防止ノ爲必要ナル措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條ノ八　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ障碍ヲ及ボス設備ノ施設若ハ機器ノ使用ヲ爲ス者アリト認ムルトキ又ハ第七條ノ四、第七條ノ五若ハ前條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ係ル事項ニ關シ必要アルトキハ當該設備ノ施設者又ハ當該機器ノ使用者ニ對シ報告ヲ命ジ又軍事官憲ヲシテ必要ナル場所ニ立入リ檢査セシムルコトヲ得

軍事官憲ハ前項ノ檢査ノ場合ニ於テ必要アルトキハ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ檢査ニ付協力ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條　左ニ揭グルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

一　第四條第二項ノ規定ニ依ル添架ノ爲電氣導體ノ支持物ニ生ジタル損害

二　第五條第一項ノ規定ニ依ル立入又ハ測量標設置ノ爲生ジタル損害

三　第六條第一項ノ規定ニ依ル線路建設ノ爲土地又ハ建造物ニ生ジタル損害

四　第七條ノ規定ニ依リ伐除シタル植物ノ價額又ハ同條ノ規定ニ依ル植物ノ移植ノ費用

五　第七條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタルガ爲既ニ著手シタル設備ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生ジタル損害

六　第七條ノ七ノ規定ニ依リ著シク使用ヲ制限セラレ若ハ措置ヲ命セラレ又ハ軍事官憲ガ措置ヲ爲シタル爲生ジタル損害

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　正當ノ事由ナクシテ第四條第一項ノ規定ニ依ル連接又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル添架ヲ拒ミタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　軍用電氣通信ノ通信ニ依ル通信ノ祕密ヲ侵シ又ハ通信ノ祕密ヲ漏泄シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

軍用電氣通信ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ職務ニ關シ知得タル通信ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ規定ハ刑法第二編第三章外患ニ關スル罪、陸軍刑法第二編第一章叛亂ノ罪及海軍刑法第二編第一章叛亂ノ罪ニ關スル規定竝ニ軍機保護法ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第十一條　軍用電氣通信ノ事務ニ從事スル者軍用電氣通信ニ依ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非ザル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第十二條　軍用電氣通信ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ通信ノ取扱ヲ爲サズ又ハ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　軍用電氣通信ノ事務ニ從事スル者證ニ通信ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　軍用電氣通信ニ依ル通信ヲ妨害シ又ハ妨害スベキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守、測量又ハ巡視ヲ妨害シタル者

二　第七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ設備ヲ設置シ若ハ使用シタル者、同項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ設置シタル設備ヲ使用シタル者又ハ同項ノ許可ノ效力消滅シタル後當該設備ヲ使用シタル者

三　第七條ノ五又ハ第七條ノ七ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第十五條ノ二　第七條ノ四ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條ノ三　第七條ノ六若ハ第七條ノ七ノ規定ニ依ル軍事官憲ノ處分又ハ第七條ノ八第一項ノ規定ニ依ル檢査ヲ距ミ、妨ゲ又ハ忌避シ、同條第二項ノ規定ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ同項ノ規定ニ依ル協力ヲ爲サザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ノ八第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第十六條　軍用電氣通信ノ線路ノ電氣導體又ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ、動物若ハ舟筏ヲ繫ギ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

軍用電氣通信ノ線路ノ測量標ヲ毀棄又ハ汚穢シタル者亦前項ニ同ジ

第十七條　陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定シタル軍用ノ水底電氣通信線路ノ區域內ニ於テ船舶ヲ繫留シ、漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ軍用ノ水底電氣通信線路ノ號標ニ舟筏ヲ繫ギ若ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

軍用ノ水底電氣通信線路ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示ス浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定シタル距離以內ニ於テ前項ノ行爲ヲ爲シ又ハ航行シタル者亦前項ニ同ジ

第十八條　第十條、第十一條、第十三條、第十四條、第十五條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九條　法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十五條第二號若ハ第三號又ハ第十五條ノ三第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十條　第十五條第二號及第三號竝ニ第十五條ノ三第二項ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第二十二條　軍用電氣通信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和九年十月勅令第三百九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

軍用電信法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ軍用電信法ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ仍其ノ罰則ヲ適用ス

附　則（昭和十五年三月法律第一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十五年九月勅令第五八六號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行）

●軍用電氣通信法施行令

（昭和十五年九月十四日　勅令第五百八十七號）

朕軍用電氣通信法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

軍用電氣通信法施行令

第一條　陸軍大臣又ハ海軍大臣軍用電氣通信法第七條ノ二ノ規定ニ依ル特別地域ノ指定、同法第七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル設備ノ指定又ハ同法第七條ノ四ノ規定ニ依ル制限ヲ爲サントスルトキハ關係各大臣（朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ所管事項ニ關シテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官）ニ協議スベシ

第二條　特別地域ノ指定ハ軍用ノ無線電信、無線電話又ハ高周波電流ヲ使用シ通報信號ヲ爲スモノノ固定シタル設備（電線路ヲ除ク）ノ施設場所ノ周圍ニ付之ヲ爲スベシ

第三條　陸軍大臣又ハ海軍大臣特別地域ヲ指定シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公示ス

第四條　陸海軍以外ノ官廳ニ於テ軍用電氣通信法第七條ノ三第一項又ハ第七條ノ四ノ規定ニ依ル制限ニ係ル行爲ヲ爲サントスルトキハ內閣總理大臣又ハ各省大臣（朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ヲ含ム）ニ在リテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議シ其ノ他ノ官廳ニ在リテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ承認ヲ受クベシ

第五條　陸軍大臣又ハ海軍大臣軍用電氣通信法第八條ノ規定ニ依ル補償ヲ伴フベキ同法第七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル設備ノ指定又ハ同法第七條ノ七ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

第六條　軍用電氣通信法第八條ノ規定ニ依リ補償スベキ損害ハ通常生ズベキ損害ニ限ル

第七條　軍用電氣通信法第八條ノ規定ニ依ル補償ヲ請求セントスル者ハ損害ヲ生ジ又ハ費用ヲ要シタル日ヨリ六十日以內ニ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ請求スベシ

第八條　軍用電氣通信法第二十二條ノ規定ニ依リ公衆通信ノ用ニ供スル軍用電氣通信ハ遞信大臣（朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官以下之ニ同ジ）之ヲ告示ス

軍用電氣通信法ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ昭和十五年法律第一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十五年九月十五日ヨリ施行）

昭和九年勅令第三百十二號ハ之ヲ廢止ス

●軍用電氣通信法施行規則

（昭和十五年九月十四日　陸軍省令第八號　海軍省）

軍用電氣通信法施行規則左ノ通定ム

軍用電氣通信法施行規則

第一條　本令ニ於テ法トハ軍用電氣通信法ヲ、施設トハ設備ノ設置、使用又ハ變更ヲ謂フ

第二條　陸軍又ハ海軍ノ制服ヲ着用セザル軍事官憲法第五條第一項又ハ法第七條ノ八ノ規定ニ依リ立入、檢查又ハ質問ヲ爲ス場合ニ於テハ附圖第一又ハ附圖第二ニ定ムル證票ヲ携帶スベシ

第三條　法第五條第二項又ハ法第六條第一項ノ規定ニ依ル通知ハ邸宅若ハ構內ニ立入リ又ハ線路ヲ建設スベキ日ノ三日前迄ニ之ヲ爲ス但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　法第六條第二項ニ規定スル使用料ハ當該土地又ハ建造物ノ所有者ニ對シ其ノ請求ニ依リ之ヲ支拂フ

第五條　前條ノ規定ニ依リ支拂フベキ使用料ハ建設シタル支持物一箇ニ付一年四錢トス但シ二本以上ノ脚ヲ有スル支持物ヲ建設シタル場合ニ於テハ當該支持物一箇ニ付一年四錢以內ノ增額ヲ爲スコトアルベシ

第六條　特別地域ヲ指定シタルトキハ其ノ區域ヲ告示ス但シ陸軍大臣ノ指定スル特別地域ト海軍大臣ノ指定スル特別地域ト重複スル場合ニ於テハ陸軍大臣及海軍大臣連署シテ之ヲ告示ス

前項ノ規定ハ告示シタル區域ニ變更アリタル場合及特別地域ノ指定ヲ解除シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一項ニ規定スル區域ニ付テハ關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ圖面ヲ當該區域ヲ管轄スル市（市制第六條ノ市ノ區ヲ含ム）役所、町村役場（朝鮮ニ在リテハ府廳、邑面事務所、臺灣ニ在リテハ市役所、街庄役場）、警察署（臺灣ニ在リテハ郡役所、支廳ヲ含ム）又ハ憲兵隊（憲兵分隊、憲兵分遣隊ヲ含ム）ニ備付ク

第七條　法第七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ要スル設備ヲ別表ノ如ク指定ス

第八條　法第七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル許可ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ其ノ指定スル軍事官憲（以下許可官憲ト稱ス）之ヲ爲ス

前項ノ許可ヲ爲ス者ニ關シテハ之ヲ告示ス

第九條　特別地域內ニ於テ別表ニ揭グル設備ヲ設置又ハ使用セントスル者ハ許可願書（三通）ニ左ニ揭グル事項ヲ具シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官憲ニ之ヲ揭出スベシ第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

一　施設者ノ名及住所

二　施設ノ目的（施設ヲ必要トスル事由ヲ附記スベシ）

三　設備ノ種類及其ノ概要（電氣的部分ニ付テハ機器ノ種類、定格、

爲シ得レハ接續圖竝ニ電力供給者名及配電線路名ノ外電氣通信ノ通信ニ及ホス障碍ヲ防止スル特殊ノ設備アルトキハ之ヲ附記スヘシ）

四　設備ノ設置場所（之ヲ記入セル其ノ附近ノ圖面ヲ添附スヘシ）

五　設備ノ設置豫定期間及使用時間（使用時間ハ成ルヘク時刻ヲ明カニスヘシ）

第十條　第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ陸軍大臣又ハ陸軍ノ許可官廳及海軍大臣又ハ海軍ノ許可官廳ヲ連記シタル許可願書（六通）ヲ陸軍大臣若ハ陸軍ノ許可官廳又ハ海軍大臣若ハ海軍ノ許可官廳ニ提出スヘシ

第十一條　第九條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ提出スル場合ニ於テ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ先ツ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ證スル書類若ハ許可書ノ寫又ハ其ノ出願シタルコトヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第十二條　第九條第一號ノ事項ニ變更アリタルトキ又ハ許可ヲ得タル設備ヲ廢止シ若ハ休止シタルトキハ遲滯ナク書面ヲ以テ其ノ旨ヲ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官廳ニ屆出ツヘシ

第十三條　府、縣、市、町、村其ノ他公共團體及法人ノ許可願書ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スヘシ

第十四條　法第七條ノ四ノ規定ニ依リ特別地域内ニ於テ別表ニ掲ケル指定設備中第一號乃至第四號ノ裝置ト同一種類ニ屬スル携帶用機器ハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官廳ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條　前條但書ノ許可ニ關シテハ第九條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス

第十六條　軍用電氣通信法施行令第四條ノ規定ニ依リ陸海軍以外ノ官廳ニ於テ承認ヲ受ケントスルトキハ第九條乃至前條ノ規定ニ準ジ承認申請書ヲ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官廳ニ提出スヘシ

第十七條　陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官廳許可又ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可願書一通ヲ添附シタル許可證又ハ承認申請書一通ヲ添附シタル承認證ヲ交付ス

第十八條　第十四條ニ規定スル使用ニ關スル許可證又ハ同條ノ規定ヲ準用シタル第十六條ノ規定ニ依ル使用ニ關スル承認證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ何時ニテモ許可官廳、軍用電氣通信設備當該部隊ノ職員、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閲覽ニ供スヘシ

第十九條　許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ許可官廳ニ遲滯ナク届出デ必要ニ應ジ再下附ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テ未タ再下附ヲ受ケザルトキト雖モ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條　第九條ニ關スル許可ヲ受ケタル者ハ當該設備ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ揭ケヘシ

前項ノ規定ハ第九條ノ規定ヲ準用シタル第十六條ニ關スル承認ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　法第八條ノ規定ニ依ル補償ヲ請求セントスル者ハ補償請求書ニ損害算定書ヲ添附シ許可官廳ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スヘシ

第二十二條　陸軍大臣又ハ海軍大臣補償金額ヲ決定シタルトキハ請求者ニ書面ヲ以テ之ヲ通知ス

第二十三條　法第十七條第一項ノ規定ニ依リ指定シタル軍用ノ水底電氣通信線路ノ區域及方向ハ其ノ陸揚地ニ於ケル線路ノ兩側ニ附圖第三ノ號標ヲ設置シ之ヲ表示ス

第二十四條　許可證ヲ所持スヘキ者第十八條ノ規定ニ依ル閲覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

附　則

本令ハ昭和十五年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年陸軍省令第一號ハ之ヲ廢止ス

附圖第一

（日本標準規格B列八番）

第　號　昭和　年　月　日交付

陸軍省印

（海軍省印）

軍用電氣通信法

第五條ノ證票

官職氏名

裏面

軍用電氣通信法摘要

第五條第一項　軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守又ハ測量ノ爲必要アルトキハ軍事官憲ハ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ニ測量標ヲ設置スルコトヲ得但シ日沒ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ構内ニ立入ルコトヲ得ズ

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守、測量又ハ巡視ヲ妨害シタル者

軍用電氣通信法施行規則摘要

第二條　陸軍又ハ海軍ノ制服ヲ着用セザル軍事官憲法第五條第一項又ハ法第七條ノ八ノ規定ニ依リ立入、檢査又ハ質問ヲ爲ス場合ニ於テハ附圖第一又ハ附圖第二ニ定ムル證票ヲ携帶スヘシ

附圖第二

（日本標準規格B列八番）

第　號　昭和　年　月　日交付

陸軍省印
（海軍省印）

軍用電氣通信法
第七條ノ八ノ證票

官職氏名

裏面

軍用電氣通信法摘要

第七條ノ八　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ障碍ヲ及ボス設備ノ施設若ハ機器ノ使用ヲ爲ス者アリト認ムルトキ又ハ第七條ノ四、第七條ノ五若ハ前條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ係ル事項ニ關シ必要アルトキハ當該設備ノ施設者又ハ當該機器ノ使用者ニ對シ報告ヲ命ジ又軍事官憲ヲシテ必要ナル場所ニ立入リ檢査セシムルコトヲ得

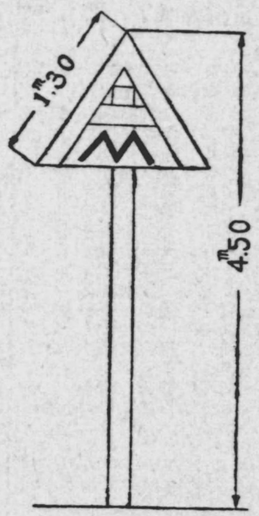
軍事官憲ハ前項ノ檢査ノ場合ニ於テ必要アルトキハ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ檢査ニ付協力ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條ノ三第一項　第七條ノ六若ハ第七條ノ七ノ規定ニ依ル軍事官憲ノ處分又ハ第七條ノ八第一項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シ、同條第二項ノ規定ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ同項ノ規定ニ依ル協力ヲ爲サザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

軍用電氣通信法施行規則摘要

第二條　陸軍又ハ海軍ノ制服ヲ着用セザル軍事官憲法第五條第一項又ハ法第七條ノ八ノ規定ニ依リ立入、檢査又ハ質問ヲ爲ス場合ニ於テハ附圖第一又ハ附圖第二ニ定ムル證票ヲ携帶スベシ

附圖第三



（海軍大臣指定ノ場合ハ⚓ノ符號ヲ附ス）

M　ノ幅約五十糎・高約二十五糎・字徑約四糎トシ黒色トス

⚓　ノ幅約二十糎・高約二十五糎トシ黒色トス

別表

一　高周波加熱器
　　高周波炉
　　ボンバルダ
　　等

二　高周波熔接機

三　機械的整流器ヲ使用スル「エックス」線裝置

四　高周波ヲ發生スル電氣醫療裝置
　　高周波電氣醫療機
　　ダアテルミ

五　左ニ揭グル裝置ニシテ整流子附電動機ヲ使用スルモノ
　　歯科エンヂン
　　電氣錐
　　毛髪乾燥器
　　電氣バリカン
　　眞空掃除器
　　電氣揚水ポンプ
　　電氣冷藏庫
　　電氣洗濯機
　　電氣サイレン
　　扇風器
　　エレベータ
　　特殊同期電動機
　　等

六　左ニ揭グル裝置ニシテ斷續器ヲ使用スルモノ
　　徐動式恒溫器ヲ使用スル裝置
　　電氣炬燵
　　電氣孵卵器
　　等
　　點滅式電氣サイン
　　振動式充電裝置

等

七　電氣收塵裝置（コットレル式）
八　電氣漂白裝置
九　水銀整流器
十　タンガー充電器
十一　架空送電線路、架空配電線路及架空饋電線路
十二　發電所、變電所及之ニ準ズル場所
十三　電氣鐵道

●軍用電氣通信法ニ依リ特別地域指定（昭和十五年九月十四日海軍省告示第十四號）

【沿革】昭和十六年九月告示第二二號、同年十月同第三五號改正

軍用電氣通信法第七條ノ二ノ規定ニ依リ指定スル特別地域竝ニ同法第七條ノ三ノ規定ニ依ル許可ヲ爲ス者ノ職名及其ノ所在地別表ノ如シ

（別表）

特別地域ノ名稱	區域	許可ヲ爲ス者 職名	許可ヲ爲ス者 所在地
大和田特別地域	埼玉縣北足立郡大和田町大字菅澤ノ全部及野火止ノ一部 同縣同郡片山村大字北原、堀ノ内、道場、石神ノ全部及栗原、貝沼、辻、原ケ谷戸ノ一部 東京府北多摩郡清瀬村大字下田、中里、上清戸、中清戸、下清戸ノ全部及清戸下宿ノ一部 同府同郡久留米村神山全部及門前、落合、小山ノ一部	横須賀鎮	神奈川縣横
蟹谷特別地域	神奈川縣川崎市大字蟹ケ谷、子母口、千年、下新城、明津、井田、下小田中、耕地、久末大谷、後谷、野川、大日、橋本、清澤、向寺台、山下ノ全部 同縣同市大字木月、今井、中新城ノ内東横電車ノ西側及南部電車ノ南側 同縣同市大字谷戸村、新作、梶ケ谷根、梶ケ谷、金山、權六谷戸、南野川ノ一部 神奈川縣横濱市港北區北綱島町、高田町、日吉本町、下田町、東山田町ノ全部 同縣同市同區日吉町、箕輪町ノ内東横線西側	守府司令長官	須賀市稻岡町
志地樂域特別	京都府東舞鶴市大字鹿原、小倉、田中、安岡ノ全部 同府同市大字市場、泉源寺、吉坂ノ一部 同府加佐郡朝來村長内、白屋、吉野ノ全部	舞府官鶴司鎮令守長	京舞部都鶴府市東余
中地黑瀬特別	廣島縣賀茂郡中黑瀬村大字大多田、丸山、楢原、兼廣、上保田、菅田、川角ノ全部 同縣同郡乃美尾村ノ全部 同縣同郡上黑瀬村大字南方（宗近、柳國ヲ除ク）全部	呉鎮守府	廣島縣呉市

備考

特別地域ノ詳細ハ當該區域ヲ管轄スル市（市制第六條ノ市ノ區ヲ含ム）役所、町村役場、警察署又ハ憲兵隊（憲兵分隊及憲兵分遣隊ヲ含ム）ニ備フル圖面ニ就キ見ルベシ

●軍用電氣通信公衆通信取扱規則（昭和九年十月十九日遞信省令第六十六號）

軍用電氣通信公衆通信取扱規則左ノ通定ム

軍用電氣通信公衆通信取扱規則

第一條　軍用電氣通信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ストキハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外公衆通信ニ關スル一般ノ規定ヲ適用ス

第二條　軍用電氣通信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ストキハ軍事ニ關スル通信ノ取扱ヲ先ニスベシ但シ特ニ時間ヲ定メテ之ガ取扱ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　軍用電氣通信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ス電信取扱所ニ於テハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外別使配達及舒船配達ヲ爲サズ

第四條　軍用電氣通信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ス電信取扱所ニ於ケル電報直配達區域ハ別ニ之ヲ告示ス

附則

本令ハ軍用電氣通信法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年五月遞信省令第十八號固定軍用電信公衆通信取扱規則ハ之ヲ廢止ス

●陸軍用電報取扱規約

（昭和十四年六月二十六日）
（陸達第三十六號）

國用通信網ト關係アル陸軍用電報ノ取扱ニ關シテハ別冊陸軍軍用電報取扱規約ニ依リ之ヲ實施スベシ

平時ニ於ケル陸軍軍用電報ノ發信權ニ關シテハ作戰要務令第一部第三百

九十九、第四百及第四百一ノ規定ヲ準用スベシ

附　則

本達ハ昭和十四年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍軍用電報規則ハ之ヲ廢止ス

（別冊略ス）

●軍用通信所發新聞電報取扱手續

（大正三年十一月二日）
（陸達第三十八號）

明治三十七年四月陸達第八十六號軍用通信所發新聞電報取扱手續左ノ通改ム

第一條　軍用通信所發新聞電報取扱手續

第一條　從軍ノ許可ヲ得タル新聞通信員ヨリ軍用通信所ニ託スル新聞電報ハ本手續ニ據ル

第二條　新聞電報ハ大本營ノ指示スル軍用通信所ニ於テ軍事通信ニ支障ナキトキニ限リ之ヲ取扱フ

第三條　新聞電報ハ新聞紙ニ掲載スヘキ事項ノミヲ記載シタルモノニ限ル

第四條　新聞電報トシテ差出シタル電報ト雖其ノ文中發受信者間ノ用務ニ關スル事項アリト認ムルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕スヘシ

第五條　新聞電報ハ普通ノ日本語又ハ英語ヲ以テ記載シ其ノ賴信紙ニ軍司令部又ハ師團司令部ノ檢印アルモノニ限リ之ヲ取扱フ

前項新聞電報ハ「ムノ」ノ局內心得ヲ附シ軍用通信所ヨリ軍用電線ニ連接スル郵便局ヘ之ヲ傳送スヘシ

第六條　內外國通信員ノ發シ得ル新聞電報ノ通數及一通ノ字（語）數ハ大本營ノ定ムル所ニ據ル

第七條　軍司令官又ハ獨立師團長ニ於テ必要ト認ムルトキハ通數又ハ字（語）數ニ關スル前條ノ制限ヲ更ニ縮少シ又ハ其ノ取扱ノ一部若ハ全部ヲ停止スルコトアルヘシ

第八條　軍用通信所ヨリ發スル新聞電報ハ豫メ其ノ料金ノ後納ニ付帝國又ハ關東州ノ通信官憲ヨリ許可セラレタルモノニ限ル

前項料金後納ノ新聞電報ノ發信者タル通信員名及受信者タル新聞社又ハ通信者名竝其ノ所在地名ハ豫メ大本營ヨリ軍司令部又ハ獨立師團司令部ヘ通報スルモノトス

第九條　料金後納ノ新聞電報ハ必ス其ノ本文末尾ニ發信人名ヲ記載スルヲ要シ且外國宛新聞電報ニ在リテハ賴信紙記事欄內ニ（Press RTP）ト表示スヘシ

前項（Press RTP）ハ局內心得ヲ以テ軍用通信所ヨリ軍用電線ニ連接スル郵便局ヘ之ヲ傳送スヘシ

第十條　新聞電報ノ傳送ニ關シ軍用線上ノ通信ニ因ル誤謬、遲延又ハ不達等ニ付テハ軍用通信所ハ發信人ニ對シ何等ノ責ニ任セス

第十一條　新聞電報ノ發送ニ關シ內外國通信員ニ於テ本手續ノ規定ニ違反セル行爲アリタルトキハ軍司令官又ハ獨立師團長ハ其ノ通信員ヨリ發スル新聞電報ノ取扱ヲ拒絕スヘシ

第十二條　新聞電報ノ取扱ニ關シ本手續ニ規定ナキモノハ一般ノ規定ニ據ル

●公衆電報ヲ取扱ハサル帝國軍用通信所發電報料金徴收方

（明治三十九年六月二十九日　遞信省令第三十一號）

【沿革】明治三十九年七月省令第三四號改正

公衆電報ヲ取扱ハサル帝國軍用通信所ヨリ發スル電報ノ料金ハ陸海軍部内ノ發信ヲ除クノ外其ノ配達局所ニ於テ受信人ヨリ之ヲ徴收ス但シ同文電報ノ料金ハ其ノ通數（原信ヲモ含ム）ヲ以テ料金總額ヲ除算シ其ノ得數ヲ各受信人ヨリ徴收スルモノトス

本令ハ明治三十九年七月二十日ヨリ施行ス

明治三十七年五月遞信省令第三十六號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●私設電信電話私設無線電信無線電話ヲ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル件

（昭和九年九月十日　遞信省令第五十七號）

私設電信電話私設無線電信無線電話ヲ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル件左ノ通定ム

私設電信電話私設無線電信無線電話ヲ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル件

電信法第三條又ハ無線電信法第六條ノ規定ニ依リ私設電信電話又ハ私設無線電信無線電話ヲ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルトキハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外豫メ其ノ旨ヲ當該施設者ニ通知ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●帝國領海内ニ在ル外國軍艦ノ無線電信無線電話ニ依ル通信ニ關スル件

（昭和二年七月十一日　勅令第二百二十六號）

於帝國領海内ニ在ル外國軍艦ノ無線電信無線電話ニ依ル通信ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　軍港若ハ要港ノ境域内又ハ軍港若ハ要港ノ境域ヨリ外方二十キロメートル以内ノ領域内ニ於テ外國軍艦（碇泊中ノモノ）又ハ外國軍用航空機ガ無線電信又ハ無線電話ヲ送信セントスルトキハ豫メ其ノ使用セントスル送信機ノ型式、送信電力、電波長及通信時間ヲ具シテ當該鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ遭難通信ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條ニ規定スル區域以外ノ領域内ニ於テ外國軍艦（碇泊中ノモノ）又ハ外國軍用航空機ガ無線電信又ハ無線電話ヲ送信スル場合ニハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　遭難通信ヲ爲ス場合ヲ除クノ外六百メートル及二千四百メートルノ電波長ヲ使用スルコトヲ得ズ

二　純粹ナル不褪滅電波ヲ使用スル場合ヲ除クノ外長時間ニ亙リ連續送信ヲ爲スコトヲ得ズ

三　無線電信官署又ハ軍用無線電信所ヨリ送信停止ノ要求ヲ受ケタルトキハ直ニ送信ヲ停止スルコトヲ要ス

四　附近ニ帝國軍艦碇泊スルトキハ送信ニ付指揮官ト協議スベシ

附　則

本令ハ昭和二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●防空通信規則

（昭和十三年一月二十八日　遞信省令第九號）

【沿革】昭和十五年三月省令第九號、同十六年五月同第五五號改正

防空通信規則左ノ通定ム

防空通信規則

第一條　防空通信ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　防空通信トハ戰時又ハ事變ニ際シ防空ノ實施ニ直接必要ナル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ關係陸海軍官憲、關係官公署及之等ノ命ヲ受ケ防空ノ實施ニ從事スル者相互間ニ發受スルモノヲ謂フ

第三條　防空通信ハ左ノ三種トス

一　警　報　防空警報ヲ防空警報發令官又ハ通信官署ヨリ通報スル通信

二　情　報　防空監視ノ事務ニ從事スル者ヨリ航空機ノ行動又ハ航空機ヲ搭載シ若ハ其ノ搭載ノ疑アル敵艦艇（敵ノ疑アルモノヲ含ム）ノ行動ヲ報告スル通信

三　指揮連絡報　防空機關相互間ニ於ケル指揮及當該指揮ニ對スル措置報告等ニシテ緊急ヲ要スル通信

第四條　警報ハ最先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

情報ハ警報ニ次グ先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

指揮連絡報ハ至急官報又ハ至急通話ト同一順位ヲ以テ之ヲ取扱フ但シ遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムルモノハ至急官報又ハ至急通話ニ優先シ之ヲ取扱フ

第五條　防空電報ハ電報取扱時間ニ拘ラズ之ヲ取扱フ

第六條　電話官署警報又ハ情報ノ取扱上必要アリト認ムルトキハ他ノ通話ヲ中斷スルコトアルベシ

第七條　防空通信ヲ發スル者ハ其ノ請求ノ際第三條ノ種別ヲ申出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テ第四條第三項但書ノ規定ニ依ル取扱ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ申出ヅベシ

第八條　防空通信ハ無料トス

防空通信ノ爲必要ナル加入又ハ專用電話ニ關スル料金ハ之ヲ特定又ハ免除スルコトアルベシ

第九條　公衆通信ノ取扱ハザル私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲシテ防空通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ當該施設者ニ通知ス

第十條　防空通信ノ取扱ヲ爲ス私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ハ其ノ專用通信ニ優先シ防空通信ヲ取扱フベシ但シ人命財産ノ安全ニ關シ緊急ヲ要スル專用通信ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　第九條ノ通知ヲ受ケタル私設又ハ官廳用ノ無線電信若ハ無線電話ハ其ノ通信執務時間ニ拘ラズ防空通信ノ取扱ヲ爲スベシ

第十二條　電信法第二條第四號、無線電信法第二條第三號、官廳用電信

電話規程第一條第四號又ハ官廳用無線電信無線電話規則第一條第三號ニ依ル施設ニシテ第九條ノ規定ニ依リ防空通信ノ取扱ヲ爲スモノハ私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則第三條及第十一條ノ規定ニ拘ラズ託送取扱ヲ爲スコトヲ得

第十三條　私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ニ於テ取扱ヒタル防空通信ニ對シテハ取扱費ヲ支給セズ

第十四條　遞信大臣ハ防空通信上必要アリト認ムルトキハ私設又ハ官廳用ノ電信、電話ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ停止ヲ命ズルコトアルベシ

第十五條　本令ニ規定ナキ事項ハ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ關スル一般ノ規定ニ依ル

第十六條　防空ノ訓練ニ際シ遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ別ニ告示スル所ニ依リ本令ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

第三款　外國電信

●外國電報規則（昭和八年十二月二十九日遞信省令第五十六號）

第二八四號

【沿革】昭和十年三月省令第一〇號、同年四月同第一二號、同年十一月同第四四號、同十一年三月同第一〇號、同年五月同第一五號、同年六月同第一七號、同年九月同第三四號、同年十二月同第七二號、同第七八號、同十二年三月同第一一號、同年四月同第二六號、同十三年三月同第一八號、同第二四號、同年十二月同第八三號、同十四年三月同第一二號、同年十二月同第六八號、同十五年三月同第八號、同年十二月同第八四號、同十六年一月同第七號、同年三月同第三一號、同年四月同第四四號、同年六月同第六七號改正

外國電報規則左ノ通定ム

外國電報規則目次

第一章　總則
第二章　書法
第三章　料金
第四章　賴信
第五章　交付
第六章　電線託送
第七章　特別電報
第八章　新聞電報
第九章　低減料金ノ電報
第十章　寫眞電報
附　則

外國電報規則

第一章　總則

第一條　外國電報トハ國際電氣通信條約及同附屬電信規則（以下國際電信又ハ特別ノ國際通信協定ニ依ル電報ヲ謂フ

第二條　外國電報ハ國際電氣通信條約及國際電信規則ニ依ルノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ取扱フ

第三條　國際電氣通信條約及國際電信規則ニ基キ外國主管廳ノ定ムル隨意規定事項及外國電報ノ取扱ニ關スル制限ニシテ必要アルモノハ之ヲ告示ス

第三條ノ二　（削除）

第三條ノ三　在中華民國帝國電信官署ノ外國電報ノ取扱ニ關スル特例ハ當該電信官署ニ之ヲ揭示ス

第二章　書法

第四條　外國電報ニ使用スル文字ハ「ローマ」字ニ、數字ハ「アラビア」數字又ハ「ローマ」數字ニ限ル

第五條　日本語ヲ普通語ノ外國電報ニ使用スルコトヲ得ル國語ト指定ス

第六條　全部又ハ一部暗語ヲ以テ記載シタル私報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ

第七條　國際電信規則第十七條第二項ニ規定シタル署名ノ證明ノ傳送ハ發信ニ於テ之ヲ取扱ハズ

第三章　料金

第八條　外國電報ノ料金ニ關シテハ特ニ定ムモルノヲ除クノ外其ノ基礎タル金「フラン」額ヲ告示ス

第九條　外國電報ノ料金ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外金「フラン」ノ邦貨相當額ヲ第二項ノ方法ニ依リ換算シ之ヲ定ム

一年ヲ四期ニ分チ一月一日、四月一日、七月一日及十月一日ニ初マル每三月ヲ各一期トシ各期ニ適用スベキ一金「フラン」ノ邦貨相當額ハ各其ノ前期中（最初ノ二月及最後ノ月ノ初ノ十五日間）ニ於ケル一米貨「ダラー」ノ邦貨相當額（外國郵便爲替金ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣換算ヲ平均シ關合中振出ノ場合ニ適用スルモノニ依リタル額タルモノノ千分ノ三百二十七（一錢未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ）ヲ超ユルトキハ五十語以內ヲ增ス每ニ二十錢ヲ加フ

前項ニ依リ算定シタル一金「フラン」ニ對スル邦貨相當額ハ別ニ之ヲ告示ス

第十條　發信人又ハ受信人ノ請求ニ依リ帝國政府ノ電信系（在中華民國帝國電信官署ヲ除ク）內ニ於テ交換セラルル課金事務報又ハ追尾若ハ再送セラルル外國電報ノ料金ハ一語ニ付六錢トス

第十一條　（削除）

第十二條　外國電報ノ傳送前取消ノ料金ハ一通ニ付五錢トス

第十二條ノ二　外國電報ノ郵便受信報知料ハ一通ニ付二十錢トス

第十二條ノ三　外國電報ノ同文謄寫料ハ各謄寫ニ付其ノ語數五十語以內ハ四十錢トシ五十語ヲ超ユルトキハ五十語以內ヲ增ス每ニ二十錢ヲ加フ

第十三條　來著外國電報ノ別使配達料ハ別ニ告示スル場合ヲ除クノ外一通ニ付一圓トス

第十三條ノ二　郵便ニ依リ交付スベキ外國電報ニ對スル附加料金左ノ如シ

一　著信國內ニ於テ交付スル場合
　書留郵便　十六錢

二　著信國外ニ於テ交付スル場合

普通郵便
書留郵便

第十四條　外國電報ノ閱覽料ハ一通ニ付五錢トス

外國電報ノ謄本料ハ一通ニ付其ノ語數百語以內ハ六十錢トシ百語ヲ超ユルトキハ五十語以內ヲ增ス每ニ二十錢ヲ加フ

外國電報ノ寫眞謄本料ハ謄本一枚ニ付一圓トス

第十五條　外國電報ノ受取證ハ發信人ノ請求ニ依リ電報一通每ニ之ヲ交付ス其ノ料金ハ受取證一通ニ付五錢トス

第十六條　受信人ノ請求スル反覆課金事務報ニ對シテハ其ノ料金ヲ徵收セズ

第十六條ノ二　課金事務報ノ郵便ニ依ル返信ノ料金ハ普通郵便ニ依ル場合ハ二十錢、書留郵便ニ依ル場合ハ三十六錢トス

第十七條　（削除）

第十八條　通常電報、新聞電報及後廻新聞電報ノ一語ノ徵收料金ニ一錢未滿ノ端數ヲ生ズルトキハ之ヲ切捨ツ

第十九條　外國電報一通ノ料金ニ一錢未滿ノ端數ヲ生ズルトキハ之ヲ切捨ツ

第二十條　郵便局（通信官署官制第十六條第一項但書ノ規定ニ又ハ電信局（編者挿出納官吏ヲ置カザル局ヲ除ク）ニ納付スベキ外國電報ニ關スル料金ハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スベシ

第二十一條　前條ニ揭グル局ニ外國電報ヲ頼信セントスル者ハ通貨ヲ以テ其ノ料金ヲ發信局ニ豫納スルコトヲ得

前項ノ豫納金ハ豫納一回ニ付百圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第二十二條　發信局ニ於テ新ニ前條ノ規定ニ依ル豫納金ヲ受領シタルトキハ其ノ金額ヲ記入シタル豫納金通帳ヲ發信人ニ交付ス

再度以後ノ豫納ハ該通帳交付局ニ之ヲ爲シ通帳ニ其ノ金額ノ記入ヲ受クベシ

第二十三條　豫納金通帳ニ依リ外國電報ヲ發送セントスル者ハ通帳ト共ニ之ヲ該通帳交付局ニ差出スベシ

發信局ニ於テハ該電報ニ關スル料金ヲ豫納金ヨリ徵收シ通帳ニ其ノ金額ヲ記入シテ發信人ニ返付ス

第二十四條　豫納金通帳ヲ有スル者該通帳交付局ニ外國電報ニ關スル料金ヲ追納スル場合ニ於テハ該豫納金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條　豫納金通帳ヲ汚損、毀損又ハ亡失シタルトキハ該通帳交付局ニ對シ之ガ再度交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳一冊ニ付二十錢ヲ納付スベシ

第二十五條ノ二　發信人又ハ受信人ハ別ニ告示スル電信官署ニ發著スル電報ニ限リ料金受信人拂ノ取扱ヲ受クルコトヲ得但シ關係外國電信主管廳ニ於テ其ノ取扱ヲ爲サザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條ノ三　發信人前條ノ規定ニ依ル取扱ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ差出シ其ノ許可ヲ受クベシ

一　受信人ノ住所氏名

二　電報ニ用フル名宛

三　電報ノ發著局名

四　電報ノ經過線路名

前項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル後前項各號ノ事項ヲ變更セントスル

トキ亦同シ

第二十五條ノ四　前條第一項ノ規定ニ依ル申請ヲ許可シタルトキハ料金受信人拂電報發信證票ヲ申請者ニ交付ス

前條第二項ノ規定ニ依ル申請ヲ許可シタルトキハ先ニ交付シタル證票ト引換ニ新證票ヲ交付ス

第二十五條ノ五　料金受信人拂電報發信證票ノ效力ハ發行ノ日ヨリ起算シ一年トス

前項ニ規定スル期間經過後引續キ料金受信人拂電報ヲ發送セントスル者ハ期間經過前豫メ新證票ノ交付ヲ受クベシ

第二十五條ノ六　料金受信人拂電報發信證票ヲ汚斑、毀損又ハ亡失シタルトキハ新證票ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條ノ七　發信人料金受信人拂電報ヲ發送セントスルトキハ發信局ニ其ノ證票ヲ呈示スベシ

第二十五條ノ八　受信人第二十五條ノ二ノ規定ニ依ル取扱ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ差出シ其ノ許可ヲ受クベシ

一　發信人ノ住所氏名
二　電報ニ用フル名宛
三　電報ノ發著局名
四　電報ノ經過線路名
五　一月ノ受領電報見込語數

前項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル後前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十五條ノ九　前條ノ規定ニ依ル申請ヲ許可シタルトキハ其ノ旨申請者ニ通知ス

第二十五條ノ十　受信人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ著信局ノ指示ニ從ヒ保證金ヲ納付スベシ但シ遞信大臣ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ保證金ノ納付ヲ免除スルコトアルベシ

保證金額ハ三月分ノ受領電報見込料金額ヲ標準トシ著信局ニ於テ之ヲ定ム

保證金額ハ隨時之ヲ改定スルコトアルベシ

保證金ハ國債ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

受信ニ關スル料金受信人拂ノ取扱ニシテ保證金ノ納付ヲ要スルモノニ付テハ納付アリタル後取扱ヲ開始ス

第二十五條ノ十一　料金受信人拂ノ來著外國電報ニ關スル料金ハ一月分毎ニ計算シ受信人ニ之ヲ通知ス

前項ノ料金ハ外國電信主管廳ヨリ通知アリタル額ヲ關係電報ノ屬スル月ノ末日ニ於ケル外國郵便爲替金ノ振出ノ場合ニ適用スベキ外國貨幣換算割合ニ依リ邦貨ニ換算ス

受信人ハ前項ノ通知ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ料金ヲ著信局ニ納付スベシ

第二十五條ノ十二　受信人前條ノ期間內ニ料金ヲ納付セザルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ尙不足アルトキハ之ヲ追徵ス

前項ノ規定ニ依リ生ジタル保證金ノ剩額ハ直ニ之ヲ填補セシム

第二十五條ノ十三　發信人又ハ受信人料金受信人拂ノ取扱ヲ受クルコトヲ謀メントスルトキハ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ヅベシ

發信人前項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サントスルトキハ其ノ所有スル料金受信人拂電報發信證票ヲ屆書ニ添附スベシ

第二十五條ノ十四　遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ料金受信人拂ノ取扱ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ受信人第二十五條ノ十第三項ノ場合ニ於テ保證金ノ追納ヲ爲サザルトキ及第二十五條ノ十二第二項ノ場合ニ於テ保證金ノ增補ヲ爲サザルトキ亦同シ

第二十五條ノ十五　前二條ノ規定ニ依リ料金受信人拂ノ取扱ヲ爲サザルニ至リタル場合ト雖モ料金受信人拂電報ノ料金ヲ納付シタル後ニ非ザレバ保證金ハ之ヲ還付セズ

第二十五條ノ十六　發信人第二十五條ノ五第一項ノ規定ニ依ル證票ノ有效期間經過後新證票交付ノ請求ヲ爲サザルコト一年ニ亘リタルトキ又ハ受信人料金受信人拂電報ノ送達ヲ受ケザルコト一年ニ亘リタルトキハ料金受信人拂ノ許可ハ之ヲ取消ス

第二十六條　外國電報ニ關スル料金ノ還付ハ通貨ヲ以テス

第二十七條　外國電報ニ關スル料金ノ還付ハ通貨ヲ以テス

第二十八條　來著外國電報ノ普通語ノ部分中ニ發信國ノ國語以外ノ國語ノ語辭ノ聚集又ハ變改ニシテ其ノ國語ノ用法ニ反スルモノアルトキハ著信局ニ於テ正當ノ用法ニ從ヒテ語數ヲ計算シ不足料金ハ之ヲ受信人ヨリ徵收ス

第二十九條　電報規則第四十二條、第四十四條及第四十九條ノ規定ハ外國電報ニ之ヲ準用ス

第四章　飜信

第三十條　外國電報ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外電信官署（外國電報ヲ取扱フモノニ限ル）ニ之ヲ類信スベシ

第三十一條　外國電報ハ電報取扱時間ニ拘ラズ之ヲ類信スルコトヲ得但シ電報取扱時間外ニ於テ全ク電報ノ取扱ヲ爲サザル電信官署ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條ノ二　料金受信人拂電報ヲ類信スルトキハ電報類信紙局用記事欄ニ「RPP」ト記載スベシ

第三十二條　電報規則第二十五條、第五十條、第五十一條及第五十七條ノ規定ハ外國電報ニ之ヲ準用ス

第五章　交付

第三十三條　來著外國電報ノ無綫交付ハ之ヲ取扱フ

第三十四條　來著外國電報ノ本人直渡ハ之ヲ取扱ハズ

第三十四條ノ二　列車中ノ旅客ニ宛ツル來著外國電報ハ之ヲ取扱ハズ

第三十五條　「郵便局留置」又ハ「電信局留置」ナル課金指定ヲ有スル來著外國電報ニ對シテハ配達特別附加料金ヲ徵收セズ

第三十六條　電報直配達區域外ニ宛テタル外國電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノ又ハ郵便若ハ書留郵便ノ指定アルモノノ受信人ハ豫メ著信局ニ請求シテ別使ニ依リ其ノ電報ノ配達ヲ受クルコトヲ得但シ之ヲ受クルトキハ其ノ配達料ヲ納ムベシ

第三十七條　電報規則第六十一條乃至第六十五條、第六十七條、第百五十九條乃至第百六十三條、第百六十五條及第百六十七條乃至第百七十一條ノ規定ハ外國電報ニ之ヲ準用ス

電報規則ニ依リ登記ヲ受ケタル略號若ハ配達先又ハ交付ヲ受ケタル局

渡證票ハ之ヲ本令ニ依リ登記又ハ交付ヲ受ケタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ別ニ料金ヲ課セズ

文字及數字ヲ混用シタル名宛ノ略號ハ之ガ登記ヲ受クルコトヲ得ズ

第六章　電線託送

第三十八條　加入電話又ハ電報送受ノ爲施設シタル電信、電話若ハ氣送管ニ依ル外國電報ノ託送ニ付テハ電報規則第九章電線託送ニ關スル規定ヲ準用ス但シ賴信ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外豫納金通帳ヲ有スルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　電線託送ニ依リ賴信シタル外國電報ニ關スル料金ハ賴信ノ都度豫納金ヨリ之ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ發信人ハ賴信ノ日ヨリ十日以內ニ豫納金通帳ヲ發信局ニ差出シ徵收金額ノ記入ヲ受クベシ

第七章　特別電報

第四十條　至急私報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ

第四十一條　返信料前納證券ハ一通若ハ數通ヲ以テ電報數通ノ料金ニ充テ又ハ之ヲ以テ前納返信料ニ充ツルコトヲ得ズ

第四十二條　返信料前納證券ノ再度發行ハ之ヲ請求スルコトヲ得ズ

第四十三條　來著外國電報ノ別使配達ハ特ニ告示スル地域ヲ除クノ外之ヲ取扱フ

第四十四條　電報規則第七十三條、第八十二條、第八十五條、第九十三條及第百十一條ノ規定ハ外國電報ニ之ヲ準用ス

第八章　新聞電報

第四十五條　通常新聞電報及至急新聞電報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ

第四十六條　日本語及英吉利語ヲ新聞電報ニ使用スルコトヲ得ル國語ト指定ス

第四十七條　別ニ告示スル外國各地ニ發著スル新聞電報ハ特別ノ低額料金ニ依ル後廻新聞電報ト爲スコトヲ得

第四十八條　後廻新聞電報ノ傳送及交付ハ後廻電報ト同順位トス

第四十九條　後廻新聞電報ニハ「Lcpa」ナル課金指定ヲ附スベシ

第五十條　新聞紙、定期刊行物又ハ電信社ノ通信員新聞電報ヲ發送セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ差出シ其ノ認可ヲ受クベシ

一　電報ヲ宛ツル新聞紙若ハ定期刊行物ノ發行所、通信社又ハ放送局ノ名稱及所在地

二　電報ニ用ウル名宛

三　電報ノ發著局名

四　申請者ノ住所氏名

前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル後其ノ各號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第五十一條　前條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ與フルトキハ申請者ニ新聞電報發信證票ヲ交付ス

前條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ與フルトキハ先ニ交付シタル證票ト引換ニ新證票ヲ交付ス

第五十一條ノ二　第二十五條ノ五乃至第二十五條ノ七、第二十五條ノ十三及第二十五條ノ十六ノ規定ハ新聞電報發信證票ノ交付及呈示竝ニ新

聞電報ノ發送ノ廢止及認可ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第五十二條乃至第五十四條　（削除）

第五十五條　新聞電報ノ受信人ハ之ヲ揭載シタル新聞紙又ハ定期刊行物一部ヲ直ニ著信局ニ差出スベシ

第五十六條乃至第六十四條　（削除）

第九章　低減料金ノ電報

第六十五條　後廻電報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ

第六十六條　書信電報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ

第六十七條　書信電報ノ交付ハ日曜日ニ於テモ之ヲ取扱フ

第六十八條　祝賀電報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ但シ任意本文ノモノニ限ル

第六十九條　（削除）

第七十條　（削除）

第七十條ノ二　別ニ告示スル外國各地ニ發著スル私報ニシテ本文ニ復活祭祝賀文ノミヲ記載シタルモノハ之ヲ復活祭祝賀電報ト爲スコトヲ得

第七十條ノ三　復活祭祝賀電報ノ受付期間ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十條ノ四　復活祭祝賀電報ニ付テハ前二條ノ規定ニ依ルノ外祝賀電報ニ關スル規定ヲ準用ス

第十章　寫眞電報

第七十一條　別ニ告示スル外國各地ニ發著スル寫眞電報ハ本章ノ定ムル所ニ依リ之ヲ取扱フ

第七十二條　寫眞電報ヲ取扱フ電信官署（以下外國寫眞電報取扱局ト稱ス）、取扱時間及直配達區域竝ニ外國主管廳ノ定ムル寫眞電報取扱ニ關スル特例ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十三條　寫眞電報ハ外國寫眞電報取扱局ニ之ヲ賴信スベシ

第七十四條　寫眞電報ヲ賴信セントスルトキハ外國寫眞電報取扱局ノ交付スル外國寫眞電報賴信紙（附錄ノ樣式ヲ使用スベシ）

第七十五條　傳送スベキ形象ハ方形トシ一邊ノ長サハ十八粍ヲ、他邊ノ長サハ二十三粍（名宛ヲ外國寫眞電報賴信紙ノ相當欄ニ記載セザルモノニ付テハ一邊ノ長サ十八粍、他邊ノ長サ二十四粍ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス）

第七十六條　寫眞電報ニ付テハ特別電報、新聞電報又ハ低減料金ノ電報ノ取扱ヲ爲サズ

第七十七條　寫眞電報ノ傳送前取消ノ料金ハ一通ニ付五圓トス

第七十八條　左ノ料金ハ發信人又ハ受信人ヨリ還付ノ請求又ハ事故ノ申告アリタルトキ納付者ニ之ヲ還付ス

一　寫眞電信業務上ノ事故ニ因リ受信人ニ到達セザリシ寫眞電報ノ全料金

二　寫眞電信回路ノ不通ニ因リ發信人ガ取消ヲ請求シタル寫眞電報ノ全料金

三　停止セラレタル寫眞電報ノ全料金

四　發信電信官署ニ於テ傳送前ニ返還シタル寫眞電報ノ全料金

第七十九條　寫眞電報規則第二條、第三條第一項但書及第二項、第四條第二項、第十條（但書ヲ除ク）、第十一條第二項、第十三條第一項及第二項、第十七條、第十八條及第二十條ノ規定ハ本章ニ規定スル寫眞電報ニ之ヲ準用ス

第八十條　寫眞電報ニ付本章ニ規定ナキ事項ハ一般外國電報ノ例ニ依ル

第八十一條乃至第八十七條（削除）

附則

第八十八條　本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年六月遞信省令第二十六號外國電報規則及大正十五年十二月遞信省令第五十四號「クリスマス」及新年祝賀特別外國電報規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ差出シタル外國電報ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第八十九條　外國電報ノ料金（前納返信料ヲ除ク）ニ付テハ當分ノ內第九條ニ依リ定メタル金「フラン」ノ邦貨相當額中四十錢ヲ超過スル額ノ百分ノ七十五（一錢未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ）ヲ該邦貨相當額ヨリ控除シタル殘額ヲ以テ一金「フラン」ノ邦貨相當額トシ其ノ金額ハ別ニ之ヲ告示ス

第九十條　本令施行前外國電報規則ニ依リ爲シタル登記、認可、許可等ニシテ本令ニ之ニ相當スル規定アルモノハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附錄樣式（略ス）

●外國無線電報規則

（昭和八年十二月二十九日）
（遞信省令第五十七號）

【沿革】昭和十年十二月省令第五二號、同十二年三月同第一二號、同十三年五月同第四三號、同年十二月同第八四號、同十六年三月同第三二號、同年四月同第四五號改正

外國無線電報規則左ノ通定ム

外國無線電報規則目次

第一章　總則

第二章　一般無線電報

第三章　外國放送船舶無線電報

附則

外國無線電報規則

第一章　總則

第一條　外國無線電報トハ國際電氣通信條約及同附屬無線通信規則（以下國際無線通信規則ト稱ス）又ハ特別ノ國際通信協定ニ依ル電報ニシテ移動局ヨリ發シ又ハ之ニ著スルモノ及外國ニ於テ放送スル電報ニシテ帝國政府船舶局ノ取扱フモノヲ謂フ

第二條　外國無線電報ハ國際電氣通信條約及國際無線通信規則ニ依ルノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ取扱フ

第三條　國際電氣通信條約及國際無線通信規則ニ基キ外國主管廳ノ定ムル隨意規定事項及外國無線電報ノ取扱ニ關スル制限ニシテ必要アルモノハ之ヲ告示ス

第四條　本令ニ規定ナキ事項ニ付テハ外國電報ニ關スル規定（外國電報規則第十二條ノ三、第十三條ノ二及第五十條乃至第五十一條ノ二ノ規定ヲ除ク）ニ依ル

第二章　一般無線電報

第五條　帝國政府ノ陸上局及移動局ニ於テ課スル外國無線電報ノ陸上局料及移動局料ハ左ノ如シ

一　陸上局料　一語ニ付　二十四錢　但シ醫事通報ニ在リテハ　十二錢

二　移動局料　一語ニ付　十六錢　但シ醫事通報ニ在リテハ　八錢

帝國政府移動局ニ於テ課スル海上無線電信ノ移動局料ハ前項ノ規定ニ拘ラズ二十語以內ハ一回トシ二十語ヲ超ユルトキハ一語ヲ增ス每ニ五錢ヲ加フ

第六條　帝國政府陸上局ノ媒介ニ依ル外國無線電報ニシテ專ラ帝國政府ノ電信系（在中華民國帝國電信官署ヲ除ク）ニ依リ傳送スルモノノ一般ノ電氣通信線路系上ノ傳送ニ對スル料金（以下電信料ト稱ス）ハ一語ニ付六錢トス

第七條　（削除）

第八條　外國陸上局及外國移動局ニ於テ課スル外國無線電報ノ陸上局料及移動局料竝ニ帝國政府移動局ニ於テ受付ケタル外國無線電報ニシテ外國陸上局ニ傳送スベキモノノ電信料ハ該陸上局及移動局ノ屬スル主管廳又ハ私企業ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ料金ノ豫算ニ適用スベキ外國貨幣ノ換算割合ハ別ニ之ヲ告示ス

第九條　外國無線電報ノ陸上局料、移動局料又ハ移動局ノ中繼料ノ一語ノ徵收料金ニ一錢未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

第十條　帝國政府ノ電信系（在中華民國帝國電信官署ヲ除ク）ノミニ依リ傳送セラレ且帝國政府陸上局ノ媒介ニ依リ移動局ニ著スル外國無線電報ノ電信受信報知ニ對シテハ第六條ニ定ムル料金ノ六語分ヲ課ス

第十一條　移動局ニ著スル外國無線電報ノ發信人ガ指定シタル帝國政府陸上局ニ於テ該電報ヲ他ノ帝國政府陸上局又ハ滿洲電信電話株式會社（以下滿洲會社ト稱ス）陸上局ニ轉送スル場合ハ別ニ料金ヲ課セズ滿洲會社陸上局ヨリ帝國政府陸上局ニ轉送スル場合ニ付亦同ジ

第十二條　（削除）

第二十類　通信、交通及電氣　第一編　通信

第十三條　外國無線電報ハ受信人又ハ受信人ニ代リ之ヲ領スル者ノ請求ニ依リ帝國政府ノ電信系上及滿洲會社ノ電信系上ニ限リ之ヲ再送スルコトヲ得

第十四條　後廻新聞無線電報ハ之ヲ取扱ハズ

第十四條ノ二　航行中ノ船舶內ニ於ケル傷病者ノ醫療手當ニ關シ其ノ指示ヲ受クル爲帝國船舶ノ船長ト外國ノ主管廳若ハ私企業ノ指定スル病院若ハ陸上局又ハ醫師ノ乘組メル外國船舶トノ間竝ニ外國船舶ノ船長ト別ニ告示スル病院又ハ醫師ノ乘組メル帝國船舶トノ間ニ發著スル無線電報ハ之ヲ醫事通報ト爲スコトヲ得

第十四條ノ三　醫事通報ノ發信人ハ願信紙ノ郵便切手欄ニ「醫療」ト記載スベシ

第十五條　海上無線書信ハ外國海岸局ノ媒介ニ依リ帝國政府船舶局ト別ニ告示スル外國各地トノ間ニ發著スルモノニ限リ之ヲ取扱フ

第十六條　祝賀無線電報及復活祭祝賀無線電報ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ取扱ハズ

第十七條　（削除）

第十八條　帝國政府ノ海岸局又ハ船舶局ノ媒介ニ依リ無線電報規則第二條ノ規定ニ依ル託送發受所ト外國又ハ外國船舶トノ間ニ發著スル無線電報ハ帝國政府船舶局ヨリ發シ又ハ之ニ著スルモノニ準ジ之ヲ取扱フ但シ託送發受所ニ於ケル取扱ニ對シテハ別ニ料金ヲ課セズ滿洲會社ノ海岸局又ハ船舶局ノ媒介ニ依ル場合ニ付亦同ジ

無線電報規則第八條、第十四條第二項及第三項、第二十一條、第四十五條、第四十七條及第四十八條ノ規定ハ前項ノ電報ニ之ヲ準用ス但シ

同規則第四十七條ノ海軍官憲ノ承認ヲ經タル電報ニ關スル料金ハ發信人ヨリ、同規則第四十八條ノ海軍官憲ノ承認ヲ經タル電報ニ關スル料金ハ受信人ヨリ之ヲ徵收ス

第三章　外國放送船舶無線電報

第十九條乃至第二十八條　（削除）

第二十九條　船舶ニ對シ外國無線電信局ノ放送スル電報（以下外國放送船舶ヲ無線電報ト稱ス）ヲ航行中ノ船舶內ニ公示スル目的ヲ以テ當該船舶ニ設備シタル無線電信局ヨリ受領セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ遞信大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　電報ヲ放送スル外國無線電信局ノ名稱、經營者名、呼出符號、發射ノ型式、周波數及放送時刻（アリニツチ標準時）

二　受信開始期

三　電報ノ交付ヲ受クル船舶局名

四　受信人名

五　申請者ノ住所氏名

前項ノ許可ヲ受ケタル後其ノ各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ申請書ヲ差出シテ遞信大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ外國無線電信局ノ經營者名、呼出符號、發射ノ型式、周波數、放送時刻、受信人名及申請者ノ住所ニ異動ヲ生ジタル場合ニ於テハ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ヅベシ

第三十條　外國放送船舶無線電報ノ受領ニ關シ外國ニ於ケル通信社其ノ他ト契約ヲ要スルモノニ在リテハ前條第一項ノ申請書ニ其ノ契約期間ヲ記載シ且契約書ノ寫又ハ該契約ヲ證明スル書類ヲ添附スベシ

前項ノ契約期間ヲ變更シタルトキハ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ヅベシ

第三十一條　第二十九條ノ申請ヲ許可シタルトキハ其ノ旨申請者ニ通知ス

第三十二條　外國放送船舶無線電報ニ對シテハ交付スル電報ノ語數ニ應ジ別ニ告示スル料金ヲ課ス

第三十三條　外國放送船舶無線電報ノ料金ハ電報交付ノ際受信人ヨリ之ヲ徵收ス

第三十四條　外國放送船舶無線電報ハ傳送上ノ誤謬ニ依リ目的ヲ達スルコトヲ得ザリシ場合ト雖其ノ電報料ヲ免除又ハ還付セズ

第三十五條　外國放送船舶無線電報ハ一般電報ノ取扱ニ妨アリ又ハ無線電信局ノ設備上已ムヲ得ズト認ムルトキハ其ノ取扱ヲ爲サザルコトアルベシ

第三十六條　外國放送船舶無線電報ノ受領ヲ廢止セントスルトキハ電報ノ交付ヲ受クル當該電信官署ヲ經テ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ヅベシ

附　則

第三十七條　本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年七月遞信省令第七十號外國無線電報規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ差出シタル外國無線電報ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十八條　本令施行前外國無線電報規則ニ依リ爲シタル認可、許可等ニシテ本令ニ之ニ相當スル規定アルモノハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附　則　（昭和十年十二月遞信省令第五二號）

本令ハ昭和十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於ケル外國放送無線電報ニ關スル未納ノ料金ハ本令施行ノ日ヨリ二十日以內ニ該電報交付局ニ通貨ヲ以テ之ヲ納付スベシ

保證金ハ前項ノ料金ヲ納付シタル後ニ非ザレバ之ヲ還付セズ

第二項ノ期間內ニ料金ヲ納付セザルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ剩餘アルトキハ之ヲ還付ス

附　則　（昭和十三年十二月遞信省令第八四號）

本令ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ差出シタル外國無線電報ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●外國主管廳ノ定ムル外國電報ニ關スル隨意規定事項等ニ關スル件

（昭和八年十二月二十九日遞信省告示第二千九百六十二號）

外國主管廳ノ定ムル外國電報ニ關スル隨意規定事項、外國主管廳ノ定ムル外國電報ノ取扱ニ關スル制限、外國電報ノ料金、外國後廻新聞電報ヲ發受シ得ル地名及其ノ料金、料金受信人拂外國新聞電報ヲ取扱フ電信官署、外國祝賀電報ヲ發受シ得ル地名竝ニ外國祝賀電報ノ郵便送達ヲ爲ス電信官署及其ノ受持區域ニ關シテハ昭和九年一月一日以後ニ於テモ從前告示シタル所ニ依ル

●外國電報ノ取扱ニ關シ外國電信主管廳ノ定ムル制限

（昭和十一年七月三日遞信省告示第千五百八十八號）

【沿革】昭和十一年七月告示第一八四四號、同年八月同第一八五號、同第二〇一三號、同年九月同第二二〇八號、同十二年一月同第一二〇號、同第一三五號、同年二月同第二九八號、同年三月同第七三六號、同十三年二月同第三〇三號、同年九月同第三〇六一號、同第三〇八五號、同年十月同第三一五五號、同第三一三一號、同年十一月同第三七五八號、同十四年三月同第七六八號、同年四月同第一一一四號、同第一一八八號、同年五月同第一三二〇號、同年六月同第一七五四號、同第一九〇〇號、同十五年四月同第一〇五二號、同年十二月同第三四八七號、同十六年四月同第九〇九號、同第一〇四〇號改正

外國電報ノ取扱ニ關シ外國電信主管廳ノ定ムル制限左ノ如シ

昭和五年十月遞信省告示第二千三百九十五號ハ之ヲ廢止ス

亞細亞地方

「フィリッピン」　追尾電報ハ商業太平洋海底電信會社「マニラ」局ニ於テハ之ヲ取扱ハズ

群島

馬來　追尾電報ハ「ココス、キーリング」群島（Cocos-Keeling Islands）、「ラビュアン」（Labuan）、「ビーナン」

(Penang)及新嘉坡(Singapore)ニ於ケル「ケーブル、エンド、ワイヤレンス」會社局並ニ馬來電信系ノ除ク之ヲ取扱ハズ

馬來利加地方

「バーマ」群島　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「ボリヴィア」國　一　「ヴィアシア」(Viacha)經由無線電信局ニ宛ツル電報ハ發信人ノ危險ニ於テノミ之ヲ取扱フ

カナダ　同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「コスタリカ」國　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「キューバ」國　一　電報ノ誤謬不滯等ニ關シテハ其ノ責ニ任セズ且料金ノ還付ヲ爲サズ

二　通信電報ハ西印度及「パナマ」電信會社局ノ除ク之ノ外之ヲ取扱ハズ

三　同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「ドミニカ」群島　通信電報ハ之ヲ取扱ハズ

「アテマラ」國　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

英領「ギアナ」　通信電報ハ「ジョージタウン」(Georgetown)ヲ除ク之ノ外之ヲ取扱ハズ

「ハイティ」國　同文電報ハ「アール、シー、エー」通信會社「ポート、オ、プリンス」(Port au Prince)局ニ於テハ之ヲ取扱ハズ

「ホンデュラス」國　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

英領「ホンデュラス」　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

ジャマイカ　通信電報ハ西印度海底線及無線會社「キングストン」(Kingston)局ヲ除ク之ノ外之ヲ取扱ハズ

ラプラド　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「メキシコ」國　一月一日、二月五日、五月一日、五月五日、九月十六日、十月十二日及十一月二十日竝ニ日曜日ニ於テハ官報、至急私報及新聞電報ニ限リ發送ス

「ニカラグア」國　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

ドミニカン、リパブリック　同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「パナマ」國　一　通信電報ハ「オール、アメリカ、ケーブル」會社局ヲ除ク之ノ外之ヲ取扱ハズ

二　同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

ポルト、リー　通信電報及同文電報ハ「オール、アメリカ、ケーブル」會社局、西印度海底線及無線會社局及「アール、シー、エー」通信會社「サン、ファン」(San Juan)局ヲ除ク之ノ外之ヲ取扱ハズ

「モントセラス」島　同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「サルヴァドル」國　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

及「ミクエロン」　通信電報ハ「サン、ピエール」(S. Pierre)無線局ニ於テハ之ヲ取扱ハズ

セント、クリストファー、ジョー　通信電報ハ之ヲ取扱ハズ

「ヌークス」群島　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「アメリカ」合衆國　一　同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

二　至急新聞電報ハ「アレンス・ワイヤレンス」會社ニ於テハ之ヲ取扱ハズ

歐羅巴地方

英國領

英國「ポート、サイド」地域(獨逸帝國ノ占領管理ニ屬スル地域ノ除ク)　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

太洋洲地方

「チャタム」群島　通信電報ハ之ヲ取扱ハズ

「ノックス」及「ハーヴィー」群島　通信電報ハ之ヲ取扱ハズ

グアム　通信電報及同文電報ハ南洋太平洋海底電信會社局ニ於テハ之ヲ取扱ハズ

ハワイ　一　通信電報ハ「アール、シー、エー」通信會社局及「マッケイ」無線電信會社局ヲ除ク之ノ外之ヲ取扱ハズ

二　同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

ミッドウェー　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

ナウル　通信電報及同文電報ハ之ヲ取扱ハズ

「サモア」群島　通信電報ハ「チュチュイラ」(Tutuila)ヲ除ク之ノ外之ヲ取扱ハズ

佛領

西「アフリカ」

無線通信ニ於テハ左記電報ハ之ヲ取扱ハズ

(イ)　偽裝電報

(ロ)　通信電報

(ハ)　至急電報

(ニ)　別使配達電報

「レユニオン」島　通信電報ハ之ヲ取扱ハズ

「カナリー」群島　一　電報ハ發信人ノ危險ニ於テノミ之ヲ取扱フ

二　私報ハ普通通ヲ以テ記載スルコトヲ要ス

「ボルネオ」島　通信電報ハ之ヲ取扱ハズ

「エリトリア」　一　電報ハ「アディグラット」(Adigrat)、「アドワ」(Adua)、「アディスアベバ」(Addis Abeba)、「アディスアレム」(Addis Alem)、「アクスム」(Axum)、「デシエ」(Dessie)、「ディレダワ」(Dire Daua)、「エンティシオ」(Enticcio)、「ゴンダール」(Gondar)、「ギギカ」(Giggica)、「ハラール」(Harrar)及「マカレ」(Macalle)宛ニ限ル但シ「アディグラット」及「アドワ」以外ノ各地ニ宛ツル電報ニ付テハ至急電報、返信料前納電報及照校電報以外ノ特別電報ハ之ヲ取扱ハズ

二　電報ハ「エリトリア」宛ト同一ノ料金及條件ニ依リ之ヲ取扱フ

シーラ、レオン　道尾電報及同文電報ハ「ケーブル、エンド、ワイヤレス」會社「シーラ、レオン」(Sierra Leone)局ヲ除クノ外之ヲ取扱ハズ

●外國主管廳ノ定ムル外國無線電報ノ取扱制限ニ關スル件

（昭和八年十二月二十九日　遞信省告示第二千九百六十三號）

外國主管廳ノ定ムル外國無線電報ノ取扱制限ニ關シテハ昭和九年一月一日以後ニ於テモ從前告示シタル所ニ依ル

昭和四年十二月遞信省告示第三千二百八十三號受信局ノ寄港地ヨリ郵便ニ依リ送達セラルル電報ノ取扱制限ハ昭和八年十二月三十一日限リ之ヲ廢止ス

●外國無線電報ノ取扱ニ關シ外國主管廳ノ定ムル制限

（昭和九年一月三十一日　遞信省告示第百八十六號）

【沿革】昭和九年二月告示第三五三號、同年五月同第一〇九八號、同年七月同第一七三六號、同年十月同第二六七〇號、同十年五月同第一三一九號、同年十月同第二六七七號改正

外國無線電報ノ取扱ニ關シ外國主管廳ノ定ムル制限左ノ如シ

大正十三年九月遞信省告示第千三百二十二號ハ之ヲ廢止ス

主管廳名	制限事項
「アメリカ」合衆國「マッケイ、ラヂオ、エンド、テレグラフ」(Mackay Radio and Telegraph)會社「ラヂオマリン、コーポレーション、オブ、アメリカ」(Radiomarine Corporation of America)「タイドウオター、ワイヤレス、テレグラフ」(Tidewater Wireless Telegraph)會社「トロピカル、ラヂオ、テレグラフ」(Tropical Radio Telegraph)會社「アメリカ」合衆國海軍(U.S.Navy)	上記所屬海岸局及船舶局ニ於テハ隱語無線電報ニ對シ五語ノ最低限料金ヲ課ス
佛領「ソマリー」(Somali)海岸	「ヂブチー」(Djibouti)海岸局ニ於テハ左記無線電報ハ之ヲ取扱ハズ (イ)照校無線電報 (ロ)別使ニ依リ交付スヘキ無線電報
シレナイカ(Cyrenaica)	私報ノ無線電報ハ暗語ヲ以テ記載スルコトヲ得ス但シ同國政府ニ提出シタル隱語書ニ依リ記載スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
「ハワイ」(Hawaii)群島	「ワヒアワ」(KHK)海岸局ニ於テハ隱語無線電報ニ對シ五語ノ最低限料金ヲ課ス
パナマ(Panama)	「アメリカ」合衆國海軍(U.S.Navy)所屬海岸局ニ於テハ隱語無線電報ニ對シ五語ノ最低限料金ヲ課ス
「フィリッピン」(Philippines)群島	「マニラ」(KAA)海岸局ニ於テハ隱語無線電報ニ對シ五語ノ最低限料金ヲ課ス
サン、ピエール、ミクロン(Miquelon)諸島	「サン、ピエール」(S.Pierre-et-Miquelon)海岸局ニ於テハ無綫交付ノ無線電報ハ之ヲ取扱ハス
トリポリ(Tripoli)	同國宛無線電報(私報)ハ暗語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得ス但シ同國政府ニ提出シタル隱語書ニ依リ記載スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

●外國無線電報ニ關スル料金ノ換算ニ適用スベキ外國貨幣ノ換算割合

（昭和八年十二月二十九日　遞信省告示第二千九百六十四號）

昭和九年一月一日ヨリ外國無線電報ニ關スル料金ノ換算ニ適用スベキ外國貨幣ノ換算割合左ノ如シ

大正九年五月遞信省告示第八百六號ハ昭和八年十二月三十一日限リ之ヲ廢止ス

金「フラン」ヲ基礎トスルモノ	外國電報ニ適用スル金「フラン」ニ對スル邦貨相當額トス
米貨「ダラー」ヲ基礎トスルモノ	一「ダラ」金「フラン」ニ對スル邦貨相當額ノ五倍トニ付ス

●外國放送船舶無線電報ニ課スル料金（昭和八年十二月二十九日遞信省告示第二千九百六十七號）

【沿革】昭和十年十二月告示第三三三九號改正

外國無線電報規則第三十二條ノ規定ニ依リ外國放送船舶無線電報ニ課スル料金左ノ如シ

昭和七年十月遞信省告示第千九百六號ハ昭和八年十二月三十一日限リ之ヲ廢止ス

外國放送船舶無線電報	一通ニ付 二百語以内	二百一語以上五十語以内ヲ增ス毎ニ 五十錢
	二圓	

一　放送事項、時刻及周波數

無線電信	放送事項	放送時刻	放送周波數
東京中央電信局	暴風警報	午前九時 午後二時三十分	A一電波一一六八〇kc
		午後八時三十分	A一電波六〇八〇kc
	一　水路告示中緊急ヲ要スル事項 二　航路標識ノ設置改廢又ハ事故ニ關シ緊急ヲ要スル事項 三　航路ノ變化又ハ暗礁ニ關スル事項 四　遺棄物、漂流物、流氷又ハ難破船ニ關スル事項 五　其ノ他ノ船舶航行上ノ危險警戒ニ必要ナル事項	午後九時三分	A一電波三九kc（場合ニ依リ三六・五kcノ周波數ヲ使用スルコトアルヘシ）及七三五kc

●水路告示中緊急ヲ要スル事項及船舶航行上ノ危險警戒ニ必要ナル事項ヲ無線電信ニ依リ放送スルノ件（昭和八年十二月二十九日遞信省告示第二千九百六十九號）

【沿革】昭和十年四月告示第九九九號、同十一年六月同第一五五七號、同十三年六月同第一七五一號、同年七月同第二四五二號、同年八月同第二六八六號、同十四年一月同第二二四號改正

昭和九年一月一日ヨリ左記ニ依リ水路告示中緊急ヲ要スル事項及船舶航行上ノ危險警戒ニ必要ナル事項ヲ無線電信ニ依リ放送ス

大正三年十二月遞信省告示第八百三十六號及大正十五年一月遞信省告示第百十七號ハ之ヲ廢止ス

海岸局（東京ヲ除ク）	一	水路告示中緊急ヲ要スル事項	
	二	航路標識ノ設置改廢又ハ事故ニ關シ緊急ヲ要スル事項	
	三	航路ノ變化又ハ暗礁ニ關スル事項	
	四	遭棄物、漂流物、流氷又ハ難破船ニ關スル事項	
	五	暴風警報	
	六	其ノ他船舶航行上ノ危險警戒ニ必要ナル事項	
船舶無線電信	一	當該船舶ニ於テ發見シタル航路標識ノ事故、航路ノ變化、暗礁、遭棄物、漂流物、流氷又ハ難破船ニ關スル事項及氣象ノ急激ナル變化其ノ他船舶航行上ノ危險警戒ニ必要ナル事項	
	二		
	三		

註

(イ) 放送事項（暴風警報ヲ除ク）ハ歐文ヲ使用ス但シ外國船舶無線電信ニ於テ受信ヲ必要トセザル事項ニ付テハ和文ヲ使用スルコトアルベシ

(ロ) 暴風警報ハ海上暴風警報電報式ニ依リ之ヲ放送ス但シ東京中央電信局ニ於テ短波ヲ以テ放送スベキ暴風警報ハ英語ニ飜譯シテ之ヲ放送ス

(ハ) 海岸局ニ於ケルA二電波五〇〇kcノ周波數ニ依ル放送ノ時刻ハ開接局トノ混信ヲ避クル爲若干異動スルコトアルベシ

二　放送方法

左ノ事項ヲ順次放送ス

(イ)	安全符號（TTT）	三回
(ロ)	前置符號（DE）	一回
(ハ)	自己呼出符號	三回
(ニ)	通報ノ種類（航海、暴風雨、遭棄物、氷況）	一回
(ホ)	發信番號（暴風警報ニ限ル）	一回

	一	通報入手ノ卽刻（沈默時間中ナルトキハ其ノ終末及次ノ沈默時間ノ終末）	A二電波五〇〇kc但シ戸畑ハA一電波三七〇〇kc、父島ハA一電波八五・五kcトス
	二	時間ノ終末 午前九時十八分 午後五時十八分	
	三		
	一	通報入手ノ卽刻（沈默時間中ナルトキハ其ノ終末及次ノ沈默時間ノ終末）	A二又ハB電波五〇〇kc
	二	午前九時十八分 午後五時十八分	
	三		

(ヘ) 本文符號（和文ニ在リテハBDTQ 歐文ニ在リテハBTQ） 一回

(ト) 通報事項 一回

(チ) 結了符號（▬ ▬ ▬） 一回

場合ニ依リ(ニ)乃至(ホ)ノ事項ヲ反覆スルコトアルベシ

三　放送事項記載例

(イ) 航海

航海ニ高瀨燈臺ハ修理ノ爲一月三日ヨリ休燈中ナリ
Navigation=Takase lighthouse is closed for repairs since Jan 3

(ロ) 氣象ノ急激ナル變化

(イ) 颱風ニ「天洋丸報」南東ニ在ル颱風ハ北方ヨリノ風其ノ風力ヲ增シ晴雨計ハ急速ニ降下シツツアリ位置北二三一二東一七二四〇、十二日グリニッヂ〇三〇〇
Typhoon=Tenyomaru reports quote Typhoon to SE wind increasing from N and barometer falling rapidly Position 2312 N 17140 E 0300 GMT 12

(ロ) 暴風雨ニハリケーン接近ノ模樣ナリ晴雨計修正二九六四ニシテ降下シツツアリ風北東風力八北東ヨリノウネリ
Storm=Appearances indicate approach of hurricane barometer corrected 2964 inches falling wind NE force 8 swell medium from NE frequent rain squalls course 35 9 knots 2200 N 13836 E 1330 GMT 14

(ハ) 遭棄物

遭棄物＝水面上僅カニ見ユル遭棄物アリ北四〇〇六東一六五〇五、二十一日グリニッヂ一六三〇
Derelict=Observed derelict almost submerged in 4006 N 165 05 E 1630 GMT 21

(ニ) 流氷

氷＝大ナル氷山アリ北四六〇五東一六一一〇、三十日グリニッヂ〇八〇〇
Ice=Large berg sighted in 4605 N 16110 E 0800 GMT 30

備考

放送事項ハ原則トシテ和文百六十字以內歐文三十語以內ニ限ルモノトス

●國際放送電報規則

（昭和十年十二月二十九日 遞信省令第五十一號）

【沿革】昭和十六年十一月省令第九號改正

國際放送電報規則左ノ通定ム

國際放送電報規則

第一條　國際放送電報ハ左ノ二種トス

一　對外放送電報

二　外國放送電報

第二條　對外放送電報トハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケ設立シタル社團法人タル通信社ヨリ外國ニ情報ヲ頒布スル目的ヲ以テ特定ノ者ニ宛ツルコトナク無線電信ニ依リ放送セラルル爲一年ヲ通ジ毎日發スル電報ヲ謂フ

第三條　外國放送電報トハ外國無線電信局ノ放送スル情報電報ニシテ官廳又ハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケ設立シタル社團法人タル通信社ニ於テ別ニ告示スル電信官署ヨリ受領スルモノヲ謂フ

第四條　對外放送電報ヲ發信セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ遞信大臣ノ許可ヲ受クベシ各號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

一　情報ヲ頒布セントスル地方

二　情報ノ種類

三　和文電報歐文電報ノ別（歐文電報ノ場合ハ使用國語ヲ附記スベシ）

四　電報ノ字語數

五　放送ヲ希望スル時刻

第五條　前條ノ申請ヲ許可シタルトキハ對外放送電報ノ發信電信官署、放送電信官署、顧信時刻、放送時刻、發射ノ型式及周波數ヲ指定シ其ノ旨申請者ニ通知ス

第六條　遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第四條ノ規定ニ依ル電報ノ字語數ヲ制限シ又ハ前條ノ規定ニ依リ指定シタル事項ヲ變更スルコトアルベシ

第七條　電報顧信時刻ヲ經過シタル後ニ顧信シタル對外放送電報ハ之ガ取扱ヲ爲サザルコトアルベシ

第八條　廣告又ハ私信ト認ムル事項ヲ記載シタル電報ニ付テハ對外放送電報ノ取扱ヲ爲サズ

第九條　對外放送電報ノ實際字語數ハ發信電信官署ニ於テ特ニ承認シタル場合ヲ除クノ外許可字語數ヲ超過スルコトヲ得ズ

第十條　對外放送電報ノ料金ハ一月分毎ニ之ヲ計算シ發信電信官署ヨリ翌月ノ十日迄ニ之ヲ發信人ニ通知ス

發信人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ月二十五日迄ニ其ノ料金ヲ發信電信官署ニ通貨ヲ以テ納付スベシ

第十一條　（削除）

第十二條　對外放送電報ノ料金ヲ納付セザルトキハ滯納ノ期間之ガ取扱ヲ停止ス

前項ノ規定ニ依ル取扱停止期間三十日以上ニ及ビ又ハ其ノ停止度數一年三回以上ニ及ビタルトキハ對外放送電報取扱ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

第十三條　（削除）

第十四條　外國放送電報ヲ受領セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ遞信大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　電報ヲ放送スル外國無線電信局ノ名稱、經營者名、呼出符號、發射ノ型式、周波數及放送時刻（グリニッヂ標準時）

二　和文電報歐文電報ノ別（歐文電報ノ場合ハ使用國語ヲ附記スベシ）

三　電報ノ字語數

外國放送電報ノ受領ニ關シ關係通信社等ト特約ヲ要スルモノニ在リテハ前項ノ申請書ニ其ノ契約書ノ寫又ハ該契約ヲ證明スル書類ヲ添附スベシ

第一項ノ許可ヲ受ケタル後其ノ各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ヅベシ

第十五條　外國放送電報ニ對シテハ交付スル電報ノ字語數ニ應ジ受信人ヨリ料金ヲ徵收ス

第十六條　第六條及第十條ノ規定ハ外國放送電報ニ之ヲ準用ス

第十七條　國際放送電報ニ對シテハ別ニ告示スル料金ヲ課ス

第十八條　國際放送電報ハ傳送上ノ誤謬ニ依リ目的ヲ達スルコトヲ得ザリシ場合ト雖其ノ電報料ヲ免除セズ

第十九條　遞信大臣ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ業務上支障アルトキハ國際放送電報ノ取扱ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

第二十條　國際放送電報ハ無線電信局ノ設備上已ムヲ得ズト認ムルトキハ其ノ取扱ヲ爲サザルコトアルベシ

第二十一條　對外放送電報ノ發信ヲ廢止シ又ハ外國放送電報ノ受領ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ヅベシ

第二十二條　國際放送電報ノ取扱ニ關シ本令ニ規定ナキ事項ハ和文電報及漢文電報ニ付テハ東亞新聞電報、歐文電報ニ付テハ外國新聞電報ニ關スル規定ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●對外放送電報及外國放送電報ニ課スル料金

（昭和十六年十一月十九日遞信省告示第二千三百一號）

沿革　昭和一七年三月遞信省告示第五二〇號改正

國際放送電報規則第十七條ノ規定ニ依リ對外放送電報及外國放送電報ニ課スル料金左ノ如シ

昭和十年十二月遞信省告示第三千三百三十七號ハ本日限リ之ヲ廢止ス

本告示ハ昭和十六年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

對外放送電報料

和文	一日總字數	五千字以內	日額　二十五圓
		五千字ヲ超ユルトキハ五百字以內ヲ增ス每ニ	日額　二圓五十錢
漢文及歐文	一日總語數	一萬五千語以內	日額　三百六十圓
		一萬五千語ヲ超ユルトキハ百語以內ヲ增ス每ニ	日額　二圓四十錢

外國放送電報料

和文	一日總字數	五千字以內	日額　二十圓
		五千字ヲ超ユルトキハ五百字以內ヲ增ス每ニ	日額　二圓
歐文	一日總字數	五千字以內	日額　二十圓
		五千字ヲ超ユルトキハ五百字以內ヲ增ス每ニ	日額　二圓
滿洲國ヨリ放送ノイ、滿洲國ヨリ放送ノモノ一通ニ付	一日總語數	五十語以內	日額　五十錢
		五十語ヲ超ユルトキハ五十語以內ヲ增ス每ニ	日額　八圓
其ノ他ノモノ一通ニ付	一日總語數	一百語以內	日額　二圓
		一百語ヲ超ユルトキハ五十語以內ヲ增ス每ニ	日額　二圓

●外國放送電報ノ交付ヲ取扱フ電信官署

（昭和十年十二月二十九日遞信省告示第三千三百三十八號）

沿革　昭和一一年二月遞信省告示第二一六號改正

國際放送電報規則第三條ノ規定ニ依リ外國放送電報ノ交付ヲ取扱フ電信官署左ノ如シ

昭和八年十二月遞信省告示第二千九百六十六號ハ昭和十一年一月三十一日限リ之ヲ廢止ス

東京中央電信局

東京中央郵便局

●東亞電信電話規則

（昭和十六年三月十八日遞信省令第二十六號）

沿革　昭和一六年四月遞信省令第四六號、九月第八八號、一二月第一〇九號、一七年三月第二八號、第五三號、八月第九五號改正

東亞電信電話規則左ノ通定ム

東亞電信電話規則

目次

第一章　東亞電報
第二章　東亞無線電報
第三章　東亞電話通話

第一節　總則
第二節　一般通話
第三節　豫約通話
第四節　船舶通話
第五節　年賀通話
附則
東亞電信電話規則

第一章　東亞電報

第一條　東亞電報トハ帝國（關東州ヲ除ク）ト關東州、滿洲國又ハ中華民國トノ間ニ發著スル電報ヲ謂フ

第二條　東亞電報ニ關シテハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外內國電報ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條　官報トハ左ニ揭グル電報（寫眞電報ヲ除ク）ヲ謂フ

一　帝國、滿洲國又ハ中華民國ノ官廳及地方自治體ヨリ發スル公信

二　外國ノ元首、皇族、大臣、陸海空軍司令官、大使、公使及領事ヨリ發スル電報但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發スル電報ハ官報發信ノ資格アルモノニ宛テ且官用ニ關スルモノニ限ル

三　受取リタル官報ヲ提示シ其ノ返信トシテ發スル電報

一　內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ト關東州又ハ滿洲國間ノモノ

二　朝鮮ト關東州又ハ滿洲國間ノモノ

四　前各號以外ノ電報ニシテ特ニ告示スルモノ

第四條　局報トハ左ニ揭グル電報ヲ謂フ

一　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ關シ電信局所又ハ電話局所相互間ニ發受スル電報（寫眞電報ヲ除ク）

二　寫眞電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ發受スル寫眞電報

三　前各號以外ノ電報ニシテ特ニ告示スルモノ

第五條　電報規則第八條ニ規定スル第二種ノ文字、數字又ハ記號ヲ使用シタル電報ニシテ其ノ本文全部ガ中國電報新編ニ依ル數字四箇ノ集合ヨリ成ルモノハ之ヲ漢文電報ト稱ス

漢文電報ノ本文ニハ數字又ハ數字及記號ヲ以テ記載シタル居所ノ地番號、各種數量、銀行電報若ハ之ト類似ノ電報ノ照査數、商標、製造標、商品名、機械用術語、航空機名、列車名又ハ略號名宛ニシテ括弧ヲ以テ圍ミタルモノヲ使用スルコトヲ得

漢文電報ノ書法及語數計算ニ付テハ歐文電報ノ例ニ依ル

第六條　電報料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ但シ和文電報ヲ連記シタル第二以下ノ受信人名及逐書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第二以下ノ居所ニ對シテハ一名宛每ニ名宛料（十五字ヲ超ユルトキ五字以內ヲ增ス每ニ課スル料金ニ同ジ）ヲ附課ス

	和文電報 十五字以內（十五字ヲ超ユルトキハ五字以內ヲ增ス每ニ）	漢文電報及歐文電報 五語以內（五語ヲ超ユルトキハ一語ヲ增ス每ニ）
官報	四十五錢	六十錢
私報	六十錢	七十五錢
官報	四十五錢	六十錢
私報	九錢	十二錢
官報	九錢	十二錢
私報	十二錢	十五錢

三　內地、朝鮮、樺太又ハ南洋群島ト中華民國間及臺灣ト中華民國（南支那ヲ除ク）間ノモノ

四　臺灣ト南支那間ノモノ

第七條　電報ノ特殊取扱料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

至急料	電報料ニ同ジ		
照校料	電報料ノ二分ノ一		
電報受信報知料	電報ノ種別ニ依リ	和文	十五字ニ相當スル電報料ニ同ジ
		漢文及歐文	五語ニ相當スル電報料ニ同ジ
郵便受信報知料	五錢		
同文謄寫料	和文	原信以外ノ各通ニ付原信本文ノ字數ニ依リ五十字迄每ニ	
	漢文及歐文	各謄寫ニ付謄寫ノ語數ニ依リ十語迄每ニ	
別使配達料	內地	著信電信官署ヨリ十六キロメートル以內ハ五十錢、十六キロメートルヲ超ユルトキハ四キロメートル迄每ニ五十錢ヲ加フ但シ島嶼ニ配達スルモノハ里程ニ拘ラズ五十錢トシ配達實費之ヲ超ユルトキハ其ノ實費額ニ依ル	
	朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島	著信電信官署ヨリ八キロメートル以內ハ五十錢、八キロメートルヲ超ユルトキハ四キロメートル迄每ニ五十錢ヲ加フ但シ朝鮮及臺灣ノ島嶼ニ配達スルモノハ里程ニ拘ラズ五十錢トシ配達實費之ヲ超ユルトキハ其ノ實費額ニ依ル	
	關東州、滿洲國及中華民國	里程ニ拘ラズ五十錢トシ其ノ配達實費之ヲ超ユルトキハ其ノ實費額ニ依ル	
艀船配達料	內地、朝鮮、臺灣及中華民國	五十錢（北支那ニ限リ八十錢）トシ其ノ配達實費之ヲ超ユルトキハ其ノ實費額ニ依ル	
	關東州及滿洲國	八十錢（大連ニ限リ一圓五十錢）トシ其ノ配達實費之ヲ超ユルトキハ其ノ實費額ニ依ル	

第八條　新聞電報ニハ前二條ノ規定ニ拘ラズ左ノ料金ヲ課ス但シ和文電報ニ連記シタル第二以下ノ各受信人名ニ對シテハ名宛料（十五字ヲ超ユルトキ五字以內ヲ增ス每ニ課スル料金ニ同ジ）ヲ附課ス

第二九九號

新聞電報料

一　內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ト關東州又ハ滿洲國間ノモノ
二　朝鮮ト關東州又ハ滿洲國間ノモノ
三　內地、朝鮮、樺太又ハ南洋群島ト中華民國間及臺灣ト中華民國南支那ヲ除ク間ノモノ
四　臺灣ト南支那間ノモノ

至急料　新聞電報料ニ同ジ

同文謄寫料　和文　原信以外ノ各通ニ付原信本文ノ字數ニ依リ五十字迄每ニ　十錢
　　漢文及歐文　各謄寫ニ付謄寫ノ語數ニ依リ十語迄每ニ　十錢

第九條　中華民國ニ宛ツル電報ニ關スル料金ハ外國電報ノ豫納金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十條　發信人又ハ受信人ノ請求ニ依リ帝國關東州ヲ除ク內ニ於テ交換セラルル東亞電報ノ尋問、改正若ハ停止ニ關スル電報、追尾電報又ハ再送電報ニハ左ノ料金ヲ課ス但シ和文電報ノ追尾電報又ハ再送電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人名及逐書シタル第二以下ノ居所ニ對シテハ一名宛料每ニ名宛料八錢ヲ附課ス

和文十五字漢文及歐文五語以內　和文十五字漢文及歐文五語ヲ超ユルトキハ和文五字以內漢文及歐文一語ヲ增ス每ニ　四十錢　八錢

第十一條　東亞電報ニ付テハ夜間配達、翌朝配達、別使配達料受信人拂及舒船配達料受信人拂ノ取扱ハ之ヲ爲サズ

第十二條　漢文電報及歐文電報ノ返信料前納電報ニ在リテハ前納料金額ハ電報料ノ最少額ヲ納付スル場合ト雖モ指定略號ニ之ヲ附記スベシ

	和文電報 十五字以內	和文電報 十五字ヲ超ユルトキハ五字以內ヲ增ス每ニ	漢文電報及歐文電報 五語以內	漢文電報及歐文電報 五語ヲ超ユルトキハ一語ヲ增ス每ニ
一	二十錢	四錢	二十五錢	五錢
二	十五錢	三錢	二十錢	四錢
三	三十錢	六錢	四十五錢	九錢
四	二十五錢	五錢	四十錢	八錢

第十三條　和文電報ノ同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ニ對シテハ一通每ニ第六條新聞電報ニ付テハ第八條ニ規定スル名宛料二箇分ニ相當スル料金ヲ附課シ之ヲ原信ノ電報料ニ併算ス

第十四條　漢文電報及歐文電報ノ同文電報ニ在リテハ各名宛ハ之ヲ逐書スベシ

第十五條　前條ノ電報ニハ「同文」ナル指定指定略號「TM(一括通數ヲ附記ス)」ヲ第一ノ名宛ノ前ニ記載スベシ
前項以外ノ指定ハ其ノ關係スル各名宛ノ前ニ之ヲ記載スベシ但シ至急、照校又ハ新聞電報ノ指定ハ同文ノ指定ノ前ニ一回限リ之ヲ記載スベシ

第十六條　漢文電報及歐文電報ノ同文電報ニ關スル料金ノ徵收ニ付テハ一通ノ電報トシテ之ヲ取扱フ

第十七條　漢文電報及歐文電報ノ同文電報ハ著信電信局所ニ於テ各名宛每ニ謄寫ノ上當該受信人ニ之ヲ送達ス

第十八條　漢文電報ノ新聞電報ハ滿洲語又ハ中國語ノ普通辭ヲ以テ之ヲ記載スベシ

第十九條　漢文電報及歐文電報ノ新聞電報ニハ名宛ノ前ニ「新聞電報」ナル指定指定略號「presse」ヲ記載スベシ
至急新聞電報ニ付テハ至急ノ指定ハ新聞電報ノ指定ノ前ニ之ヲ記載スベシ

第二十條　關東州、滿洲國及中華民國ニ於テ發行シタル新聞電報ノ發信證票料金受信人拂新聞電報發信證票ヲ除クハ帝國關東州ヲ除クニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得
帝國關東州ヲ除クニ於テ發行シタル新聞電報ノ發信證票料金受信人拂新聞電報發信證票ヲ除クハ關東州、滿洲國及中華民國ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得

第二十一條　新聞電報ノ發信人又ハ受信人ハ特ニ告示スル電信官署ニ發著スルモノニ限リ遞信大臣ノ許可ヲ得テ料金受信人拂ノ取扱ヲ受クルコトヲ得

第二十二條　料金受信人拂新聞電報ニ付テハ至急ヲ除クノ外特殊取扱ヲ爲サズ

第二十三條　料金受信人拂新聞電報ニ付テハ外國電報規則第二十五條ノ三乃至第二十五條ノ十六ノ規定ヲ準用ス但シ許可申請書ニハ經過線路名ノ記載ヲ要セズ

第二十四條　豫約新聞電報ハ發信人ニ於テ料金納付ノ責ヲ負フモノニ限リ之ヲ取扱フ
豫約新聞電報ノ取扱ヲ爲ス地域及料金ハ別ニ之ヲ告示ス
後納新聞電報ハ之ガ取扱ヲ爲サズ

第二十五條　帝國關東州ヲ除クト中華民國トノ間ニ發著スル電報ニ關シ受信人ノ請求スル尋問電報頼信紙餘白ニ記載シタル發信人居所氏名ノ尋問ヲ除ク及其ノ回答ニ對シテハ料金ヲ徵收セズ
前項ノ尋問及回答ニ付テハ照校ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得ズ

第二十六條　慶弔電報ニハ左ノ料金ヲ課ス
一　例文電報　字數ニ拘ラズ電報ノ種別ニ依リ和文ノ官報又ハ私報十五字分ノ電報料ニ同ジ但シ連記シタル第二以下ノ各受信人名ニ對シテハ名宛料一箇分、同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ニ對シテハ名宛料二箇分連記シタル第二以下ノ各受信人名ニ對シテハ名宛料一箇分ヲ加フヲ附課ス
二　任意文電報　一般電報ノ料金ニ同ジ

第二十七條　寫眞電報ノ取扱ヲ爲ス地域、料金、取扱電信局所、取扱時間、直配達區域、郵便發達地域及航空郵便取扱地域ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十八條　寫眞電報ニ付テハ特殊取扱ヲ爲サズ

發信人ハ著信電信局所ヨリ航空郵便ヲ以テ配達スル寫眞電報ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條　第二十一條ノ規定ニ依ル料金受信人拂新聞電報ノ取扱ヲ許可セラレタル者ハ寫眞電報ニ付テモ料金受信人拂ノ取扱ヲ受クルコトヲ得

第三十條　寫眞電報ニ付テハ寫眞電報規則第九條、第十五條、第十六條及第十九條ニ規定スル事項ノ取扱ハ之ヲ爲サズ

第三十一條　東亞電報ニ付テハ別ニ告示スル所ニ依リ特定ノ料金ヲ課シ又ハ其ノ取扱ニ關シ制限ヲ爲スコトアルベシ

第三十二條　在中華民國帝國電信官署ニ於ケル東亞電報ノ取扱ニ關スル特例ハ當該電信官署ニ之ヲ掲示ス

第三十三條　帝國政府ノ電信系ヲ經由シ在中華民國帝國電信官署ト關東州、滿洲國又ハ中華民國トノ間ニ發著スル電報ハ本章ノ規定ニ準ジ之ヲ取扱フ

第二章　東亞無線電報

第三十四條　東亞無線電報トハ左ニ揭グル無線電報ヲ謂フ但シ帝國、滿洲國及中華民國以外ノ國ニ屬スル移動局、陸上局又ハ電信系ヲ經由スル無線電報ヲ除ク

一　帝國（關東州ヲ除ク）ニ屬スル艦船又ハ航空機ト關東州、滿洲國又ハ中華民國トノ間ニ發著スル無線電報

二　帝國（關東州ヲ除ク）ト關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ屬スル艦船又ハ航空機トノ間ニ發著スル無線電報

三　帝國（關東州ヲ除ク）ニ屬スル艦船又ハ航空機ト關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ屬スル艦船又ハ航空機トノ間ニ發著スル無線電報

四　帝國（關東州ヲ除ク）ト帝國（關東州ヲ除ク）ニ屬スル艦船又ハ航空機トノ間又ハ帝國（關東州ヲ除ク）ニ屬スル艦船又ハ航空機相互間ニ發著スル無線電報ニシテ滿洲電信電話株式會社（以下滿洲會社ト稱ス）又ハ中華民國ニ屬スル移動局、陸上局又ハ電信系ヲ經由スルモノ

第三十五條　東亞無線電報ニ關シテハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外內國無線電報及東亞電報ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條　無線電報料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ但シ和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人名及返書シタル再送電報ノ第二以下ノ居所ニ對シテハ一名宛毎ニ名宛料（十五字ヲ超ユルトキ五字以內ヲ增ス毎ニ課スル料金ニ同ジ）ヲ附課ス

電報

和文

十五字以內　一圓二十五錢

十五字ヲ超ユルトキハ五字以內ヲ增ス毎ニ

但シ醫療電報ニ在リテハ七十五錢

漢文電報及歐文電報

五語以內　一圓五十錢

五語ヲ超ユルトキハ一語ヲ增ス毎ニ

但シ醫療電報ニ在リテハ二十五錢

三　其ノ他ノモノ（官報）（私報）

但シ醫療電報ニ在リテハ一圓五十錢

第三十七條　無線電報ノ特殊取扱料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

至急料	無線電報料ノ二分ノ一	一圓
照校料	無線電報料ノ二分ノ一	三十錢
電報受信報知料	無線電報ノ種別ニ依リ（和文十五字ニ相當スル一般東亞電報ノ料金ニ同ジ　漢文及歐文五語ニ相當スル一般東亞電報ノ料金ニ同ジ）	二十五錢
郵便受信報知料	一般東亞電報ノ郵便受信報知料ニ同ジ	十錢
同文謄寫料	一般東亞電報ノ同文謄寫料ニ同ジ	四十錢
別使配達料	一般東亞電報ノ別使配達料ニ同ジ	
艀船配達料	一般東亞電報ノ艀船配達料ニ同ジ	

第三十八條　新聞無線電報ニハ前二條ノ規定ニ拘ラズ左ノ料金ヲ課ス但シ和文電報ニ連記シタル第二以下ノ各受信人名ニ對シテハ名宛料十錢ヲ附課ス

和文電報

十五字ヲ超ユルトキハ五字以內ヲ增ス毎ニ

十五字以內　七十五錢

漢文電報及歐文電報

五語ヲ超ユルトキハ一語ヲ增ス毎ニ

五語以內　十錢

第三十九條　例文慶弔無線電報ニハ字數ニ拘ラズ電報ノ種別ニ依リ和文ノ官報又ハ私報十五字分ノ料金ヲ課ス但シ連記シタル第二以下ノ各受信人名ニ對シテハ名宛料一箇分、同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ニ對シテハ名宛料二箇分（連記シタル第二以下ノ各受信人名ヲ附課ス）

第四十條　返信料ヲ前納スル東亞無線電報ノ指定略號ニハ前納料金額ヲ附記スベシ

第四十一條　醫療無線電報ハ帝國船舶ヨリ發シ又ハ之ニ著スル電報ニシテ帝國政府及滿洲會社ノ移動局、陸上局又ハ電信系ニ依リ取扱ハルルモノノ外之ガ取扱ヲ爲サズ

第四十二條　艦船又ハ航空機著東亞無線電報ヲ帝國政府、滿洲會社又ハ中華民國ノ陸上局相互間ニ轉送スル場合ハ別ニ料金ヲ課セズ

第四十三條　艦船又ハ航空機著內國無線電報及滿洲會社又ハ中華民國ノ陸上局ノ媒介ニ依ル關東州、滿洲國又ハ中華民國發關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ屬スル艦船又ハ航空機著無線電報ハ料金ニ變更ナク東亞無線電報トシテ帝國政府、滿洲會社又ハ中華民國ノ陸上局相互間ニ於テ之ヲ轉送スルコトヲ得

第三章　東亞電話通話

第一節　總則

第四十四條　東亞電話通話（以下東亞通話ト稱ス）ハ帝國（關東州ヲ除ク）又ハ帝國（關東州ニ屬スル船舶ト關東州、滿洲國又ハ中華民國トノ間ニ交換スル電話通話ヲ謂フ

第四十五條　東亞通話ノ種別左ノ如シ

一　一般通話

普通通話

至急通話　普通通話ニ先チ取扱ヲ爲スモノ

定時通話　通話時刻及通話時分ヲ指定スルモノ

二　豫約通話

新聞社、通信社又ハ取引所關係通話ニシテ一月以上ニ亘リ毎日定時ノ通話ヲ爲スコトヲ認可セラレタルモノ

三　船舶通話

船舶內電話官署ニ於テ取扱フ通話ニシテ左ノ二種ニ分ツ

普通通話

至急通話　普通通話ニ先チ取扱ヲ爲スモノ

四　年賀通話

年賀ヲ主タル內容トスル通話ニシテ別ニ定ムル期間內ニ限リ取扱フモノ

前項第一號、第三號及第四號ノ通話ハ更ニ左ノ二種ニ分ツ

番號通話　電話番號ヲ指示シテ請求スルモノ

指名通話　電話番號ヲ指示スルノ外通話者ヲ特定シテ請求スルモノ

第四十六條　東亞通話ノ順位ハ左ノ順序ニ依リ同一順序ノ通話ノ順位ハ其ノ請求順ニ依ル

一　豫約通話

二　定時通話

三　至急通話

四　普通通話

五　年賀通話

官廳用通話ニシテ遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムルモノハ前項ノ規定ニ拘ラズ優先取扱ヲ爲ス

第四十七條　東亞通話ハ同種ノ內國通話ニ對シ先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

第四十八條　東亞通話ニ對シテハ最初ノ三分迄ハ三分時トシ三分時ヲ超ユル通話時間ニ對シテハ一分迄毎ニ一分時トシテ課金ス

第四十九條　東亞通話ノ課金時間ハ番號通話ニ在リテハ關係電話ヲ接續シ通話シ得ル狀態ニ置キタル時刻ヨリ、指名通話ニ在リテハ關係通話者ヲ通話シ得ル狀態ニ置キタル時刻ヨリ之ヲ起算ス

通話中電話官署ニ於テ通話者ノ過失又ハ故意ニ依ラザル事由ニ因リ通話ニ適セズト認ムル時間ハ課金時間ニ算入セズ

第五十條　東亞通話ハ課金時間九分時迄之ヲ繼續スルコトヲ得但シ豫約通話又ハ定時通話ノ取扱上必要アルトキハ八分時以下ニ止メシメ又ハ他ノ通話ノ請求ナキトキハ十分時以上繼續シテ通話セシムルコトアルベシ

電話官署ハ通話時間ノ經過ニ對スル注意ヲ課金時間三分時毎ニ行フ但シ豫約通話ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十一條　東亞通話ニ關スル料金ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定メ料金額ハ別ニ之ヲ告示ス

一　通話料

(一)　普通通話料　課金時間三分時ニ付之ヲ定メ三分時ヲ超ユル時間ニ對シテハ一分時毎ニ其ノ三分ノ一トス但シ通話一回ニ付一錢未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

(二)　至急通話料　普通通話料ノ二倍

(三)　定時通話料　普通通話料ノ五倍

(四)　豫約通話料　月額　普通通話料ノ六十倍

(五)　年賀通話料　普通通話料ノ二分ノ一

二　指名料

指名通話一回ニ付之ヲ定ム

三　通話取消料

通話ノ種別ニ從ヒ之ヲ定ム

第五十二條　電話官署ハ東亞通話輻輳ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ多數ノ通話ヲ請求スル者ニ對シ其ノ請求ノ數ヲ制限スルコトアルベシ

第五十三條　東亞通話ノ取扱上必要アルトキハ電話官署ハ關係加入者ト他ノ加入者トノ市內通話ヲ中斷ス

第五十四條　東亞通話ヲ取扱フ電話官署、取扱時間、對手地及通話ノ取扱ニ關スル制限ハ別ニ之ヲ告示ス

第五十五條　電話通話規則第二十六條第一項、第二十八條竝ニ第三十條第一項（第二號乃至第七號ヲ除ク）及第二項ノ規定ハ東亞通話ニ之ヲ準用ス

第二節　一般通話

第五十六條　加入者番號通話ヲ請求セントスルトキハ左ノ事項ヲ所屬電話官署ニ申出ヅベシ

一　通話種別

二　對話地名

三　對話者電話番號

四　請求者電話番號

前項ノ對話者及請求者電話番號ハ同一電話取扱局所屬內（二以上ノ電話取扱局ヲ有スル市町村內ニ在ル電話取扱局所屬內ニ於テハ同一市町村內ニ在ル電話取扱局所屬內ニ限ル）ニ於テ其ノ呼出順位ヲ定メ二箇竝之ヲ請求スルコトヲ得

電話官署ニ於テ番號通話ヲ請求セントスル者ハ前二項ノ例ニ依リ必要ナル事項ヲ記入シタル通話券ヲ差出スベシ

第五十七條　加入者指名通話ヲ請求セントスルトキハ左ノ事項ヲ所屬電話官署ニ申出ヅベシ

一　通話種別

二　對話地名

三　對話者電話番號

四　請求者電話番號

五　對話者及請求者ヲ特定スル事項（人名、分讓名、職名、個人私設電話番號等）

六　通話開始ニ關スル希望事項（一定時刻以後ニ於テ通話ヲ開始スルコト又ハ一定時間中通話ヲ開始セザルコトヲ希望スルモノニ限ル）

前項ノ對話者及請求者電話番號ハ同一電話取扱局所屬內（二以上ノ電話取扱局ヲ有スル市町村內ニ於テハ同一市町村內ニ在ル電話取扱局所屬內）ニ於テ其ノ呼出順位ヲ定メ二箇竝之ヲ請求スル

コトヲ得

指名通話ノ請求者ハ對話者又ハ請求者ノ代人（一名ニ限ル）ヲ指示シテ通話ヲ請求スルコトヲ得

電話官署ニ於テ指名通話ヲ請求セシドスル者ハ前三項ノ例ニ依リ必要ナル事項ヲ記入シタル通話券ヲ差出スベシ

第五十八條　加入者定時通話ヲ請求セントスルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外通話開始時刻及豫定通話時分（九分時ヲ以内）ヲ申出ヅベシ

第五十九條　電話官署ハ指名通話ノ請求アリタルトキハ其ノ旨ヲ速ニ對話者ニ豫告ス

對話者ガ通話ヲ欲セズ又ハ不在其ノ他ノ事由ニ因リ通話ヲ爲シ得ザルトキハ其ノ旨ヲ請求者電話（電話官署ニ於ケル請求ニ付テハ請求者）ニ通知ス

第六十條　電話通話規則第十條、第十一條及第十三條第二項ノ規定ハ定時通話ニ之ヲ準用ス

第六十一條　東亞通話ノ請求ニ關スル事項ハ左ノ各號ノ場合ヲ除クノ外請求後之ヲ變更スルコトヲ得ズ

一　通話取扱開始ノ通告前ニ於テ普通通話ヲ至急通話ニ變更スルコト

二　通話取扱開始ノ通告前ニ於テ番號通話ヲ指名通話ニ變更スルコト

三　定時通話ノ豫定通話時分數ヲ指定時刻一時間以前ニ於テ增加シ又ハ通話取扱開始ノ通告前ニ於テ減少スルコト

第六十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ請求者ニ對シ通話取消料ヲ課ス但シ第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ通話請求後普通通話ニ在リテハ一時間、至急通話ニ在リテハ三十分ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

百八十七ノ四

一　通話ヲ對手局ヘ豫報シタル後請求者ガ通話ノ要ナキ旨ヲ申出アタルトキ

二　通話取扱開始ノ通告ニ對シ關係者ノ一方ガ不在其ノ他ノ事由ニ因リ通話ヲ爲サザル旨ヲ申出デタルトキ

三　指名通話ニ付第五十九條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタルトキ

四　通話取扱開始ノ通告又ハ前號ノ通知ヲ爲サントスルニ方リ喚呼ヲ試ムルモ請求者電話ノ應答ヲ得ザルトキ但シ關係電話回線ノ故障ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

五　前條第三號ニ依リ定時通話時分數ヲ減少シタルトキ

第三節　豫約通話

第六十三條　新聞社若ハ新聞通信社相互間ニ於テ新聞紙揭載事項ヲ通信スル目的ヲ以テ又ハ取引所若ハ其ノ指定セル者相互間ニ於テ取引所市場ニ公示スベキ取引所相場ヲ通信スル目的ヲ以テ其ノ加入ノ電話機ニ依リ一月以上ノ期間ニ亘リ毎日一定ノ時刻ヨリ一定時分通話ヲ爲サントスルトキハ豫約通話ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第六十四條　加入者豫約通話ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一　豫約通話區間

二　豫約通話ニ使用スベキ申請書ノ電話番號竝ニ對手方ノ電話番號及氏名

三　豫約通話期間

四　豫約通話開始時刻及時分數

五　料金納付ノ責任者

第六十五條　豫約者豫約通話時分數又ハ豫約通話開始時刻ノ變更ヲ希望スルトキハ其ノ變更ヲ要スル日ノ五日前迄ニ遞信大臣ニ申請書ヲ提出スベシ

第六十六條　豫約者豫約通話ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨豫メ遞信大臣ニ屆出ヅベシ

第六十七條　豫約通話料ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ月額ノ日割ヲ以テ之ヲ計算ス但シ第三號ニ因リ豫約繼續期間一月ニ滿タザルニ至リタルトキト雖モ一月分ノ豫約通話料ヲ課ス

一　暦月ノ中途ニ於テ豫約通話ヲ開始シタルトキ

二　暦月ノ中途ニ於テ豫約期間滿了シタルトキ

三　暦月ノ中途ニ於テ豫約通話ヲ廢止シタルトキ

四　暦月ノ中途ニ於テ豫約通話時分數ヲ變更シタルトキ

五　電話回線其ノ他ノ設備上ノ必要ニ因リ暦月ノ中途ニ於テ豫約通話ノ認可ヲ取消シ又ハ豫約通話時分數ヲ變更シタルトキ

前項ノ場合ニ於ケル日割計算ハ月額ノ三十分ノ一ニ當該月分ノ日數ヲ乘ズルモノトス

第六十八條　電話官署ニ於テ豫約通話ヲ其ノ目的外ニ使用スト認メタルトキハ豫約通話ノ認可ヲ取消スコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テハ當該月ノ豫約通話料ハ之ヲ免除セズ

第六十九條　電話線不通其ノ他豫約者ノ過失又ハ故意ニ依ラザル支障ノ爲豫約通話不能ナルコト繼續シテ三分時以上ニ及アトキハ其ノ通話時分ニ相當スル豫約通話料ハ之ヲ免除ス

第七十條　豫約新聞電話規則第二條、第四條、第六條及第八條乃至第十條ノ規定ハ豫約通話ニ之ヲ準用ス

第四節　船舶通話

第七十一條　第五十六條第三項、第五十七條第四項、第五十九條、第六十一條及第六十二條ノ規定ハ船舶通話ニ之ヲ準用ス

第七十二條　船舶遭難救助ニ必要ナル事項ヲ通知スル船舶通話ハ最先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

前項ノ場合電話官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ通話ハ之ヲ中斷ス

第七十三條　船舶航行上ノ危險警戒其ノ他海上ニ於ケル生命財產ノ保全ニ必要ナル事項ヲ通知スル船舶通話ニシテ電話官署ニ於テ緊急ノ取扱ヲ要スト認ムルモノハ前條ノ通話ニ次グ順位ヲ以テ之ヲ取扱フ

前項ノ場合電話官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ通話ハ之ヲ中斷ス

第七十四條　前二條ノ通話ハ之ヲ無料トス

第七十五條　船舶通話ノ請求ハ請求當日ノ通話取扱時間ノ終了ニ因リ消滅ス

第五節　年賀通話

第七十六條　年賀通話ノ請求ヲ爲サントスル者ハ其ノ旨ヲ電話官署ニ申出ヅベシ

第七十七條　年賀通話ノ取扱期間ハ毎年一月一日ヨリ一月三日迄トス

第七十八條　第五十六條乃至第六十二條ノ規定ハ年賀通話ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

日滿電報規則、日華電報規則、日滿無線電報規則、日華無線電報規則、日

滿電話通話規則及日華電話通話規則ハ之ヲ廢止ス

本令ニ依リ取扱フベキ電報ニシテ本令施行前ニ差出シタルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前第二項ニ揭グル規則ニ依リ發行シタル返信料前納證書ハ該證書ノ有效期間中ニ於テ本令ニ依ル電報ノ料金ニ充ツルコトヲ得

本令施行前第二項ニ揭グル規則ニ依リ爲シタル登記、認可、許可等ニシテ本令ニ之ニ相當スル規定アルモノハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行前第二項ニ揭グル規則ニ依リ交付シタル料金受信人拂新聞電報發信證票ハ本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス

●內地滿洲國間ヲ連絡スル有線電氣通信施設ノ建設及保存ニ關スル件

（昭和十三年二月一日勅令第五十九號）

於內地滿洲國間ヲ連絡スル有線電氣通信施設ノ建設及保存ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

逓信大臣ハ必要ト認ムル地ニ事務所ヲ設ケ內地滿洲國間ヲ連絡スル有線電氣通信施設ノ建設及保存ニ關スル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●料金受信人拂外國電報ヲ取扱フ電信官署

（昭和十六年四月十七日逓信省告示第千四十七號）

追加　昭和一七年三月逓信省告示第三六三號改正

昭和十六年五月一日ヨリ料金受信人拂外國電報ヲ取扱フ電信官署左ノ如シ

昭和五年十一月逓信省告示第二千七百四十三號ハ之ヲ廢止ス

東京、横濱、大阪及神戸市內郵便局（逓信官署官制第十六條第一項但書ノ規定ニ依リ逓信大臣ノ特ニ指定スル郵便局ヲ除ク）

及電信局

川崎郵便局　※立川郵便局　※鎌倉郵便局　※小田原郵便局

帝國ホテル內郵便局　※葉山郵便局　※箱根宮ノ下郵便局　靜岡郵便局

甲府郵便局　※日光郵便局　※熱海郵便局　※中宮祠郵便局

名古屋中央郵便局　熱田郵便局　豊橋郵便局　一宮郵便局

※山田郵便局　四日市郵便局　※長野郵便局　※敦賀郵便局

名古屋中央郵便局　輕井澤郵便局　京都郵便局　七條郵便局

西宮郵便局　尼崎郵便局　※奈良郵便局　廣島郵便局

岡山郵便局　下關電信局　※嚴島郵便局　門司郵便局

小倉郵便局　若松郵便局　久留米郵便局　大牟田郵便局

佐世保郵便局　福岡電信局　長崎電信局　函館郵便局

小樽郵便局　旭川郵便局　札幌電信局

※ハ料金受信人拂外國新聞電報ニ限リ取扱フ

●外國電報料金表

（昭和十一年八月十九日
逓信省告示第二千十五號）

沿革　略ス

昭和十一年九月一日ヨリ昭和八年七月逓信省告示第千七百三十五號外國電報料金表左ノ通改正ス

外國電報料金表（略ス）

●外國新聞電報料金表

（大正二年八月二十七日
逓信省告示第六百四十二號）

沿革　略ス

來九月一日ヨリ外國新聞電報ノ料金左ノ如シ

明治四十二年六月逓信省告示第六百八號外國新聞電報料金表ハ本月三十一日限リ之ヲ廢止ス

（表略ス）

●國際電氣通信株式會社法

（大正十四年三月三十日
法律第三十號）

【沿革】昭和十二年四月法律第四四號、同十四年四月同第八三號、同十五年三月同第一〇號、同第五八號改正

旣帝國議會ノ協賛ヲ經タル國際電氣通信株式會社法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國際電氣通信株式會社法

第一條　國際電氣通信株式會社ハ國際電氣通信ノ取扱ノ爲ニスル電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備（國内電氣通信ニ共用セラルル通信ケーブル設備及其ノ附屬設備ヲ含ム）ヲ爲シ之ヲ政府ノ用ニ供スルコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條　國際電氣通信株式會社ハ前條ニ定ムルモノノ外政府ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受ケ左ノ事業ヲ營ムコトヲ得

一　外國ニ於ケル電氣通信事業ノ經營

二　外國ニ於ケル電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ貸付

三　電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ建設及保守ノ請負

四　電氣通信ノ用品ノ製造及販賣

五　前四號ニ揭グル事業ニ對スル投資

第三條　國際電氣通信株式會社ノ資本金ハ二千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第四條　國際電氣通信株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第五條　國際電氣通信株式會社ノ株式ハ記名式トス

國際電氣通信株式會社ノ株主ハ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數カ外國人若ハ外國法人ニ屬セサルモノタルコトヲ要ス

勅令ノ定ムル法人ニシテ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス國際電氣通信株式會社ノ株主タルコトヲ得

第六條　政府ハ國際電氣通信株式會社ニ對シ其ノ資本ノ半額ヲ限リ出資スルコトヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

政府ハ國ノ所有ニ屬スル第一條ニ揭グル設備及其ノ設備ヲ爲ス爲購入シタル土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第六條ノ二　前條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ引受ケタル株式ノ拂込金ハ通信事業特別會計ノ資本勘定ノ歳出トス

通信事業特別會計ノ資本所屬物件トス

第七條　第一條ニ揭グル設備ニ依リテ取扱ハルヘキ電報ノ受付、配達及機械上ノ送受信竝電話通話ノ受付及交換ノ事務ハ政府之ヲ行フ

第八條　政府ハ國際電氣通信株式會社ノ設備ヲ使用シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ該設備使用ニ對シ國際電氣通信株式會社ニ交付金ヲ交付ス

第八條ノ二　國際電氣通信株式會社ハ商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債

ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ超ユルコトヲ得ス

社債ヲ募集スル場合ニ於ケル株主總會ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第八條ノ三　政府ハ社債ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

前項ノ保證ニ因ル政府ノ支出金ハ通信事業特別會計ノ業務勘定ノ歲出トス

第九條　每營業期ニ於テ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ十二ノ割合ヲ超過スルトキハ國際電氣通信株式會社ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ

第十條　削除

第十一條　政府ハ國際電氣通信株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十二條　政府ハ國際電氣通信株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲シ又ハ國際電氣通信ノ取扱上必要ナル第一條ニ揭クル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

國際電氣通信株式會社カ前項ノ規定ニ依リテ政府ノ命シタル設備ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ第八條ノ規定ニ依ル交付金ノ一部ヲ交付セサルコトヲ得

第十二條ノ二　政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ國際電氣通信株式會社ニ對シ電氣通信ノ技術ノ研究ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十二條ノ三　國際電氣通信株式會社ハ命令ノ定ムル技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

政府ハ前項ノ技術者カ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

第十二條ノ四　國際電氣通信株式會社社債ヲ募集セムトスルトキ又ハ借入金ヲ爲サムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條ノ五　國際電氣通信株式會社事業計畫ヲ設定シ又ハ變更セムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　取締役及監査役ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、合併並解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

政府ハ國際電氣通信株式會社ノ決議又ハ取締役若ハ監査役ノ行爲カ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ取締役若ハ監査役ヲ解任スルコトヲ得

第十三條ノ二　國際電氣通信株式會社ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ退職後五年間ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ國際電氣通信株式會社ノ取締役及監査役ト爲ルコトヲ得ス

第十四條　國際電氣通信株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ所有スル電氣通信ノ設備又ハ其ノ附屬設備ニ屬スル物件ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十四條ノ二　政府ハ國際電氣通信株式會社監理官ヲ置キ國際電氣通信株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第十四條ノ三　國際電氣通信株式會社監理官ハ何時ニテモ國際電氣通信株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコトヲ得

國際電氣通信株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ國際電氣

通信株式會社ニ命シ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

國際電氣通信株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條ノ四　國際電氣通信株式會社ハ每營業期ニ於ケル配當シ得ヘキ利益金額カ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條ノ五　國際電氣通信株式會社勤令ノ定ムル營業期及爾後ノ每營業期ニ於ケル配當シ得ヘキ利益金額カ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サムトスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當カ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スヘシ

國際電氣通信株式會社前項ノ規定ニ依リ利益ノ配當ヲ爲ス場合ニ於テ昭和十四年三月三十一日以前ニ於テ發行シタル政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對スル利益配當金カ其ノ拂込株金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ニ達セサルトキハ勅令ノ定ムル營業期及爾後十年間ヲ限リ政府ノ所有スル株式ニ對スル配當ニ充ツヘキ利益金ヲ以テ之ニ達スル迄該株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得但シ昭和十四年四月一日以後ニ於テ拂込ミタル株金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ六　國際電氣通信株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年一月一日ヨリ十年間其ノ通信ケーブル設備ヲ以テ營ム事業ニ付所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生スル所得又ハ純益カ每營業期ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ昭和十五年一月一日ヨリ四年間ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條ノ七　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除セラレタル國際電氣通信株式會社ノ事業ニ對シテハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外地方稅ヲ課スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ八　國際電氣通信株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ左ノ額トス

一　第六條第三項ニ規定スル出資ニ因ル資本ノ增加

增資拂込株金額ノ千分ノ一

二　第六條第三項ニ規定スル出資ニ基ク不動產ニ關スル權利ノ取得

不動產ノ價格ノ千分ノ三

第十四條ノ九　電信線電話線建設條例ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國際電氣通信株式會社カ第一條ニ揭クル設備ノ建設及保守ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　政府カ勅令ノ定ムル所ニ依リ相當ノ價格ヲ以テ國際電氣通信

株式會社ノ所有スル電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ買收セムトスルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條　國際電氣通信株式會社カ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ百圓以上五千圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ二　本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ爲スコトヲ得

附　則

第十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十四年五月勅令第一七七號ヲ以テ同年同月十一日ヨリ施行）

第十八條　政府ハ設立委員ヲ命シ日本無線電信株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第十九條　設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後株式總數ヨリ政府ニ割當ツヘキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スヘシ

第二十條　株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝商法第百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スヘシ

第二十一條　設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條　設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第二十三條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本無線電信株式會社ノ取締役ニ引渡スヘシ

附　則　（昭和十二年四月法律第四四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年三月勅令第一一三號ヲ以テ同年同月十二日ヨリ施行）

國際電氣通信株式會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ內其ノ設備ヲ國內無線電話又ハ放送無線電話ノ用ニ供スルコトヲ得

附　則　（昭和十四年四月法律第八三號）

【沿革】昭和十五年三月法律第一〇號改正

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十五年三月勅令第一三一號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

政府國際電氣通信株式會社法第六條第三項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サントスルトキハ出資ノ目的タル財產ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財產評價委員會ノ議ヲ經ヘシ

政府出資財產評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ政府出資特別會計ニ屬スル國際電氣通信株式會社ノ株式ヲ有償ニテ通信事業特別會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ保管換ヲ爲ス株式ノ對價タル支出金ハ通信事業特別會計ノ資本勘定ノ歲出トシ其ノ株式ハ同特別會計ノ資本所屬物件トス

●國際電氣通信株式會社法施行令

（昭和十五年三月三十日勅令第百三十三號）

改國際電氣通信株式會社法施行令ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國際電氣通信株式會社法施行令

第一條　國際電氣通信株式會社（以下單ニ會社ト稱ス）ノ株主ト爲ルコトヲ得ル法人ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民又ハ帝國法人ニ屬スル外國法人トス

第二條　國際電氣通信株式會社法第八條ノ規定ニ依リ交付スヘキ交付金ノ額ハ左ノ金額トシ一月分毎ニ之ヲ計算ス

一　會社ノ無線電信又ハ無線電話ノ設備及其ノ附屬設備ヲ使用シタルトキハ該設備ヲ使用シテ政府ノ取扱ヒタル電氣通信ノ料金中本邦收得分ニ當ルモノニ電報ニ付テハ百分ノ七十五、電話通話ニ付テハ百分ノ九十ヲ乘ジタル金額

二　會社ノ電信又ハ電話ノ設備及其ノ附屬設備ヲ使用シタルトキハ該設備ヲ政府ノ用ニ供スルニ要スル經費ノ二分ノ一ニ當ル金額及該設備ヲ使用シテ政府ノ取扱ヒタル電氣通信ノ修整料金ニ一定ノ割合ヲ乘ジタル金額ノ合計額

前項第二號ノ經費及修整料金ノ算出方法竝ニ一定ノ割合ハ政府之ヲ定ム

第一項ノ交付金ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第三條　國際電氣通信株式會社法第十四條ノ五第一項及第二項ニ於テ勅令ノ定ムル營業期トハ昭和十五年四月一日ヨリ同年九月三十日ニ至ル營業期トス

第四條　電信線電話線建設條例（朝鮮ニ在リテハ朝鮮電信線電話線建設令）ハ會社カ國際電氣通信株式會社法第一條ニ揭ケル設備ノ建設及保守ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス但シ同條例（朝鮮電信線電話線建設令ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第一條第一項ノ規定ニ依リ民有ノ土地若ハ營造物ヲ使用セントスルトキ又ハ同條例第三條第二項ノ規定ニ依リ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除セントスルトキハ豫メ其ノ所有者又ハ其ノ他ノ權利者ニ通知シ同條例第一條第二項ノ規定ニ依リ官有ノ土地又ハ營造物ヲ使用セントスルトキハ豫メ其ノ所管廳ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　國際電氣通信株式會社法第十五條ノ規定ニ依ル買收價格ハ政府及會社協議ノ上之ヲ定ム

前項ノ協議調ハサル場合ニ於テハ政府ハ左ニ揭ケル者ヲ以テ組織スル評價委員會ノ意見ヲ聽キ買收價格ヲ定ム

一　政府ノ選定シタル三名ノ委員

二　會社ノ選定シタル三名ノ委員

三　特別ノ知識經驗アル者ノ中ヨリ政府及會社ノ協議ニ依リ選定シタル三名ノ委員

第六條　國際電氣通信株式會社法第二條乃至第四條、第五條第三項及第十二條乃至第十四條中政府トアルハ遞信大臣トシ同法第八條ノ三第一項中政府トアルハ遞信大臣及大藏大臣トス

左ニ揭ケル事項ニ付テハ遞信大臣ハ豫メ朝鮮總督ニ協議スヘシ

一　國際電氣通信株式會社法第三條又ハ第四條ノ規定ニ依ル認可ヲ爲スコト

二　國際電氣通信株式會社法第十二條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮ニ於テ

同法第一條ニ揭ゲル設備ヲ爲スベキコトヲ命ズルコト

三　國際電氣通信株式會社法第十二條ノ三第二項ノ規定ニ依ヲ朝鮮ニ於ケル業務ニ從事スル技術者ノ解任ヲ命ズルコト

四　國際電氣通信株式會社法第十二條ノ四ノ規定ニ依リ社債ノ募集ノ認可ヲ爲スコト

五　國際電氣通信株式會社法第十二條ノ五ノ規定ニ依リ朝鮮ニ關係ヲ有スル事業計畫ノ設定又ハ變更ノ認可ヲ爲スコト

六　國際電氣通信株式會社法第十三條第一項ノ規定ニ依リ主トシテ朝鮮ニ於ケル業務ヲ掌理スル取締役ノ選任及解任、定款ノ變更、合併又ハ解散ノ決議ノ認可ヲ爲スコト

七　國際電氣通信株式會社法第十三條第二項ノ規定ニ依リ朝鮮ニ於ケル業務ニ關スル決議ヲ取消シ又ハ主トシテ朝鮮ニ於ケル業務ヲ掌理スル取締役ノ解任ヲ爲スコト

前項第二號又ハ第三號ニ揭ゲル事項ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ事宜ニ依リ遞信大臣ト協議ノ上朝鮮總督ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第七條　左ニ揭ゲル事項ハ前條ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督遞信大臣ト協議ノ上之ヲ行フ但シ事宜ニ依リ朝鮮總督ト協議ノ上遞信大臣ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

一　國際電氣通信株式會社法第二條ノ規定ニ依リ朝鮮ニ於テ營ム事業ニ關スル命令又ハ認可ヲ爲スコト

二　國際電氣通信株式會社法第十二條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮ニ於ケル業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコト

三　國際電氣通信株式會社法第十四條ノ規定ニ依リ朝鮮ニ在ル電氣通信ノ設備又ハ其ノ附屬設備ニ屬スル物件ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ認可スルコト

附　則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國際電氣通信株式會社法ニ依ル技術者選任ニ關スル件

（昭和十五年三月三十日）
遞信省令第十二號

國際電氣通信株式會社法第十二條ノ三ニ依ル技術者選任ニ關スル件左ノ通定ム

國際電氣通信株式會社ハ電氣通信技術者資格檢定規則ニ依ル資格ヲ有スル者ヲ別表ノ區別ニ從ヒ技術主任者トシテ選任スベシ

附　則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

國際電氣通信株式會社ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行後三年ヲ限リ本令ニ規定スル資格ヲ有セザル者ヲシテ技術主任者ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

別表

區別	資格
一線路	
(一)長距離市外ケーブルノ建設	第一級
(二)海底ケーブルノ建設	第一級
(三)短距離市外ケーブルノ建設	第二級
(四)裸線又ハ市內ケーブルノ建設	第二級
(五)長距離市外ケーブルノ保守	第一級
(六)海底ケーブルノ保守	第一級
(七)短距離市外ケーブルノ保守	第二級
(八)裸線又ハ市內ケーブルノ保守	第三級（有線）
二　中繼所內裝置	
(一)中繼所內裝置ノ新設工事	第一級
(二)中繼所內裝置ノ增設工事	第二級
(三)中繼所內裝置ノ保守	第二級
三　長距離回線ノ保守統括	第一級
四　無線送信裝置	
(一)空中線電力五百ワット以上ノ裝置ノ建設	第一級
(二)空中線電力五百ワット未滿ノ裝置ノ建設	第二級
(三)空中線電力三キロワット以上ノ裝置ノ保守	第一級
(四)空中線電力五百ワット以上三キロワット未滿ノ裝置ノ保守	第二級
(五)空中線電力五百ワット未滿ノ裝置ノ保守	第三級（無線）
五　無線受信裝置	
(一)國際通信用裝置ノ建設	第一級
(二)國內通信用裝置ノ建設	第二級
(三)國際通信用裝置ノ保守	第二級
(四)國內通信用裝置ノ保守	第三級（無線）
(五)國際通信用裝置ノ調整	第二級
(六)國內通信用裝置ノ調整	第三級（無線）
六　空中線裝置	
(一)空中線裝置ノ建設	第二級
(二)空中線裝置ノ保守	第三級（無線）

●國際電氣通信株式會社法ノ規定ニ依ル法人稅及營業稅ノ免除ニ關スル件（昭和十五年十一月三十日大藏省令第八十號）

國際電氣通信株式會社法第十四條ノ六ノ規定ニ依ル法人稅及營業稅ノ免除ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　國際電氣通信株式會社法第十四條ノ六第二項ノ每營業期ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額及積立金額ノ月割平均額ニ總資產價額ニ對スル通信ケーブル設備ヲ以テ營ム事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ノ基本タル資產價額ノ割合ヲ乘ジ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金ノ割合又ハ所得若ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第一項ニ於テ積立金トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ國際電氣通信株式會社ノ每營業期ノ所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

法人稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第二條　國際電氣通信株式會社法第十四條ノ六第二項ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該營業期ノ月數ヲ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第三條　國際電氣通信株式會社法第十四條ノ六ノ規定ニ依リ法人稅又ハ營業稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ法人稅法第十八條又ハ營業稅法第十五條ノ規定ニ依ル所得及資本又ハ純益金額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テハ通信ケーブル設備ヲ以テ營ム事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　電話

第一款　內國電話

●電話規則（昭和十二年十月一日遞信省令第七十三號）

沿革　昭和一三年一二月遞信省令第八二號、一七年三月第三一號改正

電話規則左ノ通定ム

電話規則

目　次

第一章　總則
第二章　加入者
第三章　加入申込及受理
第四章　電話番號
第五章　電話ノ設備及維持
第六章　特殊裝置
　第一節　增設機械
　第二節　接續電話
　第三節　卓上電話
　第四節　特別市外通話裝置
　第五節　發信及著信專用裝置
第七章　電話料金
　第一節　通則
　第二節　料金種別
　第一款　加入料
　第二款　電話使用料
　第三款　附加使用料
　第四款　電話線設備料
　第五款　機械移轉料
　第六款　名義變更料
　第七款　電話番號簿揭載料
　第八款　臨時電話ニ關スル料金
　第三節　料金納付
　第四節　料金免除及還付
第八章　通話停止及加入除名
第九章　雜則
附　則
電話規則
第一章　總則

第一條　電話ノ加入ハ左ノ二種トス

一　單獨加入　一加入ニ付一回線ヲ有スルモノ

二　共同加入　二加入共同シテ一回線ヲ有スルモノ

第二條　共同加入ノ電話機設置場所ハ相手方ノ電話線路ヨリ直線距離二百二十メートル以內タルベシ但シ所轄遞信局長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

所轄遞信局長ニ於テ事業上又ハ工事上支障アリト認ムルトキハ前項ノ距離以內ノ場所ト雖モ共同加入ヲ爲サシメザルコトアルベシ

第三條　加入者ハ加入種類ノ變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得

共同加入ヲ單獨加入ニ變更セントスルトキハ遞信大臣ニ於テ別ニ定ムル設備費ヲ納ムベシ

所轄遞信局長ニ於テ事業上又ハ工事上支障アリト認ムルトキハ第一項ノ請求ニ應セザルコトアルベシ

第四條　電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ當該電話官署ニ之ヲ公示ス

所轄遞信局長ニ於テ事業上又ハ工事上支障ナシト認ムルトキハ當該電話官署ノ加入區域外ナル場合ト雖モ加入ヲ許可スルコトアルベシ

第四條ノ二　電話機設置場所ハ加入者ノ居所、住所又ハ業務ニ使用スル場所ニ限ル但シ所轄遞信局長ニ於テ事業上支障ナシト認メ特ニ許可シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　本令ニ依リ電話官署ニ對シテ爲ス請求ハ別ニ定ムル書式ニ依ルベシ

第二章　加入者

第六條　加入者ハ一加入ニ付一人タルベシ

社寺、學校、組合又ハ團體ニシテ法人ニ非ザルモノハ電話官署ニ於テ適當ト認ムルモノニ限リ其ノ名ニ於テ加入セシムルコトアルベシ

前項ノ規定ニ依ル加入者ハ料金納付其ノ他一切ノ責ニ任セシムル爲代表者一人ヲ選定シ届出ヅベシ代表者ヲ變更スル場合亦同シ

第七條　加入者其ノ加入ヲ他人ニ讓渡セントスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書ヲ當該電話官署ニ差出シ其ノ承認ヲ受クベシ

所轄遞信局長ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ電話官署ハ加入ノ讓渡ヲ承認セザルコトアルベシ

電話官署ハ第一項ノ請求書ノ外必要ナル事項ヲ記載シタル書類ヲ提出セシムルコトアルベシ

所轄遞信局長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ判決其ノ他ノ書類ヲ以テ第一項ノ規定ニ依ル連署ニ代ルモノトシテ取扱フコトアルベシ

第八條　加入ノ讓渡アリタルトキハ新加入者ハ舊加入者ガ電話官署ニ對シテ有シタル一切ノ權利及義務ヲ承繼スルモノトス

第九條　加入申込者又ハ加入者死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ起算シ三月以内ニ其ノ證明書ヲ添ヘ當該電話官署ニ承繼ノ届出ヲ爲スベシ

前項ノ規定ハ法人ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　所轄遞信局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ電話官署ヲ指定シ開通ノ日ヨリ起算シ一年間當該電話官署所屬加入ノ讓渡ヲ禁止スルコトアルベシ但シ已ムヲ得ザル事由アリト認メラルル加入ノ讓渡ニ付テハ特ニ之ヲ許可スルコトアルベシ

加入申込及臨時電話ノ加入ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ

第十一條　第十九條ノ規定ニ依リ開通シタル電話ノ加入ハ開通後五年間之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ所轄遞信局長ニ於テ特ニ許可シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三章　加入申込及受理

第十二條　電話ノ加入ヲ爲サントスル者ハ一加入毎ニ加入申込書ヲ當該電話官署ニ差出スベシ

共同加入ノ申込ヲ爲サントスル者ハ相手方ヲ選定シ加入申込書ニ雙方連署スベシ

第十三條　加入申込ノ受付期間ハ別ニ之ヲ公示ス

第十四條　加入申込ヲ受理セラレタル者ハ遞信大臣ニ於テ別ニ定ムル設備費ヲ納ムベシ

第十五條　第十三條ノ規定ニ依ル受付期間内ノ加入申込ガ當該電話官署ノ受理豫定數ヲ超過スルトキハ抽籤ニ依リ申込ノ受理ヲ決定ス

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル加入申込ハ之ヲ受理セザルコトアルベシ

一　同一人ニ於テ二箇以上ノ申込ヲ爲ス場合ニ於ケル一箇以外ノモノ

二　當該申込者ノ居所、住所又ハ業務ニ使用スル場所ニ非ザルモノヲ電話機設置場所トスルモノ

同一ノ邸宅又ハ構内ニ居住スル者ハ前項ノ適用上之ヲ同一人ト看做ス

第十七條　加入申込ノ受理後ト雖モ開通前ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ其ノ受理ヲ取消スコトアルベシ

一　申込ガ前條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

二　申込者ガ所在不明ノ場合ニ於テ管理人ヨリ何等ノ申出ナキトキ

三　申込者ガ法人又ハ第六條第二項ノ規定ニ依ルモノナル場合ニ於テ解散シタルトキ

第十八條　加入申込ヲ受理セラレタル者電話官署ノ指定スル期日迄ニ加入料及設備費ヲ納付セザルトキハ該加入申込ノ受理ハ之ヲ取消スコトアルベシ

第十九條　所轄遞信局長ニ於テ官廳、公署又ハ公益事業等ノ用ニ供スル爲必要アリト認ムルトキハ第十三條ノ規定ニ依ル受付期間ニ拘ラズ加入申込ヲ受理スルコトアルベシ

所轄遞信局長ハ前項ノ場合ニ於テ設備費ヲ免除スルコトアルベシ

第二十條　臨時電話ノ加入申込ノ受理ヲ爲スベキ電話官署及加入區域ニ關スル制限竝ニ加入期間ハ別ニ之ヲ告示ス

臨時電話ニ關シテハ前七條ノ規定ヲ適用セズ

第二十一條　工事上支障アルトキハ前八條ノ規定ニ拘ラズ加入申込ヲ受理セザルコトアルベシ

第四章　電話番號

第二十二條　電話番號ハ當該電話官署ニ於テ一加入毎ニ一箇ヲ定ム但シ共同加入ニ對シテハ相手方ト同一ノ番號ヲ附スルコトアルベシ

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ電話番號ヲ變更スルコトアルベシ

一　加入種類ヲ變更シタルトキ

二　加入區域ノ設定又ハ變更ニ因リ所屬電話官署ヲ異ニスルニ至リタルトキ

三　同一電話官署所屬内ニ於テ交換取扱局ヲ異ニスルニ至リタルトキ

四　甲種增設電話機ヲ設備シ又ハ之ヲ廢止シタルトキ

五　工事上又ハ交換取扱上必要アルトキ

第二十四條　電話番號簿ニハ電話番號、加入者名、電話機設置場所其ノ他電話ノ利用上必要ナル事項ヲ揭載ス

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル電話ニ關シテハ電話番號簿ノ揭載ヲ省略スルコトアルベシ

一　發信專用裝置ヲ爲シタルモノ

二　甲種增設電話機ヲ接續スル加入回線中代表番號以外ノモノ

三　電話番號簿ノ揭載省略ノ請求アリタルモノ

四　電話機設置場所ニ加入者ガ居住セザルモノ

第二十六條　加入申込者又ハ加入者ハ電話番號簿ニ左ノ各號ノ特殊揭載ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一　重複揭載　自己ノ氏名、稱號等ノ區別ニ從ヒ二箇所以上ニ名義ヲ揭載スルモノ

二　他人名義揭載　電話機設置場所居住者ニシテ加入者以外ノ者ノ名

義ヲ掲載スルモノ

第五章　電話ノ設備及維持

第二十七條　加入者ノ使用ニ供スル電話ノ設備及維持ハ電話官署ニ於テ之ヲ行フ但シ所轄遞信局長ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ加入申込者又ハ加入者ノ申請ニ依リ電話線、電話機、附屬交換機、附屬物品等ノ供給若ハ之ガ設備及維持ヲ爲サシムルコトアルベシ

前項但書ノ規定ニ依ル設備ハ電話官署ノ指示スル所ニ依リ且其ノ維持ハ電話官署ニ於テ爲スモノト同等以上ナルコトヲ要ス

第二十八條　加入者ハ濫ニ其ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅又ハ構内ニ在ル電話設備ノ移轉、變更若ハ分解ヲ爲シ又ハ之ニ他ノ線條、機械等ノ連絡ヲ爲スベカラズ但シ水火其ノ他ノ事變ニ際シ保護ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　加入者ハ電話官署ノ從事員ガ電話機設置ノ邸宅若ハ構内ニ立入リ電話ノ工事、試驗、障碍修理等ヲ爲シ又ハ之ガ設備及維持ニ關スル事項ヲ點檢スルコトヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ當該從事員ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帶スベシ

第三十條　電話官署ハ加入者ノ使用ニ供スル電話設備ノ取付、撤去、移轉等ノ場合ニ於テ關係造營物ヲ修復スルノ責ニ任セズ

第三十一條　加入者ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ其ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅若ハ構内ニ在ル電話設備ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ第二十八條ノ規定ニ違反スル所爲ニ因リ復舊工事ヲ要スルトキハ加入者ニ於テ其ノ補充又ハ修繕ニ要スル費用ヲ辨償スベシ

第三十二條　加入者ハ電話機械ノ移轉又ハ一時撤去ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ共同加入者ハ移轉先ニ於テ直ニ共同加入トナリ得ル場合ニ限ル

所轄遞信局長ニ於テ事業上又ハ工事上支障アリト認ムルトキハ前項ノ請求ニ應セザルコトアルベシ

第三十三條　第十條第一項及第十一條ノ規定ハ電話機設置場所ノ變更ニ付之ヲ準用ス

加入申込ノ受理後開通前ニ於テハ電話機設置場所ノ變更ヲ爲スコトヲ得ズ但シ所轄遞信局長ニ於テ特ニ許可シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六章　特殊裝置

第一節　增設機械

第三十四條　加入申込者又ハ加入者ハ左ノ各號ノ增設機械ノ裝置ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一　電話機（甲種　交換機ニ依リ接續スルモノ　乙種　轉換器ニ依リ接續スルモノ）
二　受話器
三　電鈴

第三十五條　增設機械ノ裝置ニ關スル制限左ノ如シ

一　甲種電話機　共同加入及度數料金制ヲ施行スル電話官署所屬ノ臨時電話ノ加入回線ニ接續スルコトヲ得ズ

二　乙種電話機　一加入ニ付二箇以内トス尙三箇以上ノ加入回線ニ共通ニ接續スルコトヲ得ズ

三　受話器　電話機一箇ニ付一箇トス

四　電鈴　電話機一箇ニ付一箇トス

第四條第二項ノ規定ニ依ル電話ノ加入回線ニ對シテハ當該電話官署以外ノ電話官署ニ屬スル加入回線ト共通ニ電話機ノ增設ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十六條　增設機械ノ裝置ハ加入電話機設置場所ト同一ノ邸宅若ハ構内又ハ所轄遞信局長ニ於テ同一ノ邸宅若ハ構内ニ準ズルモノト認ムル地域内ニ限ル

第三十七條　甲種增設電話機相互間及之ト加入回線トノ交換取扱ハ電話官署ノ指示スル所ニ依リ加入者ニ於テ之ヲ爲スベシ

第三十八條　增設電話機ノ設備及維持ヲ爲ス加入申込者又ハ加入者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

一　設備工事完了シタルトキハ加入回線ニ接續前所轄遞信局長ニ届出テ其ノ檢査ヲ受クルコト

二　關係加入回線又ハ增設電話機ノ通話ニ支障ヲ生ズベキ程度ノ工事ヲ爲サントスルトキハ豫メ當該電話官署ニ届出ヅルコト

三　電話官署ノ指示スル所ニ依リ設備ノ狀況、維持ニ關スル工事ノ種類及施工度數、工事擔當者ノ氏名等ヲ記錄シ置クコト

第三十九條　甲種增設電話機ヲ使用スル加入者ハ電話官署ノ指示スル所ニ依リ其ノ增設電話機ニ關スル通話上ノ故障ノ有無ヲ試驗スベシ

第四十條　加入申込者又ハ加入者ハ所轄遞信局長ノ資格認定ヲ得タル者ニ非ザレバ甲種增設電話機ノ交換取扱又ハ第二十七條第一項但書ノ規定ニ依ル設備及維持ニ從事セシムルコトヲ得ズ

前項ノ從事者本令又ハ電話官署ノ指示ニ從ハザルトキハ所轄遞信局長ニ於テ加入申込者若ハ加入者ヲシテ之ヲ變更セシメ又ハ甲種增設電話

機ノ使用若ハ第二十七條第一項但書ノ規定ニ依ル設備及維持ヲ爲サシメザルコトアルベシ

第四十一條　所轄遞信局長ニ於テ工事上又ハ交換取扱上支障アリト認ムルトキハ增設機械ノ裝置ノ請求ニ應セズ又ハ其ノ裝置ヲ變更シ若ハ變更セシメ又ハ其ノ使用ヲ爲サシメザルコトアルベシ

第二節　接續電話

第四十二條　加入申込者又ハ加入者ハ加入電話機設置場所ト同一ノ邸宅又ハ構内ニ於テ使用スル私設、官廳用又ハ市内專用電話機ヲ加入回線ニ接續ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ電話機ニ關シテハ增設電話機ニ關スル規定ヲ準用ス

第三節　卓上電話

第四十三條　加入申込者又ハ加入者ハ卓上電話機ノ裝置ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四節　特別市外通話裝置

第四十四條　磁石式局ノ加入申込者又ハ加入者ニシテ特別市外通話區域ニ屬スル通話ヲ爲サントスル者ハ特別市外通話裝置ノ請求ヲ爲スベシ

第五節　發信及著信專用裝置

第四十五條　加入申込者又ハ加入者同一ノ邸宅又ハ構内ニ於テ二以上ノ電話ノ加入ヲ有スルトキハ一箇ヲ除ク他ノ加入回線ニ付發信專用又ハ著信專用ノ裝置ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七章　電話料金

第一節　通則

第四十六條　電話料金ニ關スル電話官署ノ局種別ハ左ノ標準ニ依リ當該

電話官署所屬ノ加入數ニ應ジ之ヲ定メ別ニ公示ス但シ機械設備其ノ他工事上ノ關係等ニ依リ該標準ニ依ラザルコトアルベシ

一級局	加入	十萬以上
二級局	同	五萬以上
三級局	同	二萬以上
四級局	同	五千以上
五級局	同	二千以上
六級局	同	八百以上
七級局	同	四百以上
八級局	同	二百以上
九級局	同	百以上
十級局	同	五十以上
十一級局	同	二十五以上
十二級局	同	二十四以下

第四十七條　加入區域ノ設定ナキ電話官署所屬ノ加入ノ電話料金ハ當該電話官署ヨリ關係電話線路千二百十メートル迄ハ普通加入區域内ニ又三キロメートル迄ハ特別加入區域内ニ在ルモノトシテ之ヲ課ス

第四十八條　逓信大臣ニ於テ通信事務上必要ト認ムル加入ニ對シテハ料金ヲ課セズ

第四十九條　第二十七條第一項但書ノ規定ニ依ル場合ハ該加入ニ對スル料金ハ之ヲ特定又ハ免除スルコトアルベシ

第二節　料金種別

第一款　加入料

第五十條　加入申込ヲ受理セラレタル者ハ左ノ加入料ヲ納ムベシ

一級局	加入	十萬以上
二級局	同	五萬以上
三級局	同	二萬以上
四級局	同	五千以上
五級局	同	二千以上
六級局	同	八百以上
七級局	同	四百以上
八級局	同	二百以上
九級局	同	百以上
十級局	同	五十以上
十一級局	同	二十五以上
十二級局	同	二十四以下

第五十一條　四級局以上ノ電話官署ニハ度數料金制ヲ施行シ其ノ他ノ電話官署ニハ均一料金制ヲ施行ス

第五十二條　度數料金制ヲ施行スル電話官署ノ加入者ハ左ノ電話使用料ヲ納ムベシ

一 基本料額	單獨加入	六十圓	五十五圓	四十圓	四十圓
	共同加入	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓
二 度數料	市内通話一度數毎ニ	一級局 二級局 三級局 四級局			
		二級局以下	五錢	四錢	

度數料ハ通話ヲ請求シタル加入者ニ之ヲ課ス

第五十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル通話ニ對シテハ度數料ヲ課セズ

一　電話ノ障碍又ハ交換ノ取扱ニ關シ特ニ指定シタル電話官署ノ加入電話ニ對シテ爲スモノ

二　電話ノ障碍又ハ電話官署ノ過失ニ因リ通話ノ中途ニ於テ不能トナリタルモノ

三　市外通話等ノ取扱ニ付別ニ定ムル所ニ依リ電話官署ニ於テ中斷シタルモノ

四　同一共同加入ノ加入者相互間ノモノ

第五十四條　時事ニ關スル事項ヲ掲載スル日刊新聞紙ヲ發行スル新聞社又ハ新聞通信社ノ持主ノ名義ニ屬スル加入ニシテ當該加入者ノ申請ニ

依リ所轄逓信局長ニ於テ該事業ノ專用ニ供スルモノト認メタルモノニ對スル度數料ハ之ヲ半減ス

第五十五條　度數料金制ヲ施行スル自動式局ノ共同加入者ハ其ノ一方ヲ度數料納付責任者ニ定メ雙方連署シ當該電話官署ニ届出ヅベシ度數料納付責任者ヲ變更スル場合亦同ジ

度數料金制ヲ施行スル自動式局ノ共同加入者ノ爲シタル通話ニ對スル度數料ハ相手方ノ分ト合算シ度數料納付責任者ニ之ヲ課ス

第五十六條　度數料ヲ課スベキ通話度數ハ當該電話官署ノ算定スル所ニ依ル

第五十七條　均一料金制ヲ施行スル電話官署ノ加入者ハ年額左ノ電話使用料ヲ納ムベシ

單獨加入	五級局	百十圓	六級局	百圓	七級局	九十圓	八級局	八十圓	九級局	七十五圓	十級局	六十圓	十一級局	五十圓	十二級局	五十圓
共同加入	五級局	七十五圓	六級局	七十圓	七級局	六十圓	八級局	五十圓	九級局	五十圓	十級局	四十五圓	十一級局	四十圓	十二級局	四十圓

第五十八條　加入區域ノ設定ナキ電話官署ノ加入者ハ年額八圓ニ當該電話官署ノ普通加入區域内關係電話線路百十メートル迄毎ニ三圓ヲ加算シタル電話使用料ヲ納ムベシ

第三款　附加使用料

第五十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル加入者ハ附加使用料ヲ納ムベシ

一　普通加入區域外ニ在ルモノ

二　增設機械ヲ使用スルモノ

三　接續電話機ヲ使用スルモノ

四　卓上電話機ヲ使用スルモノ

五　特別市外通話裝置ヲ使用スルモノ

第六十條　普通加入區域外加入ノ距離ニ依ル附加使用料ハ年額左ノ如シ

一　八級局以上

當該電話官署ノ普通加入區域外ニ於ケル關係電話線路百十メートル迄毎ニ（特別加入區域内加入區域外）三圓二十錢

二　九級局以下

當該電話官署ノ普通加入區域外ニ於ケル關係電話線路百十メートル迄毎ニ（特別加入區域内加入區域外）五圓四十錢七圓

第六十一條　第四條第二項ノ規定ニ依ル加入ニシテ電話機設置場所ガ他ノ電話官署ノ加入區域内ニ在ルモノニ對シテハ前條ノ料金ノ外ニ年額左ノ特別ノ附加使用料ヲ課ス

一　八級局以上　電話使用料ト同額ノ料金

二　九級局以下（單獨加入　五十圓　共同加入　三十八圓）

第六十二條　增設機械ノ附加使用料ハ一箇毎ニ年額左ノ如シ

一　電話機	十八圓
二　受話器	六圓
三　電鈴	六圓

同一ノ加入回線ニ接續スル甲種增設電話機ガ同一人ノ專用ニ屬セザルトキハ前項ノ料金ノ外ニ增設電話機全部ニ對シ一箇毎ニ六圓ヲ加算ス

乙種增設電話機ニシテ二箇ノ加入回線ニ共通ニ接續スルモノニ對シテハ第一項ノ料金ノ外ニ電話機一箇毎ニ九圓ヲ加算ス

甲種增設電話機ノ附屬交換機ニ對スル附加使用料ハ所轄逓信局長ニ於

テ申請許可ノ都度別ニ之ヲ定ム

第六十三條　接續電話機、卓上電話機及特別市外通話裝置ノ附加使用料ハ一箇毎ニ年額左ノ如シ

一　接續電話機		十二圓
二　卓上電話機		十五圓
三　特別市外通話裝置		七圓

第四款　電話線設備料

第六十四條　普通加入區域外加入ノ申込ヲ受理セラレタル者又ハ當該電話官署ノ普通加入區域外ニ於テ電話線路ノ變更ヲ要スル電話機ノ移轉若ハ加入種類ノ變更其ノ他ノ請求ヲ爲ス加入者ハ左ノ電話線設備料ヲ納ムベシ但シ單ニ電話線路ヲ短縮スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

當該電話官署ノ普通加入區域外ニ於ケル關係電話線路百十メートル迄毎ニ　（特別加入區域内　三十五圓／加入區域外　三十三圓）

第五款　機械移轉料

第六十五條　電話機械ノ移轉又ハ一時撤去ノ請求ヲ爲ス加入者ハ一箇毎ニ左ノ機械移轉料ヲ納ムベシ

一ノ同一ノ邸宅若ハ構内ニ於ケル移轉又ハ一時撤去ノ場合

	八級局以上	九級局以下
電話機	五圓	四圓
增設電鈴	四圓	三圓
附屬物品（電話機、電鈴若ハ附屬交換機ノ移轉又ハ一時撤去ニ伴フ場合ヲ除ク）	四圓	三圓
附屬交換機及其ノ附屬物品	實費	實費

二　前號以外ノ場合

	八級局以上	九級局以下
電話機	四十圓	二十六圓
增設機械	前號ト同額ノ料金	

前項ノ料金ハ天災地變其ノ他不可抗力ニ因リ立退場所ニ移轉スル場合ニハ之ヲ課セズ

第六款　名義變更料

第六十六條　加入讓渡ノ承認ヲ受ケントスル加入者ハ左ノ名義變更料ヲ納ムベシ

一級局	二級局	三級局	四級局	五級局	六級局　七級局以下
二十四圓	十三圓	八圓	六圓	五圓	四圓

前項ノ料金ハ第九條ノ規定ニ依ル加入承繼ノ場合ニハ之ヲ課セズ

第七款　電話番號簿揭載料

第六十七條　電話番號簿ニ特殊揭載ノ請求ヲ爲ス加入申込者又ハ加入者ハ一揭載毎ニ年額左ノ電話番號簿揭載料ヲ納ムベシ

一級局	二級局	三級局	四級局	五級局	六級局　七級局以下
六圓	五圓	四圓	三圓	二圓五十錢	二圓　一圓五十錢

第八款　臨時電話ニ關スル料金

第六十八條　臨時電話ニ關シテハ機械移轉料ヲ除クノ外本章前各條ノ規定ニ依ラズ左ノ料金ヲ課ス

一　電話架設料	（四級局以上／五級局以下）	二十四圓／十二圓
二　電話使用料　日額	（四級局以上／五級局以下）	二圓四十錢／一圓二十錢

三　附加使用料　乙種增設電話機一箇毎ニ　四圓五十錢

第三節　料金納付

第六十九條　加入料、設備費、電話線設備料及臨時電話ニ關スル料金ハ當該電話官署ノ指定スル期日迄ニ之ヲ納ムベシ

名義變更料及機械移轉料ハ當該電話官署ニ其ノ請求ヲ爲ストキ之ヲ納ムベシ

第七十條　電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ揭グル四期ノ別ニ從ヒ毎一期分ヲ其ノ期ノ初月末日迄ニ當該電話官署ニ納ムベシ但シ度數料金制ヲ施行スル電話官署ニ於ケル度數料及通話度數ニ依リ課スベキ附加使用料ハ毎一期分ヲ其ノ次期ノ初月末日迄ニ納ムベシ

第一期　四月一日ヨリ六月三十日迄
第二期　七月一日ヨリ九月三十日迄
第三期　十月一日ヨリ十二月三十一日迄
第四期　一月一日ヨリ三月三十一日迄

第七十一條　電話ノ開通ガ前條各期ノ中途ナル場合ハ其ノ初期ノ電話使用料及附加使用料ハ開通ノ日ヨリ起算シ十五日以内ニ當該電話官署ニ之ヲ納ムベシ

前項ノ料金ハ開通ノ日ヨリ起算シ其ノ期ノ末日ニ至ル迄ノ日數ニ應ジ年額料金ノ日割ヲ以テ算定ス

前二項ノ規定ハ開通後新ニ附加使用料ヲ納ムベキ場合ニ之ヲ適用ス

第七十二條　第七十條各期ノ中途ニ於テ加入ノ取消又ハ除名アリタル場合ハ其ノ期分ノ料金ノ全額ヲ課ス

第七十條各期ノ中途ニ於テ電話開通シ其ノ期ノ末日迄ニ加入ノ取消又ハ除名アリタル場合ハ前條ノ規定ニ拘ラズ一期分ノ料金ヲ課ス

前二項ノ場合ニ於テ未納額アルトキハ當該電話官署ノ指定シタル期日迄ニ之ヲ納ムベシ

前各項ノ規定ハ加入者ノ請求ニ依リ普通加入區域外加入ニ對スル附加使用料以外ノ附加使用料ガ減少又ハ消滅スベキ場合ニ之ヲ適用ス

第七十三條　電話番號簿揭載料ハ一會計年度毎ニ之ヲ課ス

會計年度ノ中途ニ於テ揭載ヲ爲シ又ハ揭載ヲ取消シタル場合ト雖モ年額料金ヲ課ス

揭載後會計年度ノ中途ニ於テ料金ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ會計年度ノ料金ハ異動前ノ額ニ依ル

第七十四條　電話番號簿揭載料ハ每會計年度ノ初月末日迄ニ當該電話官署ニ之ヲ納ムベシ但シ揭載初年度ノ料金ハ當該電話官署ノ指定スル期日迄ニ之ヲ納ムベシ

第七十五條　電話ニ關スル料金ハ通貨ヲ以テ納ムベシ但シ名義變更料及機械移轉料ハ郵便切手ヲ以テ納ムベシ

第四節　料金免除及還付

第七十六條　電話官署ノ過失ニ因リ徵收シタル過納又ハ誤納ノ料金又ハ設備費ハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第七十七條　左ノ各號ノ場合ニ於ケル加入料及設備費ハ之ヲ免除ス但シ既納ニ係ルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一　第十七條又ハ第九十條ノ規定ニ依リ加入申込ノ受理ヲ取消シタルトキ

二　加入申込者ニ於テ該加入申込ヲ取消シ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ

加入申込ノ受理ヲ取消シタルトキ但シ所轄遞信局長ニ於テ特ニ已ムヲ得ザル事由アリト認メタルモノニ限ル

第七十八條　左ノ各號ノ場合ニ於ケル電話使用料及附加使用料ハ年額料金ノ日割ヲ以テ之ヲ免除ス但シ其ノ料金既納ニ係ルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一　第九十條ノ規定ニ依リ加入ヲ取消シタルトキ其ノ加入取消ノ翌日以後ニ係ルモノ

二　第九十一條ノ規定ニ依リ共同加入ノ通話ヲ休止シタルトキ其ノ休止ノ翌日以後ニ係ルモノ

三　加入者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ電話不通三日以上ニ亙リタルトキ其ノ不通期間ニ係ルモノ

前項第三號不通ノ日數ハ當該電話官署ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十九條　第七十條各期ノ中途ニ於テ電話使用料又ハ附加使用料ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ期分ノ過不足額ハ異動ノ日ヨリ起算シ年額料金ノ差額ヲ基トシ日割ヲ以テ算出シ超過額ハ請求ニ依リ之ヲ還付シ不足額ハ之ヲ徴收ス

前項ノ規定ハ加入者ノ請求ニ依リ附加使用料ガ增加シ又ハ普通加入區域外加入ニ對スル附加使用料ガ減少若ハ消滅スベキ場合及第四十一條ノ規定ニ依リ附加使用料ガ減少又ハ消滅スベキ場合ニ之ヲ適用ス

第八十條　通話停止又ハ一時撤去ノ期間ニ係ル電話使用料又ハ附加使用料ハ之ヲ免除セズ

第八十一條　左ノ各號ノ料金ハ之ヲ免除ス但シ其ノ料金既納ニ係ルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一　電話線設備料ヲ納ムベキ事實ガ其ノ工事著手前ニ消滅シタルトキノ電話線設備料

二　加入者ノ隱居又ハ入夫婚姻等死亡以外ノ事由ニ因リ該加入ヲ其ノ家督相續人ニ讓渡セントスルトキノ名義變更料但シ隱居又ハ入夫婚姻等ノ日ヨリ起算シ三月以內ニ第七條ノ規定ニ依ル請求書ヲ差出シタルトキニ限ル

三　第二十六條ノ規定ニ依ル請求ヲ其ノ揭載手續著手前ニ取消シタルトキノ電話番號簿揭載料

四　官廳加入ノ電話ニ對スル電話番號簿揭載料

第八十二條　左ノ各號ノ料金ハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一　第三十二條ノ規定ニ依ル請求ヲ工事著手前ニ取消シタルトキ又ハ電話官署ニ於テ其ノ請求ニ應セザルトキノ機械移轉料

二　第七條ノ規定ニ依ル請求ヲ承認セザルトキノ名義變更料

第八十三條　左ノ各號ノ場合ニ於ケル臨時電話ニ關スル料金ハ之ヲ免除ス但シ其ノ料金既納ニ係ルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一　工事著手前ニ加入申込ヲ取消シタルトキノ電話架設料、電話使用料及附加使用料

二　工事著手後ナルモ開通前ニ加入申込ヲ取消シタルトキノ電話使用料及附加使用料

三　加入者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ電話不通トナリタルトキノ不通期間ニ係ル電話使用料

前項第三號ノ不通期間ハ當該電話官署ノ算定スル所ニ依ル

第八十四條　料金還付ノ請求ハ左ノ各號ノ期間內ニ之ヲ爲スベシ

一　第七十六條、第七十八條及第七十九條ノ規定ニ依ルトキハ料金納付ノ日ヨリ起算シ五月間

二　第七十七條ノ規定ニ依ルトキハ加入申込又ハ其ノ受理ノ取消ノ日ヨリ起算シ二月間

三　第八十一條乃至第八十三條ノ規定ニ依ルトキハ料金納付ノ日ヨリ起算シ二月間

第八十五條　料金ノ還付ハ通貨ヲ以テス

第八章　通話停止及加入除名

第八十六條　加入者電話ニ關スル料金ヲ規定ノ期日迄ニ納付セザルトキ又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル補修費ヲ辨償セザルトキハ其ノ滯納ノ期間通話ヲ停止ス別ニ定ムル通話ニ關スル料金ヲ納付セザルトキ亦同ジ

第八十七條　前條ノ規定ニ依ル通話停止ノ期間三十日以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度數一年三回以上ニ及ビタルトキハ加入ヨリ除名スルコトアルベシ

第八十八條　加入者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ六月以內通話ヲ停止シ、加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名スルコトアルベシ

一　本令ノ規定ニ違背シ又ハ本令ノ規定ニ基ク電話官署ノ指示ニ從ハザルトキ

二　電話交換業務ヲ妨害シタルトキ

三　第七條及第三十二條ノ規定ニ依リ電話官署ニ提出スル書類ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　許可ナクシテ自己ノ居所、住所又ハ業務ニ使用スル場所ニ非ザル場所ヲ電話機設置場所ト爲シタルトキ

第八十九條　加入ヨリ除名セラレタル者ハ除名ノ日ヨリ起算シ一年間加入者タルコトヲ得ズ

加入後前項ノ規定ニ該當スル者ナルコト判明シタルトキハ該加入ハ之ヲ取消ス

第九章　雜則

第九十條　加入區域ノ設定又ハ變更ニ因リ電話機設置場所他ノ加入區域內トナリタルトキハ所屬ヲ變更シ又加入區域外トナリタルトキハ其ノ加入又ハ加入申込ノ受理ハ之ヲ取消ス但シ該加入者ガ第四條第二項ノ規定ニ依リ加入ヲ繼續セントスルトキ又ハ該加入申込者ガ同項ノ規定ニ依リ加入セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九十一條　共同加入ハ其ノ相手方ガ加入種類ノ變更若ハ加入ノ取消ヲ爲シ、加入ヨリ除名セラレ又ハ第二條ノ規定ニ該當セザル場所ニ移轉シタル場合ニ於テ第三條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サザルトキハ新ニ相手方ヲ得ル迄其ノ通話ヲ休止ス

前項ノ通話休止一年ヲ超ユルニ至リタルトキハ該加入ハ之ヲ取消スコトアルベシ

第九十二條　加入申込又ハ加入ヲ承繼シタル者第九條ノ期間內ニ屆出ヲ爲サザルトキハ該加入申込又ハ加入ハ之ヲ取消スコトアルベシ

第九十三條　加入者ハ報酬ヲ受ケ其ノ使用ニ供スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル者ニ之ヲ貸與スベカラズ但シ所轄遞信局長ニ於テ事業上支障ナシト認メ特ニ許可シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十四條　電話官署ニ於テ業務上必要アリト認ムルトキハ十分以上繼續スル市內通話ハ之ヲ切斷スルコトアルベシ

附　則

第九十五條　本令ハ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十六條　左ノ各號ノ遞信省令ハ之ヲ廢止ス

一　明治三十九年六月遞信省令第二十五號電話規則

二　明治四十一年九月遞信省令第四十三號特設電話規則

三　大正八年六月遞信省令第五十七號電話規則ニ依ル加入申込制限ノ件

四　大正十二年六月遞信省令第五十號電話至急開通規則

五　大正十二年十月遞信省令第八十號當分ノ內震災地ニ於ケル電話加入名義及電話機設置場所變更ニ關スル件

六　大正十四年五月遞信省令第二十九號電話特別開通規則

七　昭和七年七月遞信省令第二十一號昭和七年度以降辛地以上ニ於テ開通シタル電話ニ關スル件

八　昭和十一年六月遞信省令第十六號臨時加入電話規則

第九十七條　從前ノ規定ニ依リ開通シタル電話ハ本令ニ依リ開通シタルモノト看做ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ電話官署ニ於テ爲シタル受理、許可、承認及加入申込者又ハ加入者ニ於テ爲シタル申請、請求其ノ他ノ手續ニシテ本令中該當ノ規定アルモノハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本令施行ノ際爲スベキモノニ付テハ其ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九十八條　本令施行ノ際現ニ連接加入タルモノハ加入者ノ請求ヲ俟タズ之ヲ共同加入ニ變更ス但シ該加入者ニ於テ第三條第二項ノ規定ニ依ル設備費ヲ納ムルトキハ單獨加入ニ變更ス

前項ノ連接加入ニ關シテハ共同加入又ハ單獨加入ニ變更スル迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條　明治三十九年六月遞信省令第二十五號電話規則ニ依リ受理セル加入申込及其ノ開通ニ關シテハ仍同令ノ規定ニ依ル但シ連接加入ノ申込ハ之ヲ共同加入ノ申込ト看做ス

前項ノ加入申込者該加入申込ニ對シ本令ノ規定ニ依リ受理ヲ希望スルトキハ該加入申込ニ關シテハ第十五條ノ規定ニ依ラザルコトアルベシ

前項ニ依ル加入申込ノ受理セラレタルトキハ加入料ハ之ヲ課セズ

第百條　共同加入ニシテ本令施行前單獨加入タリシコトアルモノニ付テハ本令施行後五年以內ニ限リ第三條第二項ノ規定ヲ適用セズ第九十八條第一項ノ規定ニ依リ連接加入ヲ共同加入ニ變更スル爲本加入ヲ共同加入ニ變更シタルモノニ付亦同ジ

第百一條　本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ附加使用料減免中ノ加入ニ關シテハ本令施行後五年間仍從前ノ例ニ依ル

第百二條　本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ三加入以上共同シテ一回線ヲ有スル加入ニ付テハ共同加入ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ加入者ハ加入ノ讓渡又ハ電話機ノ移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

●電話規則第五條ニ依ル加入申込書等ノ書式

（昭和十二年十二月二十四日遞信省告示第四千百六十七號）

【沿革】昭和十三年十二月告示第三九〇五號改正

昭和十二年十月遞信省令第七十三號電話規則第五條ノ規定ニ依ル書式ヲ左ノ通定メ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

單獨加入申込書

電話規則ニ遵ヒ單獨加入トシテ加入致度此段及申込候

追テ開通ノ上ハ電話ニ關スル法令ニ基キ加入者タルノ責務ヲ引受可申候

年　月　日

住　所
申込者名（振假名ヲ附スルコト）　印

局　御中

記

一　職　業

二　電話機設置場所

三　順番開通ノ申込ニ對スルモノナルトキハ
加入申込年　月日　年　月　日
加入申込登記順番　何年度　何番

第二號書式

共同加入申込書

電話規則ニ遵ヒ共同加入トシテ加入致度相手方ト連署ノ上此段及申込候

追テ開通ノ上ハ電話ニ關スル法令ニ基キ加入者タルノ責務ヲ引受可申候

年　月　日

住　所
申込者名（振假名ヲ附スルコト）　印

相手方名　印

局　御中

記

一　職　業

二　電話機設置場所

三　相手方ガ加入者ナルトキハ電話番號

第三號書式

臨時電話加入申込書

電話規則ニ遵ヒ臨時加入トシテ加入致度此段及申込候

追テ開通ノ上ハ電話ニ關スル法令ニ基キ加入者タルノ責務ヲ引受可申候

年　月　日

住　所
申込者名（振假名ヲ附スルコト）　印

局　御中

記

一　職　業

二　電話機設置場所

三　希望開通月日

四　加入期間　自　月　日　至　月　日　日間

第四號書式

加入申込取消請求書

左記ノ加入申込ハ之ヲ取消致度此段及請求候

年　月　日

住所
申込者名　印

局　御中

記

一　申込年月日
二　申込者名
三　電話機設置場所

第五號書式

加入種類變更請求書

左記ノ（共同／單獨）加入ヲ（單獨／共同）加入ニ種類變更相成度此段及請求候

追テ電話番號ハ變更セラルルモ異存無之候

年　月　日

住所
加入者名　印

局　御中

記

一　加入種類

二　電話番號
三　電話機設置場所

第六號書式

共同加入制限距離外加入申請書

左記ノ場所ニ於テ電話規則第二條第一項但書ノ規定ニ依リ制限距離外共同加入トシテ御許可相成度此段及申請候

年　月　日

住所
申請者名　印

逓信局長殿

記

一　電話機設置場所
　加入者ナルトキハ（電話番號／現設置場所）
二　相手方ノ電話機設置場所
　加入者ナルトキハ電話番號
三　制限距離外加入ヲ必要トスル理由

第七號書式

加入區域外加入申請書

左記ノ場所ニ於テ電話規則第四條第二項ノ規定ニ依リ加入區域外加入トシテ御許可相成度此段及申請候

年　月　日

住所
申請者名　印

逓信局長殿

記

一　電話機設置場所
二　加入者ナルトキハ（電話番號／現設置場所）
三　區域外加入ヲ必要トスル理由

第八號書式

三錢收入印紙

郵便切手

加入讓渡承認請求書

電話番號
加入者名
電話機設置場所

倘從來ノ請求ニ係ル特殊事項ニ付テハ左記ノ通致度

特殊掲載	承繼	廢止	證
ノ增設機械	承繼	廢止	證
ヘ卓上電話機	承繼	廢止	證
供給機械類	承繼	廢止	證
特別市外通話裝置	承繼	廢止	證
發著信專用裝置	承繼	廢止	證

印　印　印　印　印　印

新加入者ノ電話機設置場所

右加入ヲ（ニ讓渡／ニ）致度ニ付御承認相成度當事者連署ノ上此段及請求候

追テ御承認ノ上ハ新加入者ニ於テ舊加入者ノ有シタル一切ノ權利及義務ヲ承繼スルハ勿論電話ニ關スル法令ニ基キ加入者タルノ責務ヲ引受可申候

年　月　日

住所
舊加入者名　印
住所
職業
新加入者（假名ヲ附スルコト）名　印

局　御中

第九號書式

（加入申込承繼屆）

電話番號（申込年月日）

加入申込者名

電話機設置場所

右ノ（加入申込）加入者ノ（死亡）合併ニ因リ承繼致候ニ付戸籍（登記）謄本及印鑑證明書添附此段及御屆候

追テ（舊加入申込）舊加入者ノ有シタル一切ノ權利及義務ヲ承繼スルハ勿論電話ニ關スル法令ニ基キ加入申込者タルノ責務ヲ引受可申候

年　月　日

住所
職業
承繼者名（振假名ヲ附スルコト）　印

局御中

第十號書式

臨時電話加入繼續請求書

左記ノ通臨時電話ノ加入ヲ繼續致度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局御中

記

一　電話番號
二　電話機設置場所
三　開通月日　月日
四　延伸期間（自月日至月日）　日間

第十一號書式

加入取消請求書

左記ノ加入ハ之ヲ取消致度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局御中

記

一　電話番號
二　電話機設置場所

第十二號書式

郵便切手

電話機械移轉請求書

左記ノ通電話機械ヲ移轉相成度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局御中

記

一　移轉ノ別（邸宅構內／構外）
二　電話番號
三　電話機設置場所（現在／移轉先）
四　電話機械種別
　本電話機（普通／卓上）
　增設機械（普通／卓上）箇
　（受話器／電鈴）箇
五　移轉希望ノ月日
六　新設置場所ニ加入者供給配線設備ノ有無

第十三號書式

郵便切手

電話機械一時撤去請求書

左記ノ電話機械ヲ一時撤去相成度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局御中

記

一　電話番號
二　電話機設置場所
三　撤去希望ノ月日
四　一時撤去ヲ必要トスル理由

第十四號書式

卓上電話機裝置請求書

左記ノ（加入增設）電話ニ對シ卓上電話機ヲ裝置相成度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局御中

記

一　電話番號
二　電話機設置場所
三　裝置希望月日
四　設置場所ニ加入者供給配線設備ノ有無

第十五號書式

甲種電話機增設請求書

左記ニ依リ甲種電話機增設致度ニ付電話機械供給申請書添附此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局　御中

記

一　關係電話番號
二　電話機及附屬物品設置場所
三　準構內ニ渉ル場合ハ其ノ事由及圖面
四　電話機及附屬物品ノ種別及箇數
五　增設電話機ノ交換取扱見込數
六　加入回線ノ通話見込數
七　現在加入電話通話數
八　工事擔當者
九　交換取扱者
十　他人ノ使用ニ供スルモノアルトキハ其ノ設置場所

第十六號書式

乙種電話機、電鈴增設請求書

左記ニ依リ乙種電話機、電鈴增設相成度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局　御中

記

一　電話機設置場所
二　該設置場所ニ在ル電話ノ電話番號
三　發(著)信專用ニセントスル電話番號

記入心得

(一)發信專用ニセントスルモノナルトキハ電話番號簿ノ揭載ヲ省略セラルルモ異存ナキ旨記入ノ上捺印スルコト

(二)自動式局所屬ノ加入ニシテ發信專用ニセントスルモノナルトキハ自動接續市外通話施行區間ヲ除キ市外通話不能トナルモ異存ナキ旨記入ノ上捺印スルコト

第十七號書式

特別市外通話裝置請求書

左記ノ電話機ニ對シ特別市外通話裝置相成度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局　御中

記

一　電話機設置場所
二　本電話機又ハ增設電話機ノ別
三　電話機設置場所

第十八號書式

發信專用裝置請求書

左記ノ電話ニ對シ發信專用裝置相成度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局　御中

記

一　電話番號
二　電話機設置場所
三　揭載名義(振假名ヲ附スルコト)
四　揭載名義人ト加入者トノ關係
五　加入者名義省略ノ有無

第二十號書式

電話番號簿重複揭載請求書

左記ノ通重複揭載致度此段及請求候

年　月　日

住所
加入者名　印

局　御中

記

一　電話番號
二　揭載名義　何某(振假名ヲ附スルコト)
　　何々(右同)

●戰時ニ於ケル電話ノ特例ニ關スル件

（昭和十八年七月一日 遞信省令第八十九號）

沿革　昭和一八年一〇月遞信省令第一五四號改正

戰時ニ於ケル電話ノ特例ニ關スル件左ノ通定ム

　戰時ニ於ケル電話ノ特例ニ關スル件

第一條　戰時ニ於ケル電話ノ加入申込ハ所轄遞信局長ニ於テ官廳、公署又ハ公益上若ハ戰力增强上緊要ナル事業ノ用ニ供スル爲必要アリト認ムルモノニシテ事業上又ハ工事上支障ナキモノニ限リ之ヲ受理ス

前項ノ加入申込ニ付テハ受付期間ヲ設ケザルコトアルベシ

所轄遞信局長ハ第一項ノ場合ニ於テ設備費ヲ免除スルコトアルベシ

第二條　加入申込ノ受理後ト雖モ開通前ニ當該加入申込ガ前條第一項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキ又ハ所轄遞信局長ニ於テ事業上已ムヲ得ザル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ其ノ受理ハ之ヲ取消スコトアルベシ

前項ノ規定ニ依リ加入申込ノ受理ヲ取消シタルトキハ加入料、設備費及電話線設備料ハ之ヲ免除ス但シ既納ニ係ルトキハ請求ヲ俟タズ之ヲ還付ス

第三條　戰時ニ際シ所轄遞信局長ニ於テ事業上又ハ工事上支障ナシト認ムルトキハ加入者ノ請求ニ依リ加入電話機設置場所ト同一ノ邸宅又ハ構內ニ準ズルモノト認ムル地域ニ於テ使用スル私設、官廳用又ハ市內專用電話機ヲ其ノ加入回線ニ接續セシムルコトアルベシ

第四條　戰時ニ際シ所轄遞信局長ニ於テ事業上又ハ工事上支障ナシト認ムルトキハ加入者ノ請求ニ依リ乙種增設電話機ヲ他人ノ邸宅又ハ構內ニ裝置スルコトヲ認ムルコトアルベシ

前項ノ乙種增設電話機ノ附加使用料ニ付テハ一箇每ニ年額六圓ヲ加算ス

第五條　戰時ニ際シ所轄遞信局長ニ於テ官廳、公署又ハ公益上若ハ戰力增强上緊要ナル事業ノ用ニ供スル爲必要アリト認ムルトキハ事業上又ハ工事上支障ナキモノニ限リ關係加入者ノ請求ニ依リ同一電話加入區域內ニ在ル甲種增設電話機又ハ接續電話機ノ交換機相互間ニ直通連絡回線ヲ施設スルコトアルベシ

前項ノ場合所轄遞信局長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ同一電話加入區域內ニ在ルモノニ非ザルモノト雖モ電信法第二條第五號ニ該當スル地域ニ限リ前項ノ直通連絡回線ヲ施設スルコトアルベシ

第六條　前條ノ加入者ハ關係回線一回線每ニ左ノ料金ヲ納ムベシ

一　電話線設備料

百十メートル迄每ニ（創設ノ場合　二十六圓／移轉ノ場合　十六圓）

二　電話線使用料

五百五十メートル迄　年額二十圓

五百五十メートルヲ超ユルトキハ五百五十メートル以內ヲ增ス每ニ年額十三圓ヲ加算ス

三　附加專用料

前條第一項ノ場合　年額（度數料金制施行局ニ關スルモノ　五百圓／均一料金制施行局ニ關スルモノ　二百圓）

前條第二項ノ場合　年額　千圓

電話線設備料ハ單ニ關係線路ノ短縮ニ依ル移轉ノ場合ハ之ヲ課セズ

前條ノ加入者二人ナルトキハ其ノ一方ヲ料金納付責任者ニ定メ當該電話官署ニ屆出ヅベシ

第一項ノ料金ノ徵收、免除及還付ニ關シテハ電話線設備料ニ付テハ電話規則中電話線設備料ニ關スル規定ヲ、電話線使用料及附加專用料ニ付テハ電話規則中附加使用料ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條　戰時ニ際シ所轄遞信局長ニ於テ事業上又ハ工事上支障ナシト認ムルトキハ加入者ノ請求ニ依リ其ノ市外專用電話機設置場所ト同一ノ邸宅若ハ構內又ハ同一ノ邸宅若ハ構內ニ準ズルモノト認ムル地域ニ於テ使用スル甲種增設電話機又ハ接續電話機ヲ當該市外專用電話ノ回線ニ接續セシムルコトアルベシ

前項ノ規定ハ甲種增設電話機又ハ接續電話機ヲ市外通話ノ用ニ供スル市內專用電話ノ回線ニ接續スル場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ加入者ハ市外專用電話回線一回線每ニ其ノ接續一箇所ニ付年額百三十圓ノ料金ヲ納ムベシ

前項ノ料金ノ徵收、免除及還付ニ關シテハ電話規則中附加使用料ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條　戰時ニ際シ所轄遞信局長ニ於テ電話交換ノ能率向上ノ爲必要アリト認ムルトキハ加入者ノ請求ナキ場合ト雖モ左ノ措置ヲ爲スコトアルベシ

一　加入回線ニ付發信專用又ハ着信專用ノ裝置ヲ爲スコト

二　甲種增設電話機又ハ接續電話機ヲ接續スル加入回線ノ代表取扱ヲ爲スコト

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ電話番號ノ變更ヲ爲スコトアルベシ

第九條　戰時ニ際シ官廳、公署又ハ公益上若ハ戰力增强上緊要ナル事業ノ用ニ供スル電話ノ架設ヲ爲ス緊急ノ必要アル場合ニ於テ

設備上已ムヲ得ザル事由アルトキハ一時既設設備ノ轉用ヲ爲スコトアルベシ

前項ノ轉用ニ因リ一時通話ヲ爲シ得ザルニ至リタル加入者ニ對シテハ通話休止ノ取扱ヲ爲ス

前項ノ電話ニ付テハ通話休止ノ期間ニ係ル電話使用料及附加使用料ハ年額料金ノ日割ヲ以テ之ヲ免除ス但シ其ノ料金既納ニ係ルトキハ請求ヲ俟タズ之ヲ還付ス

第十條　戰時ニ於ケル電話機械ノ移轉ノ請求又ハ增設機械、接續電話機若ハ卓上電話機ノ裝置ノ請求ハ所轄遞信局長ニ於テ官廳、公署又ハ公益上若ハ戰力增强上緊要ナル事業ノ用ニ供スル爲必要アリト認ムルモノニシテ事業上又ハ工事上支障ナキモノヲ除クノ外之ニ應ゼザルコトアルベシ

加入者前項ノ場合ニ於テ電話機ヲ使用シ得ザルニ至リタルトキハ通話休止ノ取扱ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ電話ニ付テハ通話休止ノ期間ニ係ル電話使用料及附加使用料ハ年額料金ノ日割ヲ以テ之ヲ免除ス但シ其ノ料金既納ニ係ルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十一條　戰時ニ際シ所轄遞信局長ニ於テ官廳、公署又ハ公益上若ハ戰力增强上緊要ナル事業ノ用ニ供スル爲必要アリト認ムルトキハ事業上又ハ工事上支障ナキモノニ限リ加入者ノ請求ニ依リ別ニ指定スル電話官署相互間ニ於ケル加入ノ所屬變更ヲ認ムルコトアルベシ

第十二條　前條ノ請求ヲ爲ス加入者ハ左ノ所屬變更料ヲ納ムベシ

一　新電話官署ガ（八級局以上ナルトキ　四十圓／九級局以下ナルトキ　二十六圓）

二　當該會計年度ニ於ケル舊電話官署ノ設備費ガ新電話官署ノ設備費ヨリ少額ナルトキハ其ノ差額ニ相當スル金額

所屬變更料ノ徵收及還付ニ關シテハ電話規則中機械移轉料ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條　戰時ニ際シ官廳、公署又ハ公益上若ハ戰力增强上緊要ナル事業ヲ營ム者ノ爲ス通話ノ疏通ヲ圖ル爲又ハ非常災害ニ因ル電話設備ノ被害復舊等ノ爲必要アルトキハ左ノ措置ヲ爲スコトアルベシ

一　電話ノ通話ヲ制限シ又ハ之ガ取扱ヲ休止スルコト

二　電話番號ノ變更ヲ爲スコト

三　加入電話ノ所屬電話官署ノ變更ヲ爲スコト

四　增設電話機及接續電話機ノ利用ヲ制限又ハ停止スルコト

加入者前項第一號又ハ第四號ノ規定ニ依ル制限ヲ遵守セザルトキハ通話ヲ停止スルコトアルベシ

第十四條　前條第一項第一號又ハ第四號ノ規定ニ依ル休止又ハ停止ヲ爲スコト三日以上ニ及ビタル場合ノ電話使用料及附加使用料ハ年額料金ノ日割ヲ以テ之ヲ免除ス但シ其ノ料金既納ニ係ルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十五條　第十三條第一項第三號ノ規定ニ依リ所屬電話官署ヲ變更シタル加入ニ對スル電話料金ノ賦課ニ關シテハ所轄遞信局長ニ於テ別ニ定ムル期間原電話官署所屬ノモノト看做ス

第十六條　戰時ニ際シ所轄遞信局長ニ於テ事業上支障ナシト認ムルトキハ官廳、公署又ハ公益上若ハ戰力增强上緊要ナル事業ヲ營ム者ニ對シ其ノ申請ニ依リ豫約通話又ハ特別至急通話ノ認可ヲ爲スコトアルベシ

第十七條　豫約通話ハ一月以上ヲ通ジ每日所轄遞信局長ニ於テ指定シタル時刻ニ通話ヲ開始セシメ指定ノ通話時數通話セシムルモノトス但シ通話取扱上支障アルトキハ指定時刻ヲ前後十五分間以內ニ於テ繰上ゲ又ハ繰下ゲ取扱フコトアルベシ

第十八條　特別至急通話ハ至急通話ニ先チテ之ヲ取扱フ

豫約通話及特別至急通話ハ四通話時以上繼續シテ爲サシムルコトアルベシ

豫約通話ノ取扱上必要アルトキハ至急通話又ハ普通通話ノ通話時數ヲ二通話時以下ニ止メシムルコトアルベシ

第十九條　豫約通話及特別至急通話ハ其ノ認可ヲ受ケタル電話ニ依リ之ヲ爲スベシ

豫約通話ノ認可ヲ受ケタル者及其ノ對話者ハ每指定時刻ノ凡五分間前ニ通話ノ準備ヲ爲シ當該電話官署ヨリ信號アルトキハ直ニ之ニ應答スベシ

第二十條　豫約通話ノ通話時數ハ雙方加入者ヲ接續シタル時ヨリ之ヲ起算ス

豫約通話ノ認可ヲ受ケタル者又ハ其ノ對話者當該電話官署ノ信號ニ應答セザル場合ト雖モ前項ノ起算點ハ之ヲ變更セズ

豫約通話ノ認可ヲ受ケタル者ハ指定通話時數ヲ超エ通話スルコトヲ得ズ

第二十一條　豫約通話ノ認可ヲ受ケタル者其ノ通話時刻又ハ通話時數ヲ變更セントスルトキハ前月ノ二十日迄ニ之ガ申請ヲ爲スベシ但シ翌月ノ中途ニ於テ變更スルコトヲ得ズ

第二十二條　豫約通話又ハ特別至急通話ノ認可ヲ受ケタル者事業ノ種別ヲ變更シ又ハ事業ヲ縮少シ若ハ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

豫約通話又ハ特別至急通話ノ認可ヲ受ケタル者其ノ通話ヲ廢止セントスルトキハ廢止ノ日ノ五日前迄ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第二十三條　豫約通話又ハ特別至急通話ノ認

可ヲ受ケタル者其ノ事業等ヲ變更シタルトキ又ハ所轄通信局長ニ於テ事業上支障アリト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消シ又ハ通話時機ヲ減少シ若ハ通話時刻ヲ變更スルコトアルベシ

第二十四條　特別至急通話料ハ普通通話料ノ三倍トス

第二十五條　豫約通話料ハ豫約通話ノ時數ニ應ジ月額ヲ以テ之ヲ課ス

一通話時ノ豫約通話料ノ月額ハ一通話時ノ普通通話料ノ九十倍トス

第二十六條　豫約通話料ハ廢月ニ從ヒ毎月分ヲ其ノ月ノ十日迄ニ當該電話官署ニ之ヲ納ムベシ但シ豫約通話ノ開始ガ廢月ノ中途ナルトキハ其ノ月分ハ月額ノ日割ヲ以テ之ヲ算出シ開始ノ日ヨリ起算シ十五日以内ニ之ヲ納ムベシ

第二十七條　廢月ノ中途ニ於テ豫約通話ヲ廢止シタルトキハ其ノ月分ノ料金ノ全額ヲ課ス

廢月ノ中途ニ於テ豫約通話ヲ開始シ其ノ月ノ末日迄ニ廢止シタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ一月分ノ料金ヲ課ス

第二十八條　電話回線ノ障碍其ノ他加入者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ豫約通話ノ不能ナルコト繼續シテ一通話時以上ニ及ブトキハ其ノ通話時數ニ相當スル數約通話料

可、加入申込ノ受理又ハ加入ハ之ヲ取消スコトアルベシ

第二十三條ノ規定ニ依リ廢月ノ日割ヲ以テ之ヲ還付ス

第二十三條ノ規定ニ依リ廢月ノ中途ニ於テ豫約通話ノ認可ヲ取消シ又ハ其ノ通話時數ヲ減少シタルトキハ其ノ月分ノ豫約通話料ハ月額ノ日割ヲ以テ算出シ超過額ハ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第二十九條　第二十六條及第二十八條ノ場合ニ於ケル日割計算ハ月額ノ三十分ノ一ニ其ノ月分ノ日數ヲ乘ズルモノトス

第三十條　第一條ノ規定ニ依リ開通シタル電話ノ加入ハ之ヲ廢廢スルコトヲ得ズ但シ所轄通信局長ニ於テ特ニ許可シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一條ノ規定ニ依リ受理シタル加入申込書又ハ前項ノ電話加入者ニ關スル加入ニシテ同一電話官署所屬ノモノハ所轄通信局長ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ廢廢スルコトヲ得ズ

第三十一條　本令ニ依ル料金還付ノ請求ハ還付事由發生ノ日ヨリ起算シ二月以内ニ當該電話官署ニ之ヲ爲スベシ

第三十二條　所轄通信局長ハ必要アリト認ムルトキハ本令ニ依ル申込書、請求書又ハ申請書ノ外必要ナル事項ヲ記載シタル書類ヲ提出セシムルコトアルベシ

第三十三條　本令ニ依リ電話官署ニ提出スル書類ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキハ其ノ記

第三十八條　昭和十八年六月通信省令第七十二號ニ依ル電話通話規則第四條及第五條ノ改正規定ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ廢廢ヲ禁止セラレ居ル加入ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ爲シタル特別至急通話ノ認可ハ本令ニ依リ認可シタルモノト看做ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ通話休止ノ取扱中ノ加入ハ本令ニ依リ通話休止ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ加入申込書又ハ加入者ニ於テ爲シタル申請、請求其ノ他ノ手續ニシテ本令中該當ノ規定アルモノニ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●電話規則第二十九條第二項ニ依ル證票

（昭和十三年七月七日通信省告示第二千百七十七號）

昭和十二年十月通信省令第七十三號電話規則第二十九條第二項ノ規定ニ依リ左ノ通證票ヲ定ム

●電話規則第四十九條ニ依ル電話料金ノ特定又ハ免除

（昭和十七年三月二十三日通信省告示第四百五十二號）

昭和十二年十月通信省令第七十三號電話規則第四十九條ノ規定ニ依リ左ノ通電話料金ヲ特定又ハ免除ス

昭和十二年十二月通信省告示第四千百六十六號ハ之ヲ廢止ス

本告示ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　加入者ニ於テ電話機ノ移轉ヲ要スル電話線ノ變更ヲ爲スル場合ニ於ケル電話線ノ建設及維持ニ關スル費用（第六十二條第一項第一號ニ依ルモノ、第六十二條第一項第二號ニ依ルモノ、第六十二條第一項第三號ニ依ルモノ、第六十二條第二項ニ依ルモノ）

二　加入者ニ於テ設備及維持ヲ爲スル場合ニ於ケル電話線ノ建設ニ供給スル場合ニ於ケル機械移轉料（但シ同一建物內ノ移轉ニ關スル機械移轉料ヲ除ク）（第六十二條第一項第一號ニ依ルモノ、第六十二條第一項第二號ニ依ルモノ、第六十二條第一項第三號ニ依ルモノ、第六十二條第二項ニ依ルモノ）

一個毎ニ（八級局以上）十二錢（六級局以下）四錢

●電話通話規則

（大正三年十月十五日通信省令第三十八號）

二號改正

電話通話規則左ノ通定ム

電話通話規則

第一條　電話ノ通話話以下單ニ通話ト稱ス）ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ノ外凡テ本令ノ定ムル所ニ依ル但シ同一電話加入區域內ニ於ケル加入者相互間ノ通話ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ但シ加入者相互間ノ市內通話ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　通話ヲ分チテ左ノ三種トス

一　普通通話

二　至急通話　普通通話ニ先チテ取扱フ通話ヲ謂フ

三　定期通話　特定ノ通話區域（關係電話官署ニ之ヲ掲示ス）ニ於テ請求者ノ指定シタル時刻ニ取扱ヲ開始スル加入者相互間ノ通話ヲ謂フ

第三條　市外通話區域ニ屬スル通話ハ毎三分時ヲ以テ一通話時トス但シ三分時ニ滿タサルモノト雖之ヲ一通話時ト看做ス

通話時ハ關係電話回線ノ接續ヲ爲シ通話ヲ爲シ得ル狀態ニ置キタル時刻ヨリ之ヲ起算ス

第四條　市外通話區域ニ屬スル通話ハ三通話時迄繼續スルコトヲ得但シ電話官署ハ豫約新聞通話又ハ定時通話ノ取扱上必要アル場合ニ於テハ二通話時以下ニ止メシメ又通話ノ際他ニ請求者ナキ場合ニ於テハ四通話時以上ヲ繼續スルコトアルヘシ

自動接續市外通話方式ニ依ル通話ハ四通話時迄繼續スルコトヲ得

第四條ノ二　電話官署ニ於テ業務上必要アリト認ムルトキハ三分以上繼續スル市內通話區域ニ屬スル通話ハ之ヲ切斷スルコトアルヘシ

第四條ノ三　電話官署ハ通話輻輳ノ際多數ノ通話ヲ請求スル者ニ對シ其ノ請求ニ應セサルコトアルヘシ

第五條　各種通話ノ順位ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外左ノ順序ニ依リ同一順序ノ通話ノ順位ハ其ノ請求順ニ依ル

第一　豫約新聞通話
第二　定時通話
第三　至急通話
第四　普通通話

定時通話ノ請求者第十三條第二項ニ依ル消滅ノ通告ヲ受ケタルトキ同時ニ同一對話者ニ對シ請求ヲ爲シタル至急通話ハ該定時通話ノ請求受付時刻ヲ以テ其ノ受付時刻ト看做ス

第六條　通話區域ハ市內及市外トシ市內通話區域トハ同一電話加入區域（電話規則第四條第二項ノ規定ニ依ル電話ノ加入ハ當該電話官署ノ加入區域內ニ在ルモノト看做ス）ニ關スルモノヲ謂ヒ市外通話區域トハ其ノ他ノモノヲ謂フ

市外通話區域ハ普通市外通話區域及特別市外通話區域トシ關係電話官署ニ之ヲ掲示ス

但シ加入者カ特別市外通話區域ニ屬スル通話ヲ爲シ得ルハ電話規則第四十四條ニ依リ該加入者カ之ニ對スル資格ヲ有スル場合ニ限ル

第七條　加入者通話ヲ請求セムトスルトキハ左ノ事項ヲ所屬電話官署ニ申出ツヘシ但シ自動接續市外通話方式ニ依ル通話ハ此ノ限ニ在ラス

一　通話種別　普通通話ナルトキハ之ヲ要セス又定時通話ナルトキハ指定時刻及通話時數（其ノ一通話時ナルトキハ之ヲ要セス）ヲ附加スルコトヲ要ス

二　對話地名及對話者電話番號　同一ノ電話官署所屬內ニ於テ二箇ノ電話ノ內何レカニ接續スル爲順位ヲ定メ其ノ電話番號ヲ請求スルコトヲ得

三　請求者電話番號　同一ノ電話官署所屬內ニ於テ二箇ノ電話ノ內何レカニ接續スル爲順位ヲ定メ其ノ電話番號ヲ請求スルコトヲ得

第七條ノ二　公衆電話所ニ於テ通話ヲ請求セムトスル者ハ前條ノ例ニ準シ所屬電話官署ニ申出ツヘシ

電話官署ニ於テ通話ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ通話券ニ記入シ之ヲ差出スヘシ

一　通話種別　普通通話ナルトキハ之ヲ要セス

二　對話地名及對話者電話番號　對話者カ電話官署ニ待合セ中ノ者ナルトキハ當該通話官署名、通話事務用電話番號及對話者名

第八條　通話ノ請求ニ關スル前條ノ事項ハ請求後之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ普通通話ヲ至急通話ニ變更シ又ハ定時通話ノ通話時數ヲ第十條ノ請求時限內ニ於テ增加シ若ハ通話取扱開始ノ通告前ニ於テ減少スルハ此ノ限ニ在ラス

第九條　（削除）

第十條　定時通話ハ前日午後四時以後指定時刻一時間以前ニ之ヲ請求スヘシ電話官署ハ定時通話ノ請求アリタル旨ヲ成ルヘク速ニ對話者ニ通告ス

第十一條　電話官署ハ通話取扱上ノ都合ニ依リ定時通話ノ指定時刻ヲ前後十五分間以內ニ於テ繰上ケ又ハ繰下ケ之ヲ取扱フコトアルヘシ

第十二條　市外通話區域ニ屬スル通話ノ取扱ヲ開始セムトスルニ方リ關係加入者カ他ノ加入者ト市內通話區域ニ屬スル通話中ナルトキハ電話官署ニ於テ其ノ接續ヲ中斷スルコトアルヘシ

第十三條　通話取扱ヲ開始セムトスルニ方リ關係加入者他ト通話中ナルトキハ前條ニ依リ中斷スル場合ノ外其ノ終了後之ヲ取扱フ

定時通話ノ取扱ヲ開始セムトスルニ方リ電話回線ノ故障ニ因リ又ハ前項ニ依リ第十一條ノ時間內ニ通話ヲ開始シ能ハサルトキハ其ノ請求ハ消滅ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ請求者ニ通告ス

第十四條　加入者相互間ノ通話ニ關シ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ請求者ニ對シ通話取消料ヲ課ス但シ卽時ニ接續セラルル通話ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　關係者ノ一方カ通話ノ要ナキ旨又ハ不在其ノ他ノ事由ニ因リ通話ヲ爲ササル旨ヲ申出テタルトキ

二　通話取扱ヲ通告セムトスルニ方リ喚呼ヲ試ムルモ請求者（定時通話ニ在リテハ關係者ノ一方）ノ應答ヲ得サルトキ但シ關係電話回線ノ故障ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　第八條但書ニ依リ定時通話時數ヲ減少シタルトキ

第十五條乃至第二十五條　（削除）

第二十六條　遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル通信事務上ノ通話ニ關シテハ無料トス

電話線ノ故障其ノ他ノ電話障碍事故ニ關シ公衆ヨリ電話官署ニ對スル市內通話ハ無料トス別ニ告示スル火災報知又ハ應急救護ノ爲公衆ヨリ消防官署ニ對シテ爲ス市內通話亦同シ

第二十七條　通話ニ關スル料金左ノ如シ

一　普通通話料及通話取消料

通話區域		普通通話料一通話時（市內通話ナルトキハ一度數）每ニ	通話取消料一回每ニ　定時通話	通話取消料一回每ニ　其ノ他ノ通話
市內		五錢		
市外	八キロメートル以內	十錢	五錢	五錢
	十二キロメートル以內	十五錢	十錢	十錢
	二十キロメートル以內	二十錢		
	四十キロメートル以內	二十五錢	十五錢	十五錢
	六十キロメートル以內	三十錢		
	八十キロメートル以內	三十五錢		
	百キロメートル以內	四十錢		
	百二十キロメートル以內	四十五錢	二十五錢	二十錢
	百四十キロメートル以內	五十錢		
	百六十キロメートル以內	五十五錢		
	百八十キロメートル以內	六十錢		
	二百キロメートル以內	六十五錢		
	二百二十キロメートル以內	七十錢		
	二百四十キロメートル以內	七十五錢		
	二百六十キロメートル以內	八十錢		
	二百八十キロメートル以內	八十五錢	五十錢	
	三百キロメートル以內	九十錢		
	三百二十キロメートル以內	九十五錢		
	三百四十キロメートル以內	一圓		
	三百六十キロメートル以內	一圓五錢		
	三百八十キロメートル以內	一圓十錢		
	四百七十キロメートル以內	一圓二十錢	七十五錢	二十五錢
	五百九十キロメートル以內	一圓五十錢		
	七百十キロメートル以內	一圓八十錢		
	八百三十キロメートル以內	二圓十錢		
	九百五十キロメートル以內	二圓四十錢		
	千百キロメートル以內	二圓七十錢		
	千二百五十キロメートル以內	三圓		
	千五百キロメートル以內	三圓三十錢		
	千八百キロメートル以內	三圓六十錢	一圓	四十錢
	二千百キロメートル以內	三圓九十錢		
	二千四百キロメートル以內	四圓二十錢		
	二千四百キロメートルヲ超ユルモノ	四圓五十錢		

二　至急通話料　普通通話料ノ二倍

三　定時通話料　普通通話料ノ四倍

第十四條第一號ノ場合ニ於テ通話取扱開始ノ通告ニ對シ申出ヲ爲シタルモノニ對スル通信取消料ハ第一項第一號ノ通話取消料ノ二倍トス但シ其ノ金額カ普通通話料ヲ超ユルトキハ普通通話料相當額トス

市外通話區域ノ距離ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ料金ハ關係電話官署ニ之ヲ掲示ス

第二十七條ノ二　自働式局所屬共同加入者ノ爲シタル通話ニシテ自働接續市外通話方式施行區間ノモノニ對スル通話料ハ其ノ相手方ノ分ト合算シ通話料納付責任者ニ之ヲ課ス

自動接續市外通話方式施行局所屬共同加入者ハ何レカ一方ヲ通話料納付責任者ニ定メ雙方連署シ當該電話官署ニ屆出ツヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十八條　通話ニ關スル料金ハ第二十八條ノ二ノ規定ニ依ルモノヲ除キ毎年一月ヨリ始メ毎二月ヲ以テ一期トシ每期分ヲ其ノ次期ノ初月末日迄ニ通貨ヲ以テ當該電話官署ニ納ムヘシ但シ臨時電話ノ加入者ハ當該電話官署ノ指定スル期日迄ニ通貨ヲ以テ納ムヘシ

第二十八條ノ二　第七條ノ二ノ規定ニ依ル通話請求者ハ通話請求ノ際一通話時分（市內通話ナルトキハ一度數分）ノ通話料ヲ郵便切手ヲ以テ納メ通話カ二通話時以上ニ涉ルトキハ其ノ終了後不足分ヲ納ムヘシ但シ公衆電話所ニ於テハ所屬電話官署ノ指定スル方法ニ依リ通話ノ際通貨ヲ以テ納ムヘシ

第三一三號

前項ノ規定ニ依リ郵便局（通信官署官制第十六條第一項但書ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ特ニ指定スル郵便局ヲ除ク）、電信局（繰替拂出納官吏ヲ置カサル局ヲ除ク）又ハ電話局ニ納付スル通話料ハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第二十九條　（削除）

第三十條　電話官署ノ過失ニ因リ徵收シタル過納又ハ誤納ノ通話ニ關スル料金ハ請求ニ依リ通貨ヲ以テ之ヲ還付ス

前項ノ請求ハ料金納付ノ日ヨリ起算シ六十日以內ニ之ヲ爲スヘシ

附　則

第三十一條　本令ハ大正三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　明治三十三年八月遞信省令第四十號電話呼出規程及明治四十一年三月遞信省令第十三號ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和十八年遞信省令第七十二號）

本令ハ昭和十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス